

【S42】

B2区に位置し、座標はX-8113・Y-43615付近で、遺構検出面の標高は13.14mである。規模及び平面形は、長軸長5.20m×短軸長4.16mの長方形を呈し、遺構検出面からの深さは0.25m前後である。竪穴部の柱穴、炉、土坑、壁際溝及びベッド状施設は検出されていない。重複関係はS44を切り、S45から切られている。

出土遺物は、床面より若干浮いた状態で出土し、そのうち鉄器1点及び石器2点を図示した。

【S44】

B2区に位置し、座標はX-8113・Y-43615付近で、遺構検出面の標高は13.18mである。規模及び平面形は、長軸長は不明、短軸長5.96mの長方形を呈し、遺構検出面からの深さは0.20m前後である。竪穴部の支柱穴、炉、土坑及び壁際溝等はS42及びS45から切られているため不明である。重複関係はS42及びS45から切られている。

出土遺物は、埋土内から出土しており、そのうち土器5点及び鉄器1点を図示した。

【S45】

B2区に位置し、座標はX-8113・Y-43615付近で、遺構検出面の標高は13.19mである。規模及び平面形は、長軸長7.26m×5.56mの長方形を呈し、遺構検出面からの深さは0.34m前後である。計二回の拡張を施しており、竪穴内部における各拡張期の支柱穴及び炉は未検出である。竪穴部土坑は南竪穴壁に内接し3基検出されており、2回の拡張を物語るのもと思われる。壁際溝は、各拡張期共にはほぼ全周する。重複関係は、S42及びS44を切っている。出土遺物は、全て床面から若干浮いた状態で出土し、中期の土器も混入していた。そのうち土器39点、鉄器3点及び石器3点を図示した。

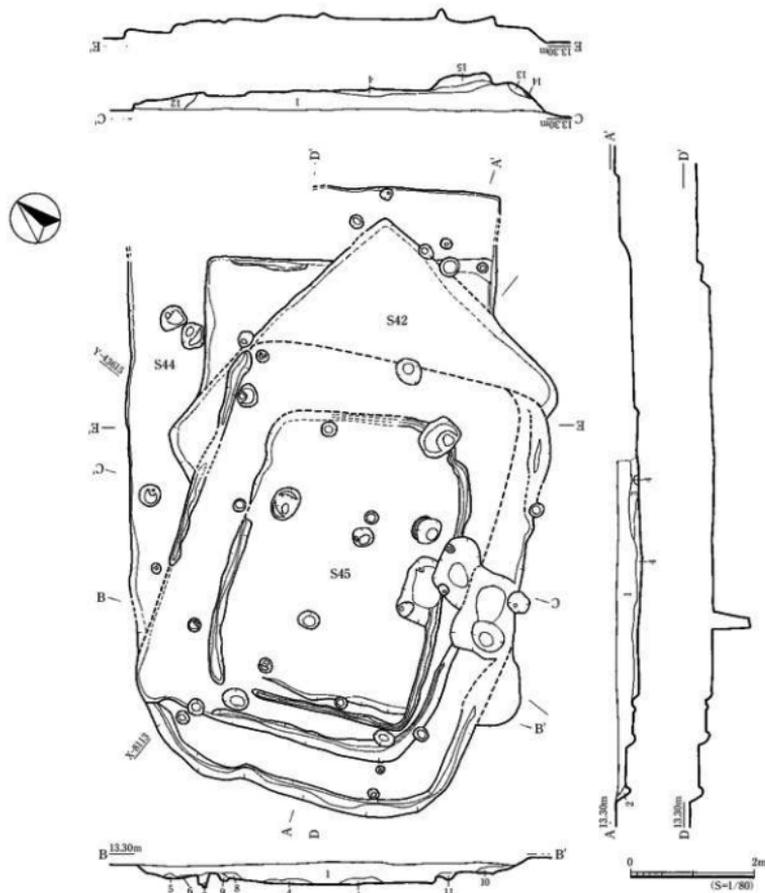
2 土坑**Ⅲ区****【S51】**

A4グリッドに位置し、座標はX-8136・Y-43624付近で、遺構検出面の標高は13.18mである。規模及び平面形は、長軸長2.48×短軸長1.06mの長楕円形を呈し、遺構検出面からの深さは0.27m前後である。埋土は2層確認し、断面は皿状を呈し、壁面の立ち上がりは緩やかであり、北側から東側にかけてテラス状になっている。重複関係は、S09に切られている。

出土遺物の大半が底面直上及び底面から若干浮いた状態で出土しており、中期の土器も混入していた。そのうち土器3点を図示した。

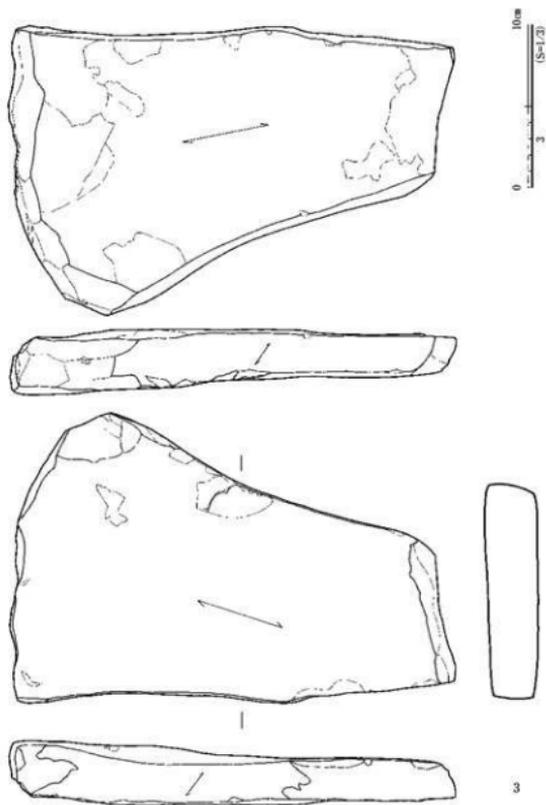
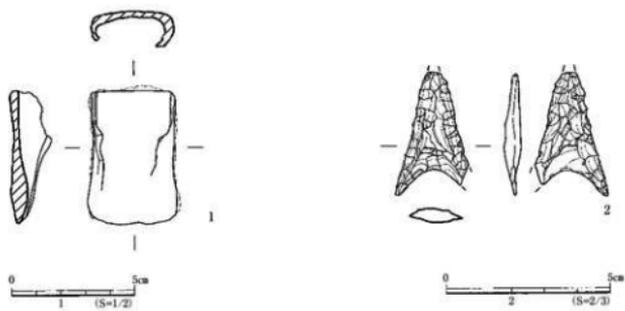
3 溝状遺構**Ⅲ区****【S16】**

A3グリッドに位置し、座標はX-8126・Y-43624付近で、遺構検出面の標高は13.21mである。規模及び平面形は、東西長8.40m×南北長7.48m×幅1.00mの方形を呈し、遺構検出面からの深さは0.24m前後である。溝の断面形状は各所で異なり、埋土は2層確認した。重複関係はS22を切りS04、S17及びS02から切られている。出土遺物は、底面直上及び底面若より若干浮いた状態で出土しており、そのうち土器9点及び石器1点を図示した。

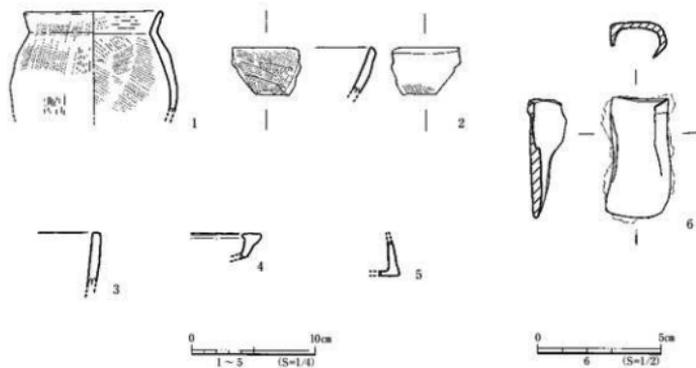


- 1 暗褐色土 (7.5YR3/3) やや粘性あり、しまる。細い砂粒を含む。明褐色土を小ブロック状にまばらに含む。
- 2 暗褐色土 (7.5YR3/3) やや粘性あり、1.2よりややしりぬい。きの細かく砂粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 (7.5YR3/2) 粘性あまりなし、しまる。1-2cm 次の明褐色土を含む。細い砂粒をまばらに含む。炭化物、塵土を少量含む。
- 4 暗褐色土 (7.5YR3/2) 黒 明褐色土 (7.5YR5/5) 粘性あまりなし、やや強くしまる。細い砂粒を含む。
- 5 暗褐色土 (7.5YR3/3) 僅かに粘性あり、しまる。白色砂粒を含む。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり、しまる。細かな白色砂粒を含む。
- 7 暗褐色土 (7.5YR3/3) やや粘性あり、1より強くしまる。細い砂粒を含む。明褐色土を小ブロック状にやや多く含む。
- 8 黒褐色土 (7.5YR2/2) 僅かに粘性あり、しりぬい。細い砂粒をまばらに含む。
- 9 暗褐色土 (7.5YR2/3) 僅かに粘性あり、1.2よりややしりぬい。細い砂粒をまばらに含む。
- 10 暗褐色土 (7.5YR2/3) 僅かに粘性あり、1.2よりしりぬい。細い砂粒をまばらに含む。
- 11 黒褐色土 (7.5YR3/2) 僅かに粘性あり、しまる。砂粒をまばらに含む。
- 12 暗褐色土 (7.5YR2/3) やや粘性あり、しまる。明褐色土を小ブロック状に含む。
- 13 黒褐色土 (7.5YR2/2) 粘性あり、ややしまる。明褐色土を粒状に少量含む。混入物は少ない。
- 14 暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘性あり、ややしまる。きの細かく、混入物物になる。

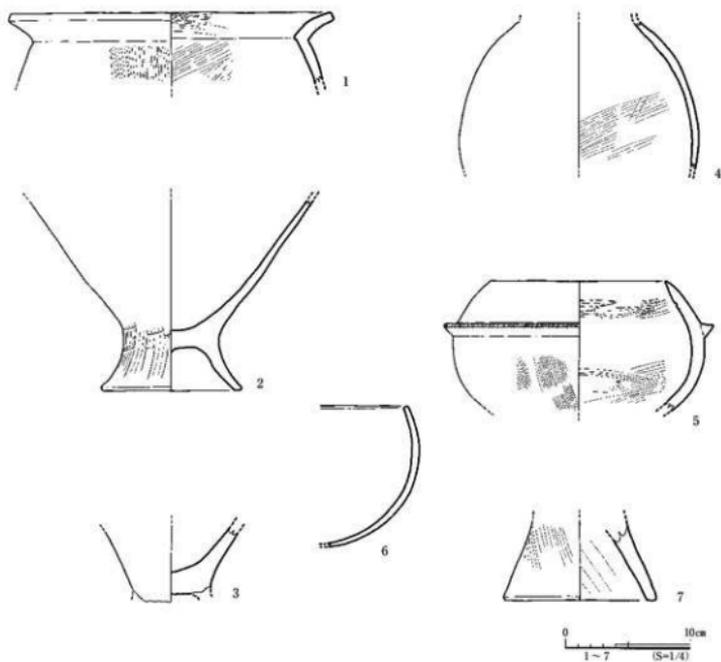
第151図 Ⅲ区 S42・S44・S45 実測図



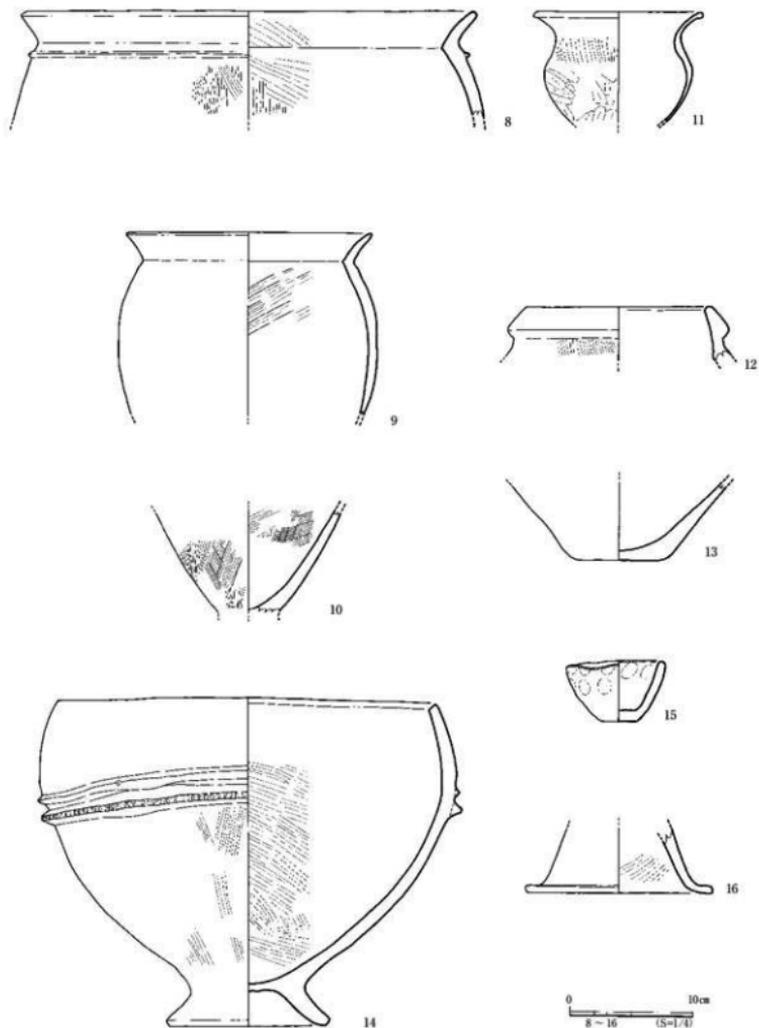
第 152 図 III 区 S42 出土遺物実測図



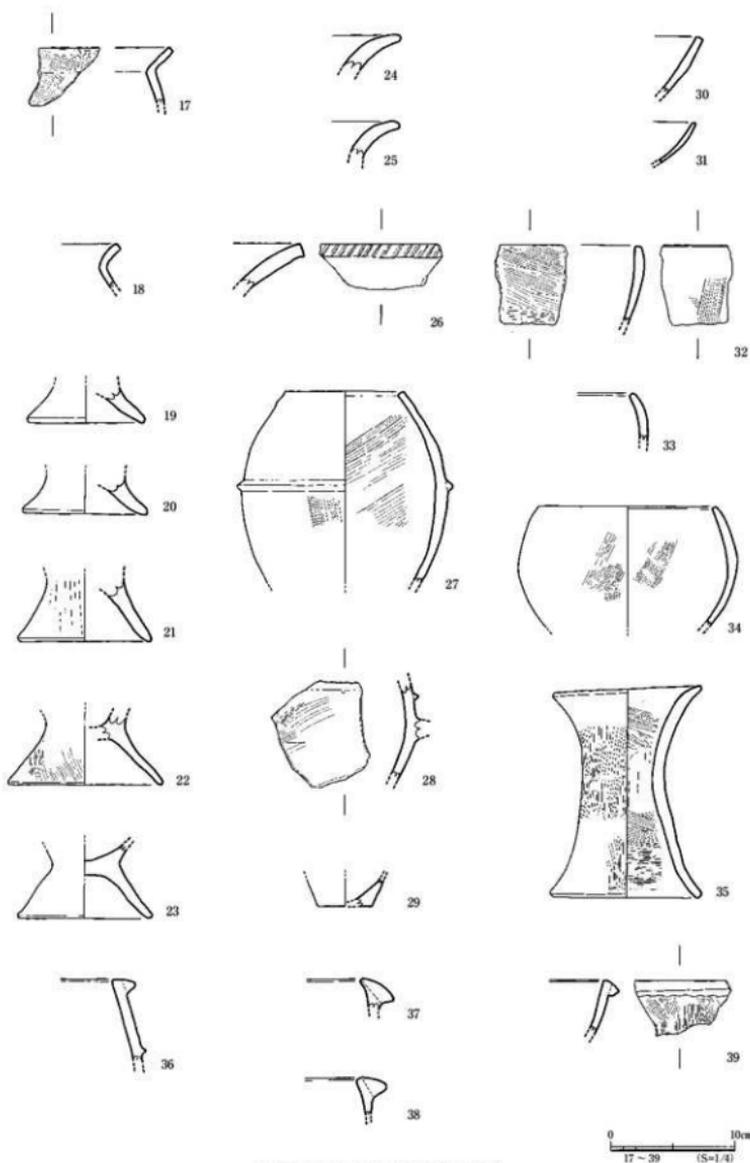
第 153 図 III区 S44 出土遺物実測図



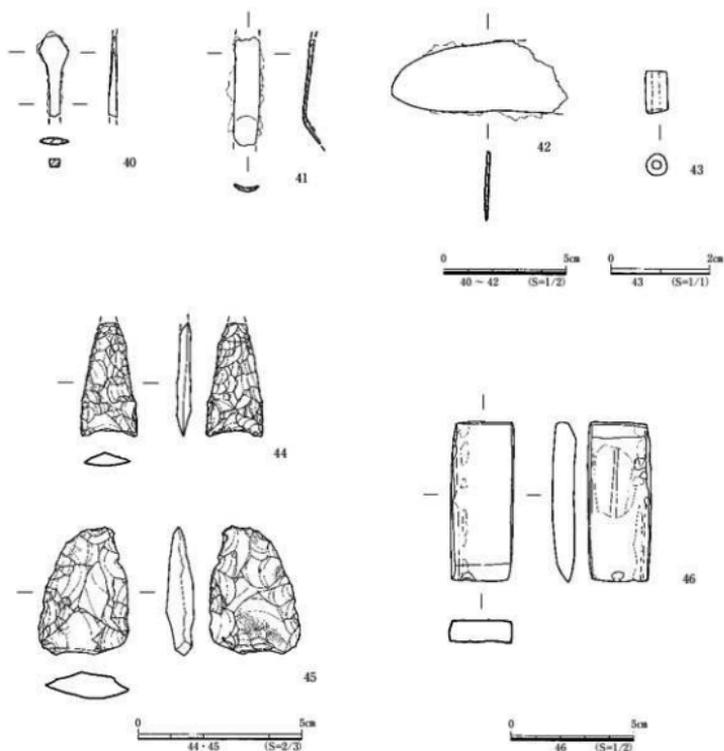
第 154 図 III区 S45 出土遺物実測図



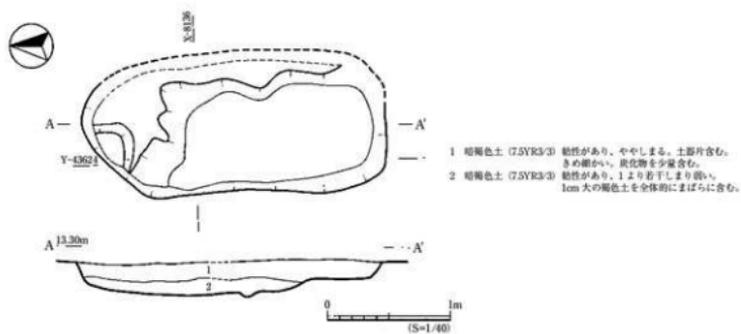
第 155 図 Ⅲ区 S45 出土遺物実測図



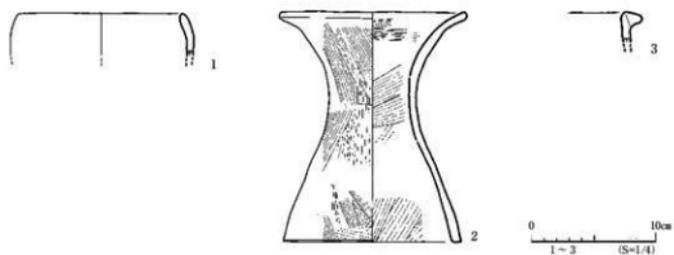
第156図 III区 S45 出土遺物実測図



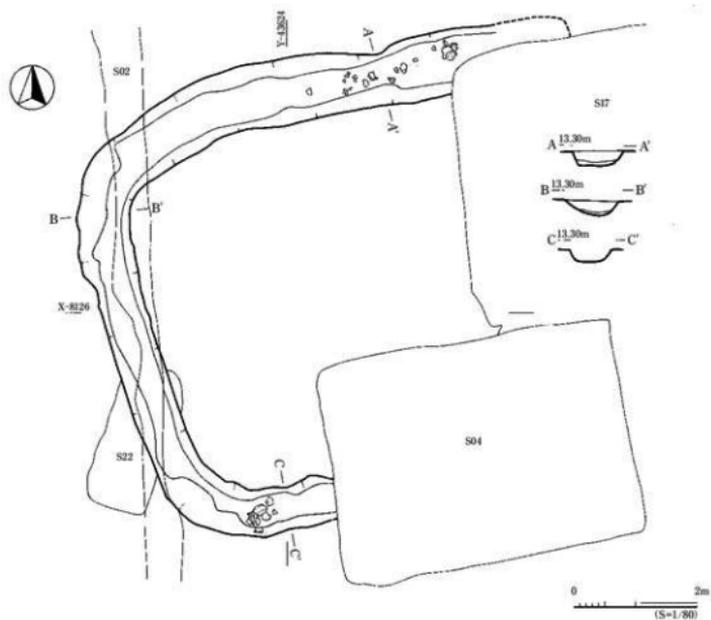
第 157 図 III 区 S45 出土遺物実測図



第 158 図 III 区 S51 出土遺物実測図

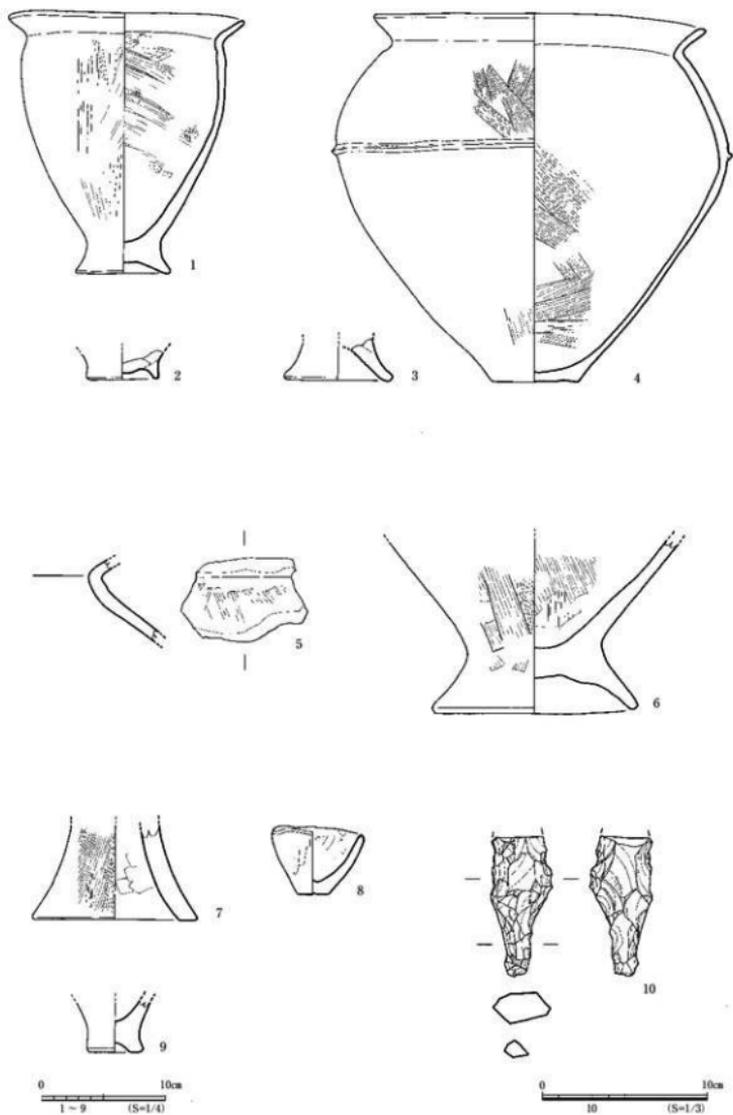


第 159 図 III区 S51 出土遺物実測図



- 1 黄褐色土 (7.5Y R2/2) 粘りあまりなし、しみる。土器片含む。黒土粒含む。白色砂粒含む。
 2 黄褐色土 (7.5Y R2/2) 粘りあまりなし、1よりややせり降り。黄褐色土を粒状に含む。黒土を粒状に含む。

第 160 図 III区 S16 実測図



第 161 图 Ⅲ区 S16 出土遺物実測図

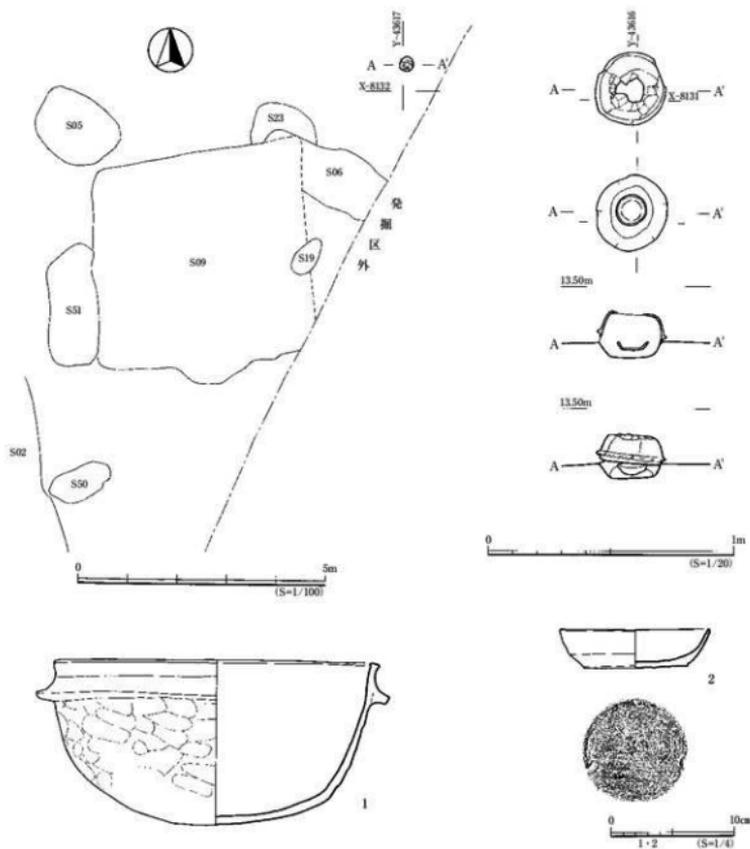
3 中世

祭祀遺構

Ⅲ区

【S15】

B4グリッドに位置し、座標はX-8132・Y-43617付近で、直径0.28m、深さ0.06mの円形土坑の中央に土師器の皿を置き、その上から土師質の羽釜を被せた状態で検出された。土坑の検出面の標高は13.18mである。祭祀遺構の可能性が高く、胞衣や地鎮の行為の可能性が考えられる。胞衣壺及び地鎮具は建物の下に埋められる事が多いが、検出地点付近には、同時期の遺構及び遺物を検出していない状況であり、土器埋納の意図については不明である。土器の年代は、羽釜、皿ともに13世紀～14世紀と考えられる。



第162図 Ⅲ区 S15 実測図・出土遺物実測図

4 時期不明

1 竪穴建物跡

I 区

【S51】・【S79】

2 土坑

I 区

【S03】・【S08】・【S18】・【S19】・【S24】・【S27】・【S29】・【S30】・【S44】・【S53】・【S57】・【S58】・
【S60】・【S61】・【S71】・【S75】・【S76】・【S77】・【S91】・【S93】・【S108】・【S110】

II 区

【S100】・【S101】・【S102】・【S104】・【S105】・【S106】・【S107】

III 区

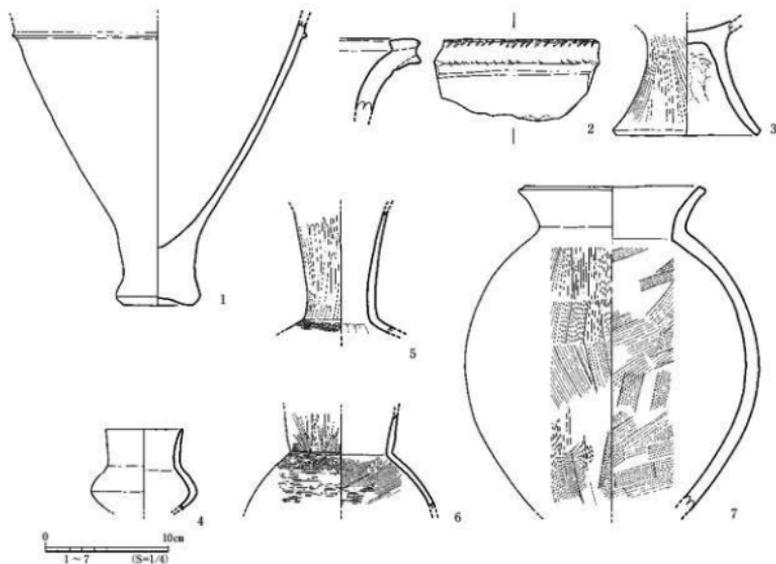
【S10】・【S11】・【S19】・【S26】・【S28】・【S34】・【S50】

3 溝

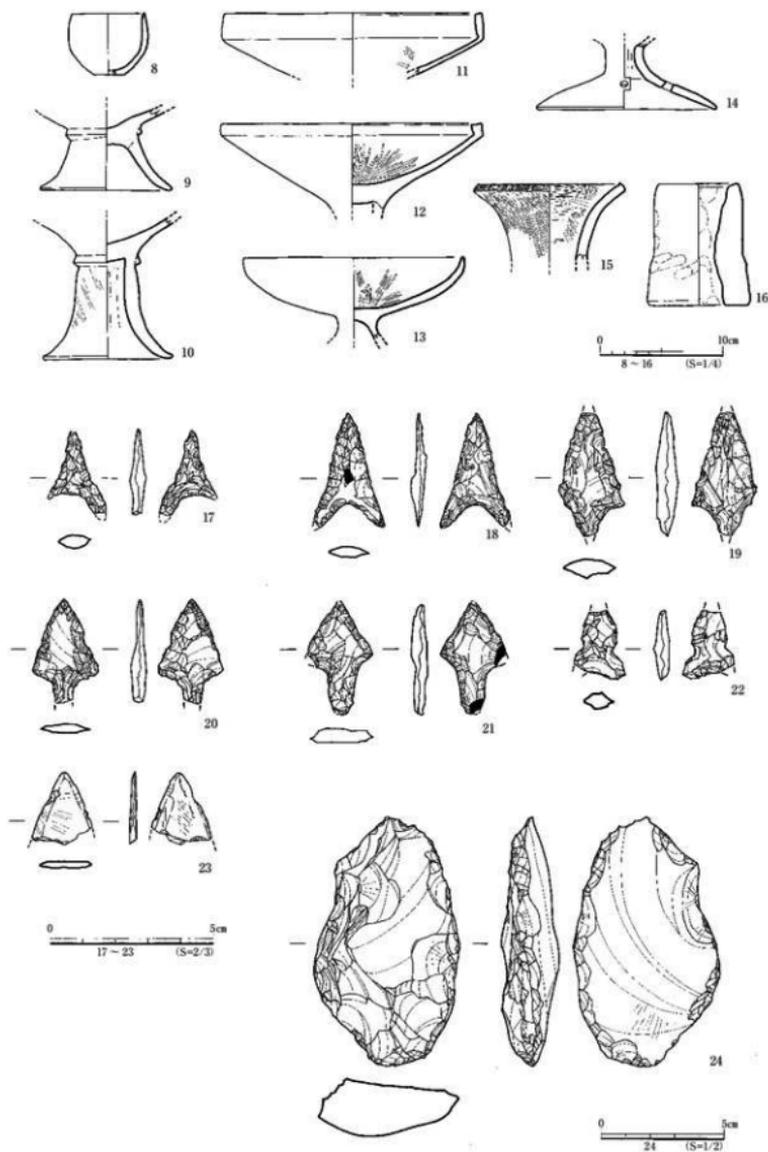
【S01】・【S02】・【S08】

遺構の時期や性格の判断ができないものを上記の通り検出した。このでは、その遺構番号を掲載し、個々の詳細は省略する。

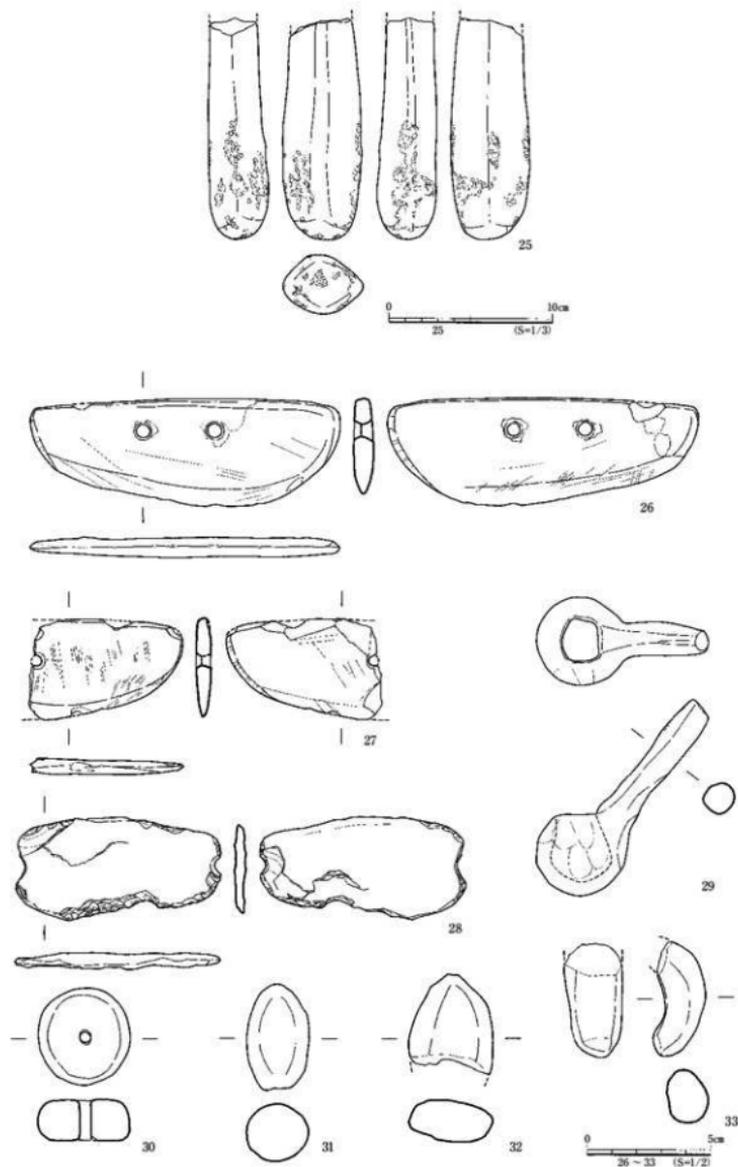
5 包含層出土遺物



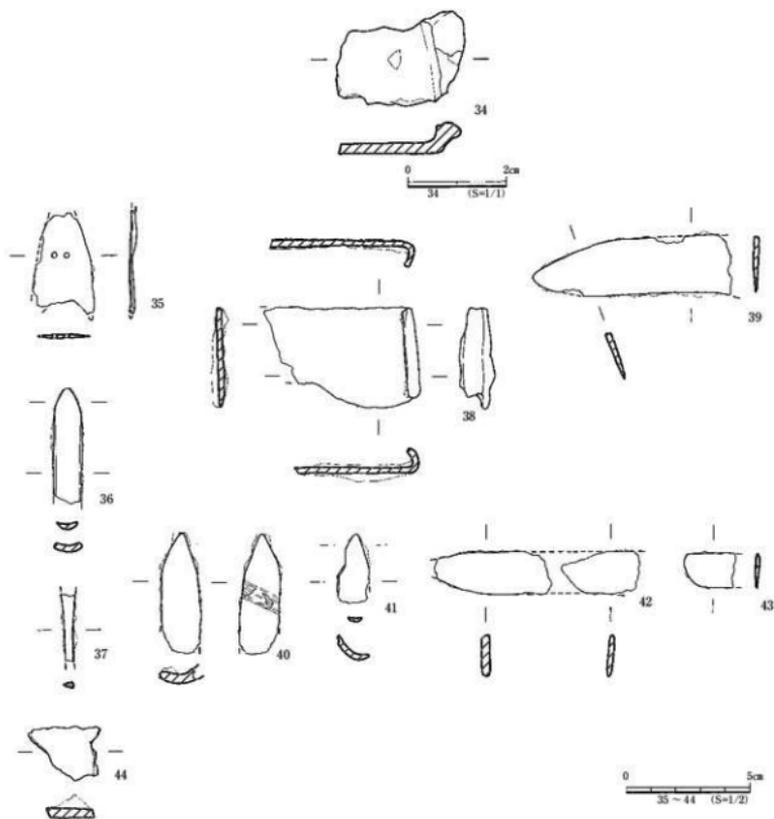
第 163 図 包含層出土遺物実測図 ①



第164図 包含層出土遺物実測図②



第 165 図 包含層出土遺物実測図 ③



第166図 包含層出土遺物実測図④

第V章 考察・分析

第1節 木船西遺跡出土の破鏡について

辻田淳一郎（九州大学大学院）

1. はじめに

本稿は、玉名市木船西遺跡から出土した破鏡についての報告である。木船西遺跡周辺では、他にも大原遺跡から破鏡や小形仿製鏡など、弥生時代の鏡が集中的に出土している。大原遺跡とあわせて検討は今後の課題とし、本報告では木船西遺跡出土破鏡について検討する。

2. 破鏡の観察

(1) 度量・文様構成

木船西遺跡では、I区S42住居址の覆土中から鏡片1点が出土した。以下に述べるような破断面の摩滅や穿孔などの特徴から、いわゆる「破鏡」と考えることができる。

破鏡は、残存最大長3.3cm、残存最大幅は1.5cmである。外区の一部であり、内側から突線・連弧文帯・凹帯・素文縁（傾斜の強い縁部）となる。連弧文の地文部の厚さは約1mm、外区素文縁部は最大で約2.5mmである。凹帯と連弧文の配置から、八弧の連弧文を有する内行花文鏡と想定される。残存破片の幅が狭いため厳密な復元は困難であるが、連弧文の角度などから、面径は約15cm前後に復元することができる。

連弧文には弧文間の単位文様や吉祥句銘などはみられない。この連弧文の内側にはほぼ接するように突線がめぐっている。類例として兵庫県白鷺山墳墓群1号石棺墓出土破鏡があり、これは復元径10cmの蝙蝠座内行花文鏡片を加工したものである。木船西例は面径が比較的大きく、連弧文が大きく広がること、また連弧文の頂点から復元中心点までの距離が約5.4cmと比較的内側の空間が広いことから、突線の内側にさらに平頂素文帯などが配される可能性とともに、鈕座文様も蝙蝠座のような大型の文様が配されていた可能性も想定される。四葉座内行花文鏡で雲雷文帯を省略した、凹帯を配する一群の可能性もあるが（例：奈良県大和天神山古墳17号鏡〔面径15.4cm〕など）、凹帯の幅が木船西例よりも広いことから、木船西鏡については、例えば香川県石清尾山猫塚古墳出土の蝙蝠座内行花文鏡〔面径14.0cm〕などに近いものとみられる。

以上から、木船西例は、岡村秀典氏分類（1993）の四葉座内行花文鏡V A式もしくは蝙蝠座内行花文鏡I式に該当するものとみられ、ここでは後者の可能性が高いものと考えておきたい。いずれの場合も、原鏡の製作年代の上限はいわゆる「漢鏡6期」（2世紀前半）と考えられる。

(2) 破鏡としての使用の痕跡

破鏡としての特徴は、1ヶ所の穿孔と破断面の摩滅である（写真2～6）。穿孔は内区側の突線のすぐ外側、連弧文帯の地文部に位置しており、孔径自体は1.5mmである。鏡背・鏡面双方からの両面穿孔であり、円錐状の、おそらく金属製工具による回転運動の痕跡を観察できる。これは長崎県志岐市カラカミ遺跡出土破鏡（辻田2009）をはじめ、穿孔技法として広く共通して認められる。穿孔内部の摩滅はあまり顕著ではないが、他の事例との比較からも、懸垂用の穿孔とみられる。破断面は全ての面において摩滅が認められる。最外縁の端部は丁寧な面取りが行われており、この部

分も摩滅している。一方で、素文縁部表面や凹帯内部などは比較的錆肌を残しており、破断面や鏡面側の顕著な摩滅とは対照的である。また破断面の一部（実測図でいう凹帯の左側）と鏡面側の穿孔部周辺で赤色顔料（ベンガラカ）の付着がみられる。以上から、本鏡片は、穿孔が施された破鏡の状態で使用され、あわせて赤色顔料の塗布も行われたものと考えられる。

3. 木船西遺跡での出土状況

前述のように、本遺跡では、弥生時代後期後半～終末期の住居址の覆土中から破鏡が出土している。周辺の大原遺跡などでも基本的に集落遺跡での出土である。破鏡の集落域での出土は、弥生時代後期～終末期における破鏡の一般的な出土傾向といえることができるが、木船西例のように穿孔された破鏡の住居での廃棄という点は、特に大分県大野川上流域などにおいて顕著に認められる（高橋 1979；藤丸 2000；辻田 2005）。穿孔された破鏡は、古墳時代まで伝世され、古墳などに副葬される事例も多く存在するとみられるが（辻田 2005）、本事例は懸垂破鏡として使用された後、住居や集落の廃絶に伴い、住居址に廃棄されたものと考えられる。

また住居址では住居床面直上などではなく、覆土中で土器とともに出土する場合も多くみられ、木船西遺跡例もこれに該当する。このことは、破鏡の廃棄が、住居の廃絶儀礼などに伴うとみられる場合でも、住居の埋没後もしくは埋没過程の最終段階に近いタイミングで廃棄されたことを示唆する。また木船西遺跡の出土土器組成において在地系のものが主体とみられる点は、弥生時代後期の在地の伝統の脈絡において、破鏡の廃棄が行われたことを示している。

前述のように、木船西遺跡周辺では、大原遺跡をはじめとして、破鏡や小形仿製鏡が集中して出土しており、有明海沿岸地域における拠点集落の1つであったことが想定される。破鏡の本地域への流入年代は不明である。破鏡の原鏡自体の製作年代の上限は2世紀前半であるが、流入時期がそこまで遡るのかは別の問題である。また元来は完形鏡として舶載されたものが分割された後に流通しているのか、鏡片として列島に流入したものが流通しているのかといった問題もある（cf. 高倉 1976；森 1985；高橋 1992；藤丸 2000；辻田 2005・2007・2014）。先に述べた破鏡同士の穿孔技術の共通性は、穿孔された場所や流通形態を考える上で興味深い。また編組内行花文鏡の破鏡の事例はいくつか存在するが、現状で直径が同一で木船西遺跡と破断面が接合する資料などはみられない。以上より、木船西遺跡出土破鏡については、破鏡の分布中心である北部九州から破鏡という形で流通したものが、遅くとも弥生時代後期後半までに本地域に流入し、懸垂破鏡として使用された後、後期後半から終末期の間に住居の廃絶に伴い廃棄されたものと考えておきたい。

4. 結語

以上、木船西遺跡出土の破鏡について検討してきた。有明海沿岸地域周辺においても近年破鏡などの資料が増加しつつあり（cf. 南 2008；九州考古学会事務局・九州考古学会第5回夏季大会佐賀県実行委員会編 2013）、破鏡の流通や弥生時代後期～終末期における地域間関係を考える上で重要である。木船西遺跡の資料および本地域への破鏡の流入形態等についても、大原遺跡出土資料をはじめとした新出資料とあわせて今後あらためて検討することを課題とし、擲筆したい。

本稿をなすにあたり、玉名市教育委員会の中村安宏氏には出土状況や周辺遺跡のあり方について、また宇土市教育委員会の高木恭二氏には関連の銅鏡資料について多くの御教示をいただきました。記して厚く御礼申し上げます。



1 全体写真



2 全体右破断面



3 全体左破断面



4 鏡面全体・破断面



5 穿孔鏡背側



6 穿孔鏡面側

【参考文献】

- 岡村秀典 1993 「後漢鏡の編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』55.
- 九州考古学会事務局・九州考古学会第5回夏季大会佐賀県実行委員会編 2013 『平成25年度九州考古学会大会 弥生時代後期青銅器をめぐる諸問題』.
- 高倉洋彰 1976 「弥生時代副葬遺物の性格」『九州歴史資料館論集』2.
- 高橋徹 1979 「廃棄された鏡片—豊後における弥生時代の終焉—」『古文化談義』6.
- 高橋徹 1992 「鏡」『菅生台地と周辺の遺跡XV』. 竹田市教育委員会.
- 辻田淳一郎 2005 「破鏡の伝世と副葬—穿孔事例の観察から—」『史淵』142.
- 辻田淳一郎 2007 「鏡と初期ヤマト政権」. すいれん舎.
- 辻田淳一郎 2009 「出土青銅器」宮本一夫編『志岐カラカミ遺跡Ⅱ—カラカミ遺跡東亞考古学会第1地点の発掘調査—』. 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室.
- 辻田淳一郎 2014 「鏡からみた古墳時代の地域間関係とその変遷—九州出土資料を中心として—」『古墳時代の地域間交流2』. 九州前方後円墳研究会.
- 藤丸詔八郎 1993 「破鏡の出現に関する一考察」『古文化談義』30(上).
- 藤丸詔八郎 2000 「後漢鏡について」『古墳発生前後の社会像』. 九州古文化研究会.
- 南健太郎 2008 「弥生時代九州における銅鏡の副葬と廃棄」『熊本大学社会文化研究』6.
- 森貞次郎 1985 『稲と青銅と鉄』. 日本書籍.

第2節 木船西遺跡出土青銅器の成分及び付着顔料分析

(公財)元興寺文化財研究所
埋蔵文化財保存研究グループ

1. 分析対象

木船西遺跡出土青銅器2点(表1、図1～2)

遺物番号	遺物名	遺跡名	表面観察	材質分析	顔料分析
6	内行花文鏡片	木船西	2	1	1
7	不明製品③	木船西	—	1	—

表1. 木船西遺跡出土青銅器の分析項目一覧

2. 分析内容

エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて青銅器の定性成分分析と顕微鏡観察を行った。

3. 使用機器および方法

- ◆ エネルギー分散型蛍光X線分析装置(XRF)【(株)日立ハイテクサイエンス EA6000VX】試料にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有の蛍光X線を検出することにより元素を同定する。ロジウム(Rh)のX線管球を用いて、コリメータ0.2×0.2mmまたは1.2×1.2mm、管電圧50kVで180秒間測定した。
- ◆ 実体顕微鏡 ライカ MZ
- ◆ マイクロスコープ キーエンス VH-7000S

4. 結果と考察

木船西遺跡出土内行花文鏡片(No.6)の赤色部(図1の分析箇所A)と地板部(図1の分析箇所B)を成分分析したところ、鉄(Fe)、銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)を検出した(図3、4)。赤色部は地板部に比して鉄を強く検出したことと拡大観察像(図6)から、この鏡は青銅製で、表面には赤色顔料ベンガラが付着していたと考えられる。

木船西遺跡出土不明製品③(No.7)(図2の分析箇所A)を成分分析したところ、鉄、銅、スズ、鉛を検出した(図5)ことから、この製品は青銅製であると考えられる。

5. 分析データ

木船西遺跡出土青銅製品のXRF分析箇所を白抜き英字ABCで、表面拡大観察箇所を赤線で囲んで図1～2に示した。

[分析箇所]



図1. No.6 内行花文鏡片青銅器の分析箇所



図2. No.7 不明製品③の分析箇所

[XRF スペクトル]

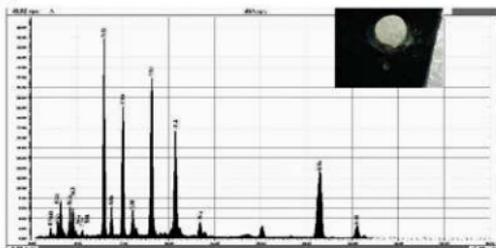


図3. No.6 内行花文鏡片分析箇所 A (赤色部) の XRF スペクトル

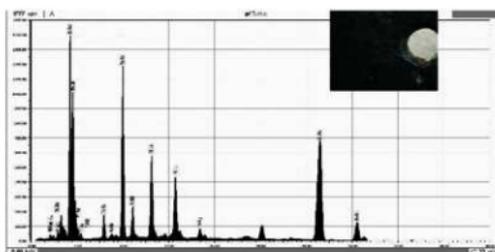


図4. No.6 内行花文鏡片分析箇所 B (地板部) の XRF スペクトル

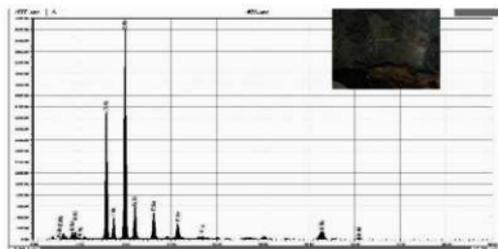


図5. No.7 不明製品③分析箇所CのXRF スペクトル

[表面観察]

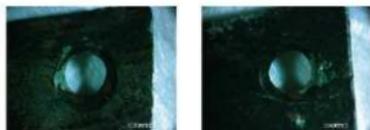


図6. No.6 内行花文鏡片の穿孔部分 (左: 図6左、右: 図6右)
(白丸囲み部分に赤色顔料が付着 (図6右 XRF 分析箇所A))

第3節 木船西遺跡出土ガラス小玉の分析

田村朋美 (奈良文化財研究所)

1. はじめに

日本列島では弥生時代以降多くのガラス製品が流通する。遺跡から出土するガラス製遺物には当時の交易関係や技術伝播などに関する重要な情報が内包されている。ガラス製遺物から当時の交易関係を解明するにあたっては、その生産地や入手経路の解明が不可欠であり、ガラス製遺物の製作技法や化学組成、着色剤の特徴などが重要な手掛かりとなる。

木船西遺跡からは、26点のガラス小玉が出土している。本調査では、木船西遺跡から出土したこれらのガラス小玉の基礎ガラスの種類および着色剤の特徴を把握することを目的として、化学組成の非破壊分析を実施した。以下、その結果について報告する。

2. 資料と方法

調査対象とした資料は、木船西遺跡出土ガラス小玉および破片資料26点(分析No.1～25 ※ No.17は2点 (No.17-1とNo.17-2) である(図1)。本資料は比較的保存状態が良好でガラス光沢が認められるものが多い。ただし、分析No.6、No.21、No.25は欠損品である。分析No.6はほぼ半分が失われている。分析No.21は全体の4分の3程度が失われ、残存するのはわずかな破片のみである。分析No.25については、一部が欠損しているものの、孔は完残している。

これらのガラス小玉について、顕微鏡観察による製作技法の推定と、蛍光X線分析による化学組成の調査を実施した。ただし、No.21については、破片が極めて微細で脆弱であり、分析中に真空中に置くことによって更なる破損が危惧されたため、蛍光X線分析は実施しなかった。蛍光X線分析では、顕微鏡下で風化の影響ができるだけ少ない場所を測定箇所を選定し、超音波およびエチルアルコールを用いて洗浄したうえで実施した。測定結果は、測定試料と近似する濃度既知のガラス標準試料(CorningA、SG5、SG7、SGT5、NIST620)を用いて補正した理論補正法(Fundamental Parameter Method、以下FP法とよぶ)により、検出した元素の酸化物の合計が100%になるように規格化した。

測定に用いた装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置(エダックス社製EAGLE III)である。励起用X線源はモリブデン(Mo)管球、管電圧は、FP法を用いた定量分析では20kVに設定し、必要に応じて20keV以上のスペクトルを検出するため、50kVに設定した。管電流は100 μ A、X線照射径は112 μ m、計数時間は300秒とした。測定は真空中で実施した。

3. 結果と考察

3-1 製作技法

顕微鏡観察の結果、本資料はすべて引き伸ばし法で製作されたと推定された。引き伸ばし法は、軟化したガラスを引き伸ばしてガラス管を作り、それを分割して小玉を製作する方法で、孔と平行に並ぶ気泡列が認められるのが特徴である。既往研究で「管切り法」¹⁾や「引き伸ばし法」²⁾と呼ばれる製作技法に相当する。ここでは、引き伸ばし法と呼ぶ。

3-2 蛍光X線分析による分類

蛍光X線分析の結果を表1に示す。分析を実施したガラス小玉25点は、No.25のみソーダガラ

スで他はすべてカリガラスであった。

カリガラスは、 Al_2O_3 およびCaOの含有量から、さらに細分が可能である³⁾。これらの成分について既往研究と比較した結果、木船西遺跡出土のカリガラスは3種類（木船西カリ①～③）に分類された（図2）。

木船西カリ①とした資料は、分析No.1、2、7、10、11、12、13、14、15、17-1、17-2、22の12点である。これらは、酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）の含有量が中程度で、酸化カルシウム（CaO）の含有量が多いタイプのカリガラス（Group PI）に相当する。既往研究において、Group PIのカリガラスは、コバルト着色によって紺色を呈するカリガラスに対応することが明らかとなっている。木船西カリ①の資料は、酸化コバルト（CoO）を0.07～0.21%含有しており、主にコバルトイオンが紺色の着色に関与していると考えられる。さらに、いずれもコバルト原料の不純物と考えられる酸化マンガン（MnO）の含有量が1.71～4.30%と非常に多く、酸化銅（CuO）および酸化鉛（PbO）の含有量が0.1%未満と極めて少ない。このようなコバルト原料の特徴も既往研究で明らかになっている Group PI の特徴と一致する。

木船西カリ②は、分析No.3、4、5、6、9、16、24の7点である。これらは、カリガラスの中でも酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）含有量が多く、酸化カルシウム（CaO）含有量が少ない高アルミナタイプのカリガラス（Group PII）に相当する。これらのガラス小玉はいずれも淡青色を呈するのが特徴で、CuOを1.18～1.97%含有しており、主として銅イオンが青色の発色に関与していると考えられる。また、PbOを0.17～0.27%含有するとともに、微量の錫（Sn）が検出されるのが特徴である。酸化錫（ SnO_2 ）の値は、スタンダードドレスのFP法による計算値で0.07～0.12%着色剤として利用された銅原料にともなう可能性が考えられる。このような特徴を持つ銅原料としては、これまでにも青銅の可能性が指摘されている⁴⁾。色調と着色剤の特徴についても既往研究で明らかになっている Group PII の特徴と一致しており、木船西カリ②は典型的な Group PII であるといえる。

一方、木船西カリ③とした、分析No.8、18、19、20、23の5点は、お互いに類似の化学組成を有するものの、既存の分類には対応しないタイプのカリガラスであった。すなわち、カリガラスの分類基準である Al_2O_3 とCaO含有量がGroup PIとGroup PIIの中間的な値を示した。さらに、色調や着色剤も特異である。色調は上述の木船西カリ②と類似するが、やや暗色の青色（濃青色）を呈する。着色に関与する成分として、CuOを1.89～2.01%含有しており、銅イオンが主たる着色要因である。また、MnOを0.84～0.88%含有するとともに、PbOを1.08～1.30%と多量に含有する点において、木船西カリ②（Group PII）とは明らかに異なる。さらに、スタンダードドレスのFP法による SnO_2 の値も0.19～0.31%と木船西カリ②（Group PII）よりも多い。MnOを多く含むことでやや暗い色調となっていると推察されるが、PbOや SnO_2 が多く含まれる理由については不明である。木船西カリ③のような基礎ガラスと着色剤の特徴を有するカリガラスの類例は多くないものの、福岡県井原ヤリミゾ遺跡2号木棺墓および16号甕棺墓から同種のカリガラスが出土している⁵⁾。

木船西遺跡出土のガラス小玉のうち、No.25のみソーダガラスであった。No.25は赤褐色不透明を呈する。CuOを2.01%含有することから、金属銅コロイドによる着色である。本資料について、ソーダガラスを細分する指標である酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（ K_2O ）、酸化カルシウム（CaO）、酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）の含有量から、既存のグループ（Group SI～SV）⁶⁾への帰属

を検討した(図3)。その結果、本資料はGroup SVに帰属すると判断された。Group SVは化学組成の変異が大きく、一部のGroup S III(植物灰ガラス)やGroup S IV(ナトロン主体ガラス)と化学組成だけでは区別が困難だが、製作技法、着色剤の選択、流通時期などとの対応関係から独立した一群と考えている。従来は、Group S IIとともに「高アルミナソーダ石灰ガラス」⁷⁾として包括的に扱われてきた一群である。今は、Group S IIを高アルミナソーダガラス、Group SVをプロト高アルミナソーダガラスと便宜的に呼んでいる⁸⁾。さらに、製作技法や着色剤、日本列島での流通時期によって、Group S IIは、Group S II AとGroup S II Bに、Group SVは、Group SVA、Group SVB、Group SVCに細分される。木船西遺跡出土の分析No.25のような引き伸ばし法で製作された赤色不透明ガラス小玉は、Group S II BとGroup SVAに認められるが、両者は、 Al_2O_3 とCaO、MgOと K_2O の含有量において異なる分布を示し、日本列島での流通時期も異なる。Group SVAは、弥生時代後期中葉～終末期に流通するが、製作技法と着色剤の共通するGroup S II Bが流通するのは古墳時代中期以降である。木船西遺跡出土の分析No.25のガラス小玉は、製作技法、基礎ガラスの化学組成および着色剤のいずれの点においてもGroup SVAの特徴と一致する。流通時期も矛盾しない。

4. まとめ

本調査の結果、蛍光X線分析を実施した木船西遺跡出土ガラス小玉には3種類のカリガラスと1種類のソーダガラスが存在することが明らかとなった。カリガラスはGroup PIに相当するものが12点(木船西カリ①)、Group PIIが7点(木船西カリ②)、そして既存のグループに帰属しないもの(木船西カリ③)が5点であった。そして、ソーダガラス1点はGroup SVAに相当するものであった。類例の少ないカリガラス(木船西カリ③)が含まれるのが本資料の特徴といえる。

註

- 1) 朝比奈貞一・小田幸子 1954「日本古代ガラス玉の成形について」『古文化財の科学』第7号、10～13頁ほか。
- 2) 大賀克彦 2002「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』(『清水町埋蔵文化財発掘調査報告書』V) 127～145頁。
- 3) Oga, K., Tamura, T. 2013. Ancient Japan and the Indian Ocean Interaction Sphere: Chemical Compositions, Chronologies, Provenances and Trade Routes of Imported Glass Beads in Yayoi-Kofun Period (3rd Century BCE-7th Century CE). *Journal of Indian Ocean Archaeology*, 9, pp.34-60.
- 4) 肥塚隆保 1995「古代珪酸塩ガラスの研究—弥生～奈良時代のガラス材質の変遷—」『奈良国立文化財研究所創立40周年記念論文集 文化財論叢Ⅱ』929～967頁。
- 5) 大賀克彦・田村朋美 2016「日本列島出土カリガラスの考古学的研究」『古代学』(奈良女子大学古代学術研究センター)第8号、11～23頁。
- 6) 前掲3)
- 7) 肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦 2010「材質とその歴史の変遷」『月刊文化財』No.566、13～25頁。
- 8) 田村朋美 2015「引き伸ばし法によるガラス小玉の系譜と伝播」『物質文化』第95号、19～32頁。

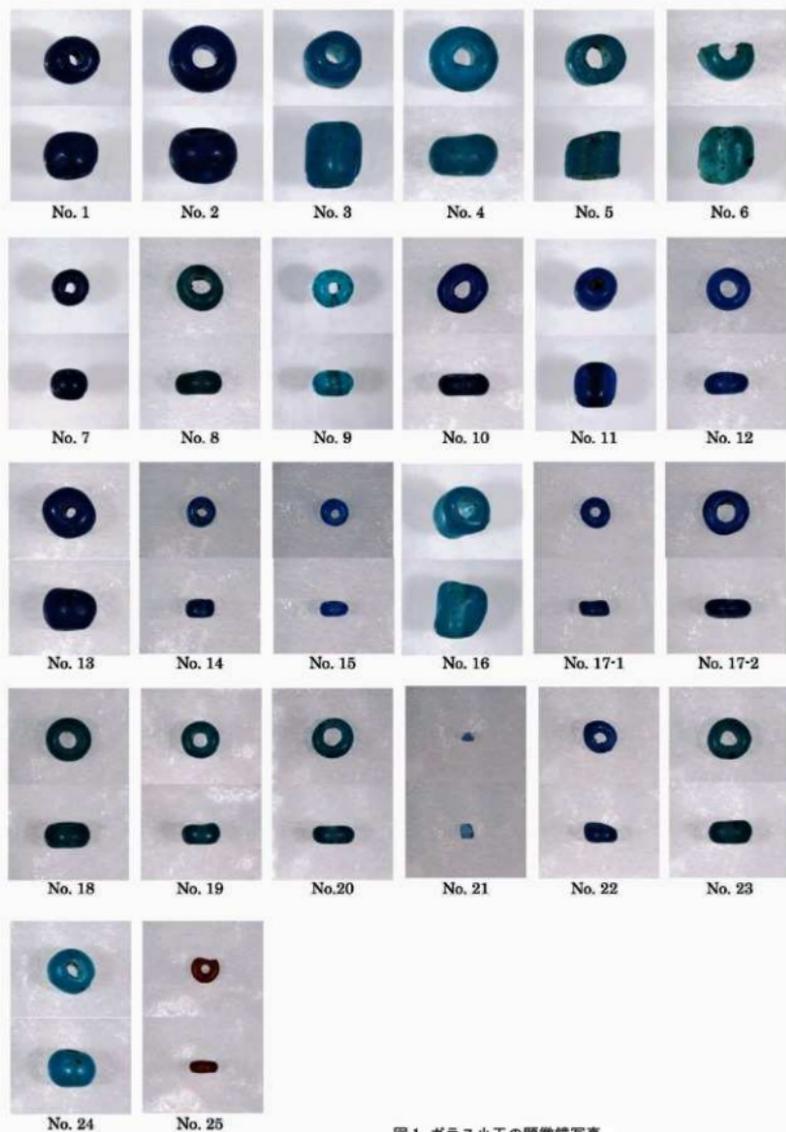


図1 ガラス小玉の顕微鏡写真

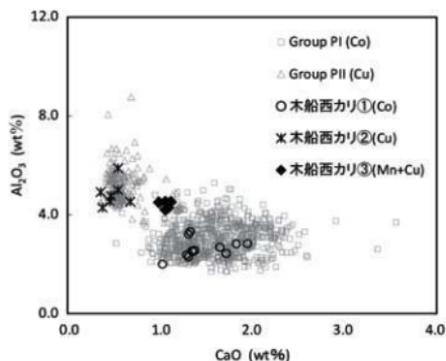


図2 カリガラスの CaO - Al_2O_3 含有量による分類

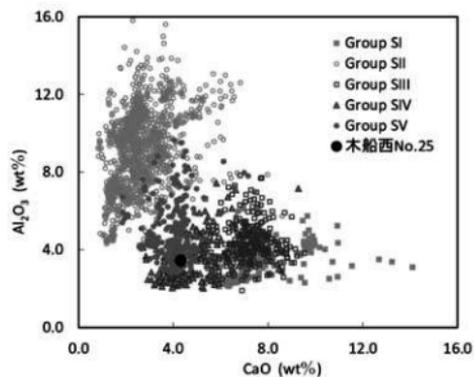
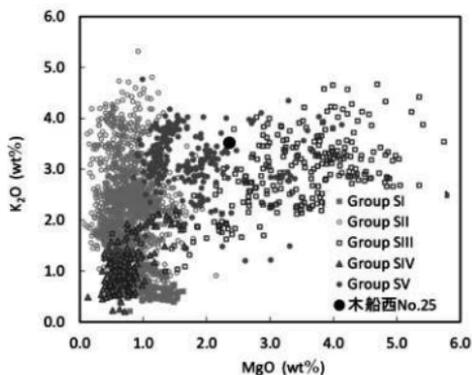


図3 ソーダガラスの分類 (上: MgO - K_2O 含有量, 下: CaO - Al_2O_3 含有量)

分析No.	製法	重量濃度 (%)														※			
		Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	CoO	CuO	ZnO	PbO		Rb ₂ O	SrO	ZrO ₂
1	引き伸ばし	0.6	0.5	2.4	76.1	0.1	13.5	1.7	0.24	2.62	1.96	0.12	0.05	n.d.	0.03	0.03	0.02	0.05	0.01
2	引き伸ばし	0.7	0.6	3.3	73.7	0.1	15.8	1.3	0.27	2.20	1.68	0.09	0.04	n.d.	0.04	0.03	0.03	0.12	0.01
3	引き伸ばし	1.1	0.4	5.0	75.1	0.1	14.9	0.6	0.16	0.01	0.48	0.01	1.92	n.d.	0.22	0.03	0.01	0.09	0.08
4	引き伸ばし	0.3	0.4	5.9	74.8	0.1	14.8	0.6	0.19	0.01	0.62	0.01	1.97	n.d.	0.26	0.02	0.01	0.08	0.12
5	引き伸ばし	1.5	0.5	4.8	75.5	0.1	14.4	0.5	0.16	0.01	0.49	0.01	1.73	n.d.	0.27	0.03	0.04	0.09	0.08
6	引き伸ばし	1.5	0.4	4.5	76.9	0.2	13.8	0.5	0.13	0.02	0.52	0.02	1.43	n.d.	0.18	0.04	0.03	0.00	0.07
7	引き伸ばし	0.6	0.5	2.7	69.9	0.2	17.5	1.7	0.34	4.30	1.96	0.21	0.06	n.d.	0.04	0.03	0.04	0.08	0.02
8	引き伸ばし	0.4	0.5	4.5	73.8	0.2	14.2	1.0	0.15	0.84	1.02	0.02	1.89	n.d.	1.30	0.02	0.03	0.07	0.25
9	引き伸ばし	0.5	0.3	4.9	77.7	0.1	14.1	0.4	0.14	0.00	0.51	0.02	1.18	n.d.	0.19	0.03	0.02	0.00	0.10
10	引き伸ばし	0.5	0.4	2.5	70.7	0.1	17.8	1.4	0.27	3.92	2.11	0.17	0.07	n.d.	0.04	0.03	0.03	0.07	0.02
11	引き伸ばし	1.1	0.4	2.8	75.9	0.2	13.2	2.0	0.26	2.41	1.42	0.10	0.04	n.d.	0.03	0.03	0.02	0.10	0.01
12	引き伸ばし	0.6	0.4	2.0	76.9	0.1	14.5	1.0	0.17	2.58	1.34	0.10	0.07	n.d.	0.04	0.03	0.00	0.11	0.01
13	引き伸ばし	1.0	0.5	3.2	73.3	0.2	15.5	1.3	0.25	2.69	1.84	0.10	0.04	n.d.	0.05	0.02	0.02	0.00	0.01
14	引き伸ばし	0.7	0.5	2.8	75.6	0.2	14.7	1.8	0.19	1.71	1.46	0.07	0.03	n.d.	0.04	0.02	0.00	0.10	0.01
15	引き伸ばし	0.5	0.4	2.5	78.0	0.1	12.9	1.4	0.26	2.37	1.35	0.09	0.05	n.d.	0.02	0.03	0.04	0.09	0.12
16	引き伸ばし	0.3	0.1	4.3	74.5	0.1	17.7	0.4	0.13	0.01	0.58	0.00	1.73	n.d.	0.17	0.04	0.02	0.09	0.10
17-1	引き伸ばし	0.4	0.4	2.3	71.8	0.1	18.3	1.3	0.23	3.06	1.79	0.14	0.06	n.d.	0.01	0.03	0.03	0.03	0.06
17-2	引き伸ばし	0.1	0.3	2.4	71.1	0.1	19.4	1.3	0.23	2.84	1.82	0.14	0.05	n.d.	0.02	0.03	0.01	0.06	0.10
18	引き伸ばし	0.7	0.6	4.3	72.4	0.2	15.4	1.1	0.16	0.88	1.02	0.02	1.94	0.04	1.20	0.02	0.04	0.11	0.28
19	引き伸ばし	0.5	0.4	4.5	72.7	0.2	15.4	1.1	0.16	0.85	1.04	0.02	1.96	n.d.	1.08	0.01	0.03	0.09	0.31
20	引き伸ばし	0.7	0.5	4.2	72.0	0.1	15.7	1.1	0.15	0.88	1.05	0.02	2.00	0.05	1.29	0.02	0.03	0.12	0.20
21	引き伸ばし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	引き伸ばし	0.5	0.4	2.6	74.2	0.1	15.7	1.4	0.24	2.68	1.79	0.11	0.06	n.d.	0.04	0.02	0.03	0.16	0.09
23	引き伸ばし	0.5	0.6	4.5	72.3	0.2	15.2	1.1	0.17	0.88	1.04	0.02	2.01	0.03	1.22	0.02	0.03	0.15	0.19
24	引き伸ばし	1.0	0.4	4.5	71.7	0.1	19.0	0.7	0.15	0.02	0.41	0.01	1.60	n.d.	0.22	0.04	0.02	0.09	0.07
25	引き伸ばし	15.4	2.4	3.4	66.5	0.7	3.5	4.3	0.19	0.17	1.08	0.02	2.13	0.02	0.07	0.01	0.04	0.13	0.02

※ SnO₂ はスタンダードレスのFP法による計算値

n.d. 検出限界以下

- 微細破片資料のため未測定

表1 蛍光X線分析結果

第4節 木船西遺跡出土弥生土器の圧痕調査

小畑弘己（熊本大学文学部）

はじめに

玉名市教育委員会より依頼を受け、玉名市木船西遺跡出土弥生土器の圧痕調査を実施した。本文はその報告である。

I. 分析方法と調査対象資料

1. 調査対象資料

今回調査の対象とした資料は、玉名市教育委員会が2011年から2012年に発掘した際の出土資料である。2016年3月14日に玉名市教育委員会文化財整理室で1回目の調査を実施し、同年5月23日に小畑研究室にて持ち込まれた土器について補足調査を実施した。圧痕調査を行った土器は総数約78点である。

2. 分析方法

圧痕調査および調査後の作業手順は、以下のとおりである。なお、この手法は基本的に、印象材以外は、福岡市埋蔵文化財センター方式（比佐・片多2005）と同じものである。

- ① 土器を1点ずつ観察し、植物種実・昆虫・貝などの圧痕の可能性があるものを肉眼と実体顕微鏡で抽出する。
- ② 圧痕部を水で洗浄し、土器全体写真および実体顕微鏡による圧痕部の拡大写真を撮影する。
- ③ 離型剤（パラロイドB-72 5%アセトン溶液）を圧痕部に塗布し、シリコーンゴム：アグサジャパン株式会社製ブルーミックスソフトを圧痕部に充填する。
- ④ やや硬化したシリコーンゴムをマウント（走査型電子顕微鏡用ピンタイプ試料台）に盛り、圧痕部と接合して硬化させる。
- ⑤ 硬化後、レプリカを取り外し、圧痕部の離型剤をアセトンで洗浄する。
- ⑥ 作製したレプリカを走査型電子顕微鏡（日本電子製JCM-5700型）で観察・撮影・同定する。
- ⑦ デジタルマイクロスコプ（KEYENCE VHX-2000）の2点間計測機能を用いて種実の長さ・幅・厚さを計測する。

II. 調査結果

圧痕調査の結果、4点の弥生時代後期の土器から、イネ果実（籾付）2点と不明種子1点、不明種花の鏝部と思われる部分の圧痕を検出した（図表参照）。レプリカは12点作成したが、これ以外のものは小礫や茎などであった。

1と2はイネ *Oryza sativa* L. の籾付の穎果である。2は表面の顆粒状突起が明確ではないが、いずれも籾が付着した状態である。3はやや細長い楕円形を呈し、その一端に着点らしき部分が認められる。表面は細かい亀甲状の浅い窪みとそれらを囲む細い隆帯部分からなる。種を特定できない。4は4mmほどん袋状部の下部に茎と思われる部分が付着している。花の萼にあたる部分と思われるが、種については不明である。

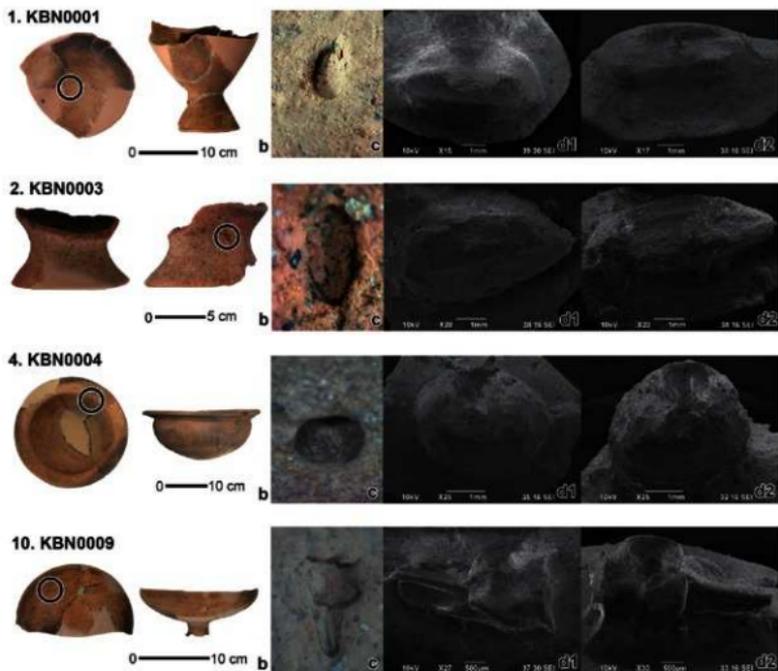


図 木船西遺跡土器圧痕・レプリカ SEM 画像

番号	資料番号	注記	種類	器形	時期	部位	検出面	圧痕の種類	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	図版番号
1	KBN0001	1-512	埴	脚付甕	弥生後期	底部	内面	イネ粒付	4.51	3.38	1.42 ^a	67-33
2	KBN0003	Ⅱ-504	埴	脚付甕	弥生後期	脚部	外面	イネ粒付	6.32	3.33	1.89 ^a	136-10
3	KBN0004	Ⅱ-541	埴	鉢	弥生後期	口縁部	内面	不明種子	3.75	3.16	3.10	150-11
4	KBN0009	1-C1包穴帯	埴	高坏	弥生後期	坏部	内面	花の萼部分?	3.89	2.04	1.60 ^a	164-13

表 木船西遺跡出土土器検出の圧痕

第5節 木船西遺跡出土石製玉材の産地同定分析

薬料哲男 (有) 遺物材料研究所

1 滑石製勾玉

今回、分析を行った勾玉は試料ホルダーに置くだけの完全な非破壊で産地分析を行った。勾玉は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比を計り、この元素比の値の原産地を区別する指紋とした。玉類の太さが10mm以下のときESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、玉類に含有されている常磁性種を分析し、その信号から産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用している⁵⁾。今回分析した勾玉は熊本県玉名市に所在する木船西遺跡出土勾玉1個で原材産地分析の結果が得られたので報告する。

滑石・緑泥石片岩様製玉類の分析と分類

蛍光X線分析法による分類と産地分析結果

木船西遺跡から出土した滑石製勾玉は水洗を行うだけの完全な非破壊分析で行い、大きな玉類は肉眼で汚染の少ない面を選んで直径約1cm以内の部分を行う。出土玉類の分析は風化層を通して遺物の内部の新鮮面をいかに多く測定するかが重要であり蛍光X線分析法の中の電子線励起方式のEPMA分析は表面の分析面積1～数百マイクロン分析されているが、深さ約1マイクロンの風化層しか分析を行っていないために、得られた結果は原石で求めた新鮮面のマトリックスと全く異なった可能性の風化層のみの分析結果になるため、非破壊分析された非破壊遺物のEPMA測定された産地分析結果は全く信用できない。一方、今回の分析に使用したX線励起(50 KeV)でマトリックスをシリカとしてモデル計算を行うと、表面からカリウム元素など軽元素で数マイクロンから10マイクロン、鉄元素で約300マイクロン、ジルコニウムで約800マイクロンの深さまで分析され、鉄元素より重い元素では風化層の奥の新鮮部分を多く分析され影響は相当無視できると思われる。風化層以外に表面に固着した汚染物が超音波洗浄でも除去できないときはその影響を受ける。風化の影響は避けたい問題で、蛍光X線分析法にどれだけ影響しているか不明で、また、玉類の様式観察も風化・汚染の影響を受けた結果から導かれた考古学である。分析した玉類はセイコーインスツルメンツ社のSEA 2110 Lシリーズ卓上型蛍光X線分析計で行った。分析した勾玉のエネルギー分散型蛍光X線分析の蛍光X線スペクトルを図1に示す。分析した勾玉で観測された元素のピークは、マグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)、珪素(Si)、カルシウム(Ca)、クロム(Cr)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ニッケル(Ni)で、カリウム(K)は散乱線ピークと重なって微量である。滑石と推測する勾玉には微量にイットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)などは観測できなかった。これら元素含有量の分析値には、分析遺物の形状の違いによる影響が含まれているために、遺物相互の組成比較は、元素比を取って形の影響を取り除き元素比組成を求め、また比重を求めて表1に示した。

今回、分析した勾玉の分析場所を変えながら、統計処理が可能な合計分析回数が40回以上を分析し遺跡の名前をつけて、木船西勾玉群の遺物群を作った。これら遺物群は、他の遺跡から出土した遺物と定量的に一致するか判定できるように表2の滑石・緑泥石片岩製遺物で作った遺物群に登録した。将来、他の遺跡で同じ組成の遺物が使用されていたか、また新たに見つかった原産地の原石に一致するか判定出来るようにした。これら滑石、緑泥石片岩産地および遺物群の各遺跡の地

点を図3に示した。木船西遺跡から出土した勾玉は表2の原石・遺物群と比較しマハラノビスの距離を求めてホテリングのT2乗検定によって同定を行い結果を表3に示した。分析した木船西遺跡の勾玉は岐阜県の昼飯大塚A遺物群、和歌山の吉田A遺物群に定量的同定確率5%以上の確率で一致した。今回、1つの勾玉の石材の産地に複数の遺跡が同時に同定された一つの遺物作成に複数の産地から原石を入手したことになり、あり得ない矛盾が発生する。同定された遺跡は同じ産地から原石を入手したと推測できる。もし、産地が異なっているのに複数の群に一致したとき、矛盾を肯定することになり、一致法と言う判定方法はないと言うことである。しかし、一致しなかった原石・遺物群と分析した分析した遺物の間には関係がなかったと明確に言える。より産地を正確に特定するために、蛍光X線分析法で同定された遺物の結果がE S R分析の結果と一致するかE S R分析を行うが、勾玉が大きくE S R分析ができなかったので、次に各原石、遺物群のE S R分析結果を示す。

E S R分析による分類

E S R分析は滑石や緑泥石片岩などの鉱物結晶および共生鉱物に含有されているイオンとか、岩石が自然界からの放射線を受けてきた色中心などの常磁性種を分析し、その信号違いから産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。E S Rの測定は、完全な非破壊分析で、直径が11mm以下の玉なら分析は可能で、E S R信号の強度が大きい場合は、胡麻粒大の試料で分析ができる場合がある滑石、緑泥石片岩の代表的なE S Rスペクトルとして、昼飯大塚古墳出土遺物のE S R信号を図2-1に示した。また各産地の滑石・片岩原石の代表的E S Rスペクトル信号を図2-2-1～2-2-5に示した。

滑石や緑泥石片岩などのE S R信号は全て基本的には6本から構成されその間隔はE S R信号のg値決定用の標準試料Mn²⁺に一致していることから、滑石、緑泥石片岩の中のMgを置換したMnに関係した信号と推測した。(1)の0mT(ミリテスラー)から600mT間のE S R信号の中で、100mT～200mTの信号は鉄の高スビンの信号と推測され、遺物の中には2本に分裂した信号を示すものも見られた。また200mT～600mT間の大波の信号は鉄の低スビンの信号と思われ、この鉄信号に300mT～400mT間にMnイオンの6本が重なる形で分析される。(2)の信号は240mT～430mT間を拡張してMnイオン信号に注目して示した。変成岩では変成度の違いなどで、生成鉱物種も異なり、鉱物ごとにMnイオンの周り原子との相互作用が異なると推測される。Mnイオンの6本の信号は分裂し超微細構造を示し複雑な形となる(仮に複6形と呼ぶ)。この超微細構造はg異方性を示す場合が多く、試料を回転させて分析すると、E S R信号が変化するため、信号が異なる事が直ちに遺物玉材の岩石の種類が違うとはいえない。実際に試料を回転させて信号が変化するかどうかを確かめる必要がある。しかし、幅の広い単純な6本(仮に単6形と呼ぶ)の信号を示す遺物は、回転させても、信号の形の変化はない。従って、複6形と単6形は異なった鉱物の可能性が推測され、岩石を区別する指標になるとと思われる。同じ変成度で同じ鉱物であれば、同じ信号になることは想像できる。E S R分析が行われたときの判定は蛍光X線分析法とE S R分析の両結果が一致した群の可能性があるととして総合判定を行う。

結 論

木船西遺跡の勾玉は、岐阜県の昼飯大塚A遺物群、和歌山の吉田A遺物群に同定確率5%以上の確率で一致した。また、今回、木船西勾玉群の遺物群を作り、表2の原石・遺物群に登録し、将来、

他の遺跡で同じ組成の遺物が使用されていたか、また新たに見つかった原石産地の原石に一致するか判定出来るようにしたことが、今回の分析の成果といえる。産地分析結果から遺物の使用圏を推測するとき、石器、玉類などの産地分析で重要なことは得られた結果の通用する範囲は比較同定した原石・遺物群の範囲に限られ、また同定結果は判定に使用した元素の組み合わせによっても変わってくる。判定のときにある元素を判定の指標に入れると、ある原石・遺物群に同定されるが、抜くと同定されることがある。指標が元素濃度か絶対値か相対値か判定基準などの方法論が違えば結果も異なる可能性がでてくる。産地分析結果から考古学を推測するときは、同じ方法論で行われた結果で考察する必要がある。産地分析の結果が表2の何処の原石・遺物群にも一致しなかったとき、その原石・遺物群の産地、遺跡と関連がないと言うことで、考古学の参考資料となる。これら産地分析の精度は、より広い範囲の原石の調査、各遺跡の遺物分析数の増加にある。

参考文献

- 1) 茅原一也(1964)、長者が原遺跡産のヒスイ(翡翠)について(概報)。長者ヶ原、新潟県糸魚川市教育委員会:63-73
- 2) 薬科哲男・東村武信(1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1 - 18
- 3) 薬科哲男・東村武信(1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要「考古学論叢」,1495-109
- 4) 薬科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学,16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina(1992)、Allocation of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF, Journal of Archaeological Science 19:357-373
- 6) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学,9:77-90

図3 調査した滑石・緑泥石片岩産地および遺跡



図1 調査した滑石・緑泥石片岩産地および遺跡

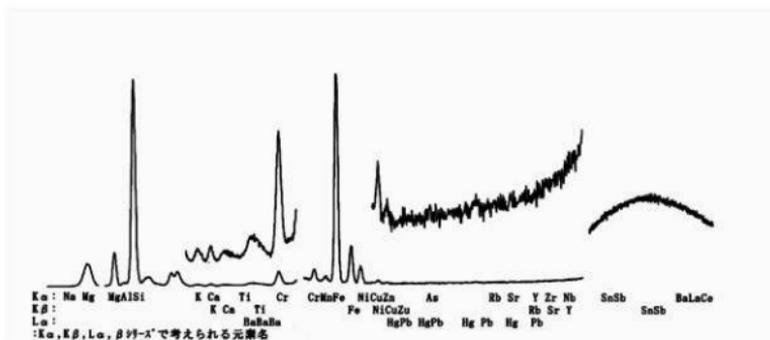


図2 木船西遺跡出土滑石製勾玉 (125107) の蛍光 X 線スペクトル

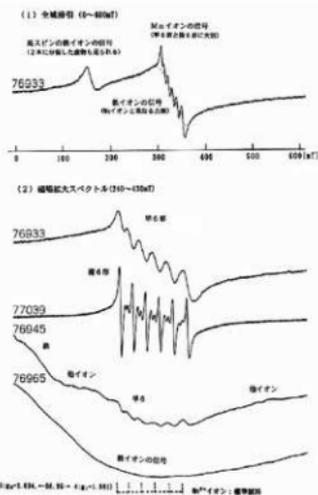


図 2-1 尾越大塚古墳出土土壌石、緑泥石片岩碧玉類の代表的な ESR スペクトル

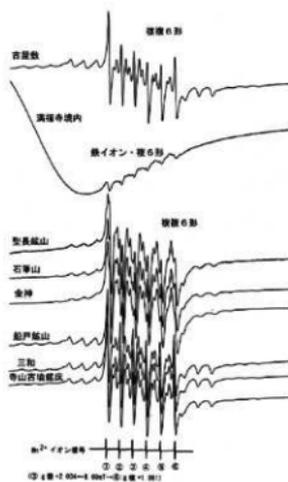


図 2-2-1 産地別濁石・片岩原石の代表的な ESR スペクトル

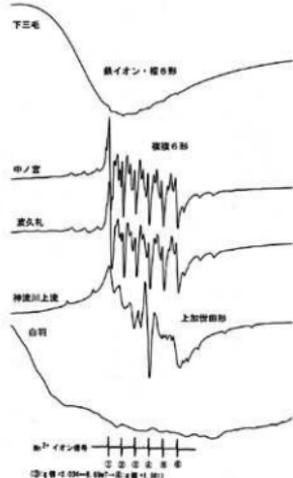


図 2-2-2 産地別濁石・片岩原石の代表的な ESR スペクトル

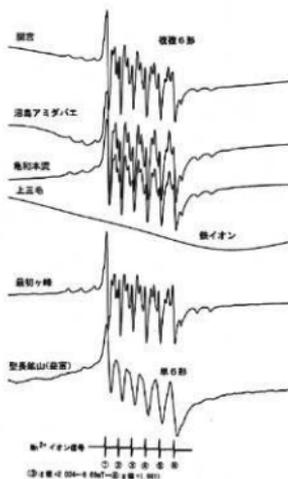


図 2-2-3 産地別濁石・片岩原石の代表的な ESR スペクトル

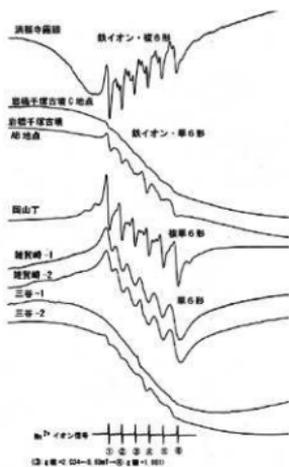


図2-2-4 産地別滑石・片岩類石の代表的なE S Rスペクトル

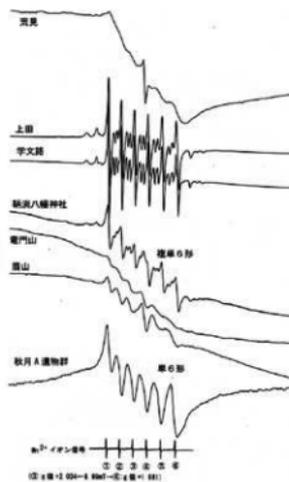


図2-2-5 産地別滑石・片岩類石の代表的なE S Rスペクトル

表1 本輪西遼跡出土滑石製勾玉の元素比組成分析結果

分析番号	元素比																重量 (g)	比重	
	Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/Si	Ca/Ti	Ca/Fe	Cr/Fe	Cr/Mn	Mn/Ti	10^3Ti/Fe	10^3Mn/Fe	10^3Ni/Fe	10^3Y/Fe	10^3Zr/Fe	10^3Sr/Fe	10^3Rb/Fe			Ba/Zr
125107	7.46	0.02	0.125	0	0	0	0.036	3.294	8.15	0.014	0.107	0.363	0	0.009	0.011	0.166	0		
GJ-1	0.229	0.092	3.604	2.312	5.554	0.826	0.014	1.126	0.604	0.211	0.123	0.003	0.469	2.759	3.205	8.511	6.736	18.4742	2.596

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表2-1 各産地における滑石、片岩脈石群及び連物群の元素比の平均値と標準偏差値

脈石 群名	分析 個数	Mg/Si X _{av} ±σ	Al/Si X _{av} ±σ	K/Si X _{av} ±σ	Ca/Si X _{av} ±σ	Ca/Fe X _{av} ±σ	Cr/Fe X _{av} ±σ	Cr/Mn X _{av} ±σ	Mn/Ti X _{av} ±σ
筑豊・高瀬寺	48	4.193 ± 0.076	0.019 ± 0.002	0.050 ± 0.021		0.032 ± 0.013	5.721 ± 2.578	2.258 ± 1.151	
栗父・清原寺内	45	4.079 ± 0.092	0.025 ± 0.002	0.060 ± 0.009		0.039 ± 0.006	12.429 ± 1.646	1.487 ± 0.121	
栗父・聖長飯山	42	4.133 ± 0.128	0.022 ± 0.003	0.067 ± 0.016		0.041 ± 0.017	12.361 ± 3.694	1.435 ± 0.188	
株山・石量山	42	4.209 ± 0.092	0.018 ± 0.002	0.047 ± 0.019		0.036 ± 0.010	7.937 ± 4.493	2.295 ± 0.396	
株山・金神	42	3.935 ± 0.082	0.019 ± 0.003	0.068 ± 0.012		0.028 ± 0.013	4.118 ± 1.600	2.756 ± 0.625	
和歌山・船戸飯山	54	4.045 ± 0.092	0.029 ± 0.003	0.033 ± 0.015		0.032 ± 0.006	6.305 ± 1.036	2.222 ± 0.528	
株山・三和	45	4.086 ± 0.224	0.031 ± 0.013	0.043 ± 0.023		0.025 ± 0.005	4.237 ± 1.057	3.469 ± 0.420	
紀の川・寺山古墳飯山	45	4.439 ± 0.136	0.041 ± 0.004	0.031 ± 0.022		0.029 ± 0.003	4.794 ± 0.810	2.345 ± 0.396	
和歌山・下三毛	49	3.904 ± 0.076	0.019 ± 0.001	0.033 ± 0.018		0.035 ± 0.020	7.369 ± 2.530	2.479 ± 0.484	
中ノ宮	45	4.160 ± 0.319	0.021 ± 0.009	0.056 ± 0.023		0.042 ± 0.007	5.360 ± 1.158	3.164 ± 0.563	
増玉・渡久礼	45	4.136 ± 0.118	0.029 ± 0.004	0.052 ± 0.014		0.035 ± 0.006	6.106 ± 0.897	3.374 ± 0.629	
増玉・神流川上流	49	3.227 ± 0.708	0.275 ± 0.006	6.700 ± 2.494	4.884 ± 2.452		0.377 ± 0.124		
茨城・白羽	46	2.169 ± 0.258	0.245 ± 0.006	6.750 ± 0.133	20.695 ± 1.765	15.128 ± 4.234		0.405 ± 0.105	
栗父・関宮	44	4.260 ± 0.061	0.018 ± 0.001	0.078 ± 0.007		0.036 ± 0.010	5.332 ± 1.221	1.815 ± 0.257	
沼島アミダバエ	48	4.151 ± 0.087	0.029 ± 0.013	0.056 ± 0.012		0.034 ± 0.004	6.055 ± 0.548	2.764 ± 0.888	
株山・亀和本流	48	4.247 ± 0.158	0.032 ± 0.009	0.019 ± 0.006		0.041 ± 0.008	6.286 ± 0.652	4.284 ± 0.704	
和歌山・上三毛	48	4.126 ± 0.067	0.024 ± 0.002	0.055 ± 0.015		0.035 ± 0.005	6.271 ± 0.857	2.436 ± 0.223	
紀の川・根切ヶ鼻	45	4.240 ± 0.120	0.023 ± 0.003	0.028 ± 0.006		0.033 ± 0.009	7.193 ± 1.630	1.878 ± 0.638	
栗父・聖長飯山(葦葦)	44	1.611 ± 0.300	0.020 ± 0.001	0.081 ± 0.007		0.044 ± 0.012	9.262 ± 1.847	3.428 ± 1.077	
栗父・清原寺露頭	48	4.135 ± 0.097	0.018 ± 0.001	0.072 ± 0.010		0.038 ± 0.006	11.543 ± 2.426	1.251 ± 0.200	
和歌山・岩橋千塚C地点	44	4.554 ± 0.474	0.252 ± 0.007		15.394 ± 4.862	1.727 ± 0.874		0.221 ± 0.056	
和歌山・岡山丁	101	1.086 ± 0.174	0.111 ± 0.009		16.465 ± 3.047	5.545 ± 2.311		0.235 ± 0.067	
和歌山・三谷-1	52	0.590 ± 0.145	0.177 ± 0.043	8.295 ± 2.391	16.117 ± 1.724	0.427 ± 0.076		0.427 ± 0.076	
和歌山・榑賀崎-2	52	0.337 ± 0.073	0.111 ± 0.015	3.526 ± 1.185			0.778 ± 0.364	0.369 ± 0.087	
草城・三谷-1	47	0.190 ± 0.075	0.119 ± 0.011	4.622 ± 1.014			1.943 ± 0.605	0.316 ± 0.058	
高城・三谷-2	52	0.984 ± 0.110	0.137 ± 0.007	7.762 ± 0.466					
紀の川・荒見	50	0.226 ± 0.082	0.049 ± 0.023	1.202 ± 0.768					
株山・上田	48	1.066 ± 0.199	0.133 ± 0.013	1.573 ± 0.766					
株山・学文路	50	1.519 ± 0.473	0.155 ± 0.024	1.182 ± 1.527	4.408 ± 1.672				

表 2-2 各産地における滑石、片岩原石群及び遺物群の元素比の平均値と標準偏差

頼瀨八幡神社	50	0.652 ± 0.329	0.075 ± 0.019	11.635 ± 2.680	5.710 ± 2.254					0.299 ± 0.080
橋本・龍門山	50	1.196 ± 0.121	0.115 ± 0.010	15.878 ± 2.350	3.653 ± 0.909					0.193 ± 0.049
篠島・野山	54	0.945 ± 0.194	0.104 ± 0.017	16.940 ± 4.061	5.054 ± 2.475					0.269 ± 0.194
眉山落合谷(地理直行)	46	0.842 ± 0.110	0.113 ± 0.008	16.131 ± 3.108	4.363 ± 1.392					0.199 ± 0.044
眉山落合谷(地理平行)	46	1.224 ± 0.281	0.911 ± 0.023	12.405 ± 4.791	5.304 ± 3.059					0.515 ± 0.507
眉山船崎川	54	0.976 ± 0.392	0.132 ± 0.020	17.852 ± 4.210	6.123 ± 2.057					0.240 ± 0.054
眉山大谷	50	1.254 ± 0.544	0.120 ± 0.021	14.786 ± 3.102	6.414 ± 5.677					0.290 ± 0.091
眉山紀谷	48	0.550 ± 0.601	0.111 ± 0.029	15.708 ± 3.362	7.088 ± 1.488					0.360 ± 0.050
眉山鈴江谷	44	1.120 ± 0.369	0.124 ± 0.018	17.974 ± 2.426	5.535 ± 2.269					0.275 ± 0.087
篠島・高尾山・川田川	48	1.110 ± 0.391	0.108 ± 0.021	14.639 ± 3.557	4.200 ± 1.664					0.241 ± 0.123
沼島西岸	48	1.230 ± 0.177	0.120 ± 0.016	13.176 ± 3.090	5.516 ± 1.775					0.311 ± 0.144
秋月片岩 A 遺物群	45	9.505 ± 0.336	0.248 ± 0.005	0.693 ± 0.120	1.115 ± 0.147		0.009 ± 0.004		0.965 ± 0.469	
平塚・塚越 12 遺物群	44	6.235 ± 0.137	0.226 ± 0.004	1.75 ± 0.028	2.907 ± 0.408	0.606 ± 0.154		0.341 ± 0.074		
大塚 H-1 遺物群	43	0.517 ± 0.070	0.115 ± 0.014	0.861 ± 0.146	1.328 ± 0.071			0.341 ± 0.074		
回田西河内 6 7 遺物群	45	3.523 ± 0.108	0.046 ± 0.001	0.121 ± 0.020			0.013 ± 0.003	0.038 ± 0.015	9.342 ± 3.180	
犀飯大塚 A 遺物群	50	8.135 ± 0.827	0.060 ± 0.066	0.145 ± 0.143			0.009 ± 0.013		2.165 ± 1.727	
犀飯大塚 B 遺物群	48	9.709 ± 0.544	0.238 ± 0.022					0.014 ± 0.007	1.455 ± 0.804	10.873 ± 13.955
犀飯大塚 C 遺物群	48	7.567 ± 1.231	0.235 ± 0.068	0.664 ± 0.309	0.190 ± 0.202				0.837 ± 0.806	
幸田 Cab 遺物群	44	3.940 ± 0.2587	0.024 ± 0.007	0.051 ± 0.043	0.088 ± 0.148			0.022 ± 0.016	7.015 ± 5.299	
幸田 B 遺物群	46	3.915 ± 0.345	0.021 ± 0.003	0.033 ± 0.029	0.822 ± 0.219	0.822 ± 0.219		0.030 ± 0.006	9.810 ± 4.022	
幸田 AD 遺物群	48	0.722 ± 0.532	0.244 ± 0.006							
幸田 G 遺物群	45	4.660 ± 2.125	0.230 ± 0.038	3.773 ± 2.146	0.832 ± 0.372				0.331 ± 0.130	
幸田 3・30・45 遺物群	45	4.472 ± 0.210	0.063 ± 0.002	0.003 ± 0.007				0.017 ± 0.002	3.804 ± 6.698	
幸田 2 遺物群	49	7.508 ± 0.361	0.209 ± 0.002	0.820 ± 0.011			0.016 ± 0.002	0.004 ± 0.001	0.483 ± 0.072	
幸田 5 遺物群	49	8.785 ± 0.206	0.229 ± 0.002	0.844 ± 0.080	0.290 ± 0.035				2.206 ± 0.367	
幸田 12 遺物群	49	2.266 ± 0.213	0.231 ± 0.003	37.044 ± 2.108	5.054 ± 0.903				0.336 ± 0.022	
幸田 38 遺物群	49	8.899 ± 0.284	0.197 ± 0.003	1.383 ± 0.111	9.255 ± 3.603				25.175 ± 7.962	
幸田 40 遺物群	49	6.209 ± 0.201	0.213 ± 0.002	3.903 ± 0.120					0.381 ± 0.020	0.549 ± 0.027
幸田 47 遺物群	49	5.685 ± 0.163	0.222 ± 0.002	6.383 ± 0.328	0.774 ± 0.022				1.085 ± 0.129	0.467 ± 0.011
幸田 82 遺物群	45	6.467 ± 0.400	0.197 ± 0.004	0.107 ± 0.060	3.008 ± 0.333	1.271 ± 0.121			3.215 ± 0.506	
幸田 153 遺物群	45	0.967 ± 0.551	0.304 ± 0.003	13.681 ± 0.397	0.223 ± 0.063	0.130 ± 0.039			0.395 ± 0.070	
幸田 7-1 遺物群	45	7.659 ± 0.864	0.239 ± 0.030	2.813 ± 0.701	0.969 ± 0.215				1.176 ± 0.795	1.728 ± 1.194
幸田 7-2 遺物群	45	7.508 ± 0.361	0.209 ± 0.002	0.806 ± 0.338	0.820 ± 0.112				0.493 ± 0.072	0.665 ± 0.313
善谷上寺地 35609 遺物群	45	1.515 ± 0.329	0.262 ± 0.003	12.501 ± 0.566	2.514 ± 0.114	0.980 ± 0.188	0.183 ± 0.028	0.003 ± 0.001	0.279 ± 0.130	0.452 ± 0.037

表2-3 各産地における滑石、片岩原石群及び遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

韓国・連永小勾玉群	45	9.638 ± 0.344	0.228 ± 0.006	0.298 ± 0.152	0.625 ± 0.062	1.011 ± 0.128	0.945 ± 0.188			
韓国・連永A遺物群	56	8.271 ± 0.762	0.255 ± 0.020	0.592 ± 0.225	0.360 ± 0.161	0.154 ± 0.142		1.876 ± 1.837		
韓国・連永B遺物群	54	7.206 ± 0.657	0.276 ± 0.011	0.648 ± 0.331	0.508 ± 0.141	0.076 ± 0.025		0.331 ± 0.093		
韓国・連永C遺物群	43	8.018 ± 0.923	0.208 ± 0.021	0.771 ± 0.245	2.548 ± 1.540	0.734 ± 0.363		0.761 ± 0.298		
徳蔵谷(3)大珠群	48	0.343 ± 0.021	0.189 ± 0.004			0.044 ± 0.003		0.772 ± 0.057		
徳蔵谷(4)大珠群	46	0.369 ± 0.019	0.200 ± 0.001			0.115 ± 0.046		0.053 ± 0.010		
五反田松本大珠群	46	0.378 ± 0.022	0.204 ± 0.002			0.809 ± 0.135		0.269 ± 0.089		
大日山A遺物群	48	3.583 ± 0.186	0.024 ± 0.004	0.126 ± 0.045	0.211 ± 0.141	0.018 ± 0.010		0.019 ± 0.005		
大日山B遺物群	48	0.238 ± 0.159	0.135 ± 0.006	1.654 ± 0.533	8.128 ± 2.128	4.160 ± 0.436		0.811 ± 0.124		
大日山C遺物群	57	3.564 ± 0.110	0.028 ± 0.004	0.114 ± 0.040	0.206 ± 0.130	0.018 ± 0.012		0.036 ± 0.012		
大日山D遺物群	53	3.646 ± 0.249	0.026 ± 0.006	0.066 ± 0.062	0.412 ± 0.748			0.023 ± 0.012		
吉田A遺物群	54	7.771 ± 0.347	0.022 ± 0.047	0.153 ± 0.041				0.026 ± 0.014		
鴨滝子持勾玉群	46	3.610 ± 0.151	0.022 ± 0.044	0.178 ± 0.057	0.463 ± 0.496			0.016 ± 0.007		
西庄子持勾玉群	46	6.330 ± 0.489	0.191 ± 0.007		3.517 ± 0.690	0.854 ± 0.219		0.561 ± 0.060		
西庄紡錘重群	47	3.233 ± 0.281	0.225 ± 0.004	6.401 ± 0.777	5.057 ± 1.634	0.829 ± 0.293		0.367 ± 0.067		
玉名・原原A遺物群	54	6.083 ± 0.747	0.229 ± 0.010	0.171 ± 0.121	1.199 ± 0.513	0.360 ± 0.153		0.737 ± 0.218		
玉名・大原勾玉10群	42	3.712 ± 0.072	0.019 ± 0.001	0.083 ± 0.012	0.049 ± 0.030			0.037 ± 0.010		
玉名・大原勾玉21群	42	3.742 ± 0.079	0.022 ± 0.002	0.073 ± 0.021	0.041 ± 0.032			0.017 ± 0.007		
玉名・大原緑色小楕圓群	42	7.430 ± 0.420	0.037 ± 0.010	0.222 ± 0.046	0.076 ± 0.101			0.010 ± 0.013		
玉名・木船西勾玉群	42	7.283 ± 0.184	0.024 ± 0.003	0.175 ± 0.022	0.150 ± 0.225			0.010 ± 0.015		
玉名・原原756遺物群	46	9.024 ± 0.162	0.247 ± 0.004	0.013 ± 0.019	0.380 ± 0.045			0.003 ± 0.001		
三重・小谷勾玉726群	51	9.321 ± 1.338	0.182 ± 0.026		0.285 ± 0.108	0.099 ± 0.038		0.765 ± 0.146		
東大阪・泉原A石村群	54	7.008 ± 0.574	0.213 ± 0.031		3.899 ± 2.676	0.636 ± 0.345				
東大阪・鬼塚B石村群	56	7.277 ± 0.709	0.170 ± 0.048		1.086 ± 0.603			0.027 ± 0.018		
東大阪・泉原C白玉群	56	4.497 ± 0.797	0.197 ± 0.030	0.265 ± 0.262	4.813 ± 1.010	1.253 ± 0.268				
船内・天野A白玉群	52	3.021 ± 0.291	0.048 ± 0.009	0.582 ± 0.145	0.176 ± 0.102			0.014 ± 0.004		
JG-1	33	0.229 ± 0.036	0.092 ± 0.001	3.604 ± 0.016	2.312 ± 0.010	5.554 ± 0.092	0.826 ± 0.004	0.014 ± 0.001	1.126 ± 0.042	0.604 ± 0.017

表 2-4 各産地における滑石、片岩脈石群及び連物群の元素比の平均値と標準偏差値

原石 群名	分析 個数	$10^4\text{Ti}/\text{Fe}$ X $\pm\sigma$	$10^4\text{Mn}/\text{Fe}$ X $\pm\sigma$	$10^4\text{Ni}/\text{Fe}$ X $\pm\sigma$	$10^4\text{Y}/\text{Fe}$ X $\pm\sigma$	$10^4\text{Zr}/\text{Fe}$ X $\pm\sigma$	$10^4\text{Sr}/\text{Fe}$ X $\pm\sigma$	$10^4\text{Rb}/\text{Fe}$ X $\pm\sigma$	E/SR係数形	比 重
赤巻・古屋敷	48		0.058 ± 0.015	0.400 ± 0.069					複複6形	2.804
善父・濃垣寺境内	45		0.031 ± 0.003	0.354 ± 0.012					鉄・複6形	2.806
善父・聖長鉱山	42		0.032 ± 0.008	0.391 ± 0.029					複複6形	2.814
株山・石軍山	42		0.046 ± 0.008	0.327 ± 0.028					複複6形	2.815
株山・金神	42		0.065 ± 0.012	0.349 ± 0.054					複複6形	2.823
和歌山・船戸鉱山	54		0.050 ± 0.006	0.217 ± 0.030					複複6形	2.798
株山・三和	45		0.058 ± 0.007	0.176 ± 0.029					複複6形	2.831
紀の川・寺山古墳跡床	45		0.060 ± 0.008	0.291 ± 0.025					複複6形	2.767
和歌山・下三毛	49		0.045 ± 0.012	0.152 ± 0.025					鉄・複6形	2.816
中ノ宮	45		0.079 ± 0.018	0.574 ± 0.144					複複6形	2.835
埴玉・波久礼	45		0.055 ± 0.003	0.322 ± 0.029					複複6形	2.831
埴玉・神流川上流	49		0.058 ± 0.004			0.180 ± 0.072	0.058 ± 0.027		上加亜田形	2.937
赤城・白羽	46		0.045 ± 0.003			0.110 ± 0.017	1.696 ± 0.313		鉄・単6形?	2.988
善父・関宮	44		0.066 ± 0.010	0.699 ± 0.057					複複6形	2.782
沼島アミダバエ	48		0.055 ± 0.005	0.230 ± 0.017					複複6形	2.796
株山・亀和本流	48		0.062 ± 0.006	0.250 ± 0.017					複複6形	2.830
和歌山・上三毛	48		0.055 ± 0.006	0.139 ± 0.024					鉄イオン	2.777
紀の川・最初心跡	45		0.045 ± 0.008	0.224 ± 0.024					複複6形	2.775
善父・聖長鉱山(益富)	44		0.045 ± 0.006	0.370 ± 0.033					単6形	2.797
善父・濃垣寺露頭	48		0.033 ± 0.008	0.503 ± 0.049					鉄・複6形	2.791
和歌山・岩橋千塚C地点	44				0.035 ± 0.009	0.281 ± 0.063	0.255 ± 0.100		鉄・単6形?	2.900
和歌山・岩橋千塚AB地点	101				0.067 ± 0.012	0.389 ± 0.083	0.241 ± 0.083		鉄・単6形	2.993
和歌山・岡山丁	44				0.065 ± 0.009	0.406 ± 0.047	0.887 ± 0.133		複複6形	2.938
和歌山・榎賢崎-1	52				0.360 ± 0.073	2.997 ± 0.632	0.154 ± 0.059		単6形	2.655
和歌山・榎賢崎-2	52				0.190 ± 0.065	4.798 ± 1.148	0.234 ± 0.092		単6形	2.587
草壁・三谷-1	47		0.202 ± 0.036		0.641 ± 0.082	25.515 ± 2.679	3.770 ± 0.594		鉄イオン	2.681
草壁・三谷-2	52		0.062 ± 0.008		0.062 ± 0.007	1.050 ± 0.069	2.383 ± 0.319		鉄・単6形	2.971
紀の川・荒見	50		0.278 ± 0.042		0.156 ± 0.061	1.113 ± 0.276	0.483 ± 0.155		鉄・単6形?	2.707
株本・上田	48		0.052 ± 0.005		0.076 ± 0.011	1.052 ± 0.152	0.583 ± 0.136		複複6形	2.922
株本・宇文路	50		0.056 ± 0.004		0.062 ± 0.011	0.791 ± 0.167	0.669 ± 0.378		複複6形	2.948
橋本八幡神社	50				0.068 ± 0.010	0.368 ± 0.071	0.336 ± 0.135		鉄・単6形	3.000
株本・竜門山	50				0.068 ± 0.011	0.408 ± 0.059	0.214 ± 0.047		鉄・単6形	3.027
熊島・留山	54				0.069 ± 0.025	0.470 ± 0.272	0.184 ± 0.063		単6形	3.169

表 2-5. 各産地における滑石、片岩原石群及び遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

眉山落合谷(相理直行)	46				0.077 ± 0.020	0.558 ± 0.182	0.211 ± 0.091		鉄・重6形	3.153 ± 0.038
眉山落合谷(相理平行)	46				0.040 ± 0.024	0.253 ± 0.171	0.131 ± 0.072		鉄・重6形	3.153 ± 0.038
眉山船崎川	54				0.061 ± 0.014	0.419 ± 0.070	0.506 ± 0.267		鉄・重6形	3.009 ± 0.031
眉山大谷	50				0.061 ± 0.013	0.375 ± 0.092	0.257 ± 0.107		鉄・重6形	2.986 ± 0.065
眉山鉢谷	44				0.053 ± 0.007	0.297 ± 0.064	0.244 ± 0.068		鉄・重6形	2.966 ± 0.065
眉山鉢谷	48				0.066 ± 0.018	0.369 ± 0.104	0.183 ± 0.065		鉄・重6形	3.043 ± 0.042
徳島・高越山・川田川	48				0.079 ± 0.034	0.510 ± 0.268	0.190 ± 0.060		鉄・重6形	3.161 ± 0.048
沼島西北岸	45				0.059 ± 0.016	0.376 ± 0.097	0.161 ± 0.068		鉄・重6形	3.003 ± 0.031
秋月片岩A遺物群	48	0.068 ± 0.005	0.054 ± 0.011							2.723
平塚・冨越12遺物群	44	0.061 ± 0.003			0.077 ± 0.014	0.831 ± 0.094			重6形	2.742
大塚H-1遺物群	43					1.521 ± 0.065	1.453 ± 0.111		附重6形	2.601
田田西河内6.7遺物群	45	0.038 ± 0.006	0.358 ± 0.108						複重6形	2.778
基坂大塚A遺物群	50	0.092 ± 0.021	0.416 ± 0.166						重6形	2.6 ~ 2.8
基坂大塚B遺物群	48	0.095 ± 0.013	0.085 ± 0.050						重6形	2.6 ~ 2.8
基坂大塚C遺物群	48	0.068 ± 0.032			0.027 ± 0.028	0.307 ± 0.203			重6形	2.6 ~ 2.8
寺田Cab遺物群	44	0.032 ± 0.012	0.259 ± 0.128						複重6	2.796 ± 0.089
寺田B遺物群	46	0.033 ± 0.010	0.428 ± 0.077						鉄・複重6	2.806 ± 0.023
寺田AD遺物群	45				0.182 ± 0.059	2.186 ± 0.991	1.257 ± 1.044		重6	2.872 ± 0.031
寺田G遺物群	46									
寺田3・30・45遺物群	45	0.044 ± 0.005	0.108 ± 0.028		0.056 ± 0.020	0.575 ± 0.236	0.91 ± 0.024		Qなし	2.698 ± 0.074
寺田2遺物群	45	0.070 ± 0.007	0.046 ± 0.002						重6	2.792
寺田5遺物群	49				0.037 ± 0.008	0.705 ± 0.095	0.013 ± 0.007		重6	3.161
寺田12遺物群	49				0.076 ± 0.006	0.422 ± 0.008	0.249 ± 0.014		鉄・重6	3.161
寺田38遺物群	49		0.137 ± 0.018			0.386 ± 0.029	0.036 ± 0.009		重6	2.669
寺田40遺物群	49	0.132 ± 0.005				0.665 ± 0.040			不明	2.895
寺田40遺物群	49	0.165 ± 0.002				0.106 ± 0.020			附れ重6	2.973
寺田82遺物群	45	0.267 ± 0.019				0.667 ± 0.072			重6?	2.844
寺田153遺物群	45	0.136 ± 0.012				0.929 ± 0.059			重6?	3.068
寺田7-1遺物群	45	0.130 ± 0.099				0.260 ± 0.298			遺物過大	3.073
寺田7-2遺物群	45	0.155 ± 0.098				1.331 ± 0.039			鉄・重6	2.967
東谷寺地35609遺物群	45	0.267 ± 0.019	0.111 ± 0.012	0.011 ± 0.012	0.248 ± 0.048	2.432 ± 0.215	2.708 ± 0.724	3.710 ± 0.245	重6	2.874
韓国・進永小勾玉群	45	0.084 ± 0.008	0.026 ± 0.016							
韓国・進永A遺物群	56	0.112 ± 0.056	0.144 ± 0.033			1.038 ± 0.573				
韓国・進永B遺物群	54	0.139 ± 0.025	0.044 ± 0.008			0.263 ± 0.047				
韓国・進永C遺物群	43	0.110 ± 0.035	0.075 ± 0.015			0.221 ± 0.053				

表 2-6 各産地における滑石、片岩原石群及び遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

徳重谷 (3) 大塊群	48	8.850 ± 0.771	3.687 ± 0.323	32.067 ± 3.673	1.399 ± 0.310			2.767
徳重谷 (4) 大塊群	46	0.465 ± 0.315		1.154 ± 1.702	0.232 ± 0.143			2.785
五反田松本大塊群	46	1.797 ± 0.515		0.162 ± 0.315	0.384 ± 0.496			2.808
木田山A遺物群	48		0.036 ± 0.030	0.272 ± 0.106		4.078 ± 0.975	複様6形 鉄イオン	2.743 ± 0.027 1.728 ± 0.060
木田山B遺物群	48							2.727 ± 0.028
大日山C遺物群	57	0.034 ± 0.012	0.039 ± 0.008	0.227 ± 0.063				2.744 ± 0.042
大日山D遺物群	53		0.030 ± 0.015	0.440 ± 0.076				2.607 ± 0.023
草田A遺物群	54	0.090 ± 0.025	0.381 ± 0.156					2.77
鳴滝子持勾玉群	46	0.034 ± 0.010	0.219 ± 0.052					
西庄子持勾玉群	46	0.165 ± 0.014	0.089 ± 0.012					
西庄子持連群	47		0.074 ± 0.004					2.676
五名・源原A遺物群	54	0.075 ± 0.012			0.032 ± 0.006			2.782
五名・大原勾玉10群	42	0.058 ± 0.006	0.540 ± 0.024		0.807 ± 0.183			2.785 ± 2.559
五名・大原勾玉21群	42	0.037 ± 0.007	0.332 ± 0.030					2.825
五名・大原緑色小塊群	42	0.173 ± 0.008	0.277 ± 0.014		0.541 ± 0.359			2.81
五名・木船西勾玉群	42	0.108 ± 0.004	0.335 ± 0.025					2.633
五名・源原756遺物群	46	0.108 ± 0.003	0.009 ± 0.006					2.596
三重・小谷勾玉726群	51	0.136 ± 0.020	0.099 ± 0.015					2.707
東大阪・鬼塚A石材群	54	0.164 ± 0.075			1.067 ± 0.287			2.682
東大阪・鬼塚B石材群	56		0.081 ± 0.026	0.176 ± 0.068	0.057 ± 0.032			2.907 ~ 2.642
東大阪・鬼塚C白玉群	56		0.070 ± 0.030		0.807 ± 0.446			2.849 ~ 2.749
胎内・天野A白玉群	52	0.026 ± 0.008	0.324 ± 0.049		0.200 ± 0.076			2.970 ~ 2.686
JG-1	33	0.211 ± 0.003	0.123 ± 0.004	0.003 ± 0.004	0.469 ± 0.019	2.759 ± 0.036	3.205 ± 0.039	2.725, 2.673

X・y: 平均値, σ : 標準偏差値, 10³Mn/Fe: Mn/Fe 比値を10倍 (初上げ処理)

山岡 邦彦氏 (岸和田市教育委員会) 提供: 原石: 古屋敷, 清福寺境内, 聖長狐山, 石巻山, 金神, 船戸狐山, 三和, 寺山古墳跡, 十三毛, 中ノ原, 深久礼, 神流上流, 白羽, 関宮, 沼島アミダハエ, 亀和木流, 上三毛, 最初ノ輪, 聖長狐山 (益富), 清福寺境内
中野 知之之氏 (紀伊風土記の丘) 提供: 若鴨平塚A・B・C地点, 岡山丁, 榎貫崎-1, -2, -3, 三谷-1・2, 荒島, 上田, 学文西, 鞆瀬八幡神社, 龍門山
中村 豊 (徳島大学) 提供: 眉山
秋月片岩A遺物群: 秋月遺跡 (和歌山市), 原瀬 12 遺物群: 平瀬市原瀬古墳のそれぞれの玉群で作った群。

JG-1: 標準試料-Ando, A. Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E., 1974. compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol. 8, 175-192 (1974)

表 3 木船西遺跡出土滑石製勾玉の原材料産地分析結果

出土区	地点	遺物番号	順番	分析番号	ホテリングのT ² 検定 (標準)	ESR形	比重	総合判定
1区	S46		7	125107	木船西勾玉群 (65%), 屋敷大塚A遺物群 (68), 吉田A遺物群 (28%)	遺物過大	2.586	木船西勾玉群, 屋敷大塚遺物群, 吉田遺物群

2 管玉の産地分析

はじめに

今回、分析を行った玉類は勾玉、管玉などで玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、メノウなどが推測される。一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。これら玉材については岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成などを求めるぐらいであり、非破壊では命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。また原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となるのである。遺跡から出土する大珠、勾玉、管玉の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなく、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）や碧玉の原産地うち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説であったが、発見後は、もっぱら国内説であり、岩石学的方法¹⁾および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析をおこなう方法として蛍光X線分析を用いた元素比法^{2, 3)}が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析を系統的におこなった研究としては、蛍光X線分析法と電子スピニング共鳴法を併用することで産地分析をより精度の高いものとした例⁴⁾が報告されている。石嶽などの石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1) 石器の原産地推定で明らかになる遺跡から石材原産地までの移動距離、活動範囲は、石器が生活必需品であるので、生活上必要な生活圏と考えられる。(2) 玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではなく、勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリとして精神的な面に重要な作用を与えられられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれないし、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏ではないかと考えられる。このように玉類の産地分析では、石器の原産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。今回分析を行った遺物は、熊本県玉名市に所在する水船西遺跡出土の管玉1個であり、石材産地同定結果が得られたので報告する。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その区別するための指標は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指標でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指標と原産地の指標を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多く、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ

発展しない。よって石器の原産地分析で成功している⁴⁾非破壊で分析を行なう蛍光X線分析法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をり、この元素比の値を原産地を区別する指標とした。碧玉製玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて産地分析に利用した5)。

碧玉原石の蛍光X線分析

碧玉の蛍光X線スペクトルの例として島根県、花仙山産原石を図1に示す。猿八産、玉谷産の原石から検出される蛍光X線ピークも異同はあるものの図1で示されるピークは観測される。土岐、興部の産地の碧玉は鉄の含有量が他の産地のものに比べて大きいのが特徴である。産地分析に用いる元素比組成は、Al/Si、K/Si、Ca/K、Ti/K、K/Fe、Rb/Fe、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zrである。Mn/Fe、Ti/Fe、Nb/Zrの元素比は非常に小さく、小さい試料の場合測定誤差が大きくなるので定量的な判定の指標とはせず、判定のときに、Ba、La、Ceのピーク値とともに定性的に原産地を判定する指標として用いている。

碧玉の原産地と原石の分析結果

分析した碧玉の原石の原産地を図2に示す。佐渡猿八原産地は、①新潟県佐渡郡畑野町猿八地区で、産出する原石は地元で青玉と呼ばれている緑色系の石で、良質なものは割れ面がガラス光沢を示し、質の良くないものは光沢の少ないグリーンタフ的なものである。産出量は豊富であつたらしく採石跡が何ヶ所も見られる。今回分析した原石は猿八の各地点、小倉川河床から表採したもの、および地元で提供された原石などであり、また提供されたものの中には露頭から得られたものがあり、それはグリーンタフ層の間に約7cm幅の良質の碧玉層が挟まれた原石であった。分析した原石の比重は、2.6～2.1の間で大半は2.6～2.48で、この中には、茶色系碧玉も含まれ、原石の比重が2.6～2.3の範囲で違っても、碧玉の色が茶色、緑色、また、茶色系と緑色系の縞があるなど、多少色の違いがあっても分析した元素組成上には大きな差はみられなかった。出雲の花仙山は近世まで採掘が行われた原産地で、所在地は②島根県八束郡玉湯町玉造温泉地域である。横屋堀地区から産出する原石は、濃緑色から緑色の緻密で剥離面が光沢をもつ良質の碧玉から淡緑色から淡白色などいろいろで、他に硬度が低そうなグリーンタフの様な原石も見られる。良質な原石の比重は2.5以上あり、質が悪くなるにしたがって比重は連続的に2.2まで低くなる。分析した原石は、比重が2.619～2.600の間のものは10個、2.599～2.500は18個、2.499～2.400は7個、2.399～2.300は11個、2.299～2.200は11個、2.199～2.104は3個の合計60個である。比重から考えると碧玉からグリーンタフまでの領域のものが分析されているのがわかる。これら花仙山周辺の面白谷、瑪瑯公園、くらさき地区などから原石を採取し元素組成の似た原石で、くらさき群、面白谷瑪瑯群、花仙山凝灰岩群などを作った。玉谷原産地は、③兵庫県豊岡市辻、八代谷、日高町玉谷地域で産出す

る碧玉の色、石質などは肉眼では花仙山産の原石と全く区別がつかない。また、原石の中には緑系色に茶系色が混じるものもみられ、これは佐渡猿八産原石の同質のものに非常によく似ている。比重も2.6以上あり、質は花仙山産、佐渡猿八産原石より緻密で優れた感じのものもみられる。この様な良質の碧玉の採取は、産出量も少ないことから長時間をかけて注意深く行う必要がある。分析した玉谷産原石は、比重が2.644～2.600が多く、2.599～2.589の碧玉も少数採取できた。玉谷産原石は色の違いによる元素組成の差はみられなかった。また、玉谷原石と一致する元素組成の原石は日高町八代谷、石井、アンラクなどで採取できる。二俣原産地は、④石川県金沢市二俣町地域で、原石は二俣川の河原で採取できる。二俣川の源流は医王山であることから露頭は医王山に存在する可能性がある。ここの河原で見られる碧玉原石は、大部分がグリーントフ中に層状、レンズ状に非常に緻密な部分として見られる。分析した4個の原石の中で、3個は同一塊から3分割したもので、1個は別の塊からのもので、前者の3個の比重は2.42で後者は2.34である。また元素組成は他の産地のものと異なっており区別できる。しかし、この4個が二俣原産地から産出する碧玉原石の特徴を代表しているかどうか検証するために、さらに分析個数を増やす必要がある。細入村の産地は、⑤富山県婦負郡細入村割山定座岩地区にあり、そのグリーントフの岩脈に囲繞として緻密な濃緑の碧玉質の部分が見られる。それは肉眼では他の産地の碧玉と区別できず、また、出土する碧玉製の玉類とも非常に似た石質である。しかし、比重を分析した8個は2.25～2.12と非常に軽く、この比重の値で他の原産地と区別できる場合が多い。土岐原産地は、⑥愛知県土岐市地域であり、そこでは赤色、黄色、緑色などが混じり合った原石が産出している。このうち緻密な光沢のよい濃緑色で比重が2.62～2.60の原石を碧玉として11個分析を行った。ここの原石は鉄の含有量が非常に大きく、カリウム含有量が小さいという特徴を持ち、この元素比の値で他の原産地と区別できる。興部産地は、⑦北海道紋別郡西興部村にあり、その碧玉原石は鉄の含有量が非常に高く、他の原産地と区別する指標になっている。また、比重2.6以下のものはなく遺物の産地を特定する指標として重要である。石戸の産地は、⑧兵庫県永上郡山南町地区にあり、その安山岩に脈岩として採取されるが産出量は非常に少なく淡い緑色で、比重も2.6以上で一部の碧玉の組成は玉谷産碧玉に似る。また大部分の原石は元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑨北海道富良野市の空知川流域から採取される碧玉は濃い緑色で比重2.6以上が4個、2.6～2.5が5個、2.5～2.4が5個である。その碧玉の露頭は不明で河原の礫から採取するため、短時間で良質のもの碧玉を多数収集することは困難である。また元素組成から他の産地の碧玉と区別できる。⑩北海道上磯郡上磯町の茂辺地川の川原で採取される碧玉は不均一な色の物が多く、管玉に使用できる色の均一な部分を大きく取り出せる原石は少ない。⑪石川県小松市菩提、那谷に緑色凝灰岩の露頭があり、その中に緻密な碧玉が包含されている。産出量は少ないが良質の碧玉が菩提川、宇田川から採取される。この河床から採取された碧玉の中に、女代南B遺物群に一致する元素組成の碧玉が含まれる。⑫大分県九重町・九重町歴史民族資料館付近から緻密で比重が2.1～2.2の淡緑色～緑色系、茶褐色系などの凝灰岩が採取され、玉材の可能性も推測される。⑬厚木市、玉川・大山産地からは比重が軽く2.2～で吸水もはげしく、緑色凝灰岩に分類する玉材で玉川グリーントフと呼び、和歌山県の大日山35号墳の平玉に使用されている。これら原石を原産地ごとに統計処理を行い、元素比の平均値と標準偏差値

をもとめて母集団を作り合計51個を表1-1に示す。各母集団に原産地名を付けてその産地の原石群として、例えば原産地名が花仙山の場合、花仙山群と呼ぶことにする。花仙山群は比重によって2個の群に分けて表に示したが比重は異なっても元素組成に大きな違いはみられない。したがって、統計処理は一緒にして行い、花仙山群として取り扱った。原石群とは異なるが、例えば、豊岡市女代南遺跡で主体的に使用されている原石産地不明の碧玉製玉類の原材料で、玉作り行程途中の遺物が多数出土している。当初、原石産地を探索すると言う目的で、これら玉、玉材遺物で作った女代南B(女代B)群であるが、同質の材料で作られた可能性がある玉類は最近の分析結果で日本全土に分布していることが明らかになってきた。宇木汲田遺跡で採取された産地不明の管玉の中で相互に似た元素組成のものを集めて未定C(未定(C))群を作った。また、岐阜県可児市の長塚古墳出土の管玉で作った長塚(1)、(2)遺物群、多摩ニュータウン遺跡、梅田古墳群、上ノ段遺跡、梅田東古墳群、新方遺跡、青谷A、B遺物群その他の遺跡などから出土した玉類および玉材剥片でそれぞれ遺物群を作り他の遺跡、墳墓から出土する玉類に組成が一致するか定量的に判定できるようにし、現在原石・遺物群は合計438個になり、これら遺物群を表1-2、-3、-4、-5、-6、-7に示した。この他、鳥取県の福部村多釜池、鳥取市防己尾岬などの自然露頭からの原石を4個分析した。比重は2.6以上あり元素比組成は、興部、玉谷、土岐石に似るが、他の原産地の原石とは組成で区別される。また、緑系の原石ではない。兵庫県香住町の海岸から採取された親指大1個の碧玉様の玉材は貝殻状洞離がみられる緻密な石質で少し青っぽい緑の石材で玉の原材料になると思われる。この玉材の蛍光X線分析の結果では、興部産碧玉に似ているが、ESR信号および比重(2.35)が異なっているため、興部産碧玉と区別ができる。

木船西出土管玉と国内産碧玉原材料との比較

遺跡から出土した玉類、玉材は表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能で、遺物玉類、玉材は表面に薄く風化層が形成され、また埋没環境からの表面汚染が見られる場合がある。分析は、できるだけ表面汚染の少ないところおよび風化層が欠落した部分を選んで分析を行う。しかし、汚染層、風化層を通して遺物の内部の新鮮面をいかに多く測定するかが重要であり蛍光X線分析法の中の電子線励起方式のEPMA分析は表面から深さ約1ミクロン、分析面積1~100ミクロンしか分析を行っていないために遺物の分析結果は風化層のみになる可能性があり、得られた結果は原石で求めた新鮮面のマトリックスと全く異なった可能性の風化層のみの分析結果になるため、遺物は破壊して新鮮面を出して分析する必要がある。従って、非破壊分析での遺物のEPMA測定された産地分析結果は全く信用できない。一方、本研究で使用している蛍光X分析法ではX線励起方式で遺物の表面から最低でも数ミリ深さまで励起可能で、風化層以外の新鮮な部分はかなり測定され、風化層の影響が殆ど無視できる場合が多い。遺跡から出土した玉類・玉材は表面の泥を超音波洗浄器で水洗いするだけの完全な非破壊分析で行っている。遺物の原材料の同定をするために、(1)蛍光X線分析法で求めた原石群と碧玉製遺物の分析結果を数理統計の手法を用いて比較をする定量的な判定法で行なう。(2)また、ESR分析法により各産地の原石の信号と遺物のそれを比較して、似た信号の原石の産地の原材料であると推測する方法も応用した。比重は遺物の岩石の種類を推測する

ときに利用するために、アルキメデス法によって遺物のかさ比重を求めた。

蛍光X線分析法による産地分析

管玉の比重をアルキメデス法により求め、またセイコーインスツルメンツ社のSEA 2110 Lシリーズ卓上型蛍光X線分析計によって元素組成比を求めて結果を表2に示し、蛍光X線スペクトルを図3-1～3-3に示す。分析した管玉は比重が約2.5以上で良質の碧玉と思われる。遺物の石材産地を特定するために、分類された原石・遺物群の432個の各元素比と分析した管玉、勾玉の元素比結果と比較する。

このとき、原石遺物群の元素比には分散の10個と共分散（元素間相関を考慮した散布図の個数で見ると45個の元素比散布図になる）が求められている。表1には各原石・遺物群の平均値と標準偏差（分散）のみを示している。この原石、遺物群と遺物の分析値を比較することになるが、元素比間の散布図は1原石群あたり分散は10個で共分散は55個になり、この図が438個ある。1個の管玉、勾玉の判定に $438 \times (45 + 10) = 24090$ 個の散布図を描いての判定になる。散布図を描いて、その散布図に分析した遺物の元素比結果をプロットして、遺物の元素比値が定性的に散布図の中心にあるとか境界線上にあるなど、百聞は一見にしかずで、一見説得力はあるが、判定は定性的な分類で遺物の定量的な同定でないため、判定は個人的主観の判定になる。また、一つの産地の元素比の散布図45個と一つの遺物の元素比の分析値の比較のみでも、非常に困難な判定であるのに、438産地の24090個の散布図の中から一つの産地を特定することは不可能である。従って、遺物1個について、24090個の散布図から客観的に判定を行うために数理統計のマハラノビスの距離を求め、それらの結果を用いてホテリングT2乗検定⁶⁾を元素を8元素として近似計算により同定を行っているため、確率は小さめに算出されている。また定量的判定を信頼限界を5%以上に設定し、定性的判定の限界を0.1%まで考慮し遺物の産地同定の検定結果を表3に示した。今回分析した木船西遺跡出土の分析番号125108番の管玉には、小松市の菩提産地の碧玉が使用されていると同定され、この管玉は同時に女代南B遺物群にも高確率で同定され、女代南B遺物群が菩提産地と関係があること、すなわち女代南B遺物群の組成と一致する碧玉が菩提産地に存在することをしめした。より産地を正確に特定するために、蛍光X線分析法で同定された遺物の結果がESR分析の結果と一致するかESR分析を行った。

ESR法による産地分析

ESR分析は碧玉原石に含有されているイオンとか、碧玉が自然界からの放射線を受けてきた色中心などの常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ESRの測定は完全な非破壊分析であり、直径が11mm以下の管玉なら分析は可能で、小さい物は胡麻粒大のものでも分析ができる場合がある。図4-(1)のESRのスペクトルは、幅広く磁場掃引したときに得られた信号スペクトルで、g値が4.3の小さな信号(I)は鉄イオンによる信号で、g値が2付近の幅の広い信号(II)と何本かの幅の狭いピーク群からなる信号(III)で構成されている。図4-(1)では、信号(II)より信号(III)の信号の高さが高く、図4-(2)、-(3)の二俣、細

入原石ではこの高さが逆になっているため、原石産地の判定の指標に利用できる。各原産地の原石の信号(Ⅲ)の信号の形は産地ごとに違いがあり産地分析の指標となる。図5-(1)には花仙山、猿八、玉谷、土岐を示し、図5-(2)には興部、石戸、八代谷ひ4、女代B遺物群、八代谷を示し、そして図5-(3)には富良野市空知川の空知(A)、(B)、北海道今金町石および茂辺地川の各原石の代表的な信号(Ⅲ)のスペクトルを示した。また、図5-(4)には宇木汲田遺跡の管玉で作った未定C形と未定D形およびグリーンタテ製管玉によく見られる不明E形、葉畑形、紫金山形を示した。ESR分析では碧玉のESR信号の形が、あらかじめESR分析している原石、および産地不明遺物群のESR信号形と一致した場合、その産地の可能性が大きいことを示唆している。今回分析した木船西遺跡の管玉を日本電子株式会社製FA-100型電子スピン装置(ESR)により分析したESR信号を図6に示す。ESR分析ができたESR信号(Ⅲ)は木船西遺跡の分析番号125108番で、比較信号の図5の中に一致する信号はみられないが、分析番号125108番の信号は、菩提形が崩れた信号と推測した。より正確な原石産地を推測するために蛍光X線分析の結果と組み合わせ総合判定として、両方法とともに同じ原産地に特定された場合は、蛍光X線の元素分析のみで判定した原石・遺物群産地よりも正確に、その原石・遺物群と同じものが使用されているとして総合判定原石産地の欄に結果(表3)を記した。

結 論

今回、分析した木船西遺跡の管玉は蛍光X線分析法で菩提産碧玉を使用した管玉と推測された。参考に古墳時代に使用された玉類、玉材の分布を図2に示した。花仙山産原石は弥生時代後期から使用され古墳時代になって本格的に使用された原石である。玉川産原石の使用は古墳時代のみで、佐渡島猿八産原石製玉類と同時に花仙山産管玉が出土した古墳は香川県の野牛古墳である。また、女代南B遺物群と花仙山産原石が同時に出土した遺跡は、徳島県板野町、蓮華谷古墳群Ⅱの3世紀末の2号墳と島根県安来市門生黒谷Ⅲ遺跡の4世紀末～5世紀初頭の管玉である。弥生時代後期から女代南B遺物群の管玉から花仙山産管玉に移行する過渡期的な時期と思われる、また、古墳時代の初めに会津坂下N遺物群、長塚1遺物群が使用されるなどの玉材の使用とか、移行は当時の社会情勢の変革を推測しても産地分析の結果と矛盾しない。それから島根県東出雲町勝負遺跡の5世紀前半、安来市柳遺跡、奈良県橿原市曾我遺跡の5世紀、岡山県川上村下郷原和田遺跡の玉材の剥片には花仙山産原石が使用されていた。時期が進むに従って碧玉製管玉、勾玉は花仙山産原石製玉類の使用が広がり、余市町大川遺跡の7世紀、東京都板橋区赤羽台遺跡の6世紀、神奈川県海老名市本郷遺跡の8世紀、愛知県豊川市上野第3号墳の7世紀、大阪府高槻市塚原B42号墳6世紀末の管玉に使用されている。京都府園部町垣内古墳の4世紀の鬚頭式石製織の石材として、また兵庫県神戸市では4世紀初頭の天王山4号墳出土管玉、4世紀末の大蔵山3号墳の勾玉、管玉4世紀の堅田1号墳の勾玉、6世紀初頭の鬼神山古墳、西神33-A、6世紀前半の北神ニュータウン、6世紀中葉の西石ヶ谷遺跡、6世紀末の柿谷2号墳出土の管玉にそれぞれ花仙山産原石が使用されていた。兵庫県西紀町の箱塚4、5号墳、高川2号墳の6世紀後半の管玉に使用され、岡山市浦崎天神遺跡の6世紀後半、斎富5、2号墳、徳島県板野町蓮華谷4、5号墳の6世紀末、佐賀県東彼振町吉野ヶ里遺跡

の管玉に花仙山産原石がそれぞれ使用されていた。花仙山産原石の使用の南限は、宮崎県新富町祇園原115号墳出土の6世紀の管玉になっている。これら玉類に使用されている産地の原石が多い方が、その産地地方との文化交流が強いと推測できることから、日本各地の遺跡から出土する貴重な管玉を数多く分析することが重要で、今回行った産地分析は完全な非破壊である。碧玉産地に関する小さな情報であっても御提供頂ければ研究はさらに前進すると思われる。

参考文献

- 1) 茅原一也(1964)、長者が原遺跡産のヒスイ(翡翠)について(概報)。長者ヶ原、新潟県糸魚川市教育委員会、63-73
- 2) 薬科哲男・東村武信(1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 61-18
- 3) 薬科哲男・東村武信(1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要「考古学論攷」,14:95-109
- 4) 薬科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学,16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina(1992)、Allocation of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological Science 19:357-373
- 6) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学,9:77-90



図1 古墳(統縄文)時代の碧玉製管玉の原料使用分布図および碧玉・碧玉様岩の原産地

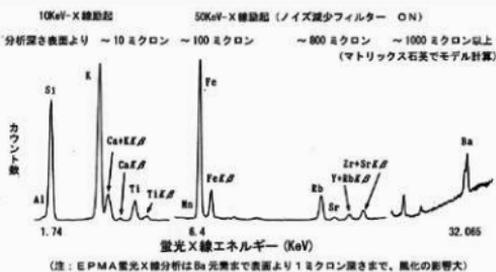


図2 花仙山産碧玉原石のX線励起蛍光X線分析スペクトル

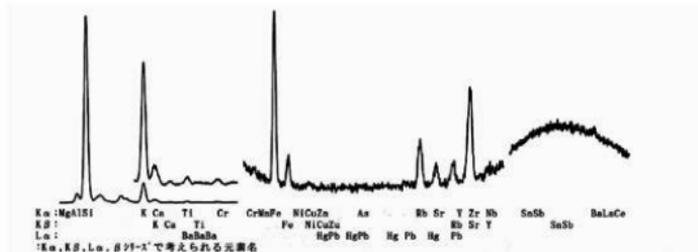


図3 木船西遺跡出土管玉(125108)の蛍光X線分析スペクトル

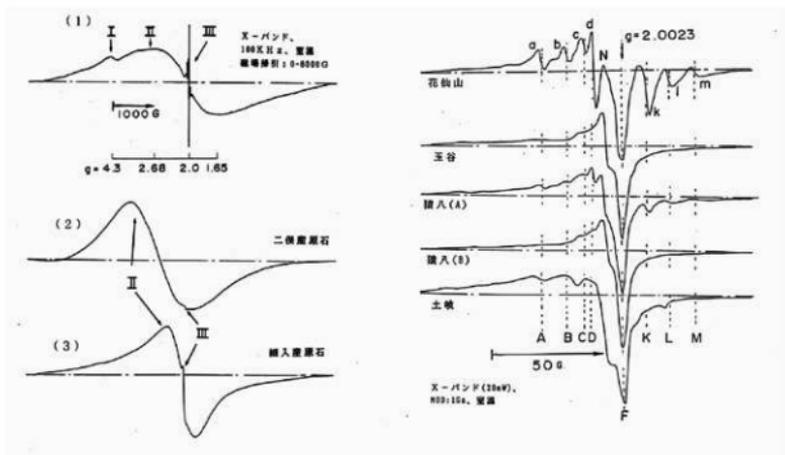


図4 碧玉原石のESRスペクトル(花仙山玉谷隴八土岐) 図5-1 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル

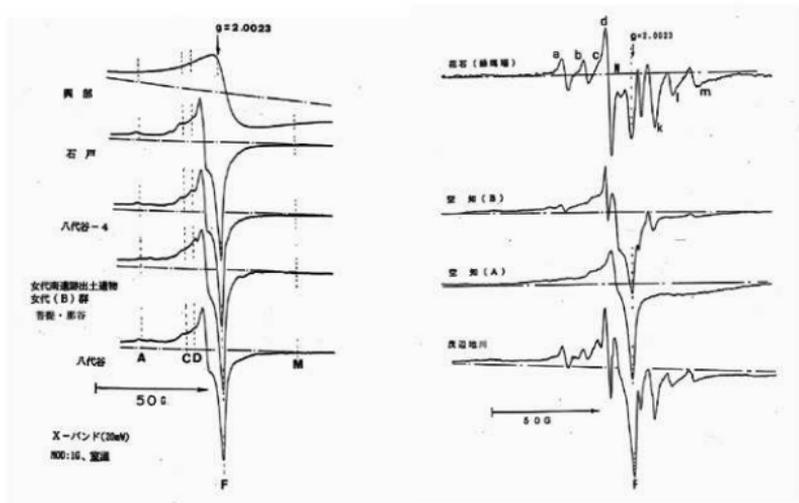


図5-2 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル

図5-3 碧玉原石の信号(Ⅲ)のESRスペクトル

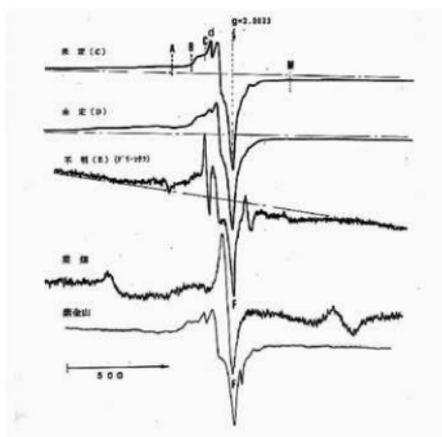


図 5-4 碧玉原石の信号 (III) の ESR スペクトル



図 6 木船西遺跡出土管玉の ESR 信号 (III) のスペクトル

表1-2 各産石産地不明碧玉類、玉材の遺物群の元素比の平均値と標準偏差

遺物群名	Al/Σ		K/Σ		Ca/Σ		Ti/K		Rb/Fs		Fe/Zr		Rv/Zr		Sr/Zr		Y/Zr		Mn/Fs		Tb/Fs		Na/Zr		比量 Xr/g ₂₀
	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	Mean ₂₀	Std ₂₀	
産地不明B	65.0	0.45	0.016	3.113	0.445	1.07	0.036	0.267	0.065	0.234	0.076	0.356	0.065	0.214	0.097	0.171	0.047	0.011	0.004	0.005	0.009	0.034	0.016	2.554	0.019
産地不明C	33.0	0.03	0.017	0.424	0.015	0.006	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
産地不明D	33.0	0.03	0.017	0.424	0.015	0.006	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
産地不明E	45.0	0.35	0.041	4.068	0.112	0.004	0.232	0.025	0.344	0.118	0.549	0.120	0.160	0.340	0.050	0.019	0.008	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
産地不明F	58.0	0.02	0.007	3.327	0.450	0.653	0.213	0.777	0.031	0.181	0.018	0.402	0.152	0.214	0.026	0.140	0.024	0.008	0.003	0.007	0.008	0.007	0.007	0.007	2.437
天竺山4群1主体-No.1	38.0	0.18	0.004	1.341	0.021	0.779	0.123	2.777	0.033	0.257	0.011	0.289	0.036	0.814	0.022	0.316	0.021	0.006	0.001	0.009	0.003	0.005	0.001	0.018	0.010
天竺山4群1主体-No.2	40.0	0.27	0.000	2.602	0.025	0.231	0.003	2.234	0.006	0.184	0.001	0.324	0.006	0.135	0.009	0.069	0.007	0.013	0.007	0.009	0.001	0.018	0.011	2.549	
天竺山4群2主体-No.5	42.0	0.34	0.000	3.672	0.129	0.002	2.922	0.009	0.777	0.030	0.035	0.040	0.297	0.009	0.074	0.004	0.004	0.025	0.015	0.176	0.005	0.029	0.004	2.666	
天竺山4群2主体-No.7	42.0	0.29	0.000	2.659	0.200	0.003	0.003	0.773	0.007	0.351	0.010	0.035	0.010	0.351	0.015	0.023	0.019	0.036	0.005	0.176	0.005	0.029	0.007	2.565	
天竺山4群2主体-No.9	45.0	0.28	0.007	2.659	0.122	0.010	0.004	0.944	0.003	0.719	0.015	0.622	0.004	0.412	0.008	0.341	0.023	0.064	0.001	0.437	0.004	0.029	0.013	2.669	0.003
天竺山4群2主体-No.11	32.0	0.44	0.002	3.588	0.074	0.639	0.016	0.051	0.022	0.445	0.011	0.580	0.109	0.230	0.023	0.662	0.048	0.160	0.018	0.007	0.001	0.034	0.001	2.278	0.8
天竺山4群2主体-No.12	29.0	0.37	0.004	0.990	0.021	2.984	0.067	0.605	0.029	0.644	0.032	0.772	0.011	0.422	0.075	0.102	0.015	0.108	0.017	0.008	0.001	0.038	0.002	0.007	0.010
天竺山4群2主体-No.13	42.0	0.35	0.003	3.005	0.020	1.114	0.085	0.059	0.033	0.022	0.003	0.088	0.015	0.465	0.177	0.343	0.031	0.410	0.003	0.098	0.003	0.007	0.005	2.270	
天竺山4群2主体-No.14	32.0	0.47	0.007	0.852	0.025	3.771	0.079	2.28	0.035	0.018	0.022	1.110	0.129	0.130	0.020	0.566	0.190	0.117	0.025	0.005	0.001	0.008	0.002	0.008	2.546
天竺山4群2主体-No.15	32.0	0.40	0.006	4.185	0.162	0.031	0.006	1.03	0.033	0.827	0.019	0.646	0.037	0.447	0.020	0.396	0.026	0.011	0.002	0.082	0.003	0.038	0.006	2.542	
天竺山4群2主体-No.16	30.0	0.49	0.003	0.922	0.036	4.01	0.161	1.027	0.112	0.043	0.002	0.193	0.060	0.297	0.134	0.119	0.036	0.008	0.002	0.043	0.004	0.005	0.005	2.201	0.8
天竺山4群2主体-No.17	34.0	0.40	0.003	1.954	0.039	3.535	0.074	0.823	0.023	0.168	0.012	1.262	0.088	0.273	0.094	0.273	0.094	0.139	0.019	0.006	0.001	0.047	0.001	2.201	0.8
天竺山4群2主体-No.18	32.0	0.45	0.003	1.274	0.069	3.133	0.146	0.699	0.046	0.048	0.003	0.175	0.022	0.329	0.047	0.764	0.050	0.168	0.033	0.007	0.001	0.004	0.006	2.198	0.8
天竺山4群2主体-No.19	30.0	0.51	0.004	1.062	0.028	4.221	0.039	0.677	0.015	0.041	0.001	0.445	0.011	0.580	0.109	0.230	0.023	0.662	0.048	0.007	0.001	0.034	0.001	0.010	0.012
天竺山4群2主体-No.20	32.0	0.34	0.003	0.749	0.043	3.138	0.498	1.446	0.131	0.019	0.001	0.014	0.002	0.591	0.077	0.084	0.015	0.364	0.299	0.362	0.025	0.021	0.001	0.010	0.012
天竺山4群2主体-No.21	38.0	0.40	0.006	4.017	0.246	1.501	0.008	1.460	0.006	0.202	0.015	0.315	0.022	0.739	0.136	0.64	0.026	0.136	0.030	0.007	0.001	0.035	0.001	0.036	0.016
天竺山4群2主体-No.22	58.0	0.12	0.001	0.286	0.021	2.31	0.019	0.029	0.002	0.090	0.009	0.576	0.009	15.726	1.722	4.418	0.177	0.628	0.994	0.076	0.081	0.002	0.000	0.096	0.000
天竺山4群2主体-No.23	46.0	0.21	0.001	2.204	0.094	0.366	0.017	1.43	0.008	0.025	0.005	0.220	0.029	3.233	0.852	7.010	0.421	0.273	0.374	0.741	0.134	0.001	0.000	0.014	0.019
天竺山4群2主体-No.24	44.0	0.32	0.004	2.533	0.246	0.025	0.006	0.222	0.050	0.776	0.035	0.799	0.051	1.517	0.003	0.024	0.003	0.316	0.048	0.383	0.066	0.005	0.001	0.003	0.015
天竺山4群2主体-No.25	38.0	0.41	0.006	1.489	0.268	0.023	0.000	0.082	0.002	0.568	0.020	0.473	0.026	0.001	0.046	0.471	0.018	0.222	0.032	0.100	0.013	0.006	0.001	0.039	0.010
天竺山4群2主体-No.26	42.0	0.14	0.002	0.413	0.046	0.954	0.026	0.395	0.040	0.053	0.005	0.223	0.020	3.772	0.448	0.833	0.068	0.077	0.037	0.296	0.053	0.006	0.001	0.019	0.010
天竺山4群2主体-No.27	51.0	0.30	0.007	0.974	0.037	0.265	0.011	0.529	0.061	0.192	0.011	0.719	0.019	3.06	0.474	0.912	0.060	0.072	0.024	0.101	0.042	0.008	0.001	0.095	0.014
天竺山4群2主体-No.28	67.0	0.62	0.005	1.868	0.115	1.440	0.137	7.33	0.069	0.078	0.022	0.111	0.205	1.610	0.264	0.175	0.018	0.298	0.619	0.078	0.019	0.050	0.020	0.067	0.009
天竺山4群2主体-No.29	30.0	0.56	0.005	4.152	0.162	0.226	0.181	3.13	0.010	0.212	0.019	0.337	0.018	8.847	0.314	1.137	0.057	0.649	0.095	0.139	0.053	0.010	0.003	0.081	0.004
天竺山4群2主体-No.30	51.0	0.46	0.004	0.912	0.178	2.416	0.174	7.86	0.267	0.060	0.011	0.666	0.018	1.689	0.413	1.444	0.050	1.994	0.060	0.068	0.027	0.019	0.013	0.007	0.007
天竺山4群2主体-No.31	41.0	0.46	0.004	3.875	0.879	0.146	0.019	0.234	0.004	0.148	0.018	0.476	0.020	0.484	0.188	0.476	0.020	0.484	0.060	0.072	0.022	0.008	0.001	0.095	0.011
天竺山4群2主体-No.32	46.0	0.62	0.000	0.589	0.161	0.020	0.000	0.278	0.12	0.151	0.055	0.220	0.009	2.478	0.10	0.152	0.049	0.626	0.079	1.201	0.060	0.040	0.000	0.046	0.002
天竺山4群2主体-No.33	46.0	0.62	0.000	0.589	0.161	0.020	0.000	0.278	0.12	0.151	0.055	0.220	0.009	2.478	0.10	0.152	0.049	0.626	0.079	1.201	0.060	0.040	0.000	0.046	0.002
天竺山4群2主体-No.34	42.0	0.17	0.004	1.817	0.072	0.111	0.008	2.089	0.008	0.025	0.002	0.105	0.004	4.471	0.10	0.470	0.021	0.268	0.028	0.012	0.001	0.012	0.000	0.002	0.005
天竺山4群2主体-No.35	40.0	0.18	0.001	0.466	0.010	0.776	0.009	1.058	0.004	0.020	0.001	0.087	0.004	46.841	0.846	4.250	0.538	0.296	0.136	0.058	0.074	0.041	0.000	0.219	0.008
天竺山4群2主体-No.36	41.0	0.12	0.010	3.879	0.431	0.222	0.022	0.668	0.030	0.878	0.011	0.768	0.051	0.706	0.062	0.117	0.011	1.28	0.022	0.002	0.000	0.022	0.002	0.994	0.020
天竺山4群2主体-No.37	46.0	0.28	0.005	2.092	0.466	0.034	0.009	0.044	0.009	0.390	0.014	0.967	0.048	0.269	0.100	0.082	0.007	0.062	0.010	0.005	0.001	0.070	0.002	0.939	0.010
天竺山4群2主体-No.38	46.0	0.77	0.006	6.185	0.139	0.958	0.006	1.04	0.003	0.287	0.011	0.386	0.016	1.218	0.076	3.446	0.011	1.065	0.014	1.113	0.14	0.008	0.000	0.014	0.007
天竺山4群2主体-No.39	46.0	0.32	0.005	0.078	0.022	0.000	0.000	0.138	0.008	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009
天竺山4群2主体-No.40	45.0	0.35	0.005	0.078	0.022	0.000	0.000	0.138	0.008	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009	0.063	0.009
天竺山4群2主体-No.41	35.0	0.17	0.008	2.647	0.430	1.544	0.042	1.07	0.022	0.120	0.016	0.207	0.029	1.471	0.106	0.608	0.027	0.967	0.018	0.069	0.027	0.007	0.000	0.026	0.009
天竺山4群2主体-No.42	40.0	0.67	0.004	4.158	0.107	0.344	0.000	0.980	0.009	0.134	0.005	0.183	0.007	1.692	0.095	0.310	0.010	0.78	0.020	0.074	0.041	0.011	0.001	0.076	0.002
天竺山4群2主体-No.43	45.0	0.45	0.004	3.512	0.106	0.388	0.004	0.980	0.020	0.839	0.009	0.183	0.004	0.849	0.174	0.522	0.020	1.09	0.020	0.074	0.041	0.011	0.001	0.076	0.002
天竺山4群2主体-No.44	46.0	0.103	0.010	4.761	0.227	0.039	0.005	0.513	0.069	0.050	0.003	0.157	0.006	4.70	0.267	0.574	0.047	0.027	0.054	0.005	0.008	0.001	0.044		

表2 木船西遺跡出土管玉の元素比結果

分析 番号	元素比														重量 (g)	比重
	Al/Si	K/Si	Ca/K	Ti/K	K/Fe	Rb/Fe	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Mn/Fe	Ti/Fe	Nb/Zr	Ba/Zr		
125108	0.037	2.506	0.032	0.124	0.238	0.287	1.708	0.476	0.207	0.109	0.014	0.026	0.004	0.186	0.229	2.576
JG-1a)	0.081	3.205	0.736	0.198	0.111	0.277	3.479	0.956	1.261	0.187	0.017	0.020	0.086	1.567		

a): 標準試料, Ando,A., Kurassawa,H., Ohmori,T. & Takeda,E.(1974).1974 compilation of data on the GJS geochemical referencesamples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt.Geochemical Journal, Vol.8 175-192.

表3 木船西遺跡出土管玉の産地分析結果

遺跡名	出土区 グリッド	遺物 番号	順番	分析 番号	ホテリングのT ² 乗検定(確率)	E S R信号形	比重	総合判定
木船西遺跡	Ⅲ区-B-2		8	125108	菩提-1(42%), 女代南B遺物群(9%), 滝ヶ原(1%)	崩れ菩提形	2.576	菩提

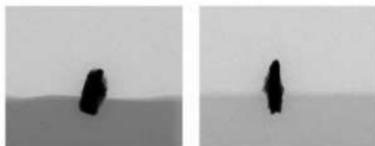
第VI章 金属製品の保存処理

第1節 金属製品のX線透過撮影

今回の発掘調査において、鉄器49点及び青銅器2点の金属製品が出土した。これらの金属製品の保存処理の事前調査として、遺物の構造や劣化状態の確認を目的として、九州歴史資料館に依頼し平成26年12月8日に実施した。使用機材は、文化財用X線CTスキャナシステムである。



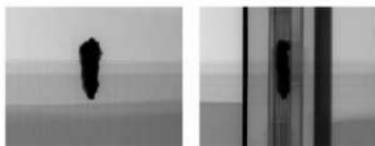
文化財用X線CTスキャナシステム（九州歴史資料館）



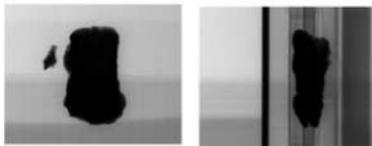
第57図48



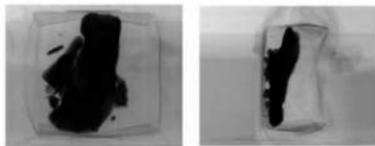
第63図5



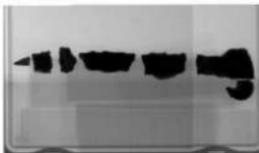
第70図84



第70図85



第70図86



第70図87

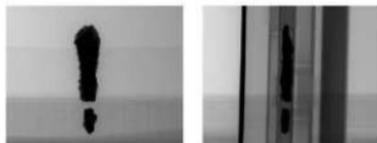
鉄器X線透過画像①（九州歴史資料館による撮影）



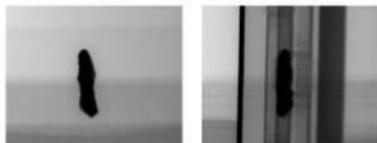
第 73 図 20



第 78 図 26



第 84 図 29



第 86 図 15



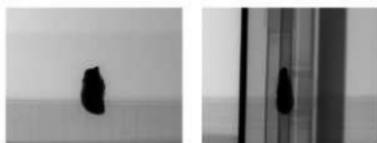
第 89 図 15



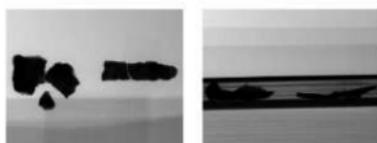
第 89 図 16



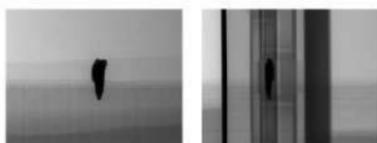
第 89 図 17



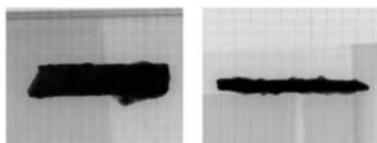
第 89 図 18



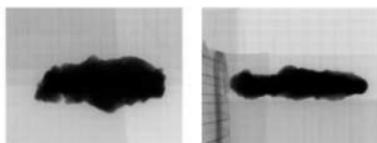
第 89 図 19



第 93 図 4



第 98 図 18

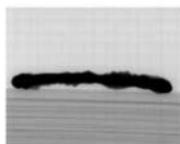


第 98 図 19

鉄器X線透過画像②（九州歴史資料館による撮影）



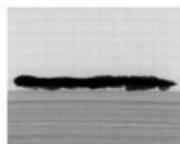
第104図 30



第107図 27



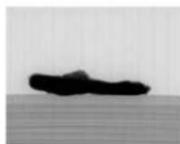
第110図 3



第112図 5



第115図 33



第116図 2



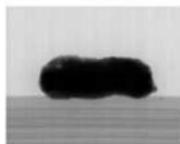
第118図 11・12



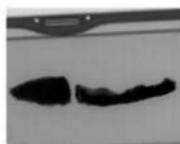
第120図 7



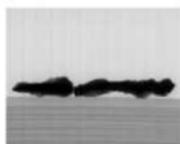
第139図 37



第143図 32



第143図 33



第143図 34



鉄器X線透過画像③（九州歴史資料館による撮影）



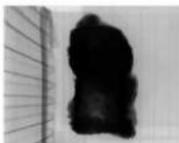
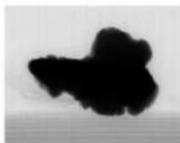
第 143 図 35



第 143 図 36



第 152 図 1



第 153 図 6



第 157 図 40



第 157 図 41



第 157 図 42



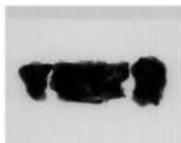
第 166 図 35



第 166 図 36・37



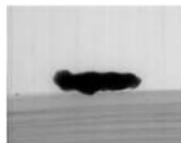
第 166 図 38



第 166 図 39



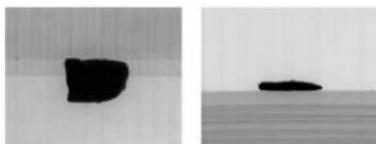
第 166 図 41



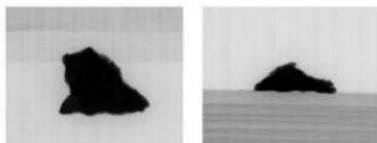
鉄器X線透過画像④（九州歴史資料館による撮影）



第 166 図 42



第 166 図 43



第 166 図 44

鉄器 X線透過画像⑤（九州歴史資料館による撮影）



第 89 図 20

第 166 図 34

青銅器 X線透過画像（九州歴史資料館による撮影）

参考文献

- 加藤和哉 2014 「博物館における X線CT スキャナを利用した研究の課題と展望」『九州歴史資料館研究論集 39』九州歴史資料館

第2節 鉄器の保存処理

株式会社 葵文化

【保存処理工程】

①遺物搬入・開梱・観察 → ②処理前写真撮影 → ③仮強化・仮接合など → ④クリーニング・有機質保護・接合 → ⑤脱塩処理のための遺物養生 → ⑥脱塩処理 → ⑦脱アルカリ処理 → ⑧脱水・乾燥処理 → ⑨1回目樹脂含浸 → ⑩接合・補填箇所等打合せ → ⑪樹脂含浸（2回目・3回目） → ⑫樹脂塗布（1回目・2回目・3回目） → ⑬つや消し剤塗布 → ⑭接合・補填・補彩 → ⑮処理後写真撮影 → ⑯RPバック → ⑰納品

【保存処理工程詳細】

①遺物搬入・開梱・観察

遺物を玉名市文化財整理室から株式会社 葵文化 文化財保存処理センターに搬入。

②処理前写真撮影

③仮強化・仮接合など

パラロイド B-72 アセトン溶液で有機質、脆弱な部分の強化および破片や剥離片の接合を行った。



仮強化・仮接合

④クリーニング

ある程度のクリーニングは行われた後であったため、エアブラシによるクリーニングを行い、落とし切れていなかった泥やサビを除去した。（一次クリーニング）

エアブラシによるクリーニング後、エタノールによるアルコール洗浄を行った。



エアブラシによるクリーニング、エタノールによるアルコール洗浄

⑤脱塩処理のための遺物養生

脱塩液交換において液から取り上げたり洗浄したりする際に破損したり破片が散逸するのを防ぐため、不織布の袋に包んで養生した。



脱塩前養生状況

⑥脱塩処理

セスキカーボネイト 0.5% 水溶液に浸漬・加温して、塩化物イオン・硫酸イオンの溶出を促した。脱塩液の交換は約 15 日おきに行った。交換の際、それまで浸漬していた脱塩液を採取し、塩化物・硫酸イオンの分析を行った。

塩化物・硫酸イオンともに 10mg /L を下回るまで脱塩を行った。



脱塩処理状況・脱塩液採取状況

⑦脱アルカリ処理

脱塩処理終了後、脱塩液のアルカリ分が遺物に残留しないよう精製水に浸漬・加温し脱アルカリ処理を行った。脱アルカリの状況を見るために pH チェックを行った。

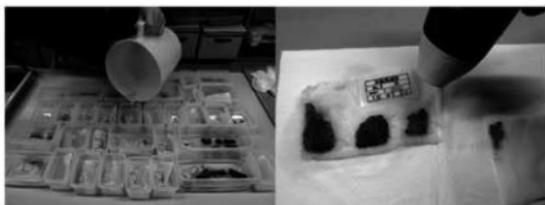
精製水とエタノールを混ぜたもので水替えを一度行った。



脱アルカリ処理 (pH チェック)

⑧脱水・乾燥処理

遺物中の水分を揮発・乾燥しやすいアルコール（エタノール）に置換した。
その後、十分に乾燥させた。



脱水処理（エタノールに浸漬）・乾燥

⑨1回目樹脂含浸

遺物の強化と防錆を目的とし、バラロイド NAD-10 に浸漬し、減圧含浸を行った。
含浸後 NAD-10 から取上げ、余分な樹脂をふき取り、乾燥させた。



樹脂含浸、取上げ・余分な樹脂のふき取り

⑩接合・補填箇所等打合せ

1回目樹脂含浸の終わった遺物を観察しながらクリーニング・接合・補填箇所の確認を行った。
検証の結果 No.5・6・13・20・21・22・23・25・26・27・34・35・37・38・43・48・49の二次クリーニングを行うこととした。

接合は確認が持てる部分のみ行い、曖昧な部分は保留することとした。

補填はヒビの目立つ部分や強度的に補填したほうが良い箇所を、必要最小限行うこととした。

⑪樹脂含浸（2回目・3回目）

1回目樹脂含浸と同様に2回目・3回目の樹脂含浸を行った。

⑫樹脂塗布（1回目・2回目・3回目）

水気と酸素の遮断を目的とし、樹脂コーティングを3回行った。

ソルベントナフサで薄めたバラロイド NAD-10 をまんべんなく塗布した。

⑬ つや消し剤塗布

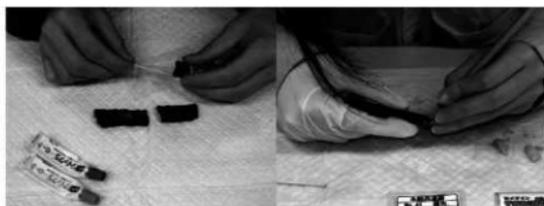
樹脂による不自然なてかりを取るため、アクリル系つや消し剤を塗布した。



樹脂塗布・つや消し剤塗布

⑭ 接合・補填・補彩

エポキシボンドで接合・エポキシパテで補填、アクリル絵の具で補彩を行った。



接合・補填

⑮ 処理後写真撮影

⑯ RP バック

処理の終わった遺物を脱水分・脱酸素剤（RP 剤）とともにエスカルフィルム内に封入した。

⑰ 納品

・保管上の注意

高温・多湿の環境を避け、できるだけRPバックされた状態で保管して下さい。

急激な温湿度変化は避けて下さい。

※温度 15℃～20℃、湿度 45% 以下での保管が理想。

・樹脂の再溶解について

樹脂含浸で用いたバラロイドNAD-10は、ソルベントナフサで溶解できます。

つや消し剤を塗布した層は、ソルベントナフサのほかにアセトンでも溶解することができます。

使用薬剤

- ・仮強化、有機質の保護
パラロイド B-72、アセトン



- ・クリーニング
エタノール



- ・脱塩処理
セスキ炭酸ナトリウム



- ・脱塩処理
エタノール
- ・樹脂含浸、樹脂塗布
パラロイド NAD-10
ソルベントナフサ



- ・つや消し
ワシン 水溶性つや消しニス



- ・接合・補填・補彩
エポキシボンド (ボンドクイック5) エポキシパテ (エポキシパテ60分化型) アクリル絵の具



第3節 青銅器の保存処理

(公財)元興寺文化財研究所
埋蔵文化財保存研究グループ

平成27年度事業として受託した本船西遺跡出土青銅器の保存処理業務について、下記の内容で実施したので報告する。

【処理対象】

内行花文鏡片、不明製品③の2点

【処理前調査】

処理前の遺物の状態を記録するため、写真撮影を行った。この写真をもとに台帳を作成し、処理工程や途中得られた知見などを記入した。また、遺物の構造や劣化状態の確認を目的としてX線透過撮影を実施した。

2点とも、材質分析のため、蛍光X線分析を実施した。内行花文鏡片については、表面に付着する顔料についても分析を行った。(第Ⅴ章第2節参照)

【処理方針検討】

処理前調査を基に、金属室全体による考古学的・科学的処理方針検討を行った。

【クリーニング】

写真X線フィルムなどで遺物の形態や状態を確認し、残存している顔料に注意しながら、実体顕微鏡下で、メス、刷毛、綿棒およびエタノールなどを用いて土や銅のさびを除去した。



【養生・洗浄】

遺物の状態に合わせて、ポリエチレン製ネットで養生し、表面に付着する油脂分および土等の不純物を有機溶剤（エタノール）により洗浄した。

【BTA処理】

防錆を目的として、BTA（1,2,3-ベンゾトリアゾール/キレスト株式会社）3%エタノール溶液に浸漬した状態で減圧含浸を実施した。BTAは銅との化学反応によりさびの進行を抑える薬剤（気化性防錆剤）で、銅・青銅製遺物の防錆処理に広く用いられている。



【樹脂含浸】

遺物強化と防錆のため、フッ素系アクリル樹脂（Vフロン/大日本塗料（株））20%ナフサ溶液による減圧含浸を3回実施した。

【樹脂塗布】

外気との接触を可能な限り少なくし、防錆効果を上げるために、含浸時の2倍に薄めた樹脂を3回遺物に塗布した。



【仕上げ】

樹脂含浸や樹脂塗布によるつやを、つや消し剤（ヒットスプレー多用途つやけしとうめい/カンベハビオ社）を用いて抑えた。

【納品検査】

考古学的・科学的チェックや台帳のチェックを含めた納品検査を行った。

【処理後調査】

写真撮影を行い、経過観察を行った。

※今回使用した樹脂や接着剤は以下の方法で除去することが出来ます。

アクリル樹脂（バラロイド B72/Rohm&Haas 社）

- ・酢酸エチル・アセトンに溶解する

BTA（1,2,3-ベンゾトリアゾール/キレスト株式会社）

- ・エタノールに溶解する

フッ素系アクリル樹脂（Vフロン/大日本塗料（株））

- ・ナフサ等に溶解する。

つや消し剤（ヒットスプレー多用途つやけしとうめい/カンベハビオ社）

- ・ナフサ等に溶解する。

第Ⅶ章 総括

第1節 はじめに

今回の発掘調査において、計129基の遺構が確認された。(図4参照)その内訳は、弥生時代中期33(竪穴建物跡3軒・土坑30基)、弥生時代後期54(竪穴建物跡52軒・土坑1基・方形溝遺構1基)中世1基(祭祀遺構)、時期不明41(竪穴建物跡2軒、土坑36基、溝状遺構3条)である。この他に縄文土器片、土師器片等が若干出土したが、主体となる時期は弥生時代であり時期詳細は中期と後期である。

ここでは、今回の発掘調査で得られた弥生時代中期及び後期の調査成果について、遺構ごとにまとめ、時期詳細を提示し最後にこの地域の中での歴史的評価を行い総括とする。

第2節 遺構と遺物

1 弥生時代中期

【竪穴建物跡】

今回、検出した弥生時代中期の竪穴建物跡3軒である。全ての平面形は円形を呈し、規模はI区S68が直径6.54mで最大であり、I区S16が直径3.97mを測る。I区S74は大半を切られているため不明である。主柱穴は3基共に確定できておらず、炉は中央に位置し、円形で断面は皿状を呈している。出土遺物は、I区S68において、石鏃及び石鏃未成品並びに床面直上において黒曜石の石屑が多量に検出された。この事からI区S68は石鏃製作を行っていた竪穴建物跡であると考えられる。

【土坑】

今回、検出した弥生時代中期の土坑は30基である。平面形は長楕円形を呈するものが多く、規模は約1.8m～2.9mである。土坑の主軸方向に、特に規則性は認められない事及び遺物の出土状況から、今回検出した土坑は全て廃棄土坑若しくは貯蔵穴であると判断した。

土坑内から出土した土器は、弥生時代中期初頭の城ノ越式土器であり、出土量は、甕及び壺が大半を占めている。中でも甕が多く、壺は少なく、鉢や蓋が少ないのが特徴である。

城ノ越式土器には、古段階と新段階があり、前者は前期的様相を引きずる段階であり、後者は前期的様相が残らない中期初頭の段階である。他地域での出土状況の傾向としては、古段階と新段階が混在して出土するという。しかし、今回、出土した城ノ越式土器の中において積極的に古段階に位置付けられるものは見当たらない。甕の口縁端部は刻目突帯を貼り付けるものが殆どであり、如意形は皆無である。また、甕の口縁端部突帯を側面から張り付けるのではなく、上方から乗せるように接合し、内側に僅かに張り出すものが数点確認できた。(第46図2・3・4)

【まとめ】

竪穴建物跡、土坑共に出土遺物は、土器は、弥生時代中期初頭の城ノ越式土器(新段階)の甕、壺及び蓋であり、石器は、石鏃、石鏃未製品及び扁平片刃石斧である。以上の事から検出された弥生時代中期の竪穴建物及び土坑の時期は共に弥生時代中期初頭であると判断した。土坑が30基で多く、竪穴建物跡が3軒であり少ない。今回の発掘調査地は、弥生時代中期初頭の土坑群が形成された場所であり、その時期の住居域は、今回の発掘区西側の塚原遺跡I区から円形の大規模竪穴建物跡が複数検出されており、発掘調査地の南側にあるものと想定される。

2 弥生時代後期

【竪穴建物跡】

竪穴建物が52軒が重複しており、規模はI区S02が面積6.76㎡で最小、I区S85が面積61.80㎡で最大である。平面形は正方形又は長方形を呈し、主軸方向は、北、北西及び北東を向いている。主柱穴は確定できなかつたものが多いが、二本柱が多く、炉は地床炉で、断面は皿状を呈するものが多い。竪穴部の土坑は主に楕円形を呈し南竪穴壁に内接している。壁際溝は、竪穴壁沿いの床面全面に施されているものと部分的に施されているものがあり、ベッド状施設は、コの字形、主軸と平行して片側又は両側にあるもの、部分的に途切れるもの等がある。竪穴部からは、焼土及び炭化材が検出されているものがあり、焼失竪穴建物の可能性が指摘される。

出土遺物は、床面直上、床面より若干浮いた状態、埋土内及び検出面上面から弥生後期後半から終末にかけての土器が出土し、数点の土器表面には初等の圧痕が確認された。(第Ⅴ章第2節参照) 鉄器は49点出土し、斧、摘鎌、刀子及びヤリガンナ等の農具類が多く、鎌などの武器類は少ない。これまで使用されていた小型の石器が鉄で製作される様子が伺える。弥生時代後期の石器としては、砂岩製の砥石があり、まとまった数の鉄器出土との関係が興味深い。その他、竪穴建物跡の埋土内から破鏡が出土した。(第Ⅴ章第1節参照) 後期後半から終末期の間に竪穴建物の廃絶に伴い廃棄されたものと考えられる。また、ガラス小玉が26点出土し、特にI区S34で多く検出された。(第Ⅴ章第3節参照) ガラス小玉の出土は、当時の交易関係や技術伝播を知る上で重要である。更に石製の勾玉1点及び管玉1点が出土した。(第Ⅴ章第5節参照)。今回、石製玉材2点の分析結果を全国から出土したリストに加えた事により、今後、比較検討の対象になるとと思われる。

【方形溝状遺構】

Ⅲ区において、方形の溝状遺構を検出した。規模及び平面形は、東西長8.40m・南北長7.48mの東西にやや長い方形溝を呈し、上幅1.00m前後である。出土した土器のうち甕の口縁部がやや寝ており、竪穴建物跡出土の土器よりもやや古い様相を示している。

【まとめ】

今回、竪穴建物跡が52軒検出されており、そのほとんどが重複していた。特に発掘調査区の中開付近の重複が激しい。各竪穴建物跡の主軸方向が若干ずれており、集落内での複数回の変遷が伺える。平面形は、方形又は長方形を呈し、主柱は二本柱で、中央付近に地床炉を設置し、竪穴部土坑は南竪穴壁に内接し、各形態のベッド状施設を有し、壁際溝を持つものと持たないものが存在する。以上が今回、検出した竪穴建物跡の特徴である。また、I区S42からは破鏡が出土しており、竪穴建物の廃絶に伴い廃棄されたものと考えられる。また、I区S34からは、まとまった数のガラス小玉が出土しており興味深い。

出土遺物には、土器、石器、鉄器、青銅器(破鏡・不明製品)・石製品(勾玉・管玉)等があり、菊池川下流域或いは有明海沿岸地域における拠点集落の一つであった事を想像させる内容であった。今回、竪穴建物跡から出土した土器の時期は、弥生時代後期後半と位置づけて置きたい。

3 歴史的評価

木船西遺跡の約400m東には、貴船神社が鎮座し、境内にある大樟は推定樹齢750年以上と云われ玉名市指定天然記念物となっている。社殿脇の碑文によれば、「天平神護二年（766年）、山城国の水徳神、貴布禰大明神の分霊をここに移し、御用船をこの樟に結び止めたという。」（岱明町史1260頁より）古の昔、この付近一帯は、船が行き来する入り江であった事を想像させられる。木船西遺跡の木の字は、玉名市遺跡地図刊行以前（2011年刊行）は、「貴」の字であったが現在の小字名が木船であるため「木」に変更された。

遺跡周辺一帯は、玉名市において最も弥生時代の遺跡が集中している地域であり、木船西遺跡の約500m南西には、年の神遺跡があり巨大な支石墓及び甕棺墓等が多数出土し、そのうち1基の甕棺墓内からは7個のゴホウラ貝製の腕輪が出土している。西に隣接する下前原遺跡からは、昭和32年、ベッド状施設を伴う竪穴建物跡が31件検出され、そのうち1軒から鉄屑が出土している。更に約100m南には平成23年に九州最大級の円形竪穴建物跡などが確認された塚原遺跡、北に隣接している大原遺跡、その北には家形土器片及び銅鐸型土製品片が出土した南大門遺跡、弥生時代後期から終末期の葺石をもつ墳丘墓の可能性が指摘されている東南大門遺跡などの遺跡が所在している。中でも大原遺跡は、昭和42年の調査で箱式石棺墓群が発見され、平成元年には長さ6mの大型木棺墓が発見されている。平成24度から25年にかけて同事業に伴い発掘調査が行われており、重複する竪穴建物跡と共に多量の弥生時代後期後半から古墳時代初頭を主体とする土器、鉄器、青銅器（破鏡、小形仿製鏡）ガラス製品（勾玉・小玉）及び石製品（勾玉・管玉）等が出土しており、現在、整理・報告書作成中である。

今回の調査において複数の土坑が検出され、その埋土内からは城ノ越式土器が出土した。よって、調査地は弥生時代中期初頭に土坑が配置された場所であった。また、竪穴建物跡が重複して検出され、その埋土内からは、弥生時代後期後半の土器及び石器、鉄器、青銅器（破鏡・不明製品）、ガラス小玉及び石製玉類等が出土した。中でも破鏡やガラス小玉が竪穴建物跡の埋土内から出土した事は興味深い。これらの調査成果から木船西遺跡は、弥生時代後期後半の菊池川下流域或いは有明海沿岸地域における拠点集落の一部であることが推測される。

4 課題

最後に以下を課題として、今後の発掘調査に期待したい。

- 隣接遺跡の出土土器において、城ノ越式土器の古段階（前期末から中期初頭）と新段階（中期初頭）の二時期が存在するの否か。また、須玖I式の期間空白期間が存在するの否か。（筑後型甕の存在）
- 石器、破鏡、ガラス小玉、石製玉類等その交易関係の解明。
- 住居域及び墓域の確認等隣接遺跡との関係並びに遺跡範囲の解明。

参 考 文 献

- 阿南 亨 2007『森北後田遺跡 藤田上原遺跡』菊池市文化財調査報告第2集 菊池市教育委員会
- 岡本真也 2005『前田遺跡』熊本県文化財調査報告第225集 熊本県教育委員会
- 門岡 久 1969「第1章原始」『岱明町地方史』明治100周年記念 岱明町
- 木崎康弘 1996『蒲生・上の原遺跡』熊本県文化財調査報告第158集 熊本県教育委員会
- 清田純一 2003『宮地遺跡群』城南町文化財調査報告第13集 城南町教育委員会
- 小松譲他 2012「中原遺跡VI」佐賀県文化財調査報告書第193集 佐賀県教育委員会
- 島津義昭(編)1992「二子塚」熊本県文化財調査報告117集 熊本県教育委員会
- 千賀久・村上恭通 2003「考古資料大観」第7巻 弥生・古墳時代 鉄・金銅製品 小学館
- 岱明町史編纂委員会・執筆委員会 2005「第1章人類の出現」「第2章自然環境との共生」「第3章農耕と王権の時代」『岱明町史』岱明町
- 高木正文 1979「熊本地方の弥生後期土器」『古文化談叢』第6集
- 高木正文 2007「第2編 考古」『菊水町史 通史編』和水町
- 武末純一 2003「九州地方の土器」『考古資料大観』第1巻 弥生・古墳時代 土器I 小学館
- 田中康雄 2001「東大内門遺跡」玉名市文化財調査報告第8集 玉名市教育委員会
- 玉名市 1993玉名市史編纂委員会『玉名市史 資料編3 自然・民俗』玉名市
- 常松幹雄(編)2015「元岡・桑原遺跡群25」福岡市埋蔵文化財調査報告書第1276集 福岡市教育委員会
- 中里伸明 2009「戸坂遺跡II」戸坂遺跡第3次調査区発掘調査報告書 熊本市教育委員会
- 永見秀徳 2004「1) 甕型土器の分類について」『筑後西部第2地区遺跡群VIII』154-157頁 筑後市文化財調査報告書第57集 筑後市教育委員会
- 永見秀徳 2006「弥生土器の形態変化」『筑後市内遺跡群IX』56-58頁 筑後市文化財調査報告書第73集 筑後市教育委員会
- 永見秀徳 2009「製作技法から見た須玖式土器の成立過程-福岡県南部の甕形土器を指標とした考察と画期の問題-」『地域考古学』佐田茂先生佐賀大学退任記念論文集
- 永見秀徳 2016「弥生時代中期前半における筑後型甕の設定」福岡県南部の土器製作技法からみた画期の再考『魂の考古学-豆谷和之さん追悼論文編-』
- 中村幸史郎(編)1982「第9章考察 第1節方保田東原遺跡出土の編年(案)」『方保田東原遺跡』山鹿市文化財調査報告書第2集 山鹿市教育委員会
- 西住欣一郎 1992「うてな遺跡」熊本県文化財調査報告第121集 熊本県教育委員会
- 林田和人 2005「八ノ坪遺跡I 本文編」-東西屋敷地区経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告1- 熊本市教育委員会
- 福永裕晩 2015「上加世田遺跡12次調査」南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書10 南さつま市教育委員会
- 細川金也・梅崎恵司(編)2005「吉野ヶ里遺跡」-田手二本黒木地区弥生時代前期環濠出土の土器と石器-佐賀県文化財調査報告書第163集 佐賀県教育委員会
- 前田達男・古賀草彦 2002「増田遺跡群VI」増田遺跡4・5区の調査 佐賀市文化財調査報告書第130集 佐賀市教育委員会
- 宮崎敬士 2013「築地館跡」熊本県文化財調査報告第283集 熊本県教育委員会
- 宮崎亮一 2015「太宰府・佐野地区遺跡群26」太宰府市の文化財第126集 太宰府市教育委員会
- 米倉秀紀他 2015「元岡・桑原遺跡群24」福岡市埋蔵文化財調査報告書第1275集 福岡市教育委員会

出土土器観察表 1

図	No	出土地点 調査区	遺構 番号	形状	位置 (m)		断面		色澤		胎土	焼成	備考	
					深高	口径	底径	外径	内径	外底				内底
第5図	1	1	S16	罌	6.2	—	—	縦ナデ、ナデ	内底	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	石灰、白色、赤褐色 砂粒	良	
第6図	1	1	S68	罌	0.0	—	—	無残	内底	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/4)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第6図	2	1	S68	罌	0.0	—	—	無残	内底	12.45-褐色 (5YR7/4)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第6図	3	1	S68	罌	0.5	—	—	無残	内底	12.45-褐色 (5YR7/4)	12.45-褐色 (5YR7/4)	石灰、白色砂粒	良	
第6図	4	1	S68	罌	6.5	—	7.6	無残	内底	褐色 (2.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第6図	5	1	S68	罌	0.5	—	6.0	無残	内底	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第6図	6	1	S68	罌	0.3	—	0.0	無残	内底	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第6図	7	1	S68	罌	6.2	—	0.0	無残	内底	12.45-褐色 (0YR7/3)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	石灰、黄褐色、白色 黑色砂粒	良	
第7図	8	1	S68	壺か?	0.0	—	0.0	無残	内底	12.45-褐色 (5YR7/4)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第7図	9	1	S68	壺	4.0	—	7.5	無残	内底	黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第7図	10	1	S68	鉢	4.5	—	—	無残	内底	浅黄褐色 (0YR8/3)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	白色、黑色砂粒	良	
第7図	11	1	S68	鉢	4.0	—	—	無残	内底	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/4)	石灰、黄褐色、白色 黑色、赤褐色砂粒	良	
第7図	12	1	S68	壺	0.2	—	0.0	無残	内底	褐色 (0YR8/1)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	石灰、黄褐色、白色 黑色砂粒	0.0 良	焼成跡字孔
第7図	13	1	S68	壺か?	0.5	—	0.0	無残	内底	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/4)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第7図	14	1	S68	壺形不明	0.0	—	0.0	無残	内底	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	石灰、白色、赤褐色 砂粒	良	
第9図	1	1	S04	壺	0.0	—	0.2	無残	内底	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/4)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第10図	1	1	S07	罌	0.0	—	—	縦ナデ	内底	褐色 (7.5YR6/1)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	石灰、白色砂粒	良	
第11図	1	1	S11	罌	4.3	—	—	ナデ	ナデ	12.45-褐色 (5YR7/4)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第11図	2	1	S11	罌	4.0	—	—	縦ナデ	横ナデ	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	12.45-黄褐色 (0YR7/3)	石灰、白色、赤褐色 砂粒	良	
第11図	3	1	S11	罌	0.5	—	—	無残	ナデか?	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/3)	石灰、黄砂粒	良	
第11図	4	1	S11	罌	4.7	—	7.3	無残	内底	12.45-褐色 (5YR7/3)	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	石灰、黄褐色、白色 黑色砂粒	良	
第11図	5	1	S11	罌	6.5	—	6.0	ナデ	内底	12.45-褐色 (5YR7/3)	12.45-褐色 (5YR7/3)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第11図	6	1	S11	罌	6.7	—	7.8	ナデ	ナデ	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	石灰、黄褐色、白色 黑色砂粒	良	
第11図	7	1	S11	壺	0.7	—	—	ナデ	内底	12.45-褐色 (7.5YR7/4)	12.45-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	良	
第13図	1	1	S14	壺	4.0	—	—	無残	ハタメ	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	12.45-褐色 (5YR7/4)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	良	
第14図	1	1	S20	罌	0.5	0.6	—	無残	内底	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第14図	2	1	S20	罌	6.5	0.6	—	無残	内底	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色砂粒	良	
第14図	3	1	S20	罌	6.5	—	6.2	無残	内底	褐色 (2.5YR7/6)	12.45-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第14図	4	1	S20	浅罌	縦6.3 底4.5	—	—	無残	内底	褐色 (5YR6/6)	—	石灰、黒埋	良	
第16図	1	1	S26	罌	0.76	0.0	—	無残	内底	12.45-褐色 (7.5YR8/2)	12.45-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、白色砂粒	良	
第16図	2	1	S26	罌	0.08	0.77	—	無残	内底	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	黄褐色 (7.5YR7/2)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第16図	3	1	S26	罌	0.3	0.2	—	ナデ、ハタメ	内底	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	12.45-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第16図	4	1	S26	罌	6.7	—	6.2	無残	内底	12.45-褐色 (5YR7/4)	12.45-褐色 (5YR7/4)	石灰、白色砂粒	良	
第16図	5	1	S26	罌	6.3	—	6.2	無残	内底	褐色 (5YR7/6)	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第16図	6	1	S26	罌	6.0	—	7.6	無残	内底	12.45-褐色 (7.5YR7/4)	12.45-黄褐色 (0YR8/4)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第16図	7	1	S26	罌	6.0	—	6.8	無残	ナデ	12.45-褐色 (7.5YR7/4)	褐色 (7.5YR6/1)	黄褐色、白色、赤褐 色砂粒	良	
第16図	8	1	S26	壺	4.7	0.6	—	無残	内底	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/4)	石灰、白色、黑色砂 粒	良	
第16図	9	1	S26	壺	0.47	—	7.3	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/4)	石灰、黄褐色、白色、 黑色	良	
第16図	10	1	S26	壺	0.40	—	6.9	ナデか?	ナデか?	12.45-褐色 (7.5YR7/3)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色砂粒	良	
第16図	11	1	S26	壺	6.2	—	0.0	ハタメ	ナデ	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/3)	石灰、白色砂粒	良	
第16図	12	1	S26	壺	6.2	—	7.8	無残	内底	褐色 (5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/2)	石灰、黄褐色、白色 黑色砂粒	良	
第16図	13	1	S26	ミナツチア 土罌	0.3	—	0.0	無残	内底	浅黄褐色 (0YR8/4)	浅黄褐色 (0YR8/2)	石灰、白色、赤褐色 砂粒	良	
第17図	1	1	S31	罌	0.0	—	—	縦ナデ、ナデ	ナデ	浅黄褐色 (0YR8/3)	浅黄褐色 (0YR8/3)	石灰、黄砂粒	良	

出土土器観察表 2

国	No	出土地点 調査区	遺物番号	図柄	法量 (cm)			調整				色調		胎土	備考					
					高さ	口径	底径	外面	内面	外面	内面	外面	内面							
第17国	2	1	S31	甕	13.1	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 (SYR7-6)	石灰、白色砂粒	是		
第17国	3	1	S31	甕	6.6	—	7.2	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にんじり褐色 (25YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	是		
第17国	4	1	S31	甕	6.6	—	8.2	ハナメ・横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にんじり褐色 (5YR7-6)	石灰、黒曜石	是		
第17国	5	1	S31	甕	6.6	—	6.6	横溝	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8-2)	石灰、角閃石、白色、黒曜石	是		
第17国	6	1	S31	甕	6.6	—	6.6	ハナメ	横溝	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にんじり褐色 (5YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	是		
第17国	7	1	S31	支脚	全径 6.3	幅 3.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	にんじり褐色 (5YR7-4)	石灰、角閃石	是		
第18国	1	1	S35	甕	6.6	—	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	にんじり褐色 (25YR7-2)	赤黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色砂粒	是	
第18国	2	1	S35	甕	6.6	—	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	にんじり黄褐色 (10YR7-2)	にんじり黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	是	
第18国	3	1	S35	甕	6.6	—	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	にんじり黄褐色 (10YR7-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	石灰、白色砂粒	是	
第18国	4	1	S35	甕	6.6	—	4.6	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にんじり黄褐色 (10YR7-2)	にんじり黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	是	
第19国	1	1	S38	甕	6.6	—	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	にんじり褐色 (7.5YR7-2)	赤黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、角閃石、赤褐色砂粒	是	
第19国	2	1	S38	甕	6.6	—	—	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	にんじり褐色 (5YR7-4)	赤黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色、黒色砂粒	是	
第19国	3	1	S38	甕	6.6	口径	—	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	ナデか?	にんじり褐色 (25YR7-4)	褐色 (25YR7-6)	石灰、白色、黒色砂粒	是	
第20国	1	1	S50	甕	6.6	—	7.5	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	褐色 (25YR7-6)	にんじり褐色 (7.5YR7-4)	白色、黒色砂粒	是	
第21国	1	1	S69	支脚	6.5	—	6.6	横溝	—	—	—	—	—	—	—	にんじり褐色 (25YR7-4)	—	石灰、角閃石	是	中心よりやや外に凹みあり
第23国	1	1	S72	甕	6.6	25.0	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	にんじり黄褐色 (25YR7-2)	にんじり黄褐色 (25YR8-0)	石灰、白色、白色砂粒	是	
第23国	2	1	S72	甕	12.5	—	—	横ナデ・ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 (SYR7-6)	にんじり褐色 (5YR7-4)	石灰、赤褐色、白色、黒色砂粒	是	
第24国	1	1	S72	甕	6.5	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にんじり黄褐色 (10YR7-2)	にんじり黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色、赤褐色砂粒	是	
第24国	2	1	S97	鉢	6.6	—	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	褐色 (25YR8-6)	褐色 (25YR8-6)	石灰、角閃石、白色、黒色砂粒	是	
第25国	1	Ⅱ	S05	甕	11.5	6.6	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	黒褐色 (25YR4-1)	灰黄褐色 (10YR4-4)	白色砂粒を含む	是	縦線あり
第25国	2	Ⅱ	S05	甕	6.5	—	—	横ナデ・ハナメ 横ナデ・ハナメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	白色砂粒、黒曜石	是	
第25国	3	Ⅱ	S05	甕	6.5	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	にんじり黄褐色 (10YR7-4)	浅黄褐色 (10YR8-0)	白色砂粒	是	
第25国	4	Ⅱ	S05	甕	6.6	—	—	横ナデ・横溝 横ナデ・横溝	横ナデ・横溝	横ナデ・横溝	横ナデ・横溝	横ナデ・横溝	横ナデ・横溝	横ナデ・横溝	横ナデ・横溝	にんじり黄褐色 (10YR7-4)	にんじり黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	是	
第25国	5	Ⅱ	S05	甕	6.6	—	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	明黄褐色 (10YR7-4)	明黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	是	明不明
第25国	6	Ⅱ	S05	甕	6.1	6.5	—	横ナデ・ハナメ 横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	にんじり黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	白色砂粒、褐色砂粒	是	
第25国	7	Ⅱ	S05	甕	6.6	11.5	—	横ナデ・ハナメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	黒褐色 (7.5YR5-2)	にんじり褐色 (7.5YR6-2)	白色砂粒	是	
第25国	8	Ⅱ	S05	甕	6.6	—	7.6	ハナメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	明赤褐色 (5YR5-6)	にんじり黄褐色 (10YR8-4)	白色砂粒	是	
第25国	9	Ⅱ	S05	甕	6.5	—	4.6	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にんじり黄褐色 (10YR8-4)	褐色 (10YR4-4)	白色、黒色砂粒	是	
第26国	10	Ⅱ	S85	甕	30.9	14.2	6.9	ナデ・ハナメ ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	白色、黒色砂粒	是	
第26国	11	Ⅱ	S05	甕	6.6	11.5	—	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	横溝	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	白色、黒色砂粒	是	
第26国	12	Ⅱ	S05	甕	6.6	—	6.6	ナデ・ハナメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR8-6) + 灰褐色 (25YR4-2)	にんじり褐色 (7.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	是	
第26国	13	Ⅱ	S05	甕	6.7	—	—	横ナデ・ナデ	工具痕・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	浅黄褐色 (10YR8-4)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、白色、黒色砂粒	是	
第27国	1	Ⅱ	S06	甕	6.6	6.5	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	にんじり褐色 (25YR7-4)	褐色 (SYR8-6)	石灰、白色砂粒	是	
第27国	2	Ⅱ	S06	甕	6.7	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、赤褐色、白色砂粒	是	
第27国	3	Ⅱ	S06	甕	11.6	6.5	—	横ナデ・ハナメ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	灰黄褐色 (10YR5-2)	にんじり黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色砂粒	是	丁寧
第27国	4	Ⅱ	S06	甕	6.7	—	7.4	ハナメ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR7-6)	灰黄褐色 (10YR5-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	是	
第27国	5	Ⅱ	S06	甕	6.1	—	6.6	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	にんじり黄褐色 (10YR6-2)	にんじり黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色砂粒	是	
第27国	6	Ⅱ	S06	甕	6.6	—	6.6	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (2.5Y7-2)	石灰、角閃石	是	
第28国	7	Ⅱ	S06	甕	6.7	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	是	
第28国	8	Ⅱ	S06	甕	6.6	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	灰黄褐色 (10YR5-2)	灰黄褐色 (10YR5-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	是	
第28国	9	Ⅱ	S06	甕	6.6	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	灰白色 (10YR8-2)	灰白色 (10YR8-2)	白色砂粒	是	
第28国	10	Ⅱ	S06	甕	6.3	—	6.6	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	にんじり褐色 (7.5YR6-4)	にんじり褐色 (7.5YR6-4)	石灰、白色砂粒	是	

出土土器観察表 3

図 号	No	出土地点 調査区 調査番号	時期	法量 (cm)			形状		色澤		胎土	備 考
				器高	口径	底径	外底	内底	外面	内面		
第28図	11	II S06	Ⅲc ミナチユア 上層	40	13.0	27	肩折直取	ナデナ?	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色、黑色砂粒	
第29図	1	II S07	Ⅲc	63.8	—	—	縁ナデ、ハナメ	ナデ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	白色砂粒	具
第29図	2	II S07	Ⅲc	67.4	—	—	縁ナデ、ハナメ	肩折直取・縁ナ デ・ナデ	褐色 (7.5YR7-6)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	白色、黑色砂粒	具
第29図	3	II S07	Ⅲc	46.1	126.0	—	縁ナデ・ナデ	縁ナデ・ナデ	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)	白色、黑色砂粒	具
第29図	4	II S07	Ⅲc	117.8	129.0	—	縁ナデ、ハナメ	縁ナデ・ナデ	黄褐色 (10YR7-6)	12.5A-黄褐色 (10YR6-4)	白色砂粒	具
第29図	5	II S07	Ⅲc	62.9	—	—	ナデ	ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR6-4)	12.5A-黄褐色 (10YR6-4)	白色砂粒	具
第30図	1	II S14	Ⅲc	69.0	125.0	—	磨滅	磨滅	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第30図	2	II S14	Ⅲc	119.0	182	6.8	縁ナデ、ハナメ	縁ナデ	褐色 (2.5YR6-6)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第30図	3	II S14	Ⅲc	101.9	—	8.0	磨滅	工具痕跡?	褐色 (2.5YR6-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	具
第30図	4	II S14	Ⅲc	135.1	—	6.0	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR6-6)	12.5A-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	1	II S22	Ⅲc	144	362	6.0	縁ナデ・ナデ、 ハナメ	縁ナデ・ナデ	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	2	II S22	Ⅲc	170.8	—	7.4	ナデ	ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR6-4)	褐色 (10YR6-1)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	3	II S22	Ⅲc	147.1	119.0	—	縁ナデ	縁ナデ	灰黄色 (10YR6-2)	12.5A-黄褐色 (10YR7-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	4	II S22	Ⅲc	95.1	120.0	—	縁ナデ・肩折直 取・ナデ	ナデ	12.5A-褐色 (7.5YR7-4)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	5	II S22	Ⅲc	65.3	—	—	縁ナデ・ナデ	ハナメ・ナデ ナ?	黄褐色 (10YR7-6)	黄褐色 (10YR7-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	6	II S22	Ⅲc	119.3	—	6.6	ナデ	磨滅	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	7	II S22	Ⅲc	131.4	—	5.6	ナデ	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-4)	黄褐色 (10YR7-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第32図	8	II S22	Ⅲc	101.0	—	—	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8-4)	黄褐色 (10YR6-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第33図	1	II S23	Ⅲc	66.8	—	7.6	工具痕	磨滅	褐色 (2.5YR6-6)	12.5A-黄褐色 (10YR5-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第34図	1	II S24	Ⅲc	145.0	—	7.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第35図	1	II S29	Ⅲc	133.9	—	—	縁ナデ・ナデ	縁ナデ・ナデ	灰黄色 (10YR8-2)	12.5A-黄褐色 (10YR5-3)	石灰、角閃石	具
第35図	2	II S29	Ⅲc	146.9	—	—	縁ナデ	縁ナデ・ナデ	浅黄褐色 (10YR8-3)	浅黄褐色 (10YR8-3)	石灰、白色砂粒	具
第35図	3	II S29	Ⅲc	135.9	—	—	磨滅	磨滅	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、白色砂粒	具
第35図	4	II S29	Ⅲc	158.1	142.5	—	縁ナデ・ナデ ナ?	ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR6-2)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第35図	5	II S29	Ⅲc	144.1	122.9	—	縁ナデ・ナデ ナデ・肩折直取 ナ?	ナデ	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、白色砂粒	具
第36図	6	II S29	Ⅲc	119.0	27.6	—	縁ナデ・ナデ	縁ナデ・ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)・ 灰黄褐色 (10YR6-2)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	器底部に緑泥質類に粘土を 混して焼成
第36図	7	II S29	Ⅲc	117.7	—	7.9	ナデナ?	ナデ	褐色 (5YR6-6)	灰褐色 (10YR5-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第36図	8	II S29	Ⅲc	156.1	—	5.0	肩折直取・ハナ メナ?	ナデ	浅黄褐色 (10YR8-4)	灰白色 (10YR8-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第36図	9	II S29	Ⅲc	171.1	192.3	—	ナデ、ハナメ	ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR6-2)	淡褐色 (2.5YR6-3)	石灰、白色砂粒	具
第37図	1	II S32	Ⅲc	363	276	7.8	縁ナデ・ハナメ・ ナデ・肩折直 取	縁ナデ・ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR5-2)・ 褐色 (7.5YR6-6)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、白色砂粒	肩折に豆粒状の瓦層
第37図	2	II S32	Ⅲc	112.3	114.6	—	縁ナデ、ハナメ	縁ナデ・ナデ	灰黄褐色 (10YR6-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第37図	3	II S32	Ⅲc	134.4	—	—	縁ナデ、ハナメ	縁ナデ・ナデ	灰黄褐色 (10YR6-2)	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
第37図	4	II S32	Ⅲc	119.7	120.0	—	縁ナデ・ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色砂粒	具
第37図	5	II S32	Ⅲc	116.7	20.8	—	縁ナデ・ナデ	縁ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、角閃石、白色・ 非純色砂粒	具
第38図	6	II S32	Ⅲc	111.1	118.8	—	縁ナデ・ナデ ナ?	縁ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR6-2)	12.5A-黄褐色 (10YR6-2)	石灰、白色砂粒	具
第38図	7	II S32	Ⅲc	123.1	—	—	縁ナデ	縁ナデ	浅黄褐色 (10YR8-3)	浅黄褐色 (10YR8-3)	石灰、角閃石、赤褐色砂粒	具
第38図	8	II S32	Ⅲc	25.0	207	8.0	縁ナデ・ハナメ・ ナデ	工具痕	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)・ 12.5A-褐色 (7.5YR6-4)	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	具
第38図	9	II S32	Ⅲc	86.2	—	—	縁ナデ、ハナメ・ ナデ	縁ナデ・ナデ	灰黄褐色 (10YR6-2)	灰黄褐色 (10YR6-2)	石灰、白色砂粒	具
第38図	10	II S32	Ⅲc	119.5	128.9	—	縁ナデ・ナデ	縁ナデ・ナデ	12.5A-黄褐色 (10YR5-3)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	具
第38図	11	II S32	Ⅲc	164.6	127.3	—	縁ナデ・ナデ	ナデ	褐色 (10YR5-1)	12.5A-黄褐色 (10YR7-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	具

出土土器観察表 4

図	No	出土地点 調査区	遺構番号	図柄	法製 (cm)			調整		色調		胎土	備考	
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面			
第38図	12	Ⅱ	S32	罽	10.7	27.7	—	横ナデ・ナデ・ハナメ	ナデ	浅黄褐色 (10YR6-6)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	具	
第38図	13	Ⅱ	S32	罽	10.9	—	—	横ナデ・ナデ ナ?	横ナデ・ナデ ナ?	浅黄褐色 (10YR6-3)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第38図	14	Ⅱ	S32	罽	10.1	11.6	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	灰黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石	具	
第38図	15	Ⅱ	S32	罽	10.9	—	7.8	ハナメ・ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR6-4)	灰黄褐色 (10YR6-2)	石灰、白色砂粒	具	1) 高地或高穿孔、S35 出土 器片と混在
第38図	16	Ⅱ	S32	罽	11.0	—	6.7	ハナメ	ナデ	褐色 (10YR6-6)	灰白色 (10YR8-2)	石灰、白色砂粒	具	高地或高穿孔
第38図	17	Ⅱ	S32	罽	10.4	—	5.8	ナデ	ナデ	褐色 (10YR6-6)	灰白色 (10YR8-2)	石灰、角閃石	具	
第38図	18	Ⅱ	S32	罽	10.4	—	7.2	ナデ	ナデ	褐色 (10YR6-6)	灰黄褐色 (10YR6-2)	石灰、白色砂粒	具	
第39図	19	Ⅱ	S32	罽	14.2	17.2	—	横ナデ・ハナメ	横ナデ・ハナメ	明黄褐色 (10YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	具	
第39図	20	Ⅱ	S32	罽	13.8	17.0	—	横ナデ・ナデ	ナデ	灰黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒、角閃石、雲母	具	
第39図	21	Ⅱ	S32	罽	13.8	—	—	横溝	ナデナ?	浅褐色 (2.5Y7-3)	灰黄褐色 (10YR6-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第39図	22	Ⅱ	S32	罽	12.8	14.8	—	横ナデ	横ナデ	灰黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第39図	23	Ⅱ	S32	罽	18.1	15.5	6.3	横ナデ・ナデ・ 工具縁	横ナデ・ナデ・ 工具縁	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	にんい-褐色 (7.5YR6-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第39図	24	Ⅱ	S32	罽	10.8	—	11.6	横溝	工具縁・ナデ	褐色 (7.5YR7-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、褐色砂粒、雲母	具	
第39図	25	Ⅱ	S32	罽	12.6	—	11.2	横溝	ナデナ?	明黄褐色 (10YR6-6)	明黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第39図	26	Ⅱ	S32	罽	11.0	—	11.3	横溝	ナデ	浅黄褐色 (10YR6-4)	灰黄褐色 (10YR6-2)	石灰、角閃石	具	
第40図	1	Ⅱ	S33	罽	1.5	—	—	横ナデ	横ナデ	灰黄褐色 (10YR4-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	具	口縁部小片
第41図	1	Ⅱ	S35	罽	41.0	32.6	5.3	横ナデ・ハナメ 横ナデ・ハナメ	ナデ	浅黄褐色 (10YR6-4) + 灰黄褐色 (10YR5-2)	浅黄褐色 (10YR6-4)	石灰、雲母、白色、 白色砂粒	具	
第41図	2	Ⅱ	S35	罽	13.7	14.2	—	横ナデ・ハナメ・ ナ?	ナ?	にんい-黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第41図	3	Ⅱ	S35	罽	12.6	12.6	—	横ナデ・ハナメ 横ナデ・ハナメ	ナ?	灰白色 (10YR8-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒、角閃石	具	
第42図	4	Ⅱ	S35	罽	12.6	26.1	—	横ナデ・ハナメ	横ナデ・ナデ	にんい-黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR6-2)	白色砂粒	具	
第42図	5	Ⅱ	S35	罽	12.6	25.4	—	横ナデ・ナデ	ナ?	にんい-褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色砂粒、角閃石	具	非常に丁寧なつくり	
第42図	6	Ⅱ	S35	罽	11.6	12.6	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	灰褐色 (7.5YR4-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-6)	石灰、白色、黑色砂粒	具	丁寧なつくり
第42図	7	Ⅱ	S35	罽	13.8	17.7	—	横ナデ	横ナデ	にんい-黄褐色 (10YR6-4)	にんい-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色砂粒	具	
第42図	8	Ⅱ	S35	罽	10.4	12.2	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	にんい-黄褐色 (10YR6-2)	灰黄褐色 (10YR6-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第42図	9	Ⅱ	S35	罽	12.6	12.6	—	横ナデ・ハナメ	横ナデ・ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6-4)	浅黄褐色 (10YR6-4)	石灰、角閃石、白色、 赤褐色砂粒	具	断面滑しい
第42図	10	Ⅱ	S35	罽	12.6	11.6	—	横ナデ・ハナメ	ナ?	灰黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR6-2)	石灰、白色、黑色砂粒、雲母	具	
第42図	11	Ⅱ	S35	罽	12.2	11.7	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	褐色 (10YR5-1)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色、黑色砂粒、雲母	具	
第42図	12	Ⅱ	S35	罽	17.1	21.1	—	横ナデ・指環圧 痕・ナ?	ナ?	褐色 (2.5YR7-4) + 浅黄褐色 (10YR6-2)	浅黄褐色 (10YR6-4)	石灰、角閃石、雲母、 白色砂粒	具	断面縁跡あり
第42図	13	Ⅱ	S35	罽	12.8	12.1	—	横ナデ・ナデ	ナ?	灰黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色、黑色砂粒	具	胴位に1と書きいし2本の 記号
第42図	14	Ⅱ	S35	罽	11.6	21.8	—	横ナデ・ナデ	ナ?	明黄褐色 (7.5YR7-2)	にんい-褐色 (5YR7-2)	石灰、白色砂粒	具	
第42図	15	Ⅱ	S35	罽	12.7	—	—	横ナデ	横ナデ	灰白色 (2.5Y6-1)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	白色砂粒	具	内面赤彩 塗布式
第43図	16	Ⅱ	S35	罽	11.6	—	7.6	ナデ・指環圧痕	—	灰黄褐色 (10YR6-2)	—	白色砂粒	具	
第43図	17	Ⅱ	S35	罽	10.7	—	9.2	ナデ・指環圧 痕・ナ?	ナ?	褐色 (7.5YR7-6)	灰褐色 (10YR6-4)	石灰、白色、黑色砂粒	具	
第43図	18	Ⅱ	S35	罽	10.8	—	7.4	ナデ	ナ?	褐色 (7.5YR7-6)	灰褐色 (10YR6-1)	白色砂粒	具	
第43図	19	Ⅱ	S35	罽	11.3	—	7.5	ナデ・ハナメ	ナ?	褐色 (7.5YR6-6)	にんい-黄褐色 (10YR6-2)	石灰、白色、黑色砂粒	具	
第43図	20	Ⅱ	S35	罽	11.9	—	8.2	ナ?	ナ?	灰褐色 (7.5YR6-2)	灰黄褐色 (10YR5-2)	石灰、白色砂粒	具	
第43図	21	Ⅱ	S35	罽	23.8	15.8	5.8	横ナデ・ハナメ ナ?ナ?	横ナデ・ナデ	にんい-褐色 (2.5YR7-4)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色、黑色砂粒	具	
第43図	22	Ⅱ	S35	罽	0.6	—	—	横ナ?	横ナ?	にんい-黄褐色 (10YR6-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	
第43図	23	Ⅱ	S35	罽	11.2	11.5	—	横ナデ・ハナメ ナ?ナ?ナ?	ナ?	にんい-褐色 (2.5YR5-4)	にんい-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色、黑色砂粒	具	
第43図	24	Ⅱ	S35	罽	11.2	—	6.0	横溝	横溝	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、雲母、 白色砂粒	具	
第43図	25	Ⅱ	S35	罽	11.6	—	11.8	ハナメ・ナデ	横溝	にんい-黄褐色 (10YR7-2)	浅黄褐色 (10YR6-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	具	

出土土器観察表 5

図	No	出土地点 調査区 調査番号	砂眼	法量 (cm)			形状		色澤		胎土	焼成	備考	
				器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面				
														器高
第43図	26	Ⅱ	S25	蓋	97	—	280	ナデ、ハナメ、 工具ナデ	ナデ	12-61-黄褐色 (10YR6/4)	12-61-黄褐色 (10YR6/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	蓋	
第43図	1	Ⅱ	S37	甕	68.3	68.6	—	横ナデ、ハナメ	ナデ、工具根	褐色 (2.5YR7/8)、 灰青褐色 (10YR6/4)	灰青褐色 (10YR6/4)	白色砂粒	甕	輪切不確定
第43図	2	Ⅱ	S37	甕	68.3	—	—	横ナデナリ、ナ デナリ、ハナメ	陶威	灰青褐色 (10YR6/4)	灰青褐色 (10YR6/4)	白色砂粒	甕	
第43図	3	Ⅱ	S37	甕	69.6	—	8.6	ハナメ、ハナメ 横ナデ	ナデ、工具根	褐色 (2.5YR7/8)	12-61-黄褐色 (10YR6/4)	白色、黑色砂粒	甕	
第43図	4	Ⅱ	S37	甕	67.6	—	8.4	ナデ	ナデ	褐色 (2.5YR7/8)	灰青褐色 (10YR6/4)	石質、白色砂粒	甕	
第46図	1	Ⅱ	S28	甕	67.8	—	—	横ナデ	横ナデ、ナデ	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	12-61-黄褐色 (2.5YR6/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	2	Ⅱ	S28	甕	65.6	—	—	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	12-61-褐色 (2.5YR6/4)	褐色 (2.5YR6/6)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	3	Ⅱ	S28	甕	62.7	—	—	横ナデ	ナデ	灰青褐色 (2.5YR8/2)	12-61-黄褐色 (10YR7/3)	石質、白色砂粒	甕	
第46図	4	Ⅱ	S28	甕	63.6	—	—	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	明黄褐色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	5	Ⅱ	S28	甕	62.6	—	—	横ナデ	ナデ	灰褐色 (2.5YR7/2)	12-61-褐色 (2.5YR6/3)	石質、白色砂粒	甕	
第46図	6	Ⅱ	S28	甕	65.9	—	—	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	褐色 (2.5YR6/6)	褐色 (5YR7/6)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	7	Ⅱ	S28	甕	66.6	—	—	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	明赤褐色 (2.5YR5/6)	明赤褐色 (2.5YR5/6)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	8	Ⅱ	S28	甕	66.6	—	6.4	ナデ	ナデ	褐色 (2.5YR7/6)	陶威 (2.5YR5/2)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	9	Ⅱ	S28	甕	64.3	—	7.6	ハナメ、横ナデ	ナデ	灰青褐色 (10YR8/4)	灰青褐色 (10YR8/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	10	Ⅱ	S28	甕	66.6	—	8.0	ハナメ	ナデ	褐色 (2.5YR6/6)	灰青褐色 (10YR6/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	11	Ⅱ	S28	甕	18.6	117.0	—	横ナデ	横ナデ	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第46図	12	Ⅱ	S28	蓋	62.6	—	—	ハナメ、横ナデ	ナデ	12-61-褐色 (2.5YR7/6)	灰褐色 (2.5YR5/2)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第47図	1	Ⅱ	S29	甕	69.5	67.2	—	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	12-61-黄褐色 (2.5YR6/4)、 12-61-黄褐色 (10YR6/3)	灰青褐色 (10YR8/4)	石質、白色砂粒	甕	
第47図	2	Ⅱ	S29	甕	32.8	28.6	8.3	横ナデ、ハナメ、 工具根	横ナデ、ハナメ、 工具根	12-61-黄褐色 (10YR7/4)、 灰褐色 (10YR5/1)、 灰褐色 (10YR6/3)	12-61-黄褐色 (10YR7/4)、 12-61-黄褐色 (10YR6/3)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第47図	3	Ⅱ	S29	甕	62.6	67.1	—	横ナデ、ハナメ 横ナデ、ハナメ	横ナデ、ナデ	12-61-黄褐色 (10YR5/3)	褐色 (2.5YR7/6)	石質、白色砂粒	甕	丁字なつくり
第47図	4	Ⅱ	S29	甕	64.6	—	—	ナデ	ナデ	灰青褐色 (10YR8/4)	灰青褐色 (10YR8/4)	石質、明褐色、白色 砂粒	甕	
第47図	5	Ⅱ	S29	甕	67.6	—	—	横ナデ、ハナメ	横ナデ、ナデ	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第47図	6	Ⅱ	S29	甕	62.3	—	—	横ナデ	横ナデ	褐色 (2.5YR7/6)、 灰褐色 (2.5YR7/4)	12-61-褐色 (2.5YR7/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第48図	7	Ⅱ	S29	甕	63.3	—	8.8	ナデ	陶威	灰青褐色 (10YR8/4)	灰青褐色 (10YR8/4)	石質、褐色、白色砂 粒	甕	
第48図	8	Ⅱ	S29	甕	63.6	—	8.5	ナデ	陶威	12-61-黄褐色 (10YR6/3)	灰青褐色 (10YR8/4)	石質、白色砂粒	甕	
第48図	9	Ⅱ	S29	甕	65.3	—	7.2	工具ナデ、ナデ	ナデナリ	12-61-黄褐色 (10YR6/4)	褐色 (2.5Y7/3)	石質、白色砂粒	甕	
第48図	10	Ⅱ	S29	甕	67.6	—	7.2	ナデ	ナデ	褐色 (5YR7/6)	灰褐色 (2.5YR5/2)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第48図	11	Ⅱ	S29	甕	62.6	64.2	—	ナデ	ナデ	12-61-黄褐色 (10YR5/3)	灰青褐色 (10YR5/3)	石質、白色砂粒	甕	
第48図	12	Ⅱ	S29	甕	62.6	—	7.0	ナデ、ハナメ ナリ、工具根	ナデ	灰青褐色 (10YR5/2)、 褐色 (10YR5/1)	灰青褐色 (10YR8/4)	石質、黄閃石、黒砂 粒、褐色、白色砂粒	甕	
第48図	13	Ⅱ	S29	蓋	62.6	—	—	横ナデ	横ナデ	12-61-褐色 (2.5YR5/3)	12-61-黄褐色 (10YR4/3)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第49図	1	Ⅱ	S40	甕	67.7	—	—	横ナデ	ナデ	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	石質、白色砂粒	甕	
第49図	2	Ⅱ	S40	甕	66.6	—	8.2	ハナメ、粗面瓦 根	陶威	灰青褐色 (2.5YR8/4)、 褐色 (2.5YR7/6)	12-61-黄褐色 (10YR7/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第49図	3	Ⅱ	S40	甕	22.6	23.0	8.0	粗面瓦根、横ナ デ	陶威	12-61-褐色 (2.5YR7/4)、 褐色 (2.5YR6/6)	灰青褐色 (10YR8/4)	石質、黄閃石、白色 砂粒	甕	
第50図	1	Ⅱ	S46	甕	64.6	—	6.6	ナデ	陶威	12-61-黄褐色 (10YR5/4)	灰青褐色 (10YR5/2)	石質、白色砂粒	甕	
第51図	1	Ⅱ	S46	甕	14.6	—	—	横ナデ、横ナデ	横ナデ	灰青褐色 (2.5YR8/4)	灰青褐色 (2.5YR8/4)	石質、白色、赤褐色 砂粒	甕	
第51図	2	Ⅱ	S46	甕	63.6	—	—	横ナデ、ハナメ	ナデ	12-61-黄褐色 (10YR5/3)	12-61-褐色 (2.5YR6/4)	石質、黄閃石、黒砂 粒	甕	
第51図	3	Ⅱ	S46	甕	63.6	—	—	ナデ	ナデ	灰青褐色 (10YR8/2)	灰青褐色 (10YR8/2)	石質、白色砂粒	甕	

出土土器観察表 6

図	No	出土地点	遺物番号	図柄	法量 (cm)			調整		色調		胎土	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
第51図	4	Ⅲ	S48	変	53.0	—	53.0	ハナメ	ナデ	12.5A-褐色 (7.5YR7-4)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、白色、黑色砂粒	良
第51図	5	Ⅲ	S48	変	48.0	—	48.0	ハナメ・ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (10YR8-4)	石灰、角閃石、雲母、白色砂粒	良
第51図	6	Ⅲ	S48	変	53.0	—	—	陶質	陶質	12.5A-褐色 (7.5YR6-4)	12.5A-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	良
第51図	7	Ⅲ	S48	変	53.0	50.0	—	陶質	陶質	褐色 (10YR8-4)	褐色 (10YR8-4)	石灰、白色砂粒	良
第52図	1	1	S02	変	55.0	41.0	—	横ナデ・ハナメ	陶質	12.5A-黄褐色 (10YR7-3)	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)	赤色砂粒、黒砂粒	良
第52図	2	1	S02	変	60.0	—	—	陶質	陶質	褐色 (7.5YR7-6)	黄褐色 (10YR8-6)	石灰、白色砂粒	良
第52図	3	1	S02	変	57.0	—	(13.0)	陶質	ハナメ	12.5A-褐色 (7.5YR7-2)	12.5A-褐色 (7.5YR7-2)	石灰、黒砂粒	良
第52図	4	1	S02	変	48.0	—	50	ハナメ・ナデ	ハナメ・陶質 胎土	12.5A-褐色 (7.5YR7-2)	12.5A-褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色、赤色砂粒	良
第52図	5	1	S02	変	48.0	48.0	—	横ナデ・ハナメ 胎土	ナデ	浅黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	石灰、黒砂粒	良
第52図	6	1	S02	変	57.0	44.0	—	横ナデ・ナデ	ナデ	12.5A-褐色 (7.5YR7-3)	12.5A-褐色 (7.5YR7-3)	黒砂粒	良
第52図	7	1	S02	変	53.0	—	10.0	陶質	陶質	12.5A-褐色 (7.5YR7-3)	12.5A-褐色 (7.5YR7-2)	石灰、黒砂粒	良
第52図	8	1	S02	変	48.0	—	—	横ナデ	陶質	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、黒砂粒	良
第52図	9	1	S02	変	102.0	—	—	横ナデ・ハナメ・ ナデ	陶質	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	良
第53図	1	1	S05	変	205.0	115.0	—	横ナデ・ハナメ・ ナデ	横ナデ・ハナメ	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、白色砂粒	良
第53図	2	1	S05	変	115.0	117.0	—	横ナデ・ハナメ	ナデ・ハナメ	褐色 (7.5YR4-4)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、雲母、白色砂粒	良
第53図	3	1	S05	変	144.0	118.0	—	横ナデ・ハナメ	ハナメ胎土 ナデ・ハナメ	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR6-9)	石灰、角閃石、白色砂粒	良
第54図	4	1	S05	変	227.0	110.0	—	横ナデ・ハナメ ハナメ胎土	横ナデ・ハナメ 胎土	12.5A-褐色 (7.5YR7-4)	12.5A-褐色 (7.5YR7-2)	石灰、雲母、白色砂粒	良
第54図	5	1	S05	変	110.0	—	—	ハナメ胎土 ナデ・ハナメ	ハナメ	褐色 (5YR6-6)	褐色 (5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第54図	6	1	S05	変	112.0	—	—	ハナメ胎土 ナデ・ハナメ・ナデ	横ナデ・ハナメ	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	褐色 (7.5YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	良
第54図	7	1	S05	変	102.0	—	—	ハナメ胎土 ナデ	ナデ	12.5A-褐色 (7.5YR6-4)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第54図	8	1	S05	変	114.0	—	51	ハナメ胎土 胎土	ハナメ・胎土 胎土・ハナメ胎土 胎土・王冠	12.5A-黄褐色 (10YR7-3)	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	良
第54図	9	1	S05	変	63.0	—	41.0	横ナデ	ナデ	褐色 (2.5YR6-6)	灰黄褐色 (10YR8-2)	石灰、白色砂粒	良
第54図	10	1	S05	変	45.0	—	10.2	ハナメ・王冠 ナデ	ナデ・王冠 ハナメ胎土	褐色 (7.5YR7-6)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	良
第54図	11	1	S05	変	111.0	—	10.0	ハナメ	ハナメ・ナデ・ ハナメ胎土	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	良
第54図	12	1	S05	変	103.0	—	41.0	陶質	ハナメ	褐色 (7.5YR7-6)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、雲母、褐色、 白色砂粒	良
第54図	13	1	S05	変	49.0	—	13.6	ナデ	ハナメ・ハナメ 胎土	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	石灰、白色砂粒	良
第55図	14	1	S05	変	102.0	20.5	—	横ナデ・ハナメ	横ナデ・ハナメ	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第55図	15	1	S05	変	103.0	—	9.6	ナデ	ハナメ	明黄褐色 (10YR7-6)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第55図	16	1	S05	変	48.0	—	8.2	ナデ	ハナメ	12.5A-黄褐色 (10YR6-4)	12.5A-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	良
第55図	17	1	S05	変	48.0	—	4.9	ハナメ	ハナメ	褐色 (7.5YR7-6)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、褐色、白色砂粒	良
第55図	18	1	S05	変	48.0	—	3.7	ハナメ胎土	ハナメ	明黄褐色 (10YR7-6)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、角閃石、褐色、 白色砂粒	良
第55図	19	1	S05	変	48.0	—	—	ハナメ	ナデ・ハナメ	12.5A-黄褐色 (10YR6-6)	灰黄褐色 (10YR8-2)	石灰、褐色、白色砂粒	良
第55図	20	1	S05	変	125	11.4	43.0	横ナデ・ハナメ 胎土	ハナメ胎土 ハナメ	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	12.5A-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、角閃石、褐色、 白色砂粒	良
第55図	21	1	S05	変	48.0	41.0	—	横ナデ・ハナメ・ ナデ	横ナデ・ハナメ 胎土	褐色 (5YR4-4)	褐色 (5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第55図	22	1	S05	変	48.0	57.0	—	ハナメ胎土 ナデ・ハナメ 胎土	横ナデ・ハナメ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (2.5YR6-9)	石灰、白色砂粒	良
第55図	23	1	S05	変	100.0	—	—	ハナメ胎土	ハナメ・ナデ	明黄褐色 (10YR7-6)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	良

出土土器観察表 7

図	No	出土地点 調査区 遺構番号	時期	法量 (cm)			形状		色澤		胎土	地紋	備考
				器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面			
第50図	24	1 S05	遺	80.0	—	—	ヘラミダキ	ナデ、ハケメ	黄褐色 (23YR7/5)・ 暗褐色 (25YR5/3)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、褐色・白色砂	点	縞線状文
第50図	25	1 S05	遺	82.0	—	—	ヘラミダキ・ナ デ	ハケメ、工具痕 少	褐色 (5YR5/6)・ 褐色 (25YR6/3)	褐色 (25YR6/3)	石灰、白色砂粒	点	縞線状文
第50図	26	1 S05	遺	65.0	80.0	—	ヘラミダキ・ハ ケメ、底方向 ナデ	ハケメ・底方向 ハケメ・ナデ、指 痕あり	黄褐色 (25Y4/1)	褐色 (25Y4/1)	石灰、莖石、白色砂	点	
第50図	27	1 S05	遺	63.0	—	—	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	12.5Y-R褐色 (10YR7/3)	灰黄褐色 (10YR4/2)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	28	1 S05	遺	5.1	30.9	31.1	継ナデ、ハケメ	継ナデ、ハケメ	明黄褐色 (10YR7/6)	12.5Y-R褐色 (10YR7/6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第50図	29	1 S05	遺	142.0	87.0	—	継ナデ・ナデ	継ナデ・ヘラミ ダキ	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、莖石、白色砂 粒	点	
第50図	30	1 S05	高冨	66.0	127	—	継ナデ・ナデ ・工具痕	継ナデ・ナデ・ 工具痕	灰黄褐色 (10YR8/4)・ 12.5Y-R褐色 (10YR7/3)	灰黄褐色 (10YR8/4)	石灰、角閃石、莖石、 褐色、白色砂粒	点	
第50図	31	1 S05	遺	65.0	—	—	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	32	1 S05	高冨	103.0	21.8	—	継ナデ・ハケメ・ ナデ	継ナデ・ハケメ ・ナデ、ヘラミ ダキ、工具痕	灰黄褐色 (10YR8/4)	灰黄褐色 (10YR8/4)	石灰、莖石、褐色、 白色砂粒	点	
第50図	33	1 S05	高冨	67.0	—	—	継ナデ・ナデ 少?	継ナデ・ナデ	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)・ 12.5Y-R褐色 (10YR7/3)	12.5Y-R褐色 (10YR7/3)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	34	1 S05	高冨	26.1	60.0	183	継ナデ・ナデ・ ハケメ	継ナデ・ナデ・ ヘラミダキ・工 具痕	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	黄褐色 (10YR8/6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	胴部に3×所の焼成面穿孔
第50図	35	1 S05	高冨	81.2	69.0	—	継ナデ・ナデ	継ナデ	黄褐色 (7.5YR7/5)	黄褐色 (10YR7/5)	石灰、角閃石、褐色 砂粒	点	
第50図	36	1 S05	高冨	66.0	26.0	—	継ナデ・ハケメ ・ナデ	継ナデ・ナデ・ ハケメ	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	37	1 S05	高冨	20.0	242	145	継ナデ・ナデ ・ナデ、ヘラミ ダキ	継ナデ・ナデ・ ハケメ・工具痕	浅黄褐色 (7.5YR8/6)・ 黄褐色 (10YR8/6)・ 灰褐色 (10YR8/1)	黄褐色 (10YR8/6)・ 黄褐色 (10YR8/6)・ 褐色 (10YR8/1)	石灰、角閃石、褐色 砂粒	点	胴部に2×所の焼成面穿孔
第50図	38	1 S05	高冨	66.0	63.0	—	継ナデ・ナデ	継ナデ・ナデ・ ヘラミダキ	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第50図	39	1 S05	高冨	66.0	65.0	—	継ナデ・ハケメ	継ナデ・ハケメ	褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、角閃石、褐色 ・白色砂粒	点	
第50図	40	1 S05	高冨	62.0	—	114	ナデ・ハケメ・ ナデ	工具痕・ハケメ ・ナデ	12.5Y-R褐色 (10YR7/3)	12.5Y-R褐色 (10YR7/3)	石灰、角閃石、莖石、 白色砂粒	点	3×所の焼成面穿孔
第50図	41	1 S05	ジョウキ形 土器	12.0	63.0	81.0	継ナデ・ナデ・ ハケメ	継ナデ・ナデ	灰白色 (10YR8/2)	黄褐色 (10YR8/3)	白色・褐色砂粒	点	
第50図	42	1 S05	ジョウキ形 土器	14.1	60.1	128	継ナデ・ナデ	継ナデ・ナデ・ ハケメ	灰白色 (10YR8/2)	黄褐色 (10YR8/3)	石灰、莖石、白色砂 粒	点	
第50図	43	1 S05	ジョウキ形 土器	13.8	62.0	123	ナデ	ナデ・ハケメ	灰白色 (10YR8/2)	黄褐色 (10YR8/3)	石灰、褐色・白色砂 粒	点	
第50図	44	1 S05	ジョウキ形 土器	11.1	59.4	103	継ナデ・ナデ	継ナデ・ナデ	灰白色 (10YR8/2)	黄褐色 (10YR8/3)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	45	1 S05	罎	63.0	—	—	継ナデ・ナデ	ナデ	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	1	1 S06	罎	41.7	23.4	33.4	ハケメ	工具痕	褐色 (5YR7/6)・ 褐色 (25YR6/3)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	2	1 S06	罎	62.7	69.0	—	磨減	磨減	黄褐色 (7.5YR7/5)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第50図	3	1 S06	罎	65.0	62.0	—	磨減	磨減	褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第50図	4	1 S06	罎	60.6	62.0	—	磨減	磨減	褐色 (5YR8/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第50図	5	1 S06	罎	63.5	62.0	—	磨減	磨減	12.5Y-R褐色 (10YR7/3)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	6	1 S06	罎	66.2	—	—	ハケメ	磨減	褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	7	1 S06	罎	64.2	—	11.2	磨減	磨減	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	8	1 S06	罎	64.0	—	102	工具痕	ナデ	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	9	1 S06	罎	62.5	—	11.8	磨減	磨減	褐色 (5YR6/4)	褐色 (5YR6/4)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	10	1 S06	罎	64.0	—	8.8	磨減	磨減	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色砂粒	点	
第50図	11	1 S06	罎	63.0	—	10.8	磨減	磨減	明赤褐色 (2.5YR5/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第50図	12	1 S06	罎	63.0	—	102	磨減	磨減	赤黄褐色 (2.5YR7/4)	12.5Y-R褐色 (10YR7/4)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第60図	13	1 S06	罎	67.0	124.0	—	磨減	磨減	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	
第60図	14	1 S06	罎	63.0	—	—	磨減	磨減	褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	点	

出土土器観察表 8

図	No	出土地点	遺物番号	図柄	法製 (cm)		調整		色調		胎土	備考	
					器高	口径	底径	内面	外面	内面			外面
第00図	15	1	S06	壺	47.0	113.0	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR6-4)	浅黄褐色 (2.5YR6-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第00図	16	1	S06	壺	(12.7)	(25.0)	—	磨滅	ハタメ	にじみ黄褐色 (10YR6-4)	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	
第00図	17	1	S06	壺	67.3	160.0	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第00図	18	1	S06	壺	(15.3)	(16.0)	—	横ナデ・ハタメ	横ナデ・ハタメ	にじみ黄褐色 (2.5YR7-4)	にじみ黄褐色 (2.5YR7-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	断面に幾多の平行沈泥
第00図	19	1	S06	壺	62.0	—	6.0	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR6-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	断面に幾多の平行沈泥
第00図	20	1	S06	壺	62.0	—	4.0	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第00図	21	1	S06	壺	65.3	—	6.0	磨滅	磨滅	褐色 (5YR6-8)	褐色 (5YR7-3)	石灰、白色砂粒	断面に幾多の平行沈泥
第00図	22	1	S06	壺	100.0	—	6.2	磨滅	磨滅	明赤褐色 (2.5YR5-9)	明赤褐色 (2.5YR3-1)	石灰、白色砂粒	法
第00図	23	1	S06	壺	(14.7)	—	7.0	磨滅	磨滅	褐色 (5YR6-6)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	法
第00図	24	1	S06	鉢	5.4	9.1	4.0	ナデ	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	にじみ黄褐色 (2.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第00図	25	1	S06	鉢	6.0	10.0	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR6-4)	浅黄褐色 (2.5YR6-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第00図	26	1	S06	鉢	6.4	—	—	磨滅	横ナデ	褐色 (5YR7-4)	褐色 (2.5YR7-4)	石灰、白色砂粒	法
第00図	27	1	S06	鉢	6.3	10.0	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)・ 6.0粉色 (2.5YR6-2)	にじみ黄褐色 (2.5YR7-4)・ 灰褐色 (2.5YR6-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第00図	28	1	S06	鉢	(11.0)	12.7	—	磨滅	ナデ	明赤褐色 (5YR5-6)	明赤褐色 (5YR5-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第00図	29	1	S06	鉢	6.3	(15.0)	—	磨滅	磨滅	褐色 (5YR6-9)	褐色 (5YR6-6)	石灰、白色砂粒	法
第00図	30	1	S06	鉢	(12.3)	(17.0)	—	磨滅	磨滅	明赤褐色 (2.5Y5-9)	明赤褐色 (2.5Y5-9)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	31	1	S08	鉢小?	6.3	—	6.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR6-6)	浅黄褐色 (2.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	32	1	S06	高杯	6.0	6.0	—	ナデ小?	磨滅	褐色 (5YR6-6)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	33	1	S06	高杯	6.7	10.0	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR6-6)	浅黄褐色 (2.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	34	1	S06	高杯	(12.5)	—	13.7	ハタメ小?	工具痕	褐色 (2.5YR6-8)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	35	1	S06	高杯	6.3	6.3	—	工具痕小?	工具痕	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	36	1	S06	器台	(11.3)	13.0	—	磨滅	工具痕	にじみ黄褐色 (10YR7-3)	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	石灰、角閃石、雲母、白色砂粒	法
第01図	37	1	S06	器台	(12.5)	—	10.6	磨滅	磨滅	褐色 (5YR6-6)	灰黄色 (5YR5-1)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	38	1	S06	ジョッキ形土器	6.7	01.6	—	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR8-4)	にじみ黄褐色 (10YR7-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	39	1	S06	ジョッキ形土器	6.0	—	14.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-4)	にじみ黄褐色 (10YR7-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第01図	40	1	S06	ジョッキ形土器	6.3	—	14.0	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (2.5YR7-4)	にじみ黄褐色 (2.5YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第02図	1	1	S09	鉢	11.3	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第02図	2	1	S09	高杯	(14.0)	(12.0)	—	ナデ・ハタメ	ナデ	浅黄褐色 (2.5YR6-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第02図	3	1	S09	器台	47.0	—	6.3	磨滅	磨滅	褐色 (5YR6-9)	褐色 (5YR6-9)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第03図	1	1	S10	壺	32.4	(17.7)	11.1	磨滅	ハタメ	褐色 (2.5YR6-9)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第03図	2	1	S10	壺	62.0	(19.7)	—	ナデ・ハタメ	断面に幾多の平行沈泥	褐色 (2.5YR6-6)	赤灰色 (2.5YR5-1)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第03図	3	1	S10	壺	69.1	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR6-6)・ 浅黄褐色 (2.5YR6-8)	褐色 (2.5YR7-4)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第03図	4	1	S10	鉢	(10.0)	(10.0)	—	ハタメ・ナデ	磨滅	2.5YR6-9)・ 5YR6-9)・ (2.5YR6-8)	明赤褐色 (2.5YR6-9)	石灰、角閃石、白色砂粒	法
第03図	1	1	S12	壺	(11.2)	(23.0)	—	横ナデ・ハタメ	ハタメ	褐色 (2.5YR7-6)・ 浅黄褐色 (2.5YR6-8)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、雲母、銅色、白色砂粒	法
第03図	2	1	S12	壺	6.6	(13.3)	—	磨滅	ハタメ	黄褐色 (2.5YR7-6)	黄褐色 (2.5YR6-8)	石灰、白色砂粒	法
第03図	3	1	S12	壺	—	(10.0)	12.4	ハタメ小?	ハタメ小?	黄褐色 (10YR8-5)・ 褐色 (5YR7-6)	黄褐色 (10YR8-6)	石灰、白色砂粒	法
第03図	4	1	S12	壺	6.3	01.0	—	磨滅	磨滅	明赤褐色 (10YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂粒	法
第03図	5	1	S12	壺	(15.0)	01.6	—	ハタメ小?	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂粒	法
第03図	6	1	S12	壺	(11.0)	(10.0)	—	横ナデ・ハタメ	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR6-3)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、銅色、白色砂粒	法
第03図	7	1	S12	壺	26.3	(22.0)	—	磨滅	ハタメ	褐色 (2.5YR7-6)・ 2.5YR7-9)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂粒	法

出土土器観察表 9

図	No	出土地点 調査区	遺物番号	形状	法量 (mm)			測計		色調		胎土	焼成	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面			
第65図	8	1	S12	変	021	06.0	—	ハケメ	横ナデ、ハケメ	浅黄褐色 (10YR5-4)	黄褐色 (10YR5-6)	石灰、白色砂粒	良	
第66図	9	1	S12	変	0313	06.0	—	ハケメ	ハケメ	12.0-黄褐色 (10YR7-4) 褐色 (7.5YR5-2)	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、黄四石、白色砂粒	良	
第67図	10	1	S12	変	0023	07.0	—	横ナデ、ハケメ、ナデ	横底	12.0-黄褐色 (10YR7-2)	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第68図	11	1	S12	変	027	04.5	—	ハケメ横ナデ、ハケメ	ハケメ横ナデ、ハケメ	褐色 (5YR7-8)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第69図	12	1	S12	変	036	03.0	—	横ナデ、ハケメ	ハケメ横ナデ、ハケメ	12.0-褐色 (10YR7-4)	浅黄褐色 (10YR5-4)	石灰、白色砂粒	良	
第70図	13	1	S12	変	001	07.0	—	ハケメ横ナデ	ナデ、ハケメ	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	良	
第71図	14	1	S12	変	006	00.0	—	ハケメ横ナデ、ハケメ	ハケメ横ナデ、ハケメ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄母、白色砂粒	良	
第72図	15	1	S12	変	002	06.0	—	ハケメ	ハケメ	浅黄褐色 (10YR5-4)	浅黄褐色 (10YR5-4)	石灰、白色砂粒	良	
第73図	16	1	S12	変	016	07.0	—	横底	横ナデ、ハケメ	黄褐色 (10YR5-6)	12.0-黄褐色 (7.5YR6-4)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第74図	17	1	S12	変	012	17.4	—	ハケメ	ハケメ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第75図	18	1	S12	変	003	03.0	12.0	横ナデ、ナデ、横ナデ、ハケメ、ハケメ横ナデ	ハケメ	黄褐色 (10YR7-4)	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、黄母、白色砂粒	良	
第76図	19	1	S12	変	079	19.4	—	横ナデ、ナデ、横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ	黄褐色 (10YR5-6)	黄褐色 (10YR5-6)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第77図	20	1	S12	変	072	03.0	—	ナデ、横ナデ	ハケメ	黄褐色 (7.5YR7-8)	黄褐色 (7.5YR7-8)	石灰、茶色、白色砂粒	良	
第78図	21	1	S12	変	012	03.0	—	横ナデ、ナデ、横ナデ、ハケメ	横底	10YR5-6、 12.0-黄褐色 (10YR5-2)	黄褐色 (10YR5-6)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第79図	22	1	S12	変	008	00.0	—	ナデ、ナデ、ナデ、横ナデ	ハケメ	黄褐色 (10YR5-6)	浅黄褐色 (10YR5-4)	石灰、白色砂粒	良	
第80図	23	1	S12	変	041	07.0	—	ナデ、横ナデ	ハケメ、ハケメ横ナデ	浅黄褐色 (10YR5-4)	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第81図	24	1	S12	変	010	07.0	—	ナデ、横ナデ	横底	黄褐色 (10YR5-6)	黄褐色 (10YR5-6)	石灰、茶色、白色砂粒	良	
第82図	25	1	S12	変	00	—	—	横底	横底	12.0-黄褐色 (7.5YR6-4)、 12.0-褐色 (7.5YR5-2)	12.0-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	良	
第83図	26	1	S12	変	002	—	—	ナデ	ハケメ横ナデ	褐色 (5YR7-8)	12.0-褐色 (7.5YR7-4)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第84図	27	1	S12	変	03	0	—	赤母	横底	褐色 (2.5YR5-8)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、茶色、白色砂粒	良	
第85図	28	1	S12	変	020	—	007	ハケメ横ナデ	ハケメ、土具類、ハケメ	黄褐色 (7.5YR5-6)	黄褐色 (7.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂粒	良	胎土に3×5mm程度の黄母が散入。
第86図	29	1	S12	変	038	—	017	ハケメ、ハケメ横ナデ	ハケメ	12.0-黄褐色 (10YR7-4) 黄褐色 (10YR5-6)	黄褐色 (10YR5-6)	石灰、白色砂粒	良	
第87図	30	1	S12	変	05	—	127	横底	ハケメ	茶褐色 (10R5-8)、 浅黄褐色 (10YR5-4)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄母、白色砂粒	良	
第88図	31	1	S12	変	00	—	110	ナデ	横ナデ	黄褐色 (10YR7-8)、 灰黄褐色 (10YR6-2)	黄褐色 (10YR7-6)、 灰黄褐色 (10YR5-2)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第89図	32	1	S12	変	06	—	030	ハケメ横ナデ	ハケメ横ナデ	茶褐色 (10R5-6)	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、茶色、白色砂粒	良	
第90図	33	1	S12	変	09	—	033	ナデ、ハケメ、横ナデ	ハケメ	褐色 (2.5YR6-6、 7.5YR7-6)	浅黄褐色 (7.5YR6-6)、 黄褐色 (7.5YR5-2)	石灰、褐色、白色砂粒	良	任意（1×1cm）底部内面
第91図	34	1	S12	変	022	—	138	ハケメ	横ナデ	褐色 (5YR7-8)、 黄褐色 (10YR5-6)	黄褐色 (7.5YR6-8)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第92図	35	1	S12	変	005	—	130	ハケメ	ハケメ	浅黄褐色 (10YR5-4)	黄褐色 (10YR5-6)	石灰、黄母、褐色、白色砂粒	良	
第93図	36	1	S12	変	030	—	736	ハケメ、ナデ	ナデ	12.0-褐色 (7.5YR6-2)	12.0-褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色砂粒	良	
第94図	37	1	S12	変	10	—	90	横底	横底	12.0-褐色 (5YR7-4)、 灰黄褐色 (10YR5-4)	12.0-褐色 (5YR7-4)、 灰黄褐色 (10YR5-4)	石灰、白色砂粒	良	
第95図	38	1	S12	変	030	—	002	横底	横底	褐色 (2.5YR6-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第96図	39	1	S12	変	10	—	114	ハケメ横ナデ	ハケメ、横ナデ	灰黄褐色 (10YR5-2)	灰黄褐色 (10YR5-2)	石灰、褐色、白色砂粒	良	
第97図	40	1	S12	変	07	—	032	横底	横底	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第98図	41	1	S12	変	020	—	120	ハケメ横ナデ	ハケメ、土具類	浅黄褐色 (7.5YR6-6)	黄褐色 (7.5YR5-8)	石灰、白色砂粒	良	
第99図	42	1	S12	変	00	—	004	横底	横底	黄褐色 (10YR5-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、茶色、褐色、白色砂粒	良	
第100図	43	1	S12	変	00	—	128	横底	横底	浅黄褐色 (10YR5-4)	12.0-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、茶色、白色砂粒	良	
第101図	44	1	S12	変	07	—	123	横底	横底	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、茶色、白色砂粒	良	

出土土器観察表 10

図	No	出土地点	遺物番号	器種	法製 (cm)			調整		色調		胎土	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
第68図	45	I	S12	壺	72.5	42.5	—	横ナデ、ハケメ	横ナデ	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、赤石、褐色、 白色砂粒	良
第68図	46	I	S12	壺	88.5	11.5	—	横ナデ、ハケメ	磨滅	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第68図	47	I	S12	壺	68.5	14.5	—	ハケメ	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	黄褐色 (10YR6-6)	石灰、褐色、白色	良
第68図	48	I	S12	壺	68.5	17.5	—	ハケメ後ナデ、 ナデ、ハケメ	ハケメ後ナデ、 ナデ	褐色 (5YR7-6)	にじみ褐色 (2.5YR7-4)	石灰、角閃石、白色 砂粒	良
第68図	49	I	S12	壺	63.5	—	—	ナデ	磨滅	浅黄褐色 (10YR6-6)、 茶褐色 (10YR2-1)	浅黄褐色 (10YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第68図	50	I	S12	壺	67.5	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂 粒	良
第68図	51	I	S12	壺	100.5	13.5	—	横ナデ、ハケメ 横ナデ、ナデ	ハケメ後横ナ デ、ナデ	褐色 (2.5YR7-6)	にじみ褐色 (2.5YR7-4)	石灰、褐色、白色砂 粒	良
第68図	52	I	S12	壺	100.5	11.5	—	横ナデ、ナデ	ハケメ後ナデ、 ナデ、ハケメ	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、赤褐色、白色 砂粒	良
第68図	53	I	S12	壺	65.5	12.5	—	ナデ	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂 粒	良
第68図	54	I	S12	壺	47.5	13.5	—	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	褐色 (2.5YR7-6)	にじみ黄褐色 (10YR6-4)	石灰、角閃石、茶色、 白色砂粒	良
第68図	55	I	S12	壺	61.5	—	—	ハケメ	磨滅	浅黄褐色 (10YR6-4)	浅黄褐色 (10YR6-2)	石灰、赤石、褐色、 白色砂粒	良
第68図	56	I	S12	壺	65.5	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR6-4)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第68図	57	I	S12	鉢	72.5	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR6-4)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂 粒	良
第68図	58	I	S12	鉢	61.5	—	—	ハケメ	ナデ	にじみ黄褐色 (10YR7-6)、 黄褐色 (10YR4-1) (10YR4-1)	黄褐色 (10YR4-1)	石灰、白色砂粒	良
第68図	59	I	S12	鉢	66.5	—	—	磨滅	磨滅	明黄褐色 (10YR6-6)	明黄褐色 (10YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第68図	60	I	S12	鉢	77	10.5	4.5	ナデ、角縁直取	ハケメ後ナデ、 ナデ	にじみ褐色 (2.5YR6-4)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第69図	61	I	S12	鉢	84	14.4	—	ナデ、ハケメ後 ナデ	工肌ナデ	にじみ黄褐色 (10YR6-2)	黄褐色 (10YR5-1)	石灰、褐色、白色砂 粒	良
第69図	62	I	S12	鉢	61.5	13.5	—	横ナデ	磨滅	褐色 (2.5YR6-6)、 浅黄褐色 (10YR6-4)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、茶色、白色砂 粒	良
第69図	63	I	S12	鉢	62.5	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第69図	64	I	S12	鉢	63.5	14.5	—	横ナデ、ハケメ	ナデ	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	にじみ黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	良
第69図	65	I	S12	鉢	63.5	—	—	ハケメ後横ナ デ、ハケメ	ナデ	灰黄褐色 (10YR6-2)	にじみ黄褐色 (10YR6-2)	石灰、白色砂粒	良
第69図	66	I	S12	鉢	63.5	—	—	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第69図	67	I	S12	鉢	63.5	13.5	—	磨滅	ハケメ	にじみ褐色 (2.5YR7-4)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第69図	68	I	S12	鉢	103.5	19.5	—	ハケメ後ナデ、 ナデ、ハケメ	磨滅	明黄褐色 (10YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、褐色、白色砂 粒	良
第69図	69	I	S12	鉢	108.5	—	13.5	ナデ、ハケメ	ナデ、横ナデ	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、褐色、白色砂 粒	良
第69図	70	I	S12	高坏	65.5	6.5	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR6-2)	浅黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色砂粒	良
第69図	71	I	S12	高坏	63.5	6.5	—	横ナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	黄褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第69図	72	I	S12	高坏	64.5	—	—	磨滅	横ナデ、ハケメ	褐色 (2.5YR7-6)	にじみ褐色 (2.5YR6-4)	石灰、白色砂粒	良
第69図	73	I	S12	高坏	63.5	—	—	横ナデ、ナデ	磨滅	褐色 (2.5YR6-6)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第69図	74	I	S12	高坏	63.5	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第69図	75	I	S12	高坏	63.5	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR6-4)	浅黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色砂粒	良
第69図	76	I	S12	高坏	63.5	—	—	磨滅	磨滅	灰白色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR6-2)	石灰、角閃石、褐色、 白色砂粒	良
第69図	77	I	S12	高坏	63.5	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR6-4)	石灰、白色砂粒	良
第69図	78	I	S12	高坏	63.5	—	13.5	磨滅	ハケメ	暗褐色 (2.5YR5-6)	暗褐色 (2.5YR5-6)	石灰、角閃石、茶色、 白色砂粒	良
第69図	79	I	S12	甕	63.5	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色 (10YR5-2)	灰黄褐色 (10YR5-2)	石灰、角閃石、白色 砂粒	良
第69図	80	I	S12	甕	63.5	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	浅黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色砂粒	良
第69図	81	I	S12	甕	63.5	—	—	横ナデ	磨滅	褐色 (2.5YR6-6)	褐色 (2.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良
第71図	1	I	S13	甕	62.5	—	—	横ナデ	横ナデ	にじみ褐色 (2.5YR6-4)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	良
第71図	2	I	S13	甕	63.5	—	—	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ	にじみ黄褐色 (10YR6-2)	にじみ褐色 (10YR6-6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	良
第71図	3	I	S13	甕	63.5	—	—	横ナデ	横ナデ、ハケメ	にじみ褐色 (2.5YR7-4)	褐色 (2.5YR7-6)	石灰、角閃石、白色 砂粒	良
第71図	4	I	S13	甕	63.5	—	—	横ナデ	横ナデ	褐色 (5YR6-6)	明赤褐色 (2.5YR3-6)	白色砂粒	良 内面赤帯

出土土器観察表 11

図号	No	出土地点 調査区 調査番号	形状	法量 (cm)			測計				胎土	産地	備考	
				器高	口径	底径	内面	外面	外面	内面				
第72図	5	1 S13	甕	106.2	—	—	ハケム黒土ナ デ・ハケムナ デ	緑ナデ・ハケム	12.45-褐色 (7.5V87-4) 灰褐色 (7.5V84-2)	12.45-褐色 (7.5V87-4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	6	1 S13	甕	143	—	110.7	ハケム・ナデ	ナデ・緑ナデ	褐色 (5.5V87-8)	12.45-褐色 (7.5V85-4) 緑色 (7.5V84-1)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	7	1 S13	甕	159	—	—	赤褐色	ハケム	ナデナ?	褐色 (2.5V86-8) (7.5V87-6)	褐色 (7.5V87-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具	
第72図	8	1 S13	甕	149	—	111.9	緑ナデ	ハケム	褐色 (5.5V86-6)	褐色 (7.5V87-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	9	1 S13	甕	15.0	214.0	—	緑ナデ	緑ナデ	黄褐色 (10.5V87-6) 灰褐色 (10.5V85-1)	黄褐色 (10.5V86-6) 灰褐色 (10.5V84-2)	石灰、白色砂粒	具		
第72図	10	1 S13	甕	111.1	67.2	—	緑焼	緑焼	褐色 (2.5V87-6)	12.45-黄褐色 (10.5V87-4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	11	1 S13	甕	147	—	—	緑ナデ	緑ナデ	灰褐色 (7.5V85-2)	12.45-褐色 (7.5V86-4)	石灰、白色砂粒	具		
第72図	12	1 S13	甕	101	—	7.8	ナデ	ハケム	褐色 (7.5V87-4)	12.45-褐色 (7.5V87-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	13	1 S13	甕	159	—	7.8	緑焼	緑焼	黄褐色 (10.5V86-6)	褐色 (7.5V87-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	14	1 S13	鉢	145	—	—	緑焼	ハケム	褐色 (7.5V87-6)	浅黄褐色 (7.5V88-4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	15	1 S13	鉢ナ?	109.0	—	112.9	緑ナデ・ナデ	ハケム・ハケム・ ナデ	12.45-褐色 (7.5V87-4)	12.45-黄褐色 (10.5V85-2)	石灰、黄閃石、黒片	具		
第72図	16	1 S13	器白	159	—	110.9	ハケム	ナデ・ハケム	褐色 (7.5V87-6)	褐色 (7.5V87-6) 緑色 (5.5V84-1)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第72図	17	1 S13	手取石土器	17.0	15.2	—	ナデ、灰褐色瓦	ナデ	浅黄褐色 (10.5V88-4)	浅黄褐色 (10.5V88-2)	石灰、黄閃石	具		
第72図	18	1 S13	甕	142	—	—	緑ナデ・ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10.5V88-6)	浅黄褐色 (7.5V88-6)	石灰、白色砂粒	具		
第74図	1	1 S15	甕	16.0	114.9	—	ハケム黒土ナ ハケム	ハケム黒土ナ ハケム	褐色 (5.5V87-6)	褐色 (5.5V86-6)	石灰、白色砂粒	具		
第74図	2	1 S15	甕	145	—	—	緑ナデ・ハケム	緑ナデ・ハケム	褐色 (5.5V86-8)	褐色 (7.5V87-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第74図	3	1 S15	甕	150	—	112.0	ハケム	緑ナデ	褐色 (7.5V87-4) 緑色 (7.5V84-1)	12.45-褐色 (7.5V87-4) 緑色 (7.5V84-1)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第75図	4	1 S15	鉢	110.0	112.9	—	ハケム黒土ナ ナデ・ハケム	ハケム黒土ナ ナデ・ハケム	浅黄褐色 (10.5V88-4)	浅黄褐色 (10.5V88-2)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第75図	5	1 S15	鉢	46	9.0	2.8	ナデ	緑ナデ	褐色 (2.5V86-6)	黄褐色 (10.5V85-3)	石灰、白色砂粒	具		
第75図	6	1 S15	鉢	18.9	115.0	—	ナデ・ハケム	緑ナデ・ハケム	褐色 (5.5V86-8)	褐色 (5.5V86-6)	石灰、白色砂粒	具		
第75図	7	1 S15	鉢	17.2	119.9	—	緑ナデ・ハケム	緑ナデ・ハケム	褐色 (5.5V87-6)	褐色 (5.5V87-8)	石灰、白色砂粒	具		
第75図	8	1 S15	高杯	21.8	29.1	17.2	緑ナデ・ハケム	緑ナデ・ハケム 土直線	褐色 (5.5V87-6)	褐色 (5.5V87-8)	石灰、白色砂粒	具	断面に1ヶ所焼成痕あり	
第75図	9	1 S15	高杯	16.9	—	115.9	ナデ	ハケム	浅黄褐色 (10.5V88-3)	浅黄褐色 (10.5V88-2)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具	断面に1ヶ所焼成痕あり	
第76図	1	1 S21	甕	15.0	—	119.8	緑焼	緑焼	12.45-褐色 (7.5V87-3)	12.45-褐色 (7.5V87-3)	石灰、白色、黒色砂 粒	具		
第76図	2	1 S21	鉢	15.0	—	—	緑焼	緑焼	12.45-褐色 (7.5V87-4)	12.45-褐色 (7.5V87-2)	石灰、黒砂粒	具		
第76図	3	1 S21	高杯	14.1	—	—	緑焼	緑焼	浅黄褐色 (10.5V88-4)	浅黄褐色 (10.5V88-4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第77図	1	1 S22	甕	114.5	16.0	—	緑焼	緑焼	褐色 (7.5V87-6)	浅黄褐色 (10.5V88-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第77図	2	1 S22	甕	114.2	114.0	—	緑焼	ハケム	褐色 (7.5V88-3)	褐色 (7.5V88-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第77図	3	1 S22	甕	137	114.0	5.6	緑ナデ・ナデ	ナデ	12.45-赤褐色 (7.5V87-6)	褐色 (2.5V86-8)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具	断面に粘土片付着	
第77図	4	1 S22	甕	101	111.3	—	緑焼	緑焼	浅黄褐色 (10.5V88-4)	12.45-褐色 (7.5V87-4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第77図	5	1 S22	甕	159	—	12.4	緑焼	緑焼	褐色 (5.5V87-8)	褐色 (7.5V87-6)	石灰、白色砂粒	具		
第77図	6	1 S22	甕	147	—	116.6	緑焼	緑焼	褐色 (2.5V86-8)	褐色 (5.5V87-6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第77図	7	1 S22	甕	159	113.2	—	緑焼	緑焼	浅黄褐色 (10.5V88-4)	12.45-褐色 (7.5V87-2)	石灰、白色砂粒	具		
第77図	8	1 S22	甕	120	—	—	緑焼	緑焼	12.45-褐色 (7.5V87-4)	12.45-褐色 (7.5V87-4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第77図	9	1 S22	甕	162	119.0	—	緑焼	緑焼	褐色 (7.5V87-6)	12.45-褐色 (7.5V87-4)	石灰、白色砂粒	具		
第78図	10	1 S22	甕	15.6	11.1	2.5	ナデ	工具ナデ	褐色 (7.5V87-6) (5.5V88-1)	褐色 (7.5V87-6)	石灰、白色砂粒	具	断面欠	
第78図	11	1 S22	甕	18.9	—	17.0	緑焼	ナデ	褐色 (5.5V87-8)	褐色 (5.5V86-8)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	具		
第78図	12	1 S22	甕	16.3	—	4.8	黄焼	緑焼	浅黄褐色 (10.5V88-6)	浅黄褐色 (10.5V88-4)	石灰、白色砂粒	具		
第78図	13	1 S22	甕	2.2	—	2.0	緑焼	緑焼	褐色 (5.5V87-6)	褐色 (5.5V87-6)	石灰、白色砂粒	具		

出土土器観察表 12

図	No	出土地点 調査区	遺物番号	図柄	法製 (cm)			調整			色調		胎土	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	外面		
第78図	14	1	S22	鉢	14.0	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (3YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石質、白色砂粒	是
第78図	15	1	S22	高杯	14.0	10.0	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (3YR7-6)	褐色 (2.5YR8-6)	石質、白色砂粒	是
第78図	16	1	S22	器台	12.0	—	11.2	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (3YR7-6)	褐色 (3YR7-6)	石質、白色砂粒	是
第78図	17	1	S22	蓋	4.0	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	浅黄褐色 (2.5YR7-4)	石質、角閃石、白色砂粒	是 つまみ付4.5cm
第78図	18	1	S22	蓋	7.3	—	11.2	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (3YR7-6)	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	石質、白色砂粒	是
第78図	19	1	S22	蓋	4.3	—	7.7	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 (2.5YR8-6)	褐色 (5YR6-1)	石質、角閃石、白色砂粒	是
第78図	20	1	S22	蓋	4.1	—	7.7	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-4)	石質、白色砂粒	是
第78図	21	1	S22	支脚	全径 13.1	幅 9.1	厚 4.4	—	—	—	褐色 (3YR6-6)	—	石質	是
第81図	1	1	S28	蓋	6.1	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-3)	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-3)	石質、白色、黑色砂粒	是
第81図	2	1	S28	蓋	11.0	—	10.3	磨滅	工具痕	工具痕	1C-6.5-黄褐色 (10YR7-3)	1C-6.5-黄褐色 (10YR7-3)	石質、白色、黑色砂粒	是
第81図	3	1	S28	蓋	6.0	—	6.7	磨滅	ハケメ・磨滅	ハケメ	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-3)	明褐色 (7.5YR7-2)	石質、白色、黑色砂粒	是
第81図	4	1	S28	器台	4.0	—	8.2	磨滅	磨滅	磨滅	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-3)	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-3)	石質、白色砂粒	是
第81図	5	1	S28	鉢	4.6	17.8	—	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-4)	角閃石、白色、赤褐色砂粒	是
第81図	6	1	S28	高杯	4.0	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-3)	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-3)	石質、白色砂粒	是
第83図	1	1	S34	蓋	6.0	13.0	—	—	ナデ	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	明黄褐色 (10YR7-3)	石質、白色砂粒	是
第83図	2	1	S34	蓋	12.0	14.0	—	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)・浅黄褐色 (2.5YR8-4)	褐色 (2.5YR8-6)	石質、角閃石、白色、赤褐色砂粒	是
第83図	3	1	S34	蓋	12.0	14.0	—	磨滅	ナデ少	ナデ少	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石質、角閃石、赤母、白色砂粒	是
第83図	4	1	S34	蓋	17.2	18.0	—	ナデキ	ハケメ	磨滅	褐色 (3YR7-6)	褐色 (3YR7-6)	石質、白色砂粒	是
第83図	5	1	S34	蓋	13.0	15.2	—	ナデキ	ハケメ	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	石質、白色砂粒	是
第83図	6	1	S34	蓋	4.0	—	10.3	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	石質、角閃石、白色砂粒	是
第83図	7	1	S34	蓋	6.0	—	11.7	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-2)・赤褐色 (10YR5-6)	黄褐色 (2.5YR8-1)	石質、角閃石、赤母、白色砂粒	是
第83図	8	1	S34	蓋	6.1	—	10.3	磨滅	ナデ	ナデ	褐色 (3YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石質、角閃石、白色砂粒	是
第83図	9	1	S34	器台	11.2	11.2	—	磨滅	磨滅	磨滅	黄褐色 (2.5YR8-8)	1C-6.5-黄褐色 (10YR6-2)	石質、白色砂粒	是
第83図	10	1	S34	壺	2.2	13.2	3.0	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	石質、白色砂粒	是
第83図	11	1	S34	壺	4.0	—	3.9	磨滅	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR8-2)	黄褐色 (2.5YR7-6)	石質、角閃石、白色砂粒	是 底面に穿孔があるが遺物のためであるかは不明
第83図	12	1	S34	壺	4.0	13.0	—	ナデ	磨滅	磨滅	褐色 (3YR6-8)	褐色 (3YR6-8)	石質、角閃石、白色砂粒	是
第83図	13	1	S34	壺	13.0	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	黄褐色 (2.5YR7-6)	黄褐色 (2.5YR7-6)	石質、白色、黑色砂粒	是
第83図	14	1	S34	壺	11.0	6.9	—	ナデ	ナデ・工具痕	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	浅黄褐色 (2.5YR8-2)	石質、角閃石、赤母、白色砂粒	是
第83図	15	1	S34	鉢	4.5	11.0	—	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR6-8)	褐色 (3YR6-8)	石質、白色砂粒、角閃石	是
第83図	16	1	S34	鉢	4.2	17.6	—	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	浅黄褐色 (2.5YR8-4)	石質、角閃石、赤母、白色砂粒	是
第83図	17	1	S34	鉢	4.5	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石質、白色砂粒	是
第83図	18	1	S34	鉢	4.2	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-4)	1C-6.5-黄褐色 (10YR7-4)	石質、白色、黑色砂粒	是
第83図	19	1	S34	鉢	4.6	—	10.3	磨滅	ナデ	ナデ	褐色 (3YR7-6)	褐色 (3YR7-6)	石質、角閃石、白色砂粒	是
第83図	20	1	S34	鉢	11.2	—	17.0	ハケメ	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	石質、角閃石、白色砂粒	是
第84図	21	1	S34	高杯	4.2	—	—	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	浅黄褐色 (2.5YR8-6)	石質、白色砂粒	是
第84図	22	1	S34	高杯	10.0	10.0	—	磨滅	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7-6)	褐色 (2.5YR7-6)	石質、白色砂粒	是
第84図	23	1	S34	高杯	13.0	34.4	—	磨滅	工具痕	工具痕	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-4)	1C-6.5-褐色 (2.5YR7-4)	石質、角閃石、白色砂粒	是 杯底に穿孔に使用痕あり?
第84図	24	1	S34	高杯	4.5	15.2	—	磨滅	磨滅	磨滅	1C-6.5-黄褐色 (2.5YR7-4)	1C-6.5-黄褐色 (2.5YR7-4)	石質、角閃石、赤母、白色砂粒	是
第84図	25	1	S34	高杯	4.0	—	17.4	ナデ	ナデ少	ナデ少	浅黄褐色 (2.5YR8-4)・黄褐色 (10YR8-1)	黄褐色 (2.5YR8-1)	石質、角閃石、赤母、白色砂粒	是 4ヶ所施土穿孔
第84図	26	1	S34	器台	19.4	13.0	13.0	ハケメ・磨滅	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	褐色 (3YR7-6)	褐色 (2.5YR6-8)	石質、角閃石、白色砂粒	是
第84図	27	1	S34	ジョッキ形土器	4.0	—	13.0	磨滅	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	石質、角閃石、白色砂粒	是

出土土器観察表 13

図	No	出土地点 調査区 調査番号	形状	法量 (cm)		測計		色澤		胎土	焼成	備考
				器高	口径	底径	外径	内径	外面			
第85図	1	1 540 要	(5)0	—	—	陶流	陶流	明黄褐色 (10YR7-6)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、黄閃石、白色砂粒	良	
第85図	2	1 540 要	(5)0	—	7.0	陶流	陶流	12.5-14褐色 (7.5YR7-2)	12.5-14褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色砂粒	良	
第85図	3	1 540 要	(5)0	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、黄閃石、白色砂粒	良	
第85図	4	1 540 要	(5)50	7.0	—	陶流	陶流	褐色 (7.5YR7-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-6)、 赭色 (7.5YR4-1)	石灰、黄閃石、白色砂粒	良	
第85図	5	1 540 要	(5)3	—	7.0	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	石灰、白色、黑色砂粒	良	
第85図	6	1 540 要	(5)3	—	3.1	指頭圧痕	指頭圧痕	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第85図	7	1 540 要	(5)1	—	4.0	陶流	陶流	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR4-1)、 褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄閃石、白色砂粒	良	
第85図	8	1 540 要	(5)0	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (10YR8-2)	炭屑、白色砂粒	良	
第85図	9	1 540 鉢	(4)7	—	—	陶流	陶流	12.5-14褐色 (7.5YR7-4)	12.5-14褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色砂粒	良	
第85図	10	1 540 鉢	(4)2	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-6)、 赤褐色 (7.5YR4-1)	浅黄褐色 (7.5YR8-6)、 黄褐色 (7.5YR4-1)	石灰、白色砂粒	良	
第85図	11	1 540 鉢	(5)5 (7)2	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色砂粒	良	
第85図	12	1 540 鉢	90 (10)7	—	—	陶流	陶流	黄褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第85図	13	1 540 鉢少?	(5)0	—	8.0	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第85図	14	1 540 不明	(5)0	—	—	—	—	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄閃石、褐色白色砂粒	良	底平少?
第87図	1	1 541 要	(6)2	—	—	陶流	陶流	褐色 (5YR7-8)	褐色 (7.5YR7-6)、 褐色 (7.5YR4-1)	石灰、白色砂粒	良	
第87図	2	1 541 要	(7)1	—	—	陶流	横ナゲ・ハケメ	褐色 (5YR8-8)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色、黑色砂粒	良	
第87図	3	1 541 要	(5)0	—	8.0	陶流	陶流	褐色 (2.5YR6-6)	明赤褐色 (2.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	良	
第87図	4	1 541 要	(5)0	—	13.0	陶流	ハケメ	褐色 (5YR7-6)	12.5-14褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色砂粒	良	
第87図	5	1 541 要	(4)1 (1)2	—	—	ナゲ	—	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (2.5YR8-8)	白色砂粒	良	
第87図	6	1 541 鉢	(7)0 (1)20	—	—	陶流	陶流	褐色 (5YR8-6)、 褐色 (5YR4-1)	褐色 (5YR8-6)	石灰、白色砂粒	良	
第87図	7	1 541 高杯	(2)0	—	—	横ナゲ	横ナゲ	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第87図	8	1 541 器台	(8)0	—	11.0	ハケメ	—	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第87図	9	1 541 不明	(5)7	—	10.0	陶流	指頭圧痕	褐色 (7.5YR4-1)	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	石灰、白色砂粒	良	
第88図	1	1 542 要	(2)0	—	—	陶流	陶流	12.5-14黄褐色 (10YR7-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	白色、黑色砂粒	良	
第88図	2	1 542 要	(6)3	—	—	陶流	陶流	12.5-14黄褐色 (10YR7-2)	12.5-14黄褐色 (10YR7-2)	石灰、黄閃石、褐色白色砂粒	良	
第88図	3	1 542 要	(4)0	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	明褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色、黑色砂粒	良	
第88図	4	1 542 要	(5)0	—	10.0	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	石灰、黄閃石、白色砂粒、赤褐色砂粒	良	
第88図	5	1 542 要	(7)0	—	13.0	陶流	ナゲ	12.5-14褐色 (5YR7-4)	褐色 (5YR7-6)	石灰、白色、黑色砂粒	良	
第88図	6	1 542 要	(5)0	—	4.6	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	石灰、白色砂粒	良	
第88図	7	1 542 要	(3)1	—	7.0	陶流	ナゲ	12.5-14褐色 (7.5YR7-4)	褐色 (5YR7-6)	石灰、黄閃石、白色砂粒、赤褐色砂粒	良	
第88図	8	1 542 鉢	6.2 13.5	—	—	ナゲ・ハケメ少?	—	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、黄閃石、褐色白色砂粒	良	
第88図	9	1 542 高杯	(2)0	—	—	横ナゲ	横ナゲ	12.5-14黄褐色 (10YR8-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、黄閃石、褐色白色砂粒	良	
第88図	10	1 542 高杯	(2)0	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-2)	白色、黑色、赤褐色砂粒	良	
第88図	11	1 542 高杯	(3)0	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	良	
第88図	12	1 542 高杯	(5)0	—	—	陶流	陶流	12.5-14黄褐色 (10YR7-4)	明黄褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	良	
第88図	13	1 542 鉢少?	(3)3	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	石灰、白色、黑色砂粒	良	
第88図	14	1 542 器台	(4)2	—	10.2	指頭圧痕	ナゲ	12.5-14褐色 (5YR7-4)	12.5-14褐色 (5YR7-3)	石灰、白色砂粒	良	
第90図	1	1 543 要	(9)0 (14)4	—	—	横ナゲ	陶流	12.5-14褐色 (7.5YR7-4)	12.5-14褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色、黑色砂粒	良	
第90図	2	1 543 要	(5)4 (10)8	—	—	陶流	陶流	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	石灰、白色砂粒	良	
第90図	3	1 543 要	(1)13 (16)2	—	—	ハケメ高線ナゲ・ハケメ	ハケメ高線ナゲ・ハケメ	浅黄褐色 (10YR7-6)	明褐色 (10YR7-6)	石灰、白色、黑色、赤褐色砂粒	良	横溝面に内面に土が付着

出土土器観察表 14

図	No	出土地点	遺物番号	図柄	法製 (cm)			調整		色調		胎土	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
9900	4	1	S43	葉	8.0	—	—	磨滅	磨滅	黒灰色 (10YR6/3)	紅褐色 (10YR7/2)	石灰、白色、赤褐色砂粒	具
9900	5	1	S43	葉	14.0	—	—	磨滅	磨滅	黒灰色 (10YR5/1)	浅黄褐色 (10YR8/3)	石灰、角閃石、雲母、白色砂粒	具
9900	6	1	S43	葉	10.0	—	—	磨滅	磨滅	紅褐色 (10YR7/2)	紅褐色 (10YR7/2)	石灰、白色、黒色、赤褐色砂粒	具
9900	7	1	S43	葉	10.0	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色砂粒	具
9900	8	1	S43	葉	10.0	—	—	磨滅	磨滅	紅褐色 (10YR7/2)	紅褐色 (10YR6/1)	石灰、雲母、白色、黒色砂粒	具
9900	9	1	S43	葉	10.0	—	10.0	磨滅	新調正産	紅褐色 (10YR7/4)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9900	10	1	S43	葉	14.0	11.0	—	磨滅	磨滅	紅褐色 (7.5YR7/4)	紅褐色 (7.5YR7/4)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9900	11	1	S43	葉	14.0	—	7.0	磨滅	ナデ	褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色、黒色、赤褐色砂粒	具
9900	12	1	S43	葉	14.0	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9900	13	1	S43	葉	10.0	—	3.5	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色、赤褐色砂粒	具
9900	14	1	S43	葉	12.0	—	7.0	磨滅	磨滅	明黄褐色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	石灰、白色、黒色、赤褐色砂粒	具
9900	15	1	S43	葉	4.0	—	4.0	ハタメ	磨滅	浅黄褐色 (10YR8/6)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色、黒色、赤褐色砂粒	具
9910	16	1	S43	鉢	8.0	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/2)	白色、黒色砂粒	具
9910	17	1	S43	鉢	6.6	6.0	14.0	磨滅	磨滅	紅褐色 (10YR7/2)	紅褐色 (10YR7/2)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9910	18	1	S43	鉢	15.1	9.2	3.9	磨滅	工具類	紅褐色 (7.5YR7/4)	紅褐色 (7.5YR7/4)	石灰、白色、黒色、赤褐色砂粒	具
9910	19	1	S43	鉢	8.0	—	6.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	石灰、白色、赤褐色砂粒	具
9910	20	1	S43	器台	6.0	—	6.0	新調正産	磨滅	浅黄褐色 (10YR8/2)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9910	21	1	S43	ジョッキ形土器	12.0	—	15.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8/2)	浅黄褐色 (10YR8/2)	石灰、角閃石、雲母、白色、黒色、赤褐色砂粒	具
9910	1	1	S46	葉	6.0	10.0	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (2.5Y7/4)	浅黄褐色 (2.5Y7/3)	石灰、灰色、白色砂粒	具
9910	2	1	S46	葉	6.0	—	6.0	ナデナデ?	ナデナデ?	褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	石灰、白色砂粒	具
9910	3	1	S46	器台	6.0	—	—	磨滅	磨滅	明黄褐色 (10YR7/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	石灰、白色砂粒	具
9910	1	1	S46	葉	11.0	10.0	—	磨滅	磨滅	紅褐色 (7.5YR7/3)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色砂粒	具
9910	2	1	S46	葉	10.0	—	7.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色砂粒	具
9910	3	1	S46	葉	6.0	15.0	—	磨滅	ハタメ	紅褐色 (7.5YR7/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9910	4	1	S46	葉	6.0	11.0	—	磨滅ナデ	磨滅	褐色 (7.5YR7/6)	紅褐色 (7.5YR7/3)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9910	5	1	S46	葉	14.0	—	6.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	紅褐色 (7.5YR7/4)	石灰、白色、黒色砂粒	具
9910	6	1	S46	器台	11.0	—	14.0	磨滅	磨滅	紅褐色 (7.5YR7/3)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色、黒色、赤褐色砂粒	具
9910	7	1	S46	鉢	3.9	6.7	3.6	新調正産	工具類、新調正産	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色砂粒	具
9910	1	1	S47	葉	10.0	10.0	—	磨滅	磨滅	紅褐色 (10YR4/1) + 紅褐色 (10YR6/3)	明黄褐色 (10YR6/6)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
9910	2	1	S47	葉	10.0	—	—	磨滅	磨滅	灰褐色 (10YR5/2)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、角閃石、白色、赤褐色砂粒	具
9910	3	1	S47	葉	14.0	—	8.0	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7/6) + 浅黄褐色 (7.5YR8/4)	褐色 (2.5YR7/6) + 浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、角閃石、雲母、白色砂粒	具
9910	4	1	S47	葉	6.0	—	11.4	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7/6) + 浅黄褐色 (7.5YR8/6)	褐色 (7.5YR7/6) + 浅黄褐色 (7.5YR8/6)	石灰、白色砂粒	具
9910	5	1	S47	葉	6.0	—	6.0	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
9910	6	1	S47	葉	6.0	—	11.1	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色砂粒	具
9910	7	1	S47	葉	6.0	—	6.0	新調正産	磨滅	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色砂粒	具
9910	8	1	S47	葉	6.0	15.0	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7/8)	褐色 (2.5YR7/8)	石灰、白色砂粒	具
9910	9	1	S47	葉	6.0	10.0	—	磨滅	磨滅	褐色 (5YR8/6)	褐色 (5YR8/6)	石灰、角閃石、白色砂粒	具
9910	10	1	S47	葉	6.0	—	7.3	ナデナデ?	ナデナデ?	紅褐色 (7.5YR7/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	石灰、白色砂粒	具
9910	11	1	S47	鉢	16.0	10.0	—	ハタメ、ナデ	ハタメ	褐色 (5YR6/8)	明黄褐色 (2.5YR5/6) + 赤褐色 (2.5YR4/1)	石灰、角閃石、白色砂粒	具

出土土器観察表 15

図	No	出土地点 調査区 調査番号	形状	法量 (cm)			測計		色澤		胎土	焼成	備考
				器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面			
第97図	12	1 S47	高坏	536	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (7.5YR7.6/2) 褐色 (7.5YR7.2)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色砂粒	良	
第97図	13	1 S47	高坏	528	3.2	3.0	—	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7.4)	褐色 (10YR7.3)	白色、黑色砂粒	
第97図	14	1 S47	器台	172	10.5	142	磨滅	工具痕	褐色 (2.5YR8.8/2) (2.5YR7.4)	褐色 (5YR7/6)	石灰、角閃石、白色砂粒		
第97図	15	1 S47	器台	47.2	—	42.8	磨滅	工具痕	褐色 (2.5YR8.8/2) (10YR7.4)	褐色 (5YR7/6)	石灰、角閃石、白色砂粒		
第97図	16	1 S47	ジョッキ形土器	518	—	416.0	磨滅	指痕圧痕	浅黄褐色 (10YR8.4)	黄褐色 (10YR7.2)	石灰、白色砂粒		
第100図	1	1 S52	罍	48.1	41.6	—	磨滅	ハケメ	12.5Y-褐色 (5YR7.4)	12.5Y-褐色 (5YR7.4)	石灰、白色、黑色、赤褐色砂粒		
第100図	2	1 S52	罍	516	—	412.0	磨滅	ハケメ	12.5Y-褐色 (7.5YR7.4)	12.5Y-褐色 (7.5YR7.2)	石灰、白色、黑色砂粒		
第100図	3	1 S52	罍	57.1	—	41.2	磨滅	磨滅	12.5Y-褐色 (7.5YR7.3)	浅黄褐色 (10YR8.4)	石灰、白色、黑色砂粒		
第100図	4	1 S52	罍	149	—	125	磨滅	ナデ	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂粒		
第100図	5	1 S52	罍	45.1	—	41.5	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8.4)	浅黄褐色 (7.5YR8.4)	石灰、白色、黑色砂粒		
第100図	6	1 S52	罍	143	—	—	横ナデ	ナデ	12.5Y-黄褐色 (10YR7.4)	12.5Y-黄褐色 (10YR7.4)	石灰、角閃石、白色砂粒		
第100図	7	1 S52	罍	51.6	—	40.7	ナデ・指痕圧痕	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8.4)	浅黄褐色 (7.5YR8.4)	石灰、白色砂粒		
第101図	1	1 S39	壺	77.2	—	61.5	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.4)	浅黄褐色 (10YR8.4)	石灰、白色、黑色砂粒		
第101図	2	1 S39	壺	54.6	—	47.2	ナデ*	磨滅	12.5Y-黄褐色 (10YR7.3)	浅黄褐色 (10YR8.4)	石灰、角閃石、白色、黑色砂粒		
第101図	3	1 S39	壺	53.1	—	47.4	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8.6)	浅黄褐色 (7.5YR8.6)	石灰、白色、黑色砂粒		
第101図	4	1 S39	罍	4.8	14.0	6.4	磨滅	磨滅	12.5Y-褐色 (5YR7.2)	12.5Y-褐色 (7.5Y7.2)	石灰、白色、黑色砂粒		
第101図	5	1 S39	高坏	148	33.8	—	磨滅	ナデ*	12.5Y-黄褐色 (10YR7.4)	12.5Y-黄褐色 (10YR7.4)	石灰、角閃石、白色砂粒		
第101図	6	1 S39	ジョッキ形土器	45.8	42.2	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.2)	浅黄褐色 (10YR8.2)	角閃石、白色、黑色、赤褐色砂粒		
第101図	7	1 S39	ジョッキ形土器	14.3	—	14.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.2)	浅黄褐色 (10YR8.2)	白色、黑色、赤褐色砂粒		
第102図	1	1 S62	罍	44.2	15.8	—	横ナデ	磨滅	12.5Y-黄褐色 (10YR7.2)	浅黄褐色 (10YR7.2)	石灰、雲母、褐色、白色砂粒		
第102図	2	1 S62	罍	44.9	43.2	—	横ナデ・ハケメ	ナデ*	褐色 (2.5YR4.2)	褐色 (7.5YR7.6)	石灰、白色砂粒		
第102図	3	1 S62	罍	—	42.2	4.6	ナデ*	ナデ	黄褐色 (5YR7.6)、 黄褐色 (7.5YR7.6)	黄褐色 (10YR7.6)、 黄褐色 (7.5YR7.6)	石灰、角閃石、白色砂粒		
第103図	4	1 S62	罍	47.6	—	41.1	磨滅	ナデ・指痕圧痕、 工具痕*	褐色 (2.5YR8.8/2)	赤褐色 (2.5YR5.8)	石灰、角閃石、白色砂粒		
第103図	5	1 S62	罍	46.4	—	12.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.4)	黄褐色 (10YR8.6)	石灰、角閃石、雲母、白色砂粒		
第103図	6	1 S62	罍	6.6	—	10.1	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR7.8)	黄褐色 (10YR8.6)	石灰、雲母、白色砂粒		
第103図	7	1 S62	罍	43.1	—	10.1	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR8.8/2)	赤褐色 (10R6.8)	石灰、角閃石、雲母、白色砂粒		
第103図	8	1 S62	罍	51.6	—	41.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.4)	12.5Y-黄褐色 (10YR7.4)	石灰、角閃石、雲母、白色砂粒		
第103図	9	1 S62	罍	44.3	—	9.4	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.4)	黄褐色 (10YR8.6)	石灰、褐色、白色砂粒		
第103図	10	1 S62	罍	51.8	42.0	—	ハケメ	磨滅	褐色 (7.5YR8.8/2)	黄褐色 (7.5YR7.8)	石灰、白色砂粒		
第103図	11	1 S62	壺	6.6	41.6	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8.6)	褐色(5YR7.6)* 黄褐色 (7.5YR7.6)	石灰、黑色、白色砂粒		
第103図	12	1 S62	壺	51.6	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.6)	褐色 (7.5YR8.6)	石灰、角閃石、白色砂粒		
第103図	13	1 S62	壺	10.8	4.5	4.5	ナデ*	ナデ・指痕圧痕、 工具痕	12.5Y-黄褐色 (10YR7.4)	黄褐色 (10YR7.6)	石灰、褐色、褐色、白色砂粒		
第103図	14	1 S62	壺	42.9	—	4.2	磨滅	指痕圧痕	黄褐色 (10YR8.6)	褐色 (5YR7.8)	石灰、白色砂粒		
第103図	15	1 S62	壺	51.6	—	6.3	磨滅	磨滅	褐色 (2.5Y7.2)	黄褐色 (2.5Y7.2)	石灰、雲母、白色砂粒		
第103図	16	1 S62	壺	42.8	—	6.6	指痕圧痕	磨滅	12.5Y-黄褐色 (10YR7.4)	黄褐色 (10YR7.6)	石灰、角閃石、雲母、褐色、白色砂粒		
第103図	17	1 S62	罍	7.3	14.0	—	磨滅	磨滅	12.5Y-褐色 (7.5YR7.4)、 黄褐色 (10YR8.6)	黄褐色 (2.5YR4.1)	石灰、白色砂粒		
第103図	18	1 S62	高坏	51.1	42.0	—	ハケメ	磨滅	褐色(2.5YR8.8)、 黄褐色 (7.5YR7.8)	褐色 (5YR8.6)	石灰、白色砂粒		
第103図	19	1 S62	高坏	51.6	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.6)	浅黄褐色 (10YR8.6)	石灰、白色砂粒		
第103図	20	1 S62	高坏	41.5	42.6	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8.2)	浅黄褐色 (10YR8.4)	石灰、角閃石、雲母、褐色、白色砂粒		
第103図	21	1 S62	高坏	46.5	—	43.1	ハケメ・ナデ	ナデ・工具痕、 ハケメ	黄褐色 (10YR8.8)	黄褐色 (10YR8.8)	石灰、白色砂粒	3×厚焼成穿孔	

出土土器観察表 16

図	No	出土地点 調査区	遺物番号	器種	法製 (cm)			調整		色調		胎土	備考	
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面			
第103	22	1	S62	高杯	0.159	—	0.178	磨滅	工具痕	黄褐色 (10YR5/6)	棕色 (7.5YR2/4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	4→高埴成面穿孔
第103	23	1	S62	高杯	0.178	—	—	磨滅	工具痕	浅黄褐色 (10YR5/4)	浅黄褐色 (10YR5/4)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ	6→高埴成面穿孔
第103	24	1	S62	高杯	0.5	—	0.56	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)、 褐色、(5YR2/4)	石灰、黑色、褐色、 白色砂粒	Ⅲ	1→高埴成面穿孔
第103	25	1	S62	器台	14.6	—	0.128	磨滅	工具痕	棕色 (7.5YR2/4)	赭灰色 (10YR5/1)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第103	26	1	S62	器台	130	10.8	11.5	磨滅	工具痕	浅黄褐色 (10YR5/4)	浅黄褐色 (10YR5/4)	石灰、角閃石、雲母、 褐色、白色砂粒	Ⅲ	
第103	27	1	S62	器台	14.35	11.25	0.30	ナメキ	工具痕、彫刻工 痕	浅黄褐色 (10YR5/4)、 明黄褐色 (10YR2/4)	浅黄褐色 (10YR5/4)	石灰、褐色、白色砂粒	Ⅲ	
第103	28	1	S62	器台	15.35	11.5	0.30	ハナメ・ナメキ	工具痕	黄褐色 (10YR5/6)	棕色 (7.5YR2/4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第103	29	1	S62	ジョッキ形土器	6.9	—	—	磨滅	磨滅	淡黄色 (2.5Y7/3)	淡黄色 (2.5Y7/4)	石灰、角閃石、雲母、 褐色、白色砂粒	Ⅲ	把手の痕跡あり
第105	1	1	S63	甕	0.17	0.28	—	磨滅	磨滅	棕色 (7.5YR2/4)	浅黄褐色 (10YR5/4)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ	
第105	2	1	S63	甕	0.75	—	—	ヨコナデ・ハナメ	磨滅	黄褐色 (7.5YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)	石灰、黑色、白色砂粒	Ⅲ	
第106	3	1	S63	甕	6.6	0.50	—	磨滅	磨滅	2.5Y-黄褐色 (10YR2/4)	赭灰色 (2.5Y5/2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ	
第106	4	1	S63	甕	0.3	0.38	—	磨滅	磨滅	明黄褐色 (10YR2/4)	棕色 (7.5YR2/4)	石灰、角閃石、褐色、 白色砂粒	Ⅲ	
第106	5	1	S63	甕	0.118	0.27	—	磨滅	磨滅	淡黄色 (2.5Y7/4)、 棕色 (7.5YR2/4)	棕色 (7.5YR2/4)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ	
第106	6	1	S63	甕	0.6	0.28	—	磨滅	磨滅	明黄褐色 (10YR2/4)	明黄褐色 (10YR2/4)	石灰、灰色、白色砂粒	Ⅲ	
第106	7	1	S63	甕	0.6	0.30	—	ナメキ	磨滅	棕色 (7.5YR5/6)	灰赤褐色 (10YR4/2)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第106	8	1	S63	甕	0.78	0.37	—	磨滅	磨滅	棕色 5.5Y7/6、 2.5Y-黄褐色 (10YR2/4)	赭灰色 (2.5Y5/2)	石灰、黑色、白色砂粒	Ⅲ	
第106	9	1	S63	甕	0.33	0.40	—	磨滅	磨滅	棕色 (7.5YR2/4)	赭灰色 (10YR5/1)	石灰、褐色、白色砂粒	Ⅲ	
第106	10	1	S63	甕	0.75	0.30	—	ナメキ	磨滅	棕色 (2.5YR5/6)、 2.5Y-黄褐色 (2.5YR2/4)	明黄褐色 (10YR2/4)	石灰、角閃石、褐色、 白色砂粒	Ⅲ	
第106	11	1	S63	甕	0.38	0.51	—	磨滅	ハナメ	黄褐色 (10YR5/6)、 赤褐色 (10R5/3)	黄褐色 (10YR5/6)	石灰、褐色、白色砂粒	Ⅲ	
第106	12	1	S63	甕	1.0	—	0.0	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第106	13	1	S63	甕	0.55	—	1.16	磨滅	横ナデ	明黄褐色 (10YR2/4)	灰赤褐色 (10YR4/2)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第106	14	1	S63	甕	0.6	—	1.12	磨滅	磨滅	棕色 (7.5YR5/6)	明黄褐色 (10YR5/6)	石灰、雲母、黑色、 褐色、白色砂粒	Ⅲ	
第106	15	1	S63	甕	1.25	—	0.118	磨滅	ナメキ	2.5Y-黄褐色 (10YR5/6)	2.5Y-黄褐色 (10YR5/6)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ	
第106	16	1	S63	甕	0.30	0.38	—	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)	石灰、黑色、褐色、 白色砂粒	Ⅲ	
第106	17	1	S63	甕	0.40	0.31	—	磨滅	ハナメ	棕色 (7.5YR2/4)	棕色 (7.5YR2/4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第106	18	1	S63	甕	0.6	0.75	—	磨滅	磨滅	棕色 (7.5YR2/4)	棕色 (7.5YR2/4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第106	19	1	S63	甕	0.6	0.60	—	磨滅	磨滅	棕色 (7.5YR2/4)	2.5Y-黄褐色 (7.5YR2/4)	石灰、褐色、白色砂粒	Ⅲ	
第107	20	1	S63	甕	0.24	—	0.75	ハナメ	ハナメ、彫刻工 痕	赭灰色 (10YR5/1)、 明黄褐色 (10YR2/4)	灰赤褐色 (10YR5/2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ	
第107	21	1	S63	甕	0.6	—	7.1	ナメキ	磨滅	明黄褐色 (10YR2/4)	黄褐色 (10YR5/6)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第107	22	1	S63	甕	0.50	—	6.3	ナメキ	磨滅	2.5Y-黄褐色 (10YR5/6)	赭灰色 (10YR5/2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ	
第107	23	1	S63	甕小?	0.28	—	0.60	ハナメ	ハナメ	明黄褐色 (10YR2/4)	2.5Y-黄褐色 (10YR5/6)	石灰、雲母、角閃石、 褐色、白色砂粒	Ⅲ	
第107	24	1	S63	甕小?	0.3	—	0.75	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR5/6)	赭灰色 (10YR5/1)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第107	25	1	S63	鉢	0.78	—	—	磨滅	磨滅	明黄褐色 (10YR5/6)	明黄褐色 (10YR2/4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第107	26	1	S63	鉢	0.6	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR5/6)	赭灰色 (10YR5/1)	石灰、角閃石、褐色、 白色砂粒	Ⅲ	ツエム径 5.0cm (復元)
第109	1	1	S64	甕	0.6	—	0.63	磨滅	磨滅	棕色 (2.5YR5/6)	2.5YR5/6	石灰、白色砂粒	Ⅲ	
第109	2	1	S64	甕	0.75	0.63	—	磨滅	磨滅	明黄褐色 (10YR2/4)	棕色 (7.5YR2/4)	石灰、黑色、白色砂粒	Ⅲ	
第109	3	1	S64	甕	0.8	—	7.2	ナメキ	磨滅	黄褐色 (10YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)	白色、赤褐色砂粒	Ⅲ	
第109	4	1	S64	鉢	0.6	—	1.25	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR5/6)	黄褐色 (10YR5/6)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	Ⅲ	
第109	5	1	S64	ジョッキ形土器	0.31	—	0.60	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR5/6)	淡黄色 (2.5YR5/3)	角閃石、雲母、白色、 黑色、赤褐色砂粒	Ⅲ	

出土土器観察表 17

図	No	出土地点 調査区 調査番号	形状	法量 (cm)		測部		色澤		胎土	焼成	備考
				器高	口径	底径	器底	内径	外径			
第109図	4	1 564	変	(51)	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (7.5YR7-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-6)	石灰、白色砂粒	良
第110図	1	1 565	変	(7角)	—	—	横ナデ	磨滅	にじみ褐色 (5YR7-4)	褐色 (5YR5-1)	石灰、白色、黒色砂粒	良
第110図	2	1 565	変	(5角)	—	(5角)	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-3)	にじみ黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色、赤褐色	良
第111図	1	1 566	変	(6角)	—	11.4	磨滅	ハケメ	褐色 (7.5YR7-6)	にじみ褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色、黒色、赤褐色砂粒	良
第112図	1	1 567	変	(15.2)	(13.0)	—	ナデ・ハケメ	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-3)	にじみ黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色、赤褐色、赤褐色砂粒	良
第112図	2	1 567	変	(16)	—	—	磨滅	ハケメ	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色、赤褐色	良
第112図	3	1 567	変	(15.6)	—	赤糸	ハケメ	ナデ・ハケメ	にじみ褐色 (5YR7-4)	にじみ黄褐色 (10YR7-3)	石灰、白色、黒色砂粒	良
第112図	4	1 567	変	(17)	—	4.8	磨滅	ナデナデ	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、黄褐色、黒色、白色、赤褐色砂粒	良
第113図	1	1 570	変	(11.8)	(11.8)	—	磨滅	磨滅	褐色 (2.5YR6-8)・ にじみ褐色 (7.5YR6-4)	褐色 (5YR7-6)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第113図	2	1 570	変	(6.9)	(5.2)	—	磨滅	磨滅	褐色 (5YR6-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第113図	3	1 570	変	(16.6)	(16.6)	—	磨滅	磨滅	にじみ褐色 (5YR7-4)	褐色 (7.5YR7-6)・ にじみ褐色 (7.5YR5-1)	石灰、白色砂粒	良
第114図	4	1 570	変	(16)	—	—	横ナデ	磨滅	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR6-6)・ 赤褐色 (10YR5-2)	石灰、白色砂粒	良
第114図	5	1 570	変	(16)	—	—	横ナデ	磨滅	にじみ褐色 (7.5YR7-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色砂粒	良
第114図	6	1 570	変	(16.6)	—	—	磨滅	磨滅	にじみ褐色 (7.5YR7-4)・ にじみ褐色 (7.5YR5-2)	褐色 (5YR7-6)・ 褐色 (5YR5-1)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第114図	7	1 570	変	(12.2)	—	—	磨滅	磨滅	にじみ褐色 (7.5YR7-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	石灰、白色砂粒	良
第114図	8	1 570	変	(11.2)	(22.8)	—	磨滅	磨滅	褐色 (7.5YR7-6)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色砂粒	良
第114図	9	1 570	変	(19.8)	(21.0)	—	横ナデナデ	磨滅	褐色 (5YR7-6)・ 7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第114図	10	1 570	変	(12.3)	(25.0)	—	磨滅	ナデナデ・ハケメ	褐色 (7.5YR6-6)	赤褐色 (7.5YR7-3)	石灰、白色砂粒	良
第114図	11	1 570	変	(7.7)	—	11.0	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR7-6)・ 褐色 (7.5YR5-2)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第114図	12	1 570	変	(4.6)	—	(3.7)	ハケメ	磨滅	褐色 (2.5YR6-8)	(2.5YR6-8)・ にじみ褐色 (5YR7-4)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第114図	13	1 570	変	(4.2)	—	—	磨滅	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8-4)・ 赤褐色 (10YR5-2)	赤褐色 (10YR5-2)	石灰、白色砂粒	良
第114図	14	1 570	変	(2.5)	—	—	赤糸	磨滅	(7.5YR6-6)・ 褐色 (7.5YR4-2)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良
第114図	15	1 570	変	(6.9)	—	11.0	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR7-4)	(2.5YR5-1)・ 褐色 (5YR7-6)	石灰、黄褐色、黒色、白色砂粒	良
第114図	16	1 570	変	(10)	—	—	赤糸	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8-6)・ 赤褐色 (10YR5-2)	褐色 (7.5YR6-1)	石灰、白色砂粒	良
第114図	17	1 570	変	(16.7)	—	—	赤糸	ナデ	褐色 (5YR7-6)・ 赤褐色 (5YR5-2)	にじみ褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色砂粒	良
第114図	18	1 570	変	(16)	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-2)	浅黄褐色 (10YR8-4)	石灰、黄褐色、黒色、白色砂粒	良
第114図	19	1 570	変	(26)	(19.0)	—	横ナデ	磨滅	褐色 (5YR7-6)	にじみ黄褐色 (10YR7-3)・ 赤褐色 (10YR5-2)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第114図	20	1 570	変	(16)	(15.6)	—	横ナデ・ハケメ、ナデ	横ナデ・ハケメ、ナデ	にじみ褐色 (7.5YR7-4)	にじみ褐色 (7.5YR5-2)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第114図	21	1 570	変	(19)	(25.8)	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-2)	石灰、白色砂粒	良
第114図	22	1 570	変	(14.2)	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (7.5YR8-6)・ 赤褐色 (7.5YR4-1)	褐色 (7.5YR5-1)・ にじみ褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	良
第115図	23	1 570	変	(16)	—	(16.6)	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-4)・ 赤褐色 (10YR5-1)	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	石灰、黄褐色、白色砂粒	良
第115図	24	1 570	変	(15)	—	—	赤糸	磨滅	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR6-1)	石灰、白色砂粒	良
第115図	25	1 570	変	(11.0)	—	—	赤糸	ハケメ	褐色 (7.5YR7-6)・ 赤褐色 (7.5YR5-1)	にじみ褐色 (7.5YR7-3)	石灰、黄褐色、黒色、白色砂粒	良
第115図	26	1 570	変	(7.7)	—	—	赤糸	磨滅	褐色 (2.5YR6-8)	褐色 (7.5YR6-1)	石灰、白色砂粒	良
第115図	27	1 570	変	(12.6)	—	—	赤糸	磨滅	にじみ褐色 (7.5YR7-4)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄褐色、黒色、白色砂粒	良
第115図	28	1 570	変	(15)	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	良

出土土器観察表 18

図	No	出土地点	遺物番号	器種	法製 (cm)			調整		色調		胎土	備考	
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面			
115	29	1	S70	高坪	400	250	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色砂粒	是	
115	30	1	S70	高坪	122	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色砂粒	是 29と同一個体か?	
115	31	1	S70	器台	82	83	104	ナデ・ハタメ	工具ナデ・ハタメ	褐色 (J5YR6/6)	にんじき褐色 (J5YR6/4)	石灰、陶片、赤褐色砂粒	是	
115	32	1	S70	器台	81	129	121	磨滅	工具ナデ・ハタメ	浅黄褐色 (J5YR6/6)	にんじき褐色 (J5YR6/4)、 赭色 (J5YR7/6)	石灰、白色砂粒	是	
116	1	1	S73	高坪	63	120	—	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、白色砂粒	是	
117	1	1	S80	甬	68	—	66	磨滅	磨滅	にんじき褐色 (J5YR7/4)	にんじき褐色 (J5YR7/4)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
118	1	1	S83	甕	67	123	—	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
118	2	1	S83	甕	43	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (J5YR6/4)	浅黄褐色 (J5YR6/4)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
118	3	1	S83	甕	49	—	69	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、白色砂粒	是	
118	4	1	S83	甕	63	—	112	磨滅	磨滅	にんじき褐色 (J5YR7/4)	にんじき褐色 (J5YR7/4)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
118	5	1	S83	甕	68	—	124	磨滅	磨滅	にんじき褐色 (J5YR7/4)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂粒	是 野原地区特殊の産物が認められる	
118	6	1	S83	甬	48	—	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色、赤褐色砂粒	是	
118	7	1	S83	鉢	73	—	—	磨滅	磨滅	にんじき褐色 (J5YR7/4)	にんじき褐色 (J5YR7/4)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
118	8	1	S83	高坪	62	127	66	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (J5YR6/4)	浅黄褐色 (J5YR6/4)	石灰、白色、赤褐色砂粒	是
118	9	1	S83	器台	141	86	122	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色、黑色、赤褐色砂粒	是	
118	10	1	S83	ジョウキ型土器	61	118	—	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	にんじき褐色 (J5YR7/4)	石灰、陶片、白色、赤褐色砂粒	是	
119	1	1	S82	甕	126	—	87	磨滅	ナデ	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
119	2	1	S82	甕	67	—	104	磨滅	ナデ	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	石灰、白色、黑色、赤褐色砂粒	是	
119	3	1	S82	甕	68	128	—	磨滅	磨滅	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	石灰、陶片、白色、黑色、赤褐色砂粒	是	
119	4	1	S82	甬	62	—	—	ナデ	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色、黑色砂粒	是		
119	5	1	S82	高坪	162	—	178	磨滅	工具底	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色、黑色、赤褐色砂粒	是 地表面穿孔2・浅黄褐色	
121	1	1	S83	甕	46	—	88	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、陶片、白色、黑色砂粒	是	
121	2	1	S83	甕	48	—	118	磨滅	磨滅	にんじき褐色 (J5YR7/4)	にんじき褐色 (J5YR6/4)	石灰、陶片、赤褐色、白色、黑色砂粒	是	
121	3	1	S83	甬	118	118	—	磨滅	横ナデ	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	石灰、赤褐色、白色砂粒	是	
121	4	1	S83	甬	121	—	66	磨滅	磨滅	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	石灰、陶片、白色、赤褐色砂粒	是	
121	5	1	S83	甕か?	49	—	66	磨滅	磨滅	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
121	6	1	S83	鉢	65	113	—	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、陶片、白色、赤褐色砂粒	是	
121	7	1	S83	鉢	63	—	—	磨滅	ナデ	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、陶片、白色砂粒	是	
121	8	1	S83	高坪	48	120	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、赤褐色、白色砂粒	是	
121	9	1	S83	ジョウキ型土器	49	—	160	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (J5YR6/6)	浅黄褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色、黑色砂粒	是	
122	1	1	S85	甕	61	120	—	ナデか?	ハタメ	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、陶片、白色砂粒	是	
122	2	1	S85	甕	123	120	—	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR6/6)	褐色 (J5YR6/6)、 赭色 (J5YR7/6)	石灰、白色砂粒	是	
122	3	1	S85	甕	118	120	—	横ナデ・ハタメ	ハタメ	褐色 (J5YR7/6)、 赭色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)、 赭色 (J5YR7/6)	石灰、白色砂粒	是	
122	4	1	S85	甕	112	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR6/6)	褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色砂粒	是	
122	5	1	S85	甕	121	—	—	野原産	ナデか?・ハタメ	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)	石灰、白色砂粒	是	
122	6	1	S85	甕	63	—	—	磨滅	磨滅	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色砂粒	是	
122	7	1	S85	甕	64	—	—	横ナデ・ハタメ	ハタメ	褐色 (J5YR7/6)、 赭色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR7/6)、 赭色 (J5YR7/6)	石灰、白色砂粒	是	
122	8	1	S85	甕	62	—	—	ハタメか?	横ナデ・ハタメ	褐色 (J5YR7/6)、 黄褐色 (J5YR6/6)	褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色砂粒	是	
122	9	1	S85	甕	109	—	118	ハタメ	ナデか?・ハタメ	褐色 (J5YR7/6)	褐色 (J5YR6/6)	石灰、陶片、白色、黑色、赤褐色砂粒	是	
122	10	1	S85	甕	68	—	100	ナデ	野原産	褐色 (J5YR7/6)、 にんじき黄褐色 (J5YR7/4)	褐色 (J5YR6/6)	石灰、白色砂粒、陶片	是	

出土土器観察表 19

図	No	出土地点 調査区 調査番号	形種	法量 (cm)			測計			色澤		胎土	焼成	備考
				器高	口径	底径	外径	内径	外面	内面	外面			
第121図	11	1 S85	罍	9.0	—	11.2	ナデ	ナデ・ハナメ・ 横ナデ	褐色 (2.5YR5/8)・ 赤褐色 (2.5YR5/1)	黒褐色 (5YR4/1)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第121図	12	1 S85	罍	6.0	—	11.0	横溝	工具痕	褐色 (5YR7/6)・ 褐色 (7.5YR7/6)	12.5-褐色 (7.5YR6/4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第121図	13	1 S85	罍	6.1	—	10.0	横溝	ナデ・横溝圧痕	赤色 (10YR5/8)・ 赤褐色 (10YR5/8)	褐色 (5YR6/6)	石灰、白色砂粒	良		
第121図	14	1 S85	罍	5.0	—	10.0	横溝	横溝	12.5-褐色 (5YR6/4)	褐色 (2.5YR6/6)	石灰、白色砂粒	良		
第121図	15	1 S85	罍	5.9	—	10.1	横溝	ナデ・横溝圧痕	褐色 (2.5YR5/8)・ 赤褐色 (2.5YR5/6)	12.5-褐色 (7.5YR6/3)	石灰、白色砂粒	良		
第121図	16	1 S85	罍	6.2	—	9.0	横溝	横溝	褐色 (2.5YR5/8)・ 赤褐色 (2.5YR5/6)	12.5-赤褐色 (10YR5/3)	石灰、黄閃石、雲母、 白色砂粒	良		
第121図	17	1 S85	罍	5.0	—	10.0	横溝	横溝	褐色 (5YR7/6)・ 褐色 (7.5YR7/6)	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、黄閃石、雲母、 白色砂粒	良		
第121図	18	1 S85	罍	6.0	—	12.4	横ナデ	横溝圧痕・横ナ デ・ハナメ	赤褐色 (7.5YR5/8)・ 褐色 (7.5YR7/6)	灰赤褐色 (10YR6/2)	石灰、黄閃石、白色 砂粒、雲母	良		
第121図	19	1 S85	罍	10.1	10.4	—	横ナデ・ナデ 全ナ	横ナデ・ナデ 全ナ	褐色 (5YR7/6)	12.5-褐色 (5YR6/3)	石灰、白色、黑色砂 粒	良		
第121図	20	1 S85	罍	11.2	10.5	—	横ナデ・ハナメ	横溝	褐色 (7.5YR7/6)	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒、赤褐色砂粒	良		
第121図	21	1 S85	罍	10.2	8.6	—	横ナデ・ナデ	ナデ・ハナメ	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	12.5-褐色 (7.5YR6/3)・ 赤褐色 (7.5YR6/1)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	良		
第121図	22	1 S85	罍	15.3	8.7	6.2	横ナデ・ハナメ 全ナ	横ナデ・ナデ 全ナ・ハナメ	浅黄褐色 (7.5YR7/3)・ 赤褐色 (7.5YR5/6)	浅黄褐色 (7.5YR6/6)・ 石灰、白色、黑色砂 粒	良			
第121図	23	1 S85	罍	12.0	10.0	—	ナデ	横ナデ・ハナメ	12.5-褐色 (7.5YR7/3)・ 赤褐色 (7.5YR7/4)	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良	2群セットの内張り付け が2ヶ所に残る	
第121図	24	1 S85	罍	12.0	—	—	ナデ	横溝	浅黄褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色砂粒	良		
第121図	25	1 S85	罍	12.0	—	8.0	横溝	ハナメ	褐色 (7.5YR7/6)	12.5-褐色 (7.5YR6/4)	石灰、白色砂粒	良		
第121図	26	1 S85	罍	13.1	—	8.0	横溝	横溝	褐色 (7.5YR7/6)	赤褐色 (7.5YR6/1)	石灰、白色、黑色砂 粒	良		
第121図	27	1 S85	罍	16.2	—	7.7	ハナメ・横ナデ・ ナデ	ハナメ・ナデ	褐色 (5YR7/6)	褐色 (2.5YR6/8)	石灰、白色砂粒	良		
第124図	28	1 S85	鉢	13.3	17.2	—	横ナデ・ハナメ	ハナメ・横ナ デ・ナデ	12.5-褐色 (5YR7/4)	浅黄褐色 (7.5YR6/6)	石灰、黄閃石、雲母、 白色砂粒	良	雲母を貼り付ける際の乳白 跡が認められる	
第124図	29	1 S85	鉢	10.0	10.0	—	ナデ	ナデ	12.5-褐色 (7.5YR7/4)・ 赤褐色 (7.5YR5/2)	12.5-褐色 (7.5YR7/4)・ 赤褐色 (7.5YR4/1)	石灰、白色砂粒	良		
第124図	30	1 S85	鉢	10.5	13.8	6.4	ナデ?	ナデ?・ハナ メ	12.5-褐色 (7.5YR7/3)・ 赤褐色 (7.5YR4/1)	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、白色砂粒	良		
第124図	31	1 S85	鉢	7.8	14.5	5.6	ナデ	ナデ	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR6/6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第124図	32	1 S85	鉢	9.7	15.8	5.9	ナデ	ナデ	褐色 (5YR7/6)・ 赤褐色 (5YR4/1)	褐色 (5YR7/6)・ 赤褐色 (5YR4/1)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第124図	33	1 S85	器台	18.8	13.1	12.5	ナデ・ハナメ	1層部はナデ・ 工具痕	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR6/6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第124図	34	1 S85	器台	16.0	10.0	12.0	ハナメ・横溝 ナデ	ハナメ・横溝 ナデ	褐色 (5YR7/6)・ 赤褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第124図	35	1 S85	器台	15.1	9.6	10.7	ハナメ	ナデ・工具痕	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	褐色 (2.5YR7/4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第124図	36	1 S85	器台	10.7	—	12.0	横溝	ハナメ	褐色 (5YR7/6)	赤褐色 (5YR5/1)	石灰、白色砂粒	良		
第124図	37	1 S85	ジョッキ形 土器	12.9	12.2	16.0	ナデ・ハナメ	ナデ・ハナメ	浅黄褐色 (7.5YR6/6)・ 赤褐色 (10YR6/2)	赤褐色 (7.5YR5/2)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第124図	38	1 S85	ジョッキ形 土器	16.0	12.0	—	横溝	横溝	灰白色 (10YR8/2)	浅黄褐色 (10YR6/2)	石灰、白色砂粒	良		
第127図	1	1 S86	罍	5.7	17.2	—	横ナデ	横溝	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	12.5-褐色 (7.5YR7/4)	石灰、黄閃石、白色 砂粒	良		
第127図	2	1 S86	罍	10.3	13.0	—	横溝	横溝	褐色 (5YR7/6)	褐色 (5YR7/6)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	良		
第127図	3	1 S86	罍	12.8	—	—	横溝	横溝	12.5-黄褐色 (10YR7/4)	12.5-黄褐色 (10YR7/4)	石灰、雲母、白色、 赤褐色砂粒	良		
第127図	4	1 S86	罍	7.8	7.0	6.8	ナデ・横溝圧痕	ナデ・横溝圧痕	褐色 (10YR6/1)	褐色 (10YR6/1)	石灰、白色、黑色砂 粒	良		
第128図	1	1 S88	高坪	西1	—	14.6	横溝	工具痕	褐色 (2.5YR6/6)	褐色 (2.5YR6/6)	石灰、黄閃石、白色 砂粒、赤褐色砂粒	良		
第130図	1	1 S109	罍	14.0	17.0	—	横溝	横溝	黄褐色 (10YR7/6)	赤褐色 (2.5YR4/1)	石灰、白色砂粒	良		
第130図	2	1 S109	罍	14.0	19.0	—	ハナメ	ナデ・ハナメ	赤褐色 (7.5YR6/1)	12.5-褐色 (7.5YR7/4)・ 赤褐色 (7.5YR6/2)	石灰、雲母、黑色、 赤褐色砂粒	良		

出土土器観察表 20

図	No	出土 調査区	遺跡 番号	図様	法製 (cm)			調整		色調		胎土	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
130	3	I	S200	葉	29.6	22.6	—	ハナメ	磨滅	褐色 (J5YR7-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色、黑色砂粒	Ⅲ
130	4	I	S200	葉	11.3	—	—	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (7.5YR7-4)	にじみ黄褐色 (10YR6-3)	石灰、角閃石、白色、赤褐色砂粒	Ⅲ
130	5	I	S200	葉	14.6	13.6	—	横ナデ・ハナメ・ ナデナ	磨滅	にじみ黄褐色 (7.5YR7-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色、黑色砂粒	Ⅲ
130	6	I	S200	葉	17.6	13.6	—	ハナメ・ナデナ 横ハナメ	磨滅	にじみ黄褐色 (7.5YR7-4)	にじみ黄褐色 (7.5YR6-1)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	Ⅲ
131	7	I	S200	葉	13.7	12.3	—	ハナメ横ナデ・ ナデナ	磨滅	褐色 (5YR6-6)	褐色 (5YR6-3)	石灰、白色、黑色砂粒	Ⅲ
131	8	I	S200	葉	13.6	12.6	—	横ナデ・ナデナ	磨滅	にじみ黄褐色 (7.5YR7-4)	浅黄褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	Ⅲ
131	9	I	S200	葉	13.6	12.6	—	ナデナ横ハナメ	磨滅	褐色 (5YR6-6)	褐色 (5YR6-3)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
131	10	I	S200	葉	16.6	13.6	—	ナデナ・ハナメ	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	にじみ黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
131	11	I	S200	葉	14.3	—	—	ハナメ横ナデ	磨滅	褐色 (7.5YR7-6)	にじみ黄褐色 (7.5YR6-3)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
131	12	I	S200	葉	14.3	—	13.6	ハナメ横ナデ	磨滅	にじみ黄褐色 (7.5YR6-4)	褐色 (7.5YR6-4)	石灰、雲母、白色砂粒	Ⅲ
131	13	I	S200	葉	6.3	—	13.6	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR8-6)	明黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
131	14	I	S200	葉	6.3	—	13.3	磨滅	工具痕	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	明黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、雲母、 白色砂粒	Ⅲ
131	15	I	S200	宙	13.6	13.6	—	ハナメ	磨滅	黄褐色 (10YR8-6)	黄褐色 (10YR8-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ 断面に竹管文
131	16	I	S200	宙	27.3	—	—	ナデナ?	磨滅	明黄褐色 (7.5YR5-3)	褐色 (7.5YR6-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
131	17	I	S200	宙	6.3	—	2.25	ナデナ?	磨滅	褐色 (7.5YR6-3)	褐色 (7.5YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
131	18	I	S200	宙	6.3	—	3.0	ナデ・ハナメ	ハナメ	にじみ黄褐色 (10YR6-4)	灰黄褐色 (10YR5-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
131	19	I	S200	宙	6.3	—	—	ナデ	磨滅	明黄褐色 (10YR7-2)	明黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、雲母、 白色砂粒	Ⅲ
132	20	I	S200	鉢	8.2	13.6	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
132	21	I	S200	鉢	7.3	14.3	—	ナデナ?	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
132	22	I	S200	鉢	9.3	16.6	—	ナデ	ナデナ?	褐色 (7.5YR7-6)	明黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
132	23	I	S200	鉢	11.7	12.3	—	ナデ・ハナメ	工具痕・ナデ	褐色 (7.5YR7-2)	褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
132	24	I	S200	鉢	4.3	8.8	2.1	磨滅	ナデ	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	明黄褐色 (10YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
132	25	I	S200	鉢	9.3	9.6	—	ナデナ?	磨滅	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-3)	石灰、褐色、白色砂粒	Ⅲ
132	26	I	S200	鉢	13.6	13.6	—	磨滅	磨滅	褐色 (7.5YR7-6)	黄褐色 (7.5YR7-3)	石灰、灰色、白色砂粒	Ⅲ
132	27	I	S200	鉢	13.6	13.6	—	ナデ・ナデナ・ ハナメ	ハナメ・ナデ	褐色 (5YR6-6)	褐色 (5YR7-2)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
132	28	I	S200	鉢	18.25	22.6	16.7	横ナデ・ナデナ 横ハナメ横ナデ・ ハナメ	横ナデ・ナデ・ ハナメ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-3)	石灰、褐色、白色砂粒	Ⅲ
132	29	I	S200	鉢	14.3	—	17.7	ハナメ横ナデ	ナデ	にじみ黄褐色 (7.5YR6-4)	褐色 (10YR5-1)	石灰、雲母、白色砂粒	Ⅲ 2ヶ所に2個セツの焼成面穿孔
132	30	I	S200	高杯	20.6	20.6	13.3	横ナデ	ナデ	(7.5YR7-3)・ 浅黄褐色 (7.5YR7-3)	黄褐色 (7.5YR7-3)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ 3ヶ所の焼成面穿孔
133	31	I	S200	高杯	15.6	12.6	—	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	黄褐色 (10YR8-3)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
133	32	I	S200	高杯	6.7	12.3	—	磨滅	ヘラミダナ	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	褐色 (7.5YR6-3)	石灰、角閃石、雲母、 白色砂粒	Ⅲ
133	33	I	S200	貯台	17.6	13.3	—	ハナメ	ハナメ	褐色 (10YR4-1)	褐色 (5YR6-3)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
134	1	Ⅱ	S96	葉	14.6	14.6	—	横ナデ・ナデ 横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	にじみ黄褐色 (7.5YR7-3)	にじみ黄褐色 (7.5YR7-3)	石灰、白色、黑色砂粒	Ⅲ
134	2	Ⅱ	S96	高杯	22.6	12.6	14.6	横ナデ・ハナメ・ ナデ	横ナデ・ナデ・ ハナメ・工具痕	にじみ黄褐色 (7.5YR7-4)	にじみ黄褐色 (7.5YR6-4)	石灰、白色、黑色、 赤褐色砂粒	Ⅲ
135	1	Ⅲ	S04	葉	10.2	12.3	—	ハナメ	ハナメ	灰黄褐色 (10YR6-2)	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色、黑色砂粒、雲母	Ⅲ 2ヶ所の焼成面穿孔 (本家は4ヶ所ナ?)
135	2	Ⅲ	S04	葉	10.6	16.6	—	横ナデ・器底	横ナデ・ハナメ	褐色 (5YR4-1)	にじみ黄褐色 (7.5YR6-4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
135	3	Ⅲ	S04	葉	13.3	13.6	—	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (5YR6-4)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色、黑色砂粒、雲母	Ⅲ
135	4	Ⅲ	S04	葉	10.6	12.3	—	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR6-3)	浅黄褐色 (10YR8-3)	石灰、白色、黑色砂粒、雲母	Ⅲ
135	5	Ⅲ	S04	葉	6.3	16.6	—	磨滅	磨滅	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	にじみ黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色、黑色砂粒、雲母	Ⅲ
135	6	Ⅲ	S04	葉	17.1	14.2	—	磨滅	磨滅	浅黄褐色 (10YR8-6)	にじみ黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	Ⅲ

出土土器観察表 21

図	No	出土地点 調査区	遺物 番号	形状	法量 (cm)		素材				色澤		胎土	焼成	備考	
					器高	口径	底径	胴径	内径	外径	外面	内面				
第136図	7	Ⅱ	S04	変	48	—	108	磨減	磨減	磨減	磨減	12-A5-黄褐色 (10YR7/3)	12-A5-黄褐色 (10YR7/3)	石灰、白色、黑色砂粒	高	
第136図	8	Ⅱ	S04	変	58	—	120	横ナデ	ナデ	ナデ	12-A5-褐色 (5YR5/4)	12-A5-黄褐色 (10YR7/3)	石灰、白色、黑色砂粒	高		
第136図	9	Ⅱ	S04	変	66	—	102	ナデ	ナデ・横ナデ	ナデ	12-A5-褐色 (7.5YR6/2)	12-A5-褐色 (7.5YR6/2)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	10	Ⅱ	S04	変	59	—	94	磨減	ハケメ	ハケメ	褐色 (2.5YR6/2)	黄褐色 (7.5YR5/2)	石灰、白色、黑色砂粒	高	左面(木釘付)彫刻残	
第136図	11	Ⅱ	S04	変	68	—	110	ハケメ	磨減	磨減	12-A5-黄褐色 (10YR7/3)	12-A5-黄褐色 (10YR7/4)	石灰、白色、黑色砂粒	高		
第136図	12	Ⅱ	S04	変	51	—	86	ナデ	ナデ	ナデ	12-A5-褐色 (7.5YR6/2)	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	石灰、白色、黑色砂粒、黒粒	高		
第136図	13	Ⅱ	S04	変	63	—	108	磨減	磨減	磨減	褐色 (5YR7/6)	12-A5-褐色 (7.5YR6/2)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	14	Ⅱ	S04	変	113	—	—	ハケメ・横ナデ ナ?	磨減	磨減	浅黄褐色 (10YR8/3)	灰白色 (10YR8/2)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	15	Ⅱ	S04	変	63	—	—	磨減	磨減	磨減	浅褐色 (2.5Y7/3)	浅褐色 (2.5Y7/3)	石灰、白色砂粒、黒粒	高		
第136図	16	Ⅱ	S04	変	116	—	80	ハケメ	ハケメ	ハケメ	褐色 (5YR7/6)	黄褐色 (10YR6/3)	石灰、白色、黑色砂粒	高		
第136図	17	Ⅱ	S04	変	63	—	73	磨減	ハケメナ?	ハケメナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	灰褐色 (2.5Y7/2)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	18	Ⅱ	S04	変	68	—	67	磨減	磨減	磨減	黄褐色 (10YR6/6)	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	19	Ⅱ	S04	変	142	—	63	磨減	磨減	磨減	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	20	Ⅱ	S04	変	66	—	67	磨減	磨減	磨減	12-A5-黄褐色 (10YR7/4)	12-A5-黄褐色 (10YR7/4)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	21	Ⅱ	S04	変	65	072	—	磨減	磨減	磨減	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色、黑色砂粒、黒粒	高		
第136図	22	Ⅱ	S04	変	71	—	121	磨減	ハケメ	ハケメ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色、黑色砂粒、黒粒	高		
第136図	23	Ⅱ	S04	変	149	—	158	磨減	磨減	磨減	褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	石灰、白色、黑色砂粒	高		
第136図	24	Ⅱ	S04	変	153	—	172	ナデ・ハケメ	工具痕・ナデ ナ?	ナデ	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	石灰、白色、黑色砂粒	高	6+所の焼成痕穿孔	
第136図	25	Ⅱ	S04	変	96	95	—	工具ナデ	彫削圧痕・工具 ナ?	ナデ	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	26	Ⅱ	S04	変	68	—	68	工具ナデ	ナデ	ナデ	黄褐色 (10YR4/2)	灰白色 (10YR4/1)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	27	Ⅱ	S04	変	67	—	113	磨減	工具ナデナ?	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色、黑色砂粒	高		
第136図	28	Ⅱ	S04	変	132	—	143	ナデ	ナデ	ナデ	灰白色 (10YR8/3)	灰白色 (10YR8/2)	石灰、白色、黑色砂粒	高		
第136図	29	Ⅱ	S04	変	60	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	12-A5-黄褐色 (10YR7/3)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色、黑色砂粒	高		
第136図	30	Ⅱ	S04	変	65	—	—	磨減	磨減	磨減	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	黄褐色 (10YR6/6)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	31	Ⅱ	S04	変	145	—	77	磨減	磨減	磨減	12-A5-黄褐色 (10YR7/4)	黄褐色 (10YR6/2)	石灰、白色砂粒	高		
第137図	1	Ⅱ	S09	変	68	082	—	ハケメ・横ナデ ナ?	ハケメ・横ナデ ナ?	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR7/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、白色砂粒	高		
第137図	2	Ⅱ	S09	変	68	078	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	石灰、黄褐色、白色	高	胎土内面にナデナデの浅痕ナ?	
第137図	3	Ⅱ	S09	変	69	091	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ・ハケメ ナ?	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	12-A5-黄褐色 (10YR7/4)	石灰、白色砂粒	高		
第137図	4	Ⅱ	S09	変	116	016	—	ナデ・工具痕 ハケメ	ナデ・ハケメ	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色砂粒	高		
第137図	5	Ⅱ	S09	変	61	020	—	ナデ・ハケメ	ナ?	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR4/2)	12-A5-黄褐色 (10YR5/2)	石灰、白色砂粒	高		
第137図	6	Ⅱ	S09	変	63	036	—	横ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色砂粒	高		
第137図	7	Ⅱ	S09	変	88	078	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	褐色 (7.5YR6/6)	石灰、白色砂粒	高		
第137図	8	Ⅱ	S09	変	66	041	—	ハケメ・横ナデ ハケメ	ハケメ・横ナデ ナ?	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	12-A5-黄褐色 (10YR5/3)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	9	Ⅱ	S09	変	66	—	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ・ 工具痕	ナ?	浅黄褐色 (7.5YR6/6)	浅黄褐色 (7.5YR6/6)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	10	Ⅱ	S09	変	141	—	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ・ナデ	ナ?	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR6/4)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	11	Ⅱ	S09	変	61	—	—	横ナデ	横ナデ	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	褐色(10YR7/6)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	12	Ⅱ	S09	変	68	—	—	横ナデ	横ナデ	ナ?	黄褐色 (2.5YR5/6)	褐色 (7.5YR6/6)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	13	Ⅱ	S09	変	61	—	—	横ナデ	横ナデ	ナ?	12-A5-黄褐色 (10YR6/3)	12-A5-黄褐色 (10YR6/4)	石灰、黄褐色、白色砂粒	高		
第136図	14	Ⅱ	S09	変	145	—	—	ハケメ・横ナデ	ナ?	ナ?	黄褐色 (10YR4/2)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、白色砂粒	高		
第136図	15	Ⅱ	S09	変	65	—	—	ナデ・ハケメ	ハケメ・横ナデ	ナ?	黄褐色 (2.5YR4/1)	褐色 (2.5YR5/2)	石灰、黄褐色、白色砂粒	高		
第136図	16	Ⅱ	S09	変	140	—	93	ナデ	ナデ・彫削圧痕	ナ?	黄褐色 (10YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、黄褐色、白色砂粒	高		
第136図	17	Ⅱ	S09	変	65	—	118	ナデナ?	工具痕・ナデ ナ?	ナ?	褐色 (5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石灰、黄褐色、白色砂粒	高		
第136図	18	Ⅱ	S09	変	68	—	112	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	ナ?	黄褐色 (10YR7/6)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石灰、黄褐色、白色砂粒	高		

出土土器観察表 22

図	No	調査区	遺構番号	図柄	法相 (m)			調整		色調		胎土	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
126	19	Ⅱ	S09	山	47.0	14.1	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	にんい-黄褐色 (10YR5/4)	にんい-黄褐色 (10YR5/3)	白色砂粒、石質、黒粒	
126	20	Ⅱ	S09	山	42.0	—	—	横ナデ	ハケメ	黄褐色 (7.5YR7/3)	黄褐色 (7.5YR7/3)	石質、白色砂粒	
126	21	Ⅱ	S09	山	65.0	12.0	—	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	にんい-黄褐色 (10YR8/3)	石質、白色、褐色砂粒	
126	22	Ⅱ	S09	小笠原	45.0	7.2	—	横ナデ	横ナデ	明黄褐色 (10YR5/4)	明黄褐色 (10YR5/4)	石質、白色砂粒	
126	23	Ⅱ	S09	山	41.0	—	7.7	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石質、角閃石、白色砂粒	
126	24	Ⅱ	S09	林	42.0	—	—	ナデ	ハケメ	にんい-黄褐色 (10YR7/3)	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	石質、角閃石、雲母、白色砂粒	
126	25	Ⅱ	S09	林	43.0	12.0	—	横ナデ・ハケメ	ハケメ・ナデ	黄褐色 (10YR8/6)	黄褐色 (7.5YR7/6)	石質、白色砂粒	
126	26	Ⅱ	S09	林	46.7	13.1	—	ナデ	ハケメ・ナデ	黄褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	石質、角閃石、白色砂粒	
126	27	Ⅱ	S09	林	5.1	12.3	3.3	ハケメ・横ナデ	ハケメ	黄褐色 (10YR8/6)	褐色 (7.5YR8/6)	白色、黒色砂粒	
126	28	Ⅱ	S09	林	12.1	21.3	5.4	横ナデ・ハケメ・ナデ	ハケメ・横ナデ・ナデ	褐色 (7.5YR7/6)	明黄褐色 (10YR5/4)	白色砂粒・雲母	
126	29	Ⅱ	S09	林	46.0	—	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ・ハケメ	褐色 (7.5YR8/6)	褐色 (7.5YR8/6)	石質、白色砂粒	
126	30	Ⅱ	S09	高坪	45.0	12.0	—	横ナデ・ヘアミダシ	横ナデ・ナデ	褐色 (10YR6/7)	褐色 (7.5YR6/6)	石質、角閃石、白色、赤褐色砂粒	
126	31	Ⅱ	S09	高坪	42.0	—	—	横ナデ	横ナデ	褐色 (7.5YR6/6)	褐色 (7.5YR6/6)	石質、角閃石、白色砂粒	
126	32	Ⅱ	S09	高坪	42.0	—	—	横ナデ	横ナデ	黄褐色 (7.5YR4/1)	にんい-黄褐色 (10YR7/3)	石質、角閃石、白色砂粒	
126	33	Ⅱ	S09	高坪	43.0	—	—	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/3)	石質、角閃石、白色、褐色砂粒	
126	34	Ⅱ	S09	器台	45.0	—	—	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	黄褐色 (10YR8/6)	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	石質、角閃石、白色砂粒	
126	35	Ⅱ	S09	ニニチエア1器	43.7	—	43.9	ハケメ・ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/4)	石質、角閃石、雲母、白色砂粒	
126	36	Ⅱ	S09	ニニチエア1器	43.0	—	—	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR7/6)	黄褐色 (7.5YR7/8)	石質、白色砂粒	
129	40	Ⅱ	S09	栗	42.0	—	—	横線	横線	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	浅黄褐色 (10YR8/3)	白色砂粒	
129	41	Ⅱ	S09	栗	47.7	—	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ・ハケメ	浅黄褐色 (10YR8/3)	黄褐色 (7.5Y6/2)	白色砂粒・角閃石	種多不確定
129	42	Ⅱ	S09	栗	43.1	—	—	横ナデ・ハケメ	ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	灰黄褐色 (10YR5/2)	白色、赤褐色砂粒	
129	43	Ⅱ	S09	栗	40.0	—	—	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	にんい-黄褐色 (10YR7/3)	白色砂粒	
129	44	Ⅱ	S09	栗	48.0	—	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ	にんい-黄褐色 (10YR6/4)	明黄褐色 (10YR5/4)	白色砂粒	
129	45	Ⅱ	S09	栗	42.0	—	—	横ナデ	横ナデ	褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR8/8)	白色砂粒	
129	46	Ⅱ	S09	栗	43.7	—	—	横ナデ	横ナデ	にんい-黄褐色 (10YR6/3)	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	白色砂粒	
129	47	Ⅱ	S09	栗	41.0	—	—	横ナデ	ナデ	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	にんい-黄褐色 (10YR6/3)	白色砂粒	
129	48	Ⅱ	S09	栗	42.7	—	—	横ナデ	横ナデ	にんい-黄褐色 (10YR7/3)	にんい-黄褐色 (10YR6/3)	白色砂粒	
129	49	Ⅱ	S09	栗	42.0	—	—	横ナデ	横ナデ	にんい-黄褐色 (10YR7/3)	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	白色砂粒	
129	50	Ⅱ	S09	栗	42.0	62.1	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	白色砂粒・角閃石	
129	51	Ⅱ	S09	栗	46.0	—	7.2	ハケメ・横ナデ・横ナデ・ナデ	ナデ	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	明黄褐色 (10YR5/4)	石質、白色、黒色砂粒	
129	52	Ⅱ	S09	栗	47.3	—	7.7	ナデ	横線	黄褐色 (7.5YR7/3)	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	石質、白色砂粒	
129	53	Ⅱ	S09	栗	46.0	—	6.7	ナデ	横線	黄褐色 (7.5YR8/8)	にんい-黄褐色 (7.5YR7/3)	白色、黒色砂粒	
129	54	Ⅱ	S09	栗	44.0	—	—	横ナデ	横ナデ・ハケメ	にんい-黄褐色 (10YR7/3)	にんい-黄褐色 (10YR6/3)	白色砂粒	
141	1	Ⅱ	S17	栗	110.0	11.0	—	横ナデ・ハケメ	ハケメ	褐色 (7.5YR6/6)	にんい-黄褐色 (10YR7/3)	石質、白色砂粒	
141	2	Ⅱ	S17	栗	32.4	17.3	12.1	横ナデ・ハケメ・ナデ	横ナデ・ハケメ・ナデ	明黄褐色 (10YR5/6)	褐色 (7.5YR6/6)	石質、白色砂粒	
141	3	Ⅱ	S17	栗	49.0	12.2	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ	にんい-黄褐色 (10YR5/3)	灰黄褐色 (10YR5/2)	石質、白色、赤褐色砂粒	
141	4	Ⅱ	S17	栗	45.0	14.0	—	横線	ナデ	にんい-黄褐色 (10YR7/4)	明黄褐色 (10YR5/4)	石質、白色、黒色砂粒	
141	5	Ⅱ	S17	栗	43.7	—	—	横ナデ	横線	にんい-褐色 (7.5YR5/4)	褐色 (7.5YR6/6)	石質、白色砂粒	
141	6	Ⅱ	S17	栗	120.0	10.0	—	ハケメ・横ナデ	ハケメ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	にんい-褐色 (7.5YR8/6)	石質、白色、赤褐色砂粒	
141	7	Ⅱ	S17	栗	110.0	11.0	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ	にんい-褐色 (7.5YR7/4)	にんい-黄褐色 (10YR6/3)	石質、白色、褐色、赤褐色砂粒	
141	8	Ⅱ	S17	栗	67.1	18.1	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ・ナデ	褐色 (10YR7/8)	褐色 (7.5YR5/1)	石質、白色砂粒	
142	9	Ⅱ	S17	栗	46.0	—	10.0	ハケメ	ハケメ	にんい-黄褐色 (10YR6/4)	にんい-黄褐色 (10YR6/3)	石質、白色、赤褐色砂粒	

出土土器観察表 23

図 号	No	出土地点 調査区 調査番号	形状	法量 (cm)		素材				色調		胎土	地味	備考
				器高	口径	底径	外径	内径	外面	内面				
第142図	10	Ⅱ S17	要	66.0	—	51	ハケメ	ナデ	12.65-黄褐色 (10YR7-6)	黄褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	11	Ⅱ S17	要	72.0	—	144	ハケメ・横ナデ	ハケメ	12.65-黄褐色 (10YR5-4)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	12	Ⅱ S17	要	66.0	—	49.5	ハケメ横ナデ	横ナデ	褐色 (10YR6-1)	灰青褐色 (10YR4-2)	石灰、白色・赤褐色砂粒	高		
第142図	13	Ⅱ S17	要	66.3	—	103	ナデ・工具痕	ナデ	褐色 (5YR6-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	14	Ⅱ S17	要	65.0	—	112.0	ハケメ横ナデ	ハケメ横ナデ	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、砂粒	高		
第142図	15	Ⅱ S17	要	65.1	—	112.0	ハケメ横ナデ ナデ	ナデナデ	褐色 (5YR6-6)	明褐色 (5YR5-6)	石灰、白色・黒色砂粒	高	胎内面に砂粒	
第142図	16	Ⅱ S17	要	68.8	—	128	ハケメ	ハケメ・ナデ ナデ	褐色 (5YR6-6)	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、茎母、白色砂粒	高		
第142図	17	Ⅱ S17	要	69.0	69.0	—	ナデ・ハケメ・ ハケメ横ナデ	ナデ	12.65-黄褐色 (10YR7-4)	12.65-黄褐色 (10YR6-3)	石灰、白色・黒色・ 赤褐色砂粒、茎母	高	行管文	
第142図	18	Ⅱ S17	要	69.0	69.0	—	ハケメ	ハケメ	褐色 (7.5YR6-6)	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	19	Ⅱ S17	要	69.0	—	—	横ナデ	ナデナデ	黄褐色 (10YR7-4)	黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	20	Ⅱ S17	要か?	69.0	—	7.8	ナデ	ナデ・工具痕	12.65-黄褐色 (10YR7-4)	灰褐色 (2.5Y7-3)	石灰、白色砂粒、茎母	高		
第142図	21	Ⅱ S17	残	69.0	62.0	—	納減	納減	12.65-黄褐色 (10YR7-4)	12.65-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	22	Ⅱ S17	残	67.8	66.1	—	ハケメ	納減	褐色 (5YR6-6)	褐色 (5YR7-6)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	23	Ⅱ S17	残	66.0	68.0	—	ハケメ	納減	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色・赤褐色砂粒	高		
第142図	24	Ⅱ S17	残	65.0	—	111.7	ハケメ	納減	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	明褐色 (10YR6-5)	石灰、白色・黒色・ 赤褐色砂粒	高		
第142図	25	Ⅱ S17	残	63.0	—	115	ナデナデ	ナデナデ	灰黄色 (10YR8-2)	灰黄色 (10YR8-2)	石灰、茎母、白色・ 黒色・赤褐色砂粒	高	3ヶ所(2個セツト)の地味部分に茎母	
第142図	26	Ⅱ S17	高坪	63.0	—	—	ナデナデ	ナデナデ	明褐色 (10YR7-6)	明褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	27	Ⅱ S17	高坪	63.0	—	—	横ナデ・ナデ ナデナデ	ナデナデ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、白色・赤褐色砂粒	高		
第142図	28	Ⅱ S17	高坪	67.1	—	117.0	ハケメ横ナデ	ハケメ	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	石灰、白色・黒色・ 赤褐色砂粒	高	2ヶ所の地味部分に	
第142図	29	Ⅱ S17	器台か?	63.0	—	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・縦溝目 横・ナデ	灰青褐色 (10YR8-3)	灰青褐色 (10YR8-3)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	30	Ⅱ S17	要	62.0	—	—	納減	納減	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5Y7-6)	石灰、白色砂粒	高		
第142図	31	Ⅱ S17	ミコナツテ 上器	63.0	—	—	納減	納減	褐色 (7.5YR7-6)	12.65-褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色・赤褐色砂粒	高		
第143図	37	Ⅱ S17	要	69.0	69.0	—	横ナデ・ハケメ	ナデ	灰青褐色 (10YR8-6)	灰青褐色 (10YR8-2)	石灰、白色砂粒	高		
第143図	38	Ⅱ S17	要	69.3	—	—	横ナデ・ハケメ	ナデ	灰青褐色 (10YR8-4)	灰青褐色 (10YR8-4)	石灰、白色・黒色・ 赤褐色砂粒	高		
第143図	39	Ⅱ S17	要	67.0	—	—	横ナデ	ナデ	灰青褐色 (10YR8-6)	灰青褐色 (10YR8-4)	石灰、白色・黒色・ 赤褐色砂粒	高		
第143図	40	Ⅱ S17	要	65.0	—	—	横ナデ	納減	明褐色 (10YR7-6)	12.65-黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	高		
第143図	41	Ⅱ S17	要	67.0	—	7.5	納減	ナデ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (10YR7-6)	石灰、白色砂粒	高		
第143図	42	Ⅱ S17	要	67.0	—	66.0	ハケメ	ナデ・工具痕	褐色 (5YR7-6)	12.65-黄褐色 (10YR7-2)	石灰、白色砂粒	高		
第143図	43	Ⅱ S17	要	66.0	—	7.2	ナデ	ナデ	褐色 (10YR5-1)	褐色 (2.5Y5-1)	石灰、白色砂粒	高		
第143図	44	Ⅱ S17	横文上器	62.0	—	—	—	—	灰褐色 (7.5YR5-2)	12.65-褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色砂粒	高		
第143図	45	Ⅱ S17	横文上器	63.0	—	—	—	—	12.65-褐色 (7.5YR7-4)	12.65-褐色 (7.5YR7-4)	白色・黒色砂粒	高	胎面横文	
第144図	1	Ⅱ S20	小埴丸底面	5.3	5.9	—	ヘラミゴキ・ナ デナデ	ナデ	12.65-褐色 (10YR8-4)	12.65-褐色 (7.5YR8-4)	石灰、白色砂粒	高	式1土師器	
第145図	1	Ⅱ S18	要	63.0	—	—	納減	ナデナデ	褐色 (10YR8-4)	褐色 (7.5YR8-6)	石灰、黄褐色、白色砂粒	高		
第146図	1	Ⅱ S27	要	65.0	62.0	—	横ナデ・ハケメ	ハケメ	褐色 (7.5YR7-6)	12.65-黄褐色 (10YR7-4)	白色砂粒	高		
第146図	2	Ⅱ S27	要	62.0	69.0	—	横ナデ・ナデ ハケメ	横ナデ・ハケメ	明褐色 (10YR7-6)	明褐色 (10YR7-6)	白色砂粒	高		
第146図	3	Ⅱ S27	要	66.0	—	—	横ナデ	横ナデ・ハケメ	褐色 (7.5YR7-6)	12.65-黄褐色 (10YR6-4)	白色・黒色砂粒	高		
第146図	4	Ⅱ S27	要	68.0	—	—	横ナデナデ・ハ ケメ	ハケメ	明褐色 (10YR8-6)	灰青褐色 (10YR8-4)	白色砂粒	高		
第146図	5	Ⅱ S27	要	61.0	63.0	—	納減	納減	灰青褐色 (10YR8-4)	黄褐色 (10YR8-4)	白色・黄褐色砂粒	中 高		
第146図	6	Ⅱ S27	要	69.0	61.0	—	横ナデ・ハケメ	横ナデナデ・ハ ケメ	12.65-褐色 (7.5YR6-4)	灰青褐色 (10YR5-2)	白色砂粒	高		
第147図	7	Ⅱ S27	要	64.0	66.0	—	横ナデ・ハケメ 横ナデ・ナデ・ハ ケメ	ハケメ	褐色 (10YR4-4)	褐色 (7.5YR6-6)	白色砂粒	高		
第147図	8	Ⅱ S27	要	66.0	—	104	横ナデ	ナデ・横ナデ	褐色 (10YR8-6)	灰青褐色 (10YR8-4)	白色・黒色砂粒	高		
第147図	9	Ⅱ S27	要	66.0	—	9.9	ハケメ	納減	灰青褐色 (10YR8-4)	灰青褐色 (10YR8-4)	石灰、白色砂粒	高		

出土土器観察表 24

図	No	出土地点	遺物番号	図柄	法量 (cm)			調整			色調		胎土	後成	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面	外面			
147	10	II	S27	葉	67	—	96	指環状または工具痕?	横ナデ	黄褐色 (25YR7-6)・ 浅黄褐色 (25YR8-4)	黄褐色 (10YR8-6)	白色・灰色砂粒	具		
147	11	II	S27	葉	49	—	—	磨滅	ハクメ・指環状 痕	黄褐色 (10YR7-6)	黄褐色 (25YR8-6)	白色・灰色砂粒	具	胴内面の人形部に砂の付着	
147	12	II	S27	葉	66	—	110	ナデ	ナデ	黄褐色 (10YR7-6) に少し黄褐色 (10YR8-2)	に少し黄褐色 (10YR8-2)	白色・赤褐色砂粒	具		
147	13	II	S27	葉	117	117	—	ハクメ・横ナデ	磨滅	黄褐色 (10YR8-4) 浅黄褐色 (10YR8-6)	浅黄褐色 (10YR8-6)	白色砂粒	具		
147	14	II	S27	葉	146	—	48	磨滅	磨滅	黄褐色 (10YR8-4) 浅黄褐色 (10YR8-6)	に少し黄褐色 (10YR8-2)	白色砂粒	具		
147	15	II	S27	葉	48	48	—	ハクメ・工具痕	ハクメ・指環状 痕	黄褐色 (5YR5-6)	黄褐色 (7.5YR4-6)	白色・灰色砂粒	具	交差の上に6本の平行沈線	
147	16	II	S27	葉	104	140	5.1	ナデ	ナデ	黄褐色 (10YR8-6)	浅黄褐色 (10YR8-6)	白色砂粒	具		
147	17	II	S27	葉	163	148	8.3	ハクメ	ハクメ・指環状 痕	黄褐色 (10YR8-6)	に少し黄褐色 (10YR8-2)	白色砂粒	具	強い縦筋線	
147	18	II	S27	葉	174	223	134	ハクメ・横ナデ	ハクメ	黄褐色 (10YR8-6)	黄褐色 (10YR8-6)	石灰・白色・灰色砂粒	具	内底面の縁線強い	
147	19	II	S27	葉	113	120	—	ハクメ・横ナデ・ 指環状痕	ハクメ・工具痕	黄褐色 (25YR8-6)	黄褐色 (25YR8-6)	白色砂粒	具	強い縦筋線	
147	20	II	S27	器台	153	116	—	横ナデ・ハクメ	横ナデ・工具痕・ 指環状痕	浅黄褐色 (25YR8-6)	浅黄褐色 (25YR8-6)	白色砂粒	具		
148	1	II	S36	葉	43	—	—	ハクメ横ナデ	横ナデ	褐色 (5YR6-6)	褐色 (5YR6-6)	石灰・角閃石・白色砂粒	具		
148	2	II	S36	葉	43	—	106	磨滅	磨滅	褐色 (5YR7-6)	褐色 (5YR6-6)	石灰・角閃石・白色砂粒	具		
150	1	II	S41	葉	46	—	—	横ナデ・ハクメ	横ナデナデ	に少し黄褐色 (10YR8-2)	に少し黄褐色 (10YR8-2)	石灰・白色砂粒	具		
150	2	II	S41	葉	48	—	—	横ナデか?	横ナデか?	に少し黄褐色 (10YR7-6)	に少し黄褐色 (10YR7-6)	石灰・灰色砂粒	具		
150	3	II	S41	葉	61	—	94	横ナデ	ハクメ	褐色 (7.5YR6-6)	に少し黄褐色 (10YR8-2) 褐色 (7.5YR6-6)	石灰	具		
150	4	II	S41	葉	68	—	124	ハクメ・横ナデ	ナデ・横ナデ・ 工具痕	に少し黄褐色 (10YR7-6)	に少し黄褐色 (10YR8-2) に少し黄褐色 (10YR8-2)	石灰・白色・灰色砂粒・ 雲母	具	胴内部に砂付着	
150	5	II	S41	葉	68	—	112	横ナデ	ナデか?・横ナ デ	黄褐色 (10YR8-2) 褐色 (7.5YR6-6)	黄褐色 (10YR8-2) 褐色 (7.5YR7-6)	石灰・白色・灰色砂粒・ 雲母	具		
150	6	II	S41	葉	113	—	—	ハクメ	ハクメ	黄褐色 (10YR8-2)	に少し黄褐色 (10YR8-2)	石灰・白色・灰色砂粒	具		
150	7	II	S41	葉	102	—	32	ヘラミドリナ デ	ナデ	に少し黄褐色 (25YR6-4)	に少し黄褐色 (10YR8-2)	石灰・白色砂粒	具		
150	8	II	S41	葉	43	—	43	磨滅	ナデ	褐色 (25YR7-6)	褐色 (25YR7-6)	石灰・白色砂粒	具		
150	9	II	S41	葉	78	113	149	ナデ	ハクメ	に少し黄褐色 (10YR7-6)	浅黄褐色 (10YR8-6)	石灰・白色・灰色砂粒	具		
150	10	II	S41	葉	66	—	—	横ナデ・ナデ	ナデ	に少し黄褐色 (25YR7-6)	に少し黄褐色 (25YR7-6)	白色細砂粒	具		
150	11	II	S41	葉	60	23.5	—	横ナデ・ヘラミ ドリ・ナデ	横ナデか?・ナ デ	に少し黄褐色 (25YR8-4)	に少し黄褐色 (25YR8-4)	石灰・白色・灰色砂粒	具	左縁 (不明線?) 口縁の内面	
150	12	II	S41	高杯	49	—	144	ナデか?・ハク メ・横ナデ	ナデ・ハクメ か?	黄褐色 (5YR6-6)	に少し黄褐色 (25YR8-2)	石灰・白色・灰色砂粒	具		
150	13	II	S41	器台	152	113	128	横ナデ・ハクメ	横ナデ・ハクメ	褐色 (5YR6-6)	に少し黄褐色 (25YR8-2)	石灰・白色砂粒	具		
150	14	II	S41	ジョッキ形 土器	167	139	147	横ナデ・ナデ・ ハクメ	横ナデ・ハクメ	浅黄褐色 (10YR8-2) 灰白色 (10YR8-2)	灰白色 (10YR8-2)	石灰	具		
153	1	II	S44	葉	48	112	—	ハクメ	ハクメ	に少し黄褐色 (10YR8-2)	に少し黄褐色 (25YR8-2)	石灰・角閃石・白色 灰色・褐色砂粒	具		
153	2	II	S44	葉	48	—	—	ナデ・ハクメ	ハクメ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰・白色砂粒	具		
153	3	II	S44	葉か?	48	—	—	ナデか?	ナデか?	黄褐色 (10YR8-2)	黄褐色 (10YR8-2)	石灰・白色砂粒	具		
153	4	II	S44	高杯	42	—	—	横ナデ	横ナデ	黄褐色 (10YR8-2)	黄褐色 (10YR8-2)	石灰・微砂粒	具		
153	5	II	S44	ジョッキ形 土器	48	—	—	ナデ	ナデ	黄褐色 (10YR8-2)	黄褐色 (10YR8-2)	石灰・角閃石・白色 砂粒・雲母	具		
154	1	II	S52	葉	68	68	—	横ナデ・ハクメ	横ナデ・ハクメ	に少し黄褐色 (25YR7-6)	に少し黄褐色 (25YR7-6)	石灰・角閃石・白色 砂粒	具		
154	2	II	S52	葉	156	—	114	ハクメ	ナデか?	褐色 (7.5YR7-6)	に少し黄褐色 (10YR8-2)	石灰・白色・灰色砂粒	具		
154	3	II	S52	葉	62	—	—	ナデか?	ナデ	褐色 (25YR7-6)	浅黄褐色 (25YR8-4)	石灰・白色砂粒	具		
154	4	II	S52	葉	120	—	—	ナデ	ハクメ	浅黄褐色 (25YR8-4)	浅黄褐色 (25YR8-4)	石灰・角閃石・白色 砂粒	具		
154	5	II	S52	葉	102	142	—	ナデ・ハクメ	工具痕・ナデ・ ハクメ	に少し黄褐色 (25YR7-6)	に少し黄褐色 (7.5YR7-6)	石灰・角閃石・白色 砂粒	具		
154	6	II	S52	葉	115	—	—	ナデ	ナデ	に少し黄褐色 (10YR7-6)	に少し黄褐色 (5YR7-6)	石灰・角閃石・白色 砂粒	具		
154	7	II	S52	器台	63	—	112	ハクメ	ハクメか?	褐色 (7.5YR7-6)	に少し黄褐色 (25YR7-6)	石灰・角閃石・白色・ 灰色砂粒	具		

出土土器観察表 25

図	No	出土地点 調査区	遺物 番号	形状	法量 (cm)		素材		色澤		胎土	焼成	備考	
					器高	口径	底径	外径	内径	外径				内径
第150	8	S45	変	8.6	27.2	—	横ナデ	ハナメ	浅黄褐色 (7.5YR6-4)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、白色、黑色、 褐色砂粒	良		
第150	9	S45	変	14.6	20.0	—	横溝	ハナメ	灰褐色 (7.5YR6-2)	灰褐色 (7.5YR6-2)	石灰、白色、褐色砂 粒	良		
第150	10	S45	変	8.6	—	—	ハナメ	ハナメ・土具ナ メ	灰褐色 (7.5YR6-2)	灰褐色 (7.5YR7-4)	石灰、黄褐色、白色、 褐色、褐色砂粒	良		
第150	11	S45	変	8.9	43.9	—	横ナデ	ハナメ 横ナデ	横ナデ 横ナデ	横ナデ 横ナデ	横ナデ 横ナデ	石灰、黒砂粒	良	
第150	12	S45	変	14.8	44.8	—	横ナデ	ハナメ	ナデか?	灰褐色 (7.5YR7-2)	横溝褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色、褐色、 褐色砂粒	良	
第150	13	S45	変	6.3	—	—	横溝	横溝	横溝	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、白色、褐色砂 粒	良	
第150	14	S45	鉢	26.8	33.0	13.4	横ナデ	ハナメ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	石灰、白色、褐色、 褐色砂粒	良	
第150	15	S45	鉢	5.0	7.9	3.0	横溝	横ナデ	ナデ	横ナデ	横ナデ	石灰、白色、褐色、 褐色砂粒	良	手取
第150	16	S45	不明	6.2	—	43.2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	石灰、黄褐色、白色、 褐色、褐色砂粒	良	
第150	17	S45	変	14.7	—	—	横溝	ハナメ	ハナメ	灰褐色 (7.5YR7-2)	灰褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色砂粒	良	
第150	18	S45	変	17.1	—	—	横ナデ	横溝	横溝	灰褐色 (7.5YR7-4)	灰褐色 (7.5YR7-4)	石灰、黒砂粒	良	
第150	19	S45	変	13.0	—	—	横溝	ナデ	横ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第150	20	S46	変	6.2	—	40.2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	石灰、白色、褐色砂 粒	良	
第150	21	S45	変	6.2	—	41.0	横ナメ	横ナメ	横ナメ	灰褐色 (7.5YR7-4)	灰褐色 (7.5YR6-2)	石灰、黄褐色、白色 砂粒、褐色砂粒	良	
第150	22	S45	変	6.5	—	42.0	ハナメ	横溝	横溝	灰褐色 (7.5YR7-4)	灰褐色 (7.5YR7-2)	石灰、黄褐色、白色、 褐色砂粒	良	
第150	23	S45	変	6.6	—	41.0	横溝	横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	灰褐色 (7.5YR6-1)	石灰、黄褐色、褐色 褐色砂粒	良	
第150	24	S45	変	23.8	—	—	横ナデ	横溝	横溝	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、黒砂粒	良	
第150	25	S45	変	13.1	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	灰褐色 (7.5YR7-2)	灰褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色砂粒	良	
第150	26	S45	変	17.1	—	—	横ナデ	横溝	横溝	灰褐色 (7.5YR7-4)	灰褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色砂粒	良	
第150	27	S45	変	15.6	16.6	—	ハナメ	ハナメ	ハナメ	灰褐色 (7.5YR6-4)	灰褐色 (7.5YR6-4)	石灰、黄褐色、白色 褐色砂粒	良	
第150	28	S45	変か?	16.7	—	—	横溝	ハナメ	ハナメ	灰褐色 (7.5YR6-4)	灰褐色 (7.5YR6-3)	石灰、黄褐色、白色 褐色砂粒	良	器手欠損、27上側一割れか?
第150	29	S45	変か?	12.8	—	44.8	横溝	横溝	横溝	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-4)	石灰、黒砂粒	良	
第150	30	S45	鉢	14.7	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色 (7.5YR7-2)	灰褐色 (7.5YR7-2)	石灰、黒砂粒	良	
第150	31	S45	鉢	13.0	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐色 (7.5YR7-4)	灰褐色 (7.5YR7-2)	石灰、黒砂粒	良	
第150	32	S45	鉢	6.6	—	—	ハナメ	ハナメ	ハナメ	灰褐色 (7.5YR7-2)	灰褐色 (7.5YR7-3)	石灰、黒砂粒	良	
第150	33	S45	鉢	13.8	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	灰褐色 (7.5YR7-2)	灰褐色 (7.5YR7-4)	石灰、黄褐色、白色、 褐色砂粒	良	
第150	34	S45	鉢	16.6	44.2	—	横ナデ	ハナメ	横ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6-4)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、黒砂粒	良	
第150	35	S45	器台	17.3	121	123	横ナデ	ハナメ	ハナメ	横ナデ	横ナデ	石灰、黄褐色、黒砂 粒	良	
第150	36	S45	変	6.6	—	—	ナデか?	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、黒砂粒	良	
第150	37	S45	変	12.9	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、黒砂粒	良	
第150	38	S45	変	13.1	—	—	横ナデ	横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	浅黄褐色 (7.5YR6-2)	石灰、黒砂粒	良	
第150	39	S45	変	14.9	—	—	ハナメ	横溝	横溝	灰褐色 (7.5YR6-2)	灰褐色 (7.5YR7-2)	石灰、白色砂粒	良	
第150	1	S51	鉢	12.8	43.6	—	ナデ	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR7-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第150	2	S51	器台	18.7	122	114.8	横ナデ	ハナメ	ハナメ	褐色 (7.5YR6-4)	灰褐色 (7.5YR6-4)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第150	3	S51	変	12.6	—	—	横ナデ	横溝	横溝	浅黄褐色 (7.5YR6-4)	褐色 (7.5YR6-4)	石灰、白色砂粒	良	
第151	1	S16	変	21.4	18.2	7.7	横ナデ	ハナメ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第151	2	S16	変か?	12.1	—	45.8	横溝	横溝	横溝	褐色 (7.5YR6-6)	—	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第151	3	S16	変	12.0	—	46.8	横溝	横溝	横溝	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第151	4	S16	変	30.0	106.8	6.9	ナデか?	横ナ デ	横ナ デ	横ナ デ	横ナ デ	石灰、黄褐色、褐色 白色砂粒	良	
第151	5	S16	鉢	6.8	—	—	ナデか?	ハナ メ	横溝	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR7-6)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第151	6	S16	鉢	64.2	—	16.6	ハナメ	横ナ デ	ハナメ	浅黄褐色 (7.5YR6-4)	浅黄褐色 (7.5YR6-4)	石灰、黄褐色、白色 砂粒	良	
第151	7	S16	器台	17.1	—	43.8	ハナメ	ナデ	ナデ	褐色 (7.5YR6-6)	褐色 (7.5YR6-6)	石灰、褐色、白色砂 粒	良	

出土土器観察表 26

図	No	出土地点 調査区	遺構番号	器種	法製 (cm)			調整		色調		胎土	備考
					器高	口径	底径	外面	内面	外面	内面		
第161図	8	Ⅲ	S16	鉢	6.6	7.5	2.5	ナデ・工肌直	ナデ・工肌直	明赤褐色 (SY95-6)、 褐色(10YR5/1)	褐色 (5YR5-6)	石灰、角閃石、白色砂粒	Ⅲ
第161図	9	Ⅲ	S16	甕	14.2	—	4.6	磨滅	ナデ	褐色 (2.5YR5/6)	灰赤褐色 (10YR5/2)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
第162図	1	Ⅲ	S13	瓦葺土器 高台	11.5	26.3	—	横ナデ・側面圧 痕	横ナデ・ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7-2)、 黒灰色 (10YR5/1)	にぶい黄褐色 (10YR7-4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ 特委編
第162図	2	Ⅲ	S13	土師器 罎	3.3	12.1	8.4	側面圧・側面 糸切り	側面ナデ・側面 ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5-4)	にぶい褐色 (7.5YR5-4)	微砂粒	Ⅲ 13世紀後半～14世紀、衣類
第163図	1	Ⅰ	D-2 灰倉	甕	25.3	—	6.8	横ナデ・ナデ・ 側面圧痕	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR5-4)、 黒灰色 (7.5YR5/1)	浅赤褐色 (7.5YR5-4)	石灰、白色砂粒	Ⅲ
第163図	2	Ⅲ	灰倉 罎	甕	6.3	—	—	横ナデ	横ナデ	浅赤褐色 (10YR5-4)	浅赤褐色 (10YR5-4)	4cm以下の石灰、角 閃石、白色砂粒を含む	Ⅲ
第163図	3	Ⅰ	C-1 灰倉	甕	6.2	—	0.20	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・ 横ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7-2)	黒灰色 (10YR5-1)	2cm以下の石灰、角 閃石、雲母、白色、 黒色・赤褐色の微細 な砂粒を含む	Ⅲ
第163図	4	Ⅰ	B2- 3 灰倉	小型罎	6.6	6.3	—	磨滅	磨滅	にぶい褐色 (7.5YR7-4)	にぶい褐色 (7.5YR7-4)	石灰、角閃石、白色 ・黒色・赤褐色砂粒	Ⅲ
第163図	5	Ⅰ	C-1 灰倉	甕	11.0	—	—	ヘラミダテ	ナデ・工肌直	褐色 (5YR5-6)	褐色 (5YR5-6)	角閃石、微細な白色 ・黒色砂粒を含む	Ⅲ 付添に繊維痕状文
第163図	6	Ⅰ	C-1 灰倉	甕	4.3	—	—	ヘラミダテ・ナ デ	ナデ・ハケメ	褐色 (2.5YR5/6)	褐色 (2.5YR5/6)	2cm以下の石灰、白 色砂粒を含む	Ⅲ 付添に繊維痕状文
第163図	7	Ⅰ	B1- 2 灰倉	甕	28.6	13.2	—	横ナデ・ハケメ	横ナデ・ハケメ	褐色(5YR7-6)、 明赤褐色 (2.5YR5/6)	褐色 (5YR7-6)	2cm以下の石灰、 角閃石、雲母、 白色、黒色の 微細な砂粒を含む	Ⅲ
第164図	8	Ⅰ	C-1 灰倉	鉢	5.0	6.6	2.6	磨滅	磨滅	浅赤褐色 (10YR5-4)	褐色 (10YR7-2)	2cm以下の石灰、 雲母、白色、黒色 の微細な砂粒を含む	Ⅲ
第164図	9	Ⅰ	C-1 灰倉	高杯	6.7	—	1.07	横ナデ・ナデ	磨滅	褐色 (7.5YR7-6)	浅赤褐色 (7.5YR5-4)	2cm以下の石灰、角 閃石、白色砂粒を含む	Ⅲ
第164図	10	Ⅰ	C-1 灰倉	高杯	11.2	—	1.04	横ナデ・ハケメ か?	ナデ・工肌直	褐色 (5YR7-6)	浅赤褐色 (7.5YR5-4)	2cm以下の石灰、角 閃石、雲母、白色砂 粒を含む	Ⅲ
第164図	11	Ⅰ	C-1 灰倉	高杯	6.6	62.0	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ ハケメか?	浅赤褐色 (7.5YR5-4)	浅赤褐色 (7.5YR5-4)	2cm以下の石灰、角 閃石、雲母、白色砂 粒を含む	Ⅲ
第164図	12	Ⅰ	C-1 灰倉	高杯	6.9	62.6	—	ナデ・横ナデ	横ナデ・ヘラミ ダテ	にぶい褐色 (7.5YR5-4)	褐色 (7.5YR7-6)	2cm以下の石灰、角 閃石、白色砂粒を含む	Ⅲ
第164図	13	Ⅰ	C-1 灰倉	高杯	6.7	18.0	—	横ナデ・ナデ	横ナデ・ヘラミ ダテ	浅褐色 (5YR5-4)	褐色 (5YR7-6)	2cm以下の石灰、角 閃石、雲母、白色砂 粒を含む	Ⅲ 注(底の厚部分?) 胎土内 面
第164図	14	Ⅰ	灰倉	鉢	6.9	—	0.47	磨滅	ナデ・工肌直	にぶい黄褐色 (10YR7-2)	にぶい黄褐色 (10YR7-2)	2cm以下の石灰、角 閃石、雲母、赤褐色 の微細な砂粒を含む	Ⅲ
第164図	15	Ⅰ	C-1 灰倉	器台	6.2	12.0	—	ハケメ	ハケメ	にぶい褐色 (7.5YR5-4)	にぶい褐色 (7.5YR7-4)	石灰、白色、黒色砂 粒	Ⅲ
第164図	16	Ⅰ	C-1 灰倉	器台	10.0	6.6	0.6	側面ナデ	側面圧痕	褐色 (7.5YR7-6)	浅赤褐色 (7.5YR5-4)	石灰、白色、黒色砂 粒	Ⅲ

出土石器観察表 1

図	No	出土地点		種類	種類	質量 (g, ±)				石材	備考
		調査区	遺構番号			全長	幅	厚み	重量		
第7図	15	I	568	石器	打製石鏃	2.2	1.55	0.4	0.57	黒曜石	先端欠損
第7図	16	I	568	石器	打製石鏃	2.95	1.75	0.5	1.92	安山岩	
第7図	17	I	568	石器	打製石鏃	3.0	1.75	0.5	1.78	安山岩	
第7図	18	I	568	石器	石鏃未製品	3.1	2.0	0.7	3.69	安山岩	
第7図	19	I	568	石器	石鏃未製品	2.4	1.3	0.45	1.15	安山岩	
第7図	20	I	568	石器	石鏃未製品	2.5	1.75	0.45	2.15	安山岩	
第7図	21	I	568	石器	石鏃未製品	2.5	1.6	0.7	2.33	安山岩	
第7図	22	I	568	石器	石鏃未製品	3.45	2.25	0.7	4.81	安山岩	
第7図	23	I	568	石器	石鏃未製品	2.8	2.0	0.75	5.58	安山岩	
第8図	1	I	574	石器	扁平片状石斧	7.5	2.4	0.65	28.52	榎炭岩	右側欠損。かなり風化が激しい
第11図	9	I	511	石器	扁平片状石斧	4.75	1.8	0.75	11.34	榎炭岩か?	右側欠損
第13図	2	I	514	石器	石斧丁	5.0	7.65	0.6	30.04	榎炭岩か?	両肩、背筋は磨いて平削。前縁穿孔
第16図	14	I	526	石器	礫石	7.1	9.0	3.7	38.0	安山岩? 火成岩系	使用面 2 面
第17図	8	I	531	石器	礫石	6.9	5.25	2.3	11.1	砂岩 天草礫石に類似	片面使用。両面のくぼみも使用の可能性あり
第18図	5	I	525	石器	ステレイバー	5.25	3.45	1.4	22.85	安山岩	使用面・中間にも使用
第23図	3	I	572	石器	ステレイバー	8.25	5.4	1.0	56	安山岩	多入・小塊表面安山岩
第23図	4	I	572	石器	両刃石斧	13.35	7.3	3.45	43.1	片岩系か?	表面のみ残存。稜子が顕著
第23図	5	I	572	石器	礫石	7.65	6.85	5.25	28.9	安山岩	片面使用。両面のくぼみも使用の可能性あり
第26図	14	II	565	石器	打製石鏃	1.75	1.75	0.25	0.77	安山岩	側部両端欠損
第28図	12	II	568	石器	礫石	8.1	4.6	2.4	12.2	榎炭岩?	片面使用。稜付き?
第32図	9	II	522	石器	打製石鏃	1.55	1.6	0.5	0.64	黒曜石	完整
第36図	10	II	529	石器	打製石鏃	2.15	1.95	0.3	0.78	安山岩	先端部欠損
第36図	11	II	529	石器	石鏃未製品	2.4	1.6	0.55	1.11	黒曜石	側部両端欠損
第36図	12	II	529	石器	打製石鏃	2.9	1.8	0.5	1.97	黒曜石	刃は加工。溝は全く加工していない
第36図	13	II	529	石器	石鏃未製品	2.4	2.05	0.4	1.88	安山岩	
第36図	14	II	529	石器	礫石	8.95	7.45	4.8	41.7	安山岩	縁打痕 3ヶ所
第39図	27	II	532	石器	打製石鏃	1.85	1.45	0.3	0.55	黒曜石	側部両端欠損
第43図	27	II	535	石器	打製石鏃	1.85	1.7	0.5	0.97	安山岩	先端部・側部両端欠損
第43図	28	II	535	石器	石鏃	3.65	1.55	0.25 (厚部)・0.65 (薄部)	2.68	安山岩	基部欠損
第43図	29	II	535	石器	石鏃	4.0	2.2	0.5	8.11	安山岩	基部・先端欠損
第44図	20	II	525	石器	礫石	11.9	6.9	4.9	52.7	安山岩	両端と両面両面の中央に縁打痕
第44図	31	II	530	石器	磨製石斧か?	11.1	4.7	2.1	14.0	安山岩か?	石峰山系安山岩か? 風化著しい
第45図	5	II	537	石器	打製石鏃	1.75	1.35	0.25	0.41	黒曜石	完整
第45図	6	II	537	石器	打製石鏃	2.1	2.05	0.35	1.27	安山岩	先端部欠損
第45図	7	II	537	石器	石鏃	3.05	1.1	0.7	2.0	安山岩	明確な断面を有しない。先端欠損
第46図	13	II	538	石器	石鏃未製品	2.45	1.45	0.45	1.29	黒曜石	
第46図	14	II	539	石器	打製石鏃	2.45	1.8	0.5	1.2	安山岩	側部両端欠損
第46図	15	II	539	石器	打製石鏃	3.2	1.85	0.55	2.33	黒曜石	側部内縁わずかに欠損
第46図	16	II	539	石器	石鏃未製品	4.15	2.2	0.9	6.01	安山岩	
第46図	17	II	539	石器	石鏃	3.6	1.35	0.5	3.07	安山岩	基部欠損
第46図	18	II	539	石器	二次加工副片	2.7	2.0	0.5	1.91	安山岩	
第46図	19	II	539	石器	二次加工副片	2.35	1.7	0.55	1.78	黒曜石	
第46図	20	II	539	石器	礫石	5.3	3.6	2.1	37.2	不明	両面に縁打痕
第57図	47	I	585	石器	粗片状石斧	7.8	3.8	2.5	15.1	榎炭岩	
第64図	41	I	506	石器	石斧丁	4.5	10.75	0.75	38.95	片岩	両肩、背筋は磨いて平削。穿孔は縁打痕跡

出土石器観察表 2

図	No	出土地点		種類	種類	質量 (g)				石材	備考
		調査区	遺構番号			全長	幅		重量		
							幅	厚み			
第61図	42	1	S06	石器	磨石・磁石	9.0	7.6	3.05	3.09	安山岩か?	使用面2面
第61図	43	1	S06	石器	石鏃未製品	2.65	2.25	0.7	3.37	安山岩	
第70図	88	1	S12	石器	打製石鏃	3.0	1.75	0.5	1.64	安山岩	矢頭部・基部両端欠損
第70図	89	1	S12	石器	打製石鏃	2.6	2.1	0.55	1.92	安山岩	矢頭部欠損
第70図	90	1	S12	石器	打製石鏃	2.2	1.8	0.55	1.76	安山岩	矢頭部・基部両端欠損
第70図	91	1	S12	石器	打製石鏃	3.3	1.65	0.7	3.03	安山岩	有茎式、多入、小先端
第73図	21	1	S13	石器	磁石	9.1	7.6	7.25	3.92	磁石	使用面3面(上面は全面使用、下面は一部のみ使用)、磨石状態あり?
第73図	22	1	S13	石器	局部磨製石鏃	1.8	1.7	0.3	0.63	安山岩	矢頭部欠損、中央部に研削を施す
第78図	22	1	S22	石器	石釘丁	3.2	6.6	0.7	17.38	片岩	1/2欠損、縦行線刻印あり
第78図	23	1	S22	石器	磁石	5.95	4.8	2.8	114	磁石	使用面4面
第78図	24	1	S22	石器	磁石	12.1	14.3	1.5	405	磁石	使用面1面、断面付着
第78図	25	1	S22	石器	磁石	10.8	10.2	2.0	200	磁石	使用面3面、断面付着
第81図	7	1	S28	石器	打製石鏃	2.15	1.7	0.35	0.69	安山岩	矢頭部・基部両端欠損
第81図	8	1	S28	石器	打製石鏃	1.95	1.45	0.3	0.51	安山岩	矢頭部欠損
第81図	9	1	S28	石器	打製石鏃	2.65	1.85	0.4	1.34	安山岩	基部両端欠損
第81図	10	1	S28	石器	二次加工調子	2.3	2.2	0.4	1.8	安山岩	
第81図	11	1	S28	石器	石釘丁	3.4	3.9	0.6	8.42	不明 片岩	磨石
第84図	48	1	S34	石器	打製石鏃	2.5	1.5	0.45	1.35	安山岩	
第84図	49	1	S34	石器	打製石鏃	1.8	1.3	0.65	1.06	安山岩	やや大きな打製石鏃の基部
第84図	50	1	S34	石器	不明	2.7	8.5	0.4	0.96	安山岩	両面に加工を施す
第86図	16	1	S40	石器	打製石鏃	3.8	2.35	0.4	1.74	安山岩	基部両端欠損
第86図	17	1	S40	石器	石鏃	3.95	1.0	5.5	2.37	安山岩	基部に刻痕あり
第86図	18	1	S40	石器	磁石	11.75	6.4	2.35	2.82	磁石	3面使用
第89図	21	1	S42	石器	石鏃か?	2.9	1.15	0.35	1.29	安山岩	
第89図	22	1	S42	石器	不明	3.1	0.9	0.25	0.9	安山岩	加工しているが研削痕はついていない
第89図	23	1	S42	石器	片岩石鏃	7.8	4.35	2.00	1.25	片岩	基部未? 打製痕の流産品か?
第89図	24	1	S42	石器	磁石	10.6	5.55	1.85	84.24	片岩	定形、4面使用
第89図	25	1	S42	石器	磨製未製品か?	6.35	6.4	1.05	62.07	片岩	
第91図	22	1	S43	石器	石鏃	5.8	7.45	4.75	237	安山岩	
第98図	17	1	S47	石器	不明	10.6	8.55	2.0	200	不明	断面付着か? 磨石らしい、平面粗し形状を定する
第100図	8	1	S52	石器	磁石	4.9	6.35	1.7	60.15	磁石	3面使用
第101図	8	1	S59	石器	石釘丁	3.8	8.0	5.5	19.9	磨製石鏃	石釘を長丁、基部の断面形状が三角形に見える
第107図	28	1	S63	石器	磁石	12.7	7.35	4.2	355	磁石か?	
第107図	29	1	S63	石器	磁石	4.55	4.4	1.35	28.08	不明	2面使用
第107図	30	1	S63	石器	磁石	9.35	5.35	2.6	200	不明	調子調整用のハンマーストーンか?
第107図	31	1	S63	石器	くぼみ石	9.9	8.15	4.1	470	磁石か?	
第107図	32	1	S63	石器	石鏃未製品	4.2	7.85	1.4	56.49	片岩	
第109図	7	1	S64	石器	磁石	8.95	4.9	3.4	227	磁石	使用面3面
第115図	24	1	S70	石器	磁石か?	10.7	8.0	3.6	405	安山岩	磨石打痕?が非常に浅い
第120図	8	1	S82	石器	打製石鏃	2.45	1.3	0.3	0.8	磨石	磨石表面磨石
第120図	9	1	S82	石器	二次加工調子	2.9	2.35	0.7	2.92	磨石	磨石表面磨石
第120図	10	1	S82	石器	スクリュー	3.35	12.05	1.55	53.1	安山岩	
第120図	11	1	S82	石器	磁石	8.8	8.35	4.6	462	磁石	使用面2面
第120図	12	1	S82	石器	磁石・白石?	12.75	11.3	4.05	404	安山岩	全面に断面付着、断面付着
第121図	10	1	S83	石器	打製石鏃	3.3	1.9	0.55	2.55	安山岩	

出土石器観察表 3

採	No	出土地点		種類	種類	質量 (cm, g)				石材	備考
		調査区	遺構番号			全長	幅	厚み	重量		
第 124 採	39	I	S85	石器	打製石礮	20	1.05	0.3	0.79	安山岩	
第 124 採	40	I	S85	石器	石礮未製品	25	1.9	0.65	2.15	安山岩	
第 124 採	41	I	S85	石器	石瓦丁	10.3	4.1	0.9	4.81	片岩	砥石に転用か?
第 125 採	42	I	S85	石器	石瓦丁	5.8	3.9	0.6	1.45	堆積物系土?	直接穿孔
第 125 採	43	I	S85	石器	砥石	16.1	8.3	4.2	4.42	不明	大卒砥石か? 石葉鎌首 (八咫) に類似。石製使用
第 127 採	6	I	S86	石器	打製石礮	3.8	1.5	0.5	1.32	安山岩	
第 133 採	34	I	S109	石器	砥石	10.3	9.5	厚大7.6 幅面厚6.5	835	砂岩	
第 133 採	35	I	S109	石器	石鎌か?	6.45	6.15	2.15	88.7	不明	
第 139 採	55	II	S89	石器	打製石礮	2.65	1.75	3.5	0.66	安山岩	側面片欠欠損
第 143 採	46	II	S17	石器	打製石礮	2.1	1.6	0.5	0.88	安山岩	先端部欠損
第 150 採	13	II	S41	石器	打製石礮	2.35	1.85	0.3	1.06	安山岩	定形
第 150 採	16	II	S41	石器	二次加工調子	2.7	2.4	0.6	2.81	安山岩	
第 152 採	2	II	S42	石器	打製石礮	3.75	2.2	0.5	2.38	安山岩	先端部・側面片欠欠損
第 152 採	3	II	S42	石器	砥石	26.05	17.6	3.9	2300	砂岩	磨き砥石、4面使用
第 152 採	44	II	S45	石器	打製石礮	5.45	1.65	0.4	2.24	安山岩	先端部欠損
第 157 採	45	II	S46	石器	石器未製品	3.9	3.75	0.8	8.23	安山岩	ガラス露出山面に近い
第 157 採	46	II	S46	石器	扁平片石斧	6.5	2.55	0.9	32.89	輝石岩	定形
第 161 採	10	II	S36	石器	石礮	4.2	1.85	0.95	7.19	安山岩	基部・先端欠損
第 164 採	17	I	B-3 包含層	石器	打製石礮	2.6	1.7	0.5	0.97	安山岩	
第 164 採	18	II	B-1 包含層	石器	弓弦磨製石礮	3.5	2.1	0.45	1.52	安山岩	
第 164 採	19	II	包含層	石器	打製石礮	3.8	2.0	0.7	3.9	安山岩	
第 164 採	20	II	A-2 包含層	石器	打製石礮	2.15	1.95	0.45	1.68	安山岩	
第 164 採	21	II	B-3 包含層	石器	打製石礮	3.35	1.95	0.45	2.1	安山岩	
第 164 採	22	I	包含層	石器	打製石礮	2.05	1.55	0.45	1.11	安山岩	
第 164 採	23	I	C-3 包含層	石器	磨製石礮	2.2	1.8	0.2	0.8	安山岩	
第 164 採	24	II	B-2・3 包含層	石器	スクレイパー	10.2	5.9	2.4	13.7	安山岩	
第 165 採	25	I	D-2 包含層	石器	砥石	13.45	4.8	3.7	325	砂岩	
第 165 採	26	I	C-1 包含層	石器	石瓦丁	12.6	4.35	0.8	42.2	片岩	
第 165 採	27	II	包含層	石器	石瓦丁	6.3	4.1	0.6	20.5	凝岩	
第 165 採	28	II	層土	石器	石瓦丁?	8.35	4.2	0.7	28.7	片岩	

図	No	出土地点		種類	詳細	計量					備考
		調査区	遺構番号			全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	孔径 (cm)	重量 (g)	
第37図	48	I	S05	鉄器	鏃か?	0.98	0.09	0.25	—	0.90	
第43図	5	I	S30	鉄器	鉄杖鉄斧	3.05	2.33	1.05	—	13.71	
第70図	84	I	S12	鉄器	鏃	0.98	1.0	0.2	—	3.65	刃部・基部先端を欠損
第70図	85	I	S12	鉄器	鉄杖鉄斧	6.58	2.8	1.8	—	35.09	内部に木質残存
第70図	86	I	S12	鉄器	鉄杖鉄斧	5.6	2.5	1.0	—	20.83	
第70図	87	I	S12	鉄器	装束釧子	03.75	2.25	0.25	—	38.85	刃部を2×所欠損
第73図	30	I	S13	鉄器	棒状鉄器	0.32	0.4	0.35	—	1.01	
第78図	26	I	S22	鉄器	棒状鉄器	0.38	0.55	0.5	—	2.26	内部は中空
第84図	29	I	S34	鉄器	鏃	0.558	1.2	0.3	—	4.91	
第86図	15	I	S40	鉄器	釣針か?	0.73	0.959	0.6	—	3.88	
第89図	13	I	S42	鉄器	鉄杖鉄斧	6.08	2.3	1.2	—	18.41	内部は除去できなかった部分、表面に付いた錆跡か?
第89図	16	I	S42	鉄器	鉄杖鉄斧	4.85	2.05	1.15	—	19.94	
第89図	17	I	S42	鉄器	刀子か?	0.22	2.5	0.15	—	3.16	刀子の基部か?
第89図	18	I	S42	鉄器	棒状鉄器	0.9	0.8	0.4	—	2.41	
第89図	19	I	S42	鉄器	鏃	13.8	3.65	1.3	—	35.61	
第93図	4	I	S45	鉄器	鏃か?	0.259	0.7	0.25	—	0.65	鏃の基部か?
第98図	18	I	S47	鉄器	鏃	0.2	1.35	0.45	—	7.85	鏃の基部、表面に付いたと思われる木質。表面に装着時の跡が観察できている
第98図	19	I	S47	鉄器	棒状鉄器	0.552	1.2	0.45	—	14.26	全体を解く前に覆われていて断面形状は不明
第104図	30	I	S62	鉄器	鏃	8.65	2.75	0.65	—	19.98	両面が鋭利な刃部、右に1.5、木質残存。刃部はわずかに欠損
第107図	27	I	S63	鉄器	鏃	0.308	0.9	0.25	—	5.39	刃部から基部にかけて残存。刃部は右側がわずかに欠損
第110図	3	I	S65	鉄器	不明	3.1	2.35	0.65	—	8.65	断面形状から片刃の鉄器か?
第112図	5	I	S67	鉄器	鏃か?	0.409	1.3	0.35	—	6.11	基部から先端への向きが弱い
第115図	33	I	S70	鉄器	不明	0.31	0.5	0.5	—	3.09	断面形状から片刃、鉄器基部か?
第116図	2	I	S73	鉄器	鉄杖鉄斧	5.1	3.65	1.1	—	15.44	内部は除去がままらでいて断面の観察不可。
第118図	11	I	S81	鉄器	釣針	0.39	0.139	0.45	—	2.35	釣針の基部-鋸部
第118図	12	I	S81	鉄器	鏃	0.8	1.3	0.3	—	1.75	刃部のみ残存
第120図	7	I	S82	鉄器	鉄杖鉄斧	0.25	4.0	2.15	—	51.48	内部に木質残存
第139図	27	Ⅱ	S89	鉄器	鏃	0.27	1.25	0.2	—	1.95	鋸刃部
第143図	22	Ⅱ	S17	鉄器	鏃	0.6	1.4	0.3	—	5.35	
第143図	23	Ⅱ	S17	鉄器	鉄杖鉄斧	5.6	2.7	1.2	—	27.1	
第143図	24	Ⅱ	S17	鉄器	鏃	14.15	1.05	0.51	—	8.25	
第143図	25	Ⅱ	S17	鉄器	鏃か?	0.98	3.8	1.45	—	20.58	
第143図	26	Ⅱ	S17	鉄器	不明	3.1	1.4	0.68	—	1.27	
第152図	1	Ⅱ	S42	鉄器	鉄杖鉄斧	5.4	3.65	1.7	—	32.51	
第153図	6	Ⅱ	S84	鉄器	鉄杖鉄斧	4.9	2.65	1.55	—	21.53	
第157図	40	Ⅱ	S45	鉄器	鏃	0.39	1.2	0.3	—	2.61	
第157図	41	Ⅱ	S45	鉄器	鏃	0.409	1.1	0.75	—	4.14	使用の過程で曲がる?
第157図	42	Ⅱ	S45	鉄器	鏃	0.71	2.9	0.15	—	13.84	
第166図	25	Ⅱ	Ⅱa	鉄器	鏃	0.4	2.45	0.3	—	3.92	無発掘。刃部先端と基部欠損。鏃の中央に2孔確認できる
第166図	26	I	Ⅱa	鉄器	鏃	0.758	1.35	0.35	—	4.66	鏃の刃部-基部
第166図	27	I	Ⅱa	鉄器	棒状鉄片	0.758	0.6	0.2	—	0.95	鏃の基部の可能性も
第166図	28	I	Ⅱa	鉄器	鏃	0.6	4.1	1.1	—	28.72	
第166図	29	I	Ⅱa	鉄器	鏃	0.958	2.5	0.2	—	20.58	刃部先端
第166図	40	Ⅱ	Ⅱa	鉄器	鏃	0.9	3.65	0.6	—	10.41	木質残存
第166図	41	I	Ⅱa	鉄器	鏃か?	2.85	1.3	1.0	—	2.77	鏃の刃部-基部か? 断面形状は三日月形。基部左側の幅が広がり立ち上がる

鉄器

出土金属製品観察表 2

図	No	出土地点		種類	標目	法量					備考
		調査区	遺構番号			全長 (cm)	幅 (cm)	厚A (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	
第 166 図	42	1	自然遺構与込 み	鉄器	刀子小?	A 48, B 32	A 17%, B 17%	A 3.05, B 3.0	—	A 9.26, B 5.0	刀子の刃部か? 2点に分かれているため図は2 点
第 166 図	43	1	包合層	鉄器	刀子小?	0.11	3.45	0.15	—	1.36	刀子の刃部先端か?
第 166 図	44	1	包合層	鉄器	三角鉄片	2.2	2.95	0.4	—	4.76	中央は鋭い切れ

青銅器

図	No	出土地点		種類	標目	法量					備考
		調査区	遺構番号			全長 (cm)	幅 (cm)	厚A (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	
第 89 図	20	1	542	青銅製品	鏡	3.5	1.7	0.35	0.2	5.85	縦鏡。鏡縁高0.25cm。彫刻後遺跡内行瓦文鏡
第 166 図	34	B	包合層	青銅製品	不明	1.9	2.6	0.6	—	3.95	

ガラス製

出土玉類観察表

国	No	出土地点		種類	法量 (mm, g)					材質	色調	備考
		調査区	遺構番号		全長	幅	厚み	孔径	重量			
第37区	49	I	S05	ガラス小玉	0.4	—	0.38	0.1	0.06	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.1
第78区	27	I	S22	ガラス小玉	0.46	—	0.36	0.1	0.11	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.2
第78区	28	I	S22	ガラス小玉	0.4	—	0.5	0.16	0.09	カリガラス 本胎西カリ①	淡青色	分析No.3
第81区	12	I	S26	ガラス小玉	0.36	—	0.42	0.14	0.05	カリガラス 本胎西カリ①	淡青色	分析No.6 1.2残存
第84区	30	I	S34	ガラス小玉	0.42	—	0.5	0.16	0.08	カリガラス 本胎西カリ①	淡青色	分析No.4
第84区	31	I	S34	ガラス小玉	0.26	—	0.22	0.1	0.03	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.7
第84区	32	I	S34	ガラス小玉	0.3	—	0.16	0.1	0.03	カリガラス 本胎西カリ①	濃青色	分析No.8
第84区	33	I	S34	ガラス小玉	0.28	—	0.16	0.08	0.01未満	カリガラス 本胎西カリ①	淡青色	分析No.9
第84区	34	I	S34	ガラス小玉	0.38	—	0.2	0.08	0.02	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.10
第84区	35	I	S34	ガラス小玉	0.3	—	0.3	0.06	0.05	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.11
第84区	36	I	S34	ガラス小玉	0.32	—	0.16	0.14	0.01未満	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.12
第84区	37	I	S34	ガラス小玉	0.34	—	0.3	0.1	0.05	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.13
第84区	38	I	S34	ガラス小玉	0.2	—	0.1	0.06	0.01未満	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.14
第84区	39	I	S34	ガラス小玉	0.18	—	0.1	0.06	0.01未満	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.15
第84区	40	I	S34	ガラス小玉	0.32	—	0.4	0.14	0.05	カリガラス 本胎西カリ①	淡青色	分析No.16
第84区	41	I	S34	ガラス小玉	0.18	—	0.2	0.06	0.01未満	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.17.1
第84区	42	I	S34	ガラス小玉	0.34	—	0.1	0.08	0.03	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.17.2
第84区	43	I	S34	ガラス小玉	0.3	—	0.18	0.12	0.03	カリガラス 本胎西カリ①	濃青色	分析No.18
第84区	44	I	S34	ガラス小玉	0.3	—	0.16	0.1	0.03	カリガラス 本胎西カリ①	濃青色	分析No.19
第84区	45	I	S34	ガラス小玉	0.28	—	0.14	0.14	0.01未満	カリガラス 本胎西カリ①	濃青色	分析No.20
第84区	46	I	S34	ガラス小玉	0.24	—	0.14	0.08	0.01未満	カリガラス 本胎西カリ①	褐色	分析No.22
第84区	47	I	S34	ガラス小玉	0.28	—	0.16	0.1	0.03	カリガラス 本胎西カリ①	濃青色	分析No.23
第104区	31	I	S62	ガラス小玉	0.36	—	0.3	0.16	0.05	カリガラス 本胎西カリ①	淡青色	分析No.5
第139区	28	Ⅱ	S09	ガラス小玉	0.3	—	0.28	0.08	0.04	カリガラス 本胎西カリ①	淡青色	分析No.24
第139区	30	Ⅱ	S09	ガラス小玉	0.18	—	0.08	0.06	0.01未満	ソーダガラス	赤褐色	分析No.25

石製

国	No	出土地点		種類	法量 (mm, g)					材質	色調	備考
		調査区	遺構番号		全長	幅	厚み	孔径	重量			
第95区	8	I	S46	石製写玉	4.65	2.75	1.45	0.65	18.84	磨石	—	完形
第137区	43	Ⅱ	S45	石製写玉	0.65	0.5	0.45	0.15	0.23	碧玉	—	石川原小松古書院蔵

出土土製品観察表

図	No	出土地点		種類	法量 (cm, g)				調整	色調	敷土	構成	備考
		調査区	遺構番号		全長	幅	厚み	重量					
第 57 図	46	I	S05	粒子粘土器	123	5.4	5.05	—	ナブ・ハナメ	褐色 (25YR 7/4) 黄灰色 (2.5Y 6/1)	石灰、角閃石	瓦	
第 58 図	42	I	S12	不明	2.7	2.05	1.0	0.75	—	淡褐色 (2.5YR 7/4)・ 黄灰色 (2.5Y 6/1)	石灰、角閃石、 白色砂粒	瓦	上部に貫通しない小さな穿孔を有す (孔径 0.2cm)
第 59 図	83	I	S12	不明	2.1	1.75	1.8	5.06	—	淡黄褐色 (10Y 7/6-4)	石灰、白色砂 粒	瓦	ミニチュア土器か?
第 72 図	19	I	S13	粒子粘土器か?	5.2	1.7	2.1	21.15	ナブ	①-②④・黄褐色 (10Y 7/6-4)	石灰、明褐色、 白色砂粒	瓦	粒子粘土器の柄の部分か?
第 79 図	1	I	S25	投擲	4.85	2.65	2.7	26.77	—	淡黄褐色 (2.5YR 7/4)	石灰、角閃石、 白色砂粒	瓦	
第 84 図	28	I	S34	粘結片	3.35	3.35	0.8	10.34	磨風	①-②④・黄褐色 (10Y 7/6-4)・ 灰色 (5Y 5/2-1)	石灰、白色砂 粒	瓦	孔径 0.3cm
第 119 図	6	I	S82	不明	7.6	2.6	2.5	—	—	黄褐色 (10Y 7/6-4)	石灰、赤母、 白色・黑色・ 赤褐色砂粒	瓦	両端を欠損
第 127 図	5	I	S86	投擲	4.9	2.5	2.35	22.74	—	①-②④・黄褐色 (10Y 7/6-2)	石灰、白色砂 粒	瓦	
第 165 図	29	Ⅱ	C-1 瓦倉跡	粒子粘土器	9.45	3.6	3.5	—	ナブ・砂漉瓦 柄	褐色 (2.5YR 7/4)	石灰、白色砂 粒	瓦	
第 165 図	30	I	Ⅱ-1 瓦倉跡	粘結片	4.0	3.75	1.7	31.04	ナブ	黄褐色 (2.5YR 7/4)	石灰、白色砂 粒	瓦	孔径 0.45cm
第 165 図	31	I	C-3 瓦倉跡	投擲	4.2	2.5	2.4	24.25	—	淡黄褐色 (2.5YR 7/4)・ 黄褐色 (2.5Y 6/1)	石灰、白色砂 粒	瓦	
第 165 図	32	Ⅱ	Ⅱ-1 瓦倉跡	投擲	4.15	3.45	1.75	18.04	—	黄褐色 (10Y 7/6-4)	石灰、角閃石、 白色砂粒	瓦	底部中に穴あいて (つぶれて?) いる。予手取欠損
第 165 図	33	Ⅱ	Ⅱ-1 瓦倉跡	土製瓦玉	4.6	2.2	2.15	19.75	—	灰黄褐色 (10Y 8/5-2)	石灰、白色砂 粒	瓦	底部を欠損

写真図版



遺跡遠景 1 (有明海を望む)

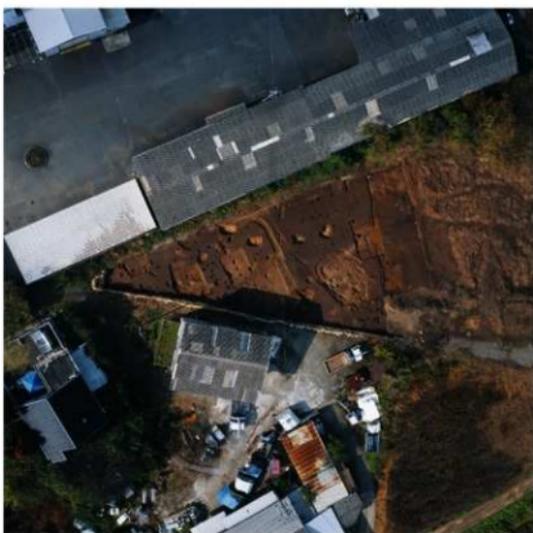


遺跡遠景 2 (菊池川を望む)

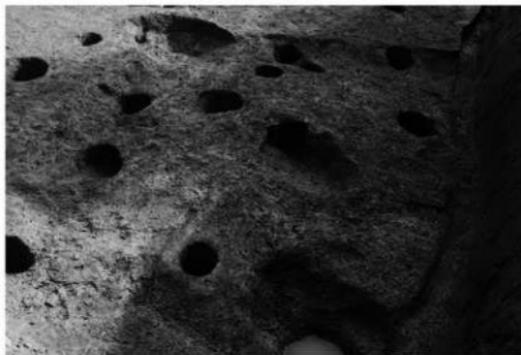
图版 2



Ⅰ・Ⅱ区完掘状況



Ⅲ区完掘状況



I区 S16 完掘状況（北から）

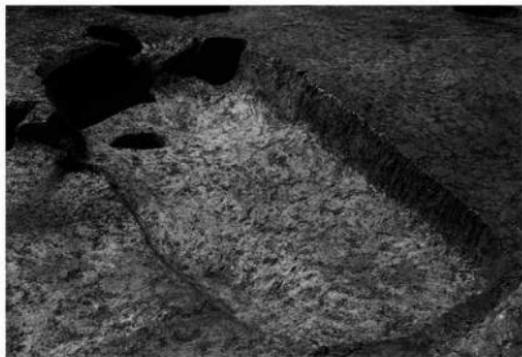


I区 S68 完掘状況（西から）

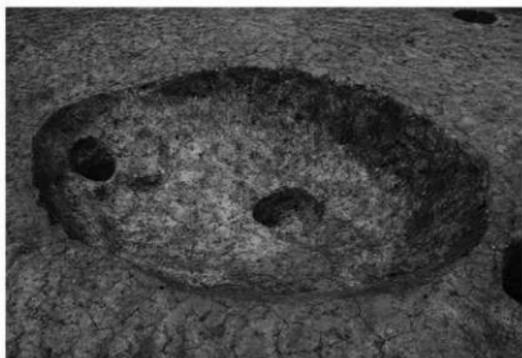


I区 S74 検出状況（北西から）

図版 4



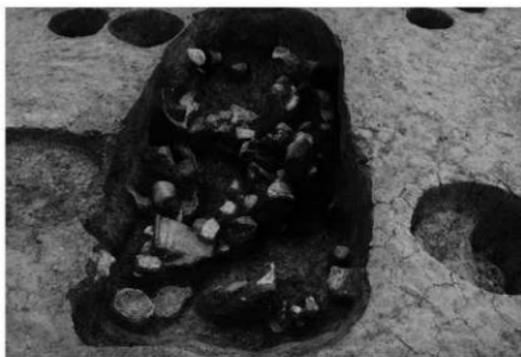
I 区 S04 完掘状況（北東から）



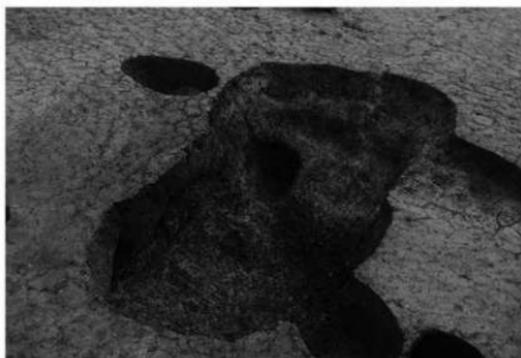
I 区 S07 完掘状況（南東から）



I 区 S20 完掘状況（北西から）



I区 S26 遺物出土状況
(南東から)



I区 S26 完掘状況 (北西から)



I区 S31 完掘状況 (東から)

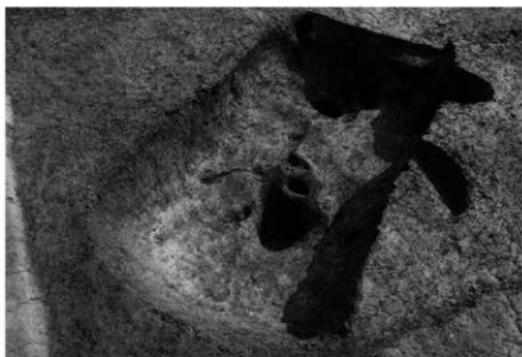
図版 6



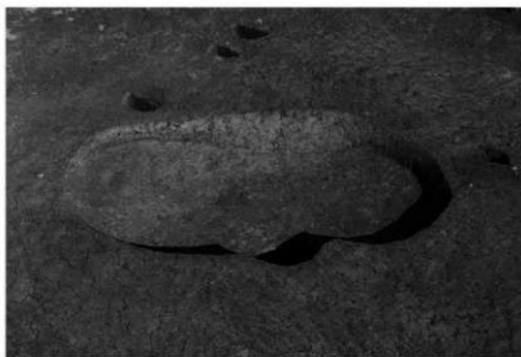
I区 S35 完掘状況（西から）



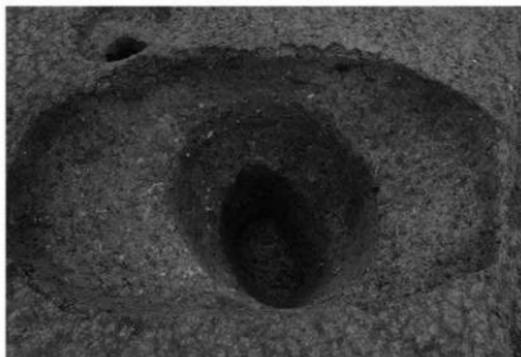
I区 S38 遺物出土状況（北東から）



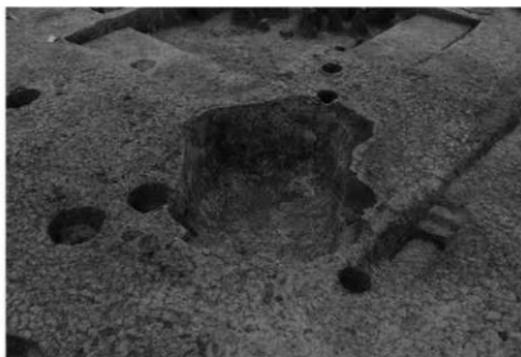
I区 S38 完掘状況（北東から）



I区 S50 完掘状況（南西から）



I区 S69 完掘状況（北西から）

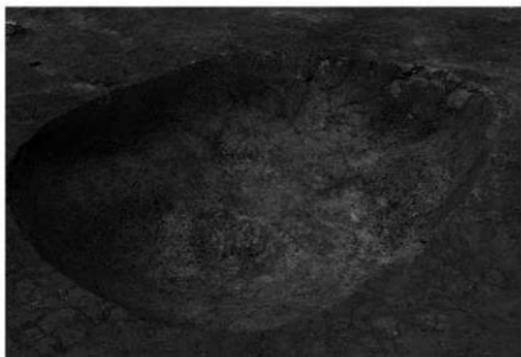


I区 S72 完掘状況（南西から）

図版 8



III区 S05 遺物出土状況（西から）



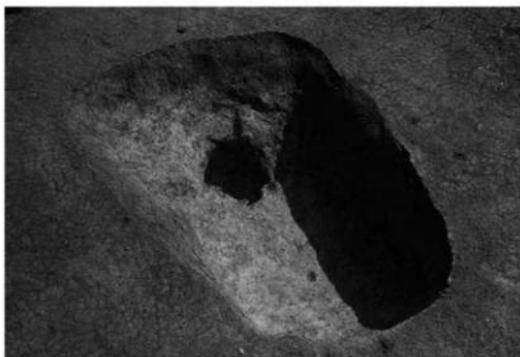
III区 S05 完掘状況（西から）



III区 S06 完掘状況（北西から）



Ⅲ区 S07 遺物出土状況（北東から）

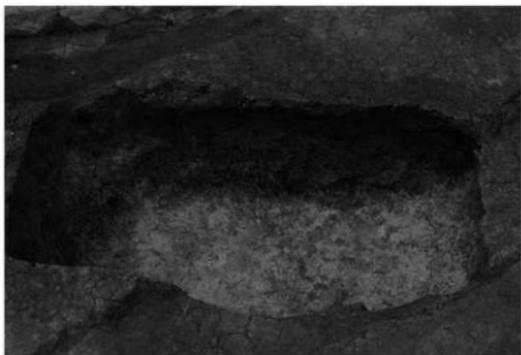


Ⅲ区 S14 完掘状況（南西から）

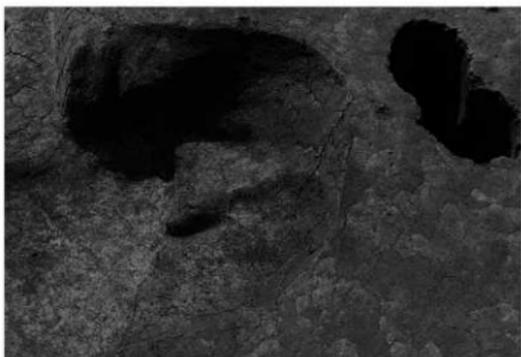


Ⅲ区 S22 遺物出土状況

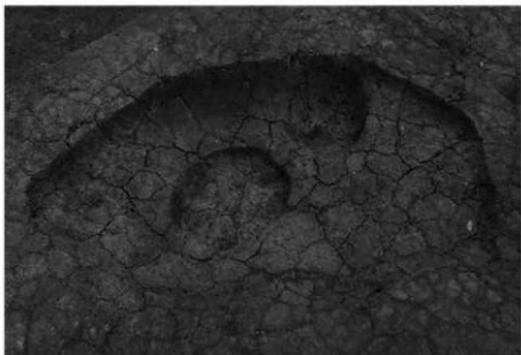
図版 10



III区 S22 完掘状況 (東から)



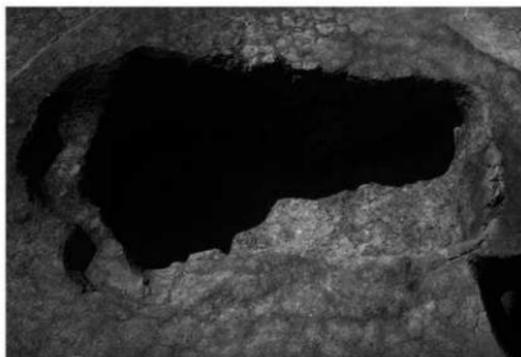
III区 S23 完掘状況 (東から)



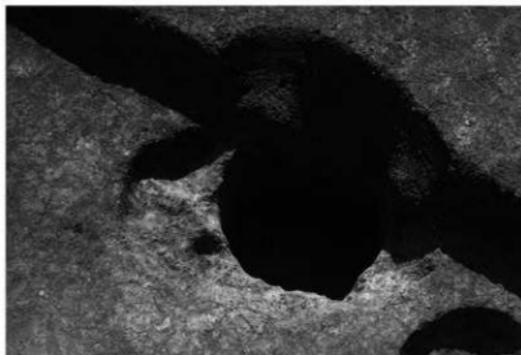
III区 S24 完掘状況 (南東から)



Ⅲ区 S29 完掘状況（北西から）



Ⅲ区 S32 完掘状況（北東から）

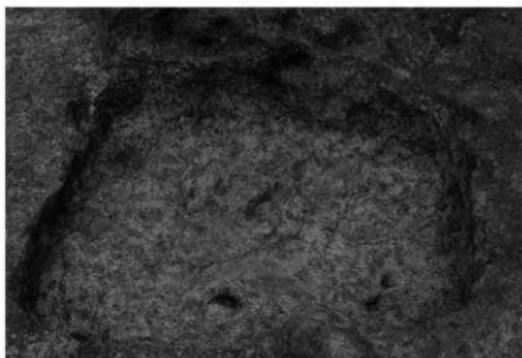


Ⅲ区 S33 完掘状況（北東から）

図版 12



Ⅲ区 S35 完掘状況（北西から）



Ⅲ区 S37 完掘状況（南西から）



Ⅲ区 S38・S39 完掘状況（北から）



III区 S40 完掘状況（北東から）



III区 S46 完掘状況（北東から）



III区 S48 完掘状況（北から）

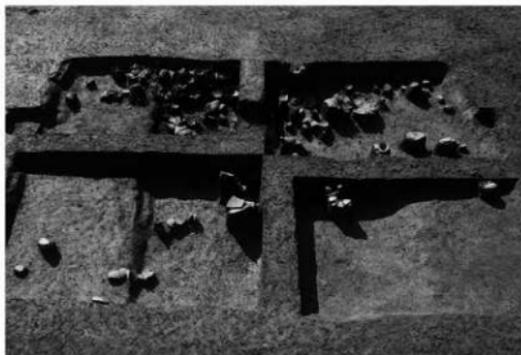
図版 14



I 区 S02 完掘状況 (北西から)



I 区 S05 完掘状況 (東から)



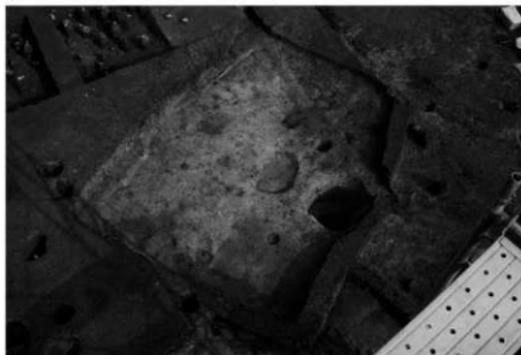
I 区 S06 遺物出土状況 (北から)



I区 S06 完掘状況（西から）



I区 S09 完掘状況（北西から）



I区 S10 完掘状況（南から）



I 区 S12 遺物出土状況遠景
(北西から)



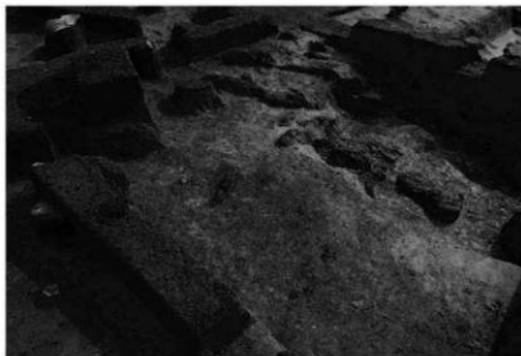
I 区 S12 遺物出土状況近景
(北から)



I 区 S12 焼土出土状況 (北から)



I区 S12 炭化材検出状況
(北西から)

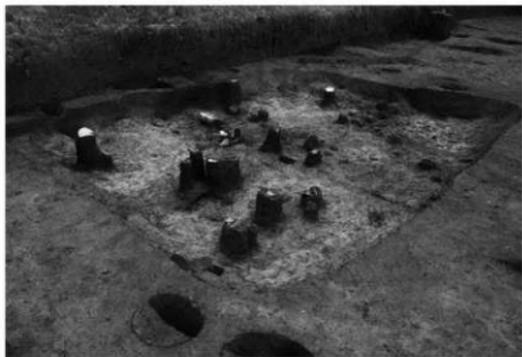


I区 S12 鉄器出土状況 (北西から)



I区 S12 完掘状況 (南西から)

図版 18



I区 S15 遺物出土状況（北東から）



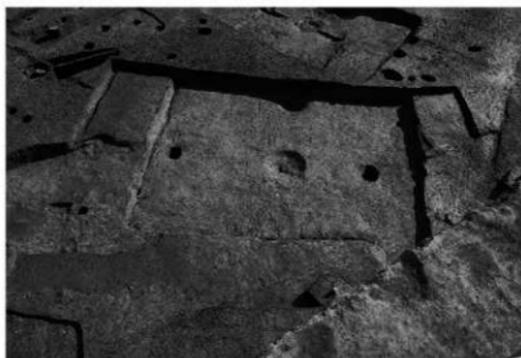
I区 S21 完掘状況（南東から）



I区 S22 完掘状況（南から）



I区 S25 完掘状況（南西から）



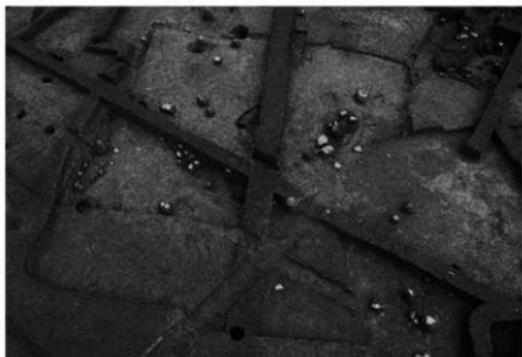
I区 S28 完掘状況（北西から）



I区 S34 遺物出土状況（北から）



I区 S34 完掘状況（北東から）



I区 S40 完掘状況（南西から）



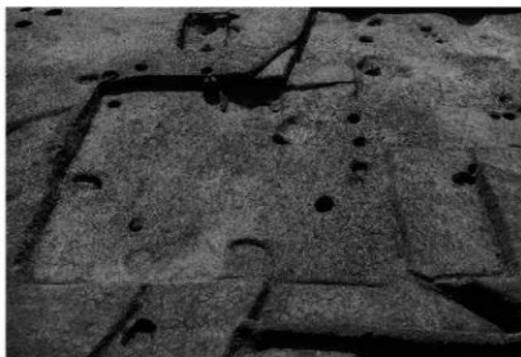
I区 S41 焼土出土状況（西から）



I区 S42 完掘状況（東から）



I区 S45 完掘状況（北西から）



I区 S47 完掘状況（北西から）



I区 S52 完掘状況（東から）



I区 S59 完掘状況（北西から）



I区 S62・S84 遺物出土状況
（北西から）



I区 S62・S84 完掘状況
(南から)



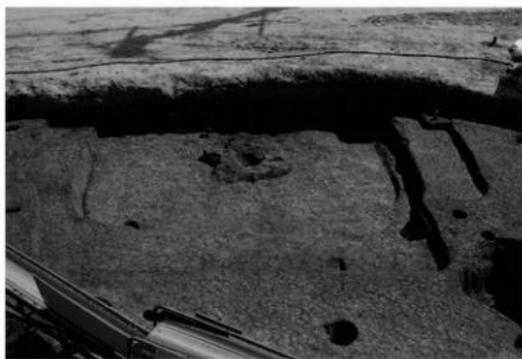
I区 S63 完掘状況 (南から)



I区 S64 完掘状況 (北西から)



I 区 S65 完掘状況（西から）



I 区 S70 完掘状況（西から）



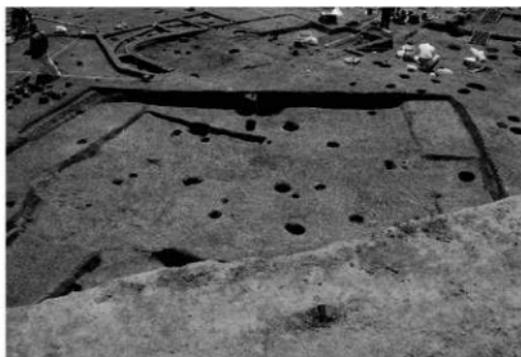
I 区 73 遺跡出土状況（南東から）



I区 S81 完掘状況（北西から）



I区 S82 完掘状況（北から）



I区 S83 完掘状況（北西から）



I区 S85 完掘状況（南東から）



I区 S86 完掘状況（北から）



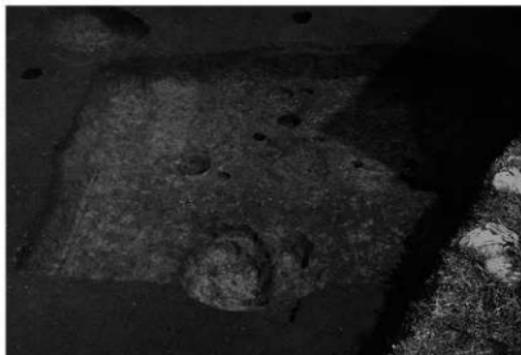
I区 S109 遺物出土状況（南西から）



II区 S98 完掘状況（南西から）



III区 S04 完掘状況（西から）



III区 S09 完掘状況（南から）



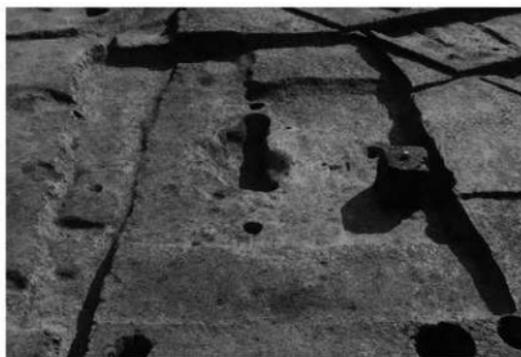
Ⅲ区 S17 完掘状況（北から）



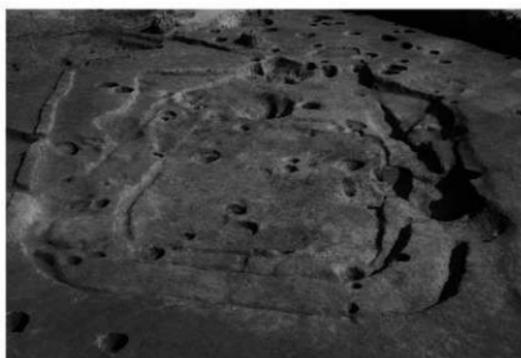
Ⅲ区 S18 完掘状況（北から）



Ⅲ区 S36 完掘状況（北から）



III区 S41 完掘状況（西から）



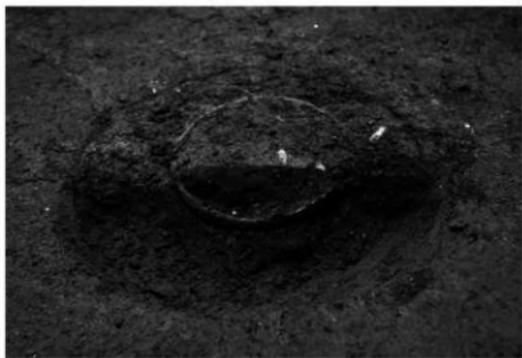
III区 S42・S44・S45 完掘状況
（南西から）



III区 51 完掘状況（北から）



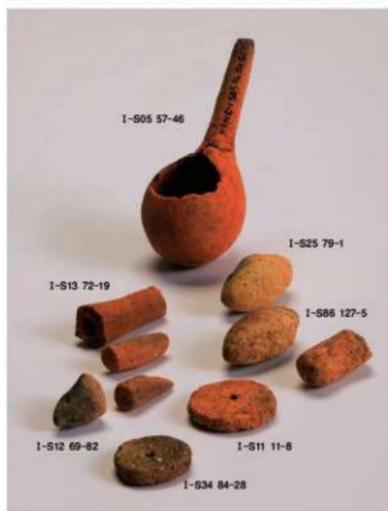
Ⅲ区 S15



Ⅲ区 S15



Ⅲ区 S15



破鏡・石製玉類・ガラス小玉等

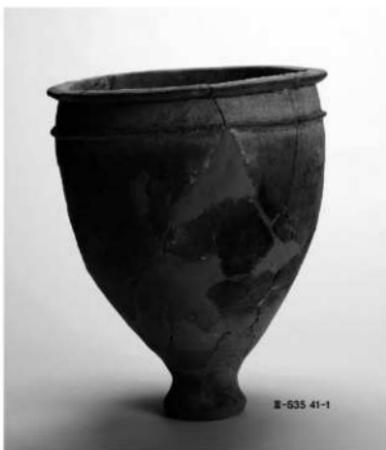
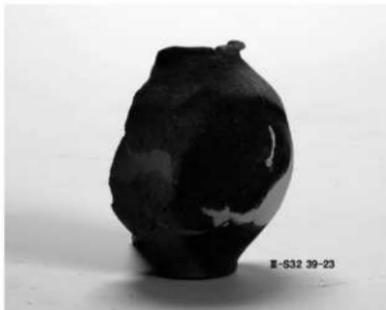


弥生時代中期の土器集合



弥生時代後期の土器集合







弥生時代中期の土器②

図版 38



弥生時代中期・後期の土器







弥生時代後期の土器③

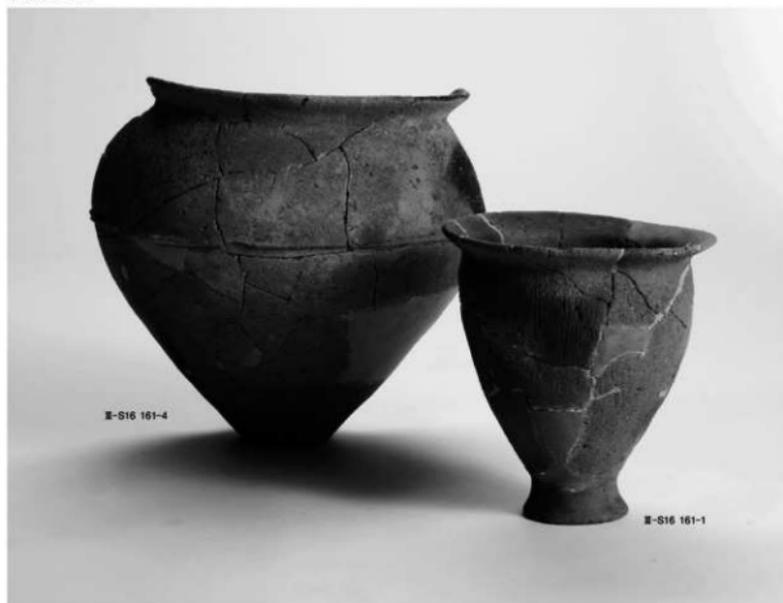
図版 42



弥生時代後期の土器④



弥生時代後期の土器⑤



報告書抄録

ふりがな	きぶねにしいせき							
書名	木船西遺跡							
副書名	一級市道岱明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査							
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第34集							
編著者名	中村安宏(編) 辻田淳一郎 田村朋美 小畑弘己 薬科哲男							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒865-8501 熊本県玉名市岩崎163 TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138							
発行年月日	2017年3月24日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
木船西遺跡	熊本県 玉名市 岱明町 野口	43206	461	32度 55分 23秒	130度 32分 10秒	20111004 ～ 20121031	2,442	道路
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
木船西遺跡	集落	弥生時代中期・後期 中世(13～14世紀)	竪穴建物 土坑 溝状遺構 祭祀遺構	弥生土器、石器、鉄器、 青銅器、石製・ガラス 製玉類、土師器		弥生時代中期初頭 の土坑から土器、 石器が出土し、後期後半 の竪穴建物跡から土器、 石器、鉄器、青銅器、 石製ガラス製玉類が出土。		
要約	<p>小岱山の南に広がる台地上には、弥生時代中期の年の神遺跡や弥生時代後期の下前原遺跡などの古くから知られた遺跡が数多く存在している。年の神遺跡では巨大な支石墓や甕棺墓があり、甕棺墓からは南海産のゴホウラ貝製の腕輪が7個出土している。下前原遺跡からは、ベッド状施設を伴う竪穴建物跡が複数検出されており鉄器が出土している。今回の木船西遺跡の調査では、複数の土坑を検出し、埋土内からは、城ノ越式土器が出土し、調査地は、弥生時代中期初頭における土坑が配置された場所であった。また、竪穴建物跡が重複して検出され、埋土内からは、弥生時代後期後半の多数の土器、石器、鉄器、青銅器(破鏡等)、及びガラス小玉並びに石製玉類等が出土した。このような検出遺構及び出土遺物から、今回の調査地である木船西遺跡は、隣接する年の神遺跡、下前原遺跡、塚原遺跡、大原遺跡、南大門遺跡及び東南大門遺跡等と共に菊池川下流域或いは有明海沿岸地域における拠点集落の一部である可能性が高い。</p>							

印刷仕様

規格 A4判
頁数 310項
製版 本文中写真 カラー スクリーン200線カラー4色刷り
写真図版 モノクロ スクリーン175線スミ1色刷り
用紙 表紙 レザック66 215kg 青竹 四六判 Y目
見返し 色上質 特厚口 銀鼠
裏～奥付 マットコート紙 菊判76.5kg
印刷方式 オフセット印刷
製本 糸かがり綴じ並製本

玉名市文化財調査報告 第34集

木船西遺跡

一級市道岱明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成29年3月8日印刷

平成29年3月24日発行

編集 玉名市教育委員会
発行
住所 〒865-8501 熊本県玉名市岩崎163
TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138
印刷 ㈲玉名民報印刷
住所 〒865-0015 熊本県玉名市亀甲261
TEL 0968-72-2535 FAX 0968-72-4648